

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	現代日本の住宅作品における建築と敷地の図形的対応関係
Title(English)	
著者(和文)	遠藤康一
Author(English)	Koichi Endo
出典(和文)	学位:博士(工学), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:乙第4139号, 授与年月日:2017年3月31日, 学位の種別:論文博士, 審査員:奥山 信一,安田 幸一,塚本 由晴,山崎 鯛介,村田 涼
Citation(English)	Degree:Doctor (Engineering), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:乙第4139号, Conferred date:2017/3/31, Degree Type:Thesis doctor, Examiner:,,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Type(English)	Doctoral Thesis

論文題目

現代日本の住宅作品における建築と敷地の図形的対応関係

論文提出者 遠藤康一

目次

第1章	序論	1
1節	研究の目的と背景	2
2節	研究の概要	6
3節	従来の研究との比較	12
第2章	敷地境界との関係にみる住宅作品の平面輪郭	19
1節	本章の目的と概要	20
1-1	本章の目的	
1-2	本章の概要	
2節	敷地に対する平面輪郭の適応関係	23
2-1	建築ヴォリュームの大小関係と平面輪郭の形状	
2-2	敷地境界と平面輪郭の適応関係	
3節	敷地境界線と平面輪郭線の平行関係	28
3-1	対をなす敷地境界線と平面輪郭線の平行関係	
3-2	敷地境界線と平面輪郭線の平行関係	
4節	敷地境界と平面輪郭との関係図式	32
4-1	関係図式の類型とパターン	
4-2	類型とパターンの関係	
5節	小結	38
第3章	住宅作品における立面の接地性	42
1節	本章の目的と概要	43
1-1	本章の目的	
1-2	本章の概要	
2節	立面の形状	46
2-1	プロポーションと幅の変化による立面の形状（第一輪郭）	
2-2	第一輪郭に接する開口による立面の形状（第二輪郭）	
2-3	第一輪郭と第二輪郭の形状の関係（輪郭パターン）	
3節	立面下部と前面外構の連続関係	50
3-1	連続関係を形成する要素	
3-2	立面下部と前面外構の連続モデル	
4節	輪郭パターンと連続モデルの関係による立面の接地性	55
4-1	関係図式の類型	
4-2	類型間関係	
5節	小結	59
第4章	傾斜地における住宅作品の断面構成	63
1節	本章の目的と概要	64
1-1	本章の目的	
1-2	本章の概要	

2節	傾斜地の地形と住宅の断面構成	66
2-1	斜面とアプローチの関係、建築ヴォリュームの接地性	
2-2	エントランス、主室による内部構成	
3節	外部構成と内部構成による基本形と構成パターン	71
3-1	基本形と構成パターン	
3-2	基本形と構成パターンの関係	
4節	小結	76
第5章	建築と敷地の図形的対応関係	79
1節	本章の目的と背景	80
2節	敷地の特性に対する建築の図形的な適合性からみた類型の分類	81
3節	適合性の分類において共通する類型の性格	85
4節	小結	90
第6章	結論	93
	関連論文目録	97
	謝辞	98
	資料編	

第1章 序論

1節 研究の目的と背景

2節 研究の概要

3節 従来の研究との比較

1 節 研究の目的と背景

本論文は、現代日本の住宅作品を対象に、建築と敷地の対応関係を図形的な水準において検討することにより、建築と建築外の要素としての敷地との間に形成される一体的な関係とその性格を建築の形式的側面から明らかにするものである。

建築には、その成立の前提となる条件として敷地が存在し、敷地は周囲に広がる様々な立地条件という環境下に置かれている（図 1-1）。敷地は、その規模や形状、接道状況、地形、樹木の配置といった物理的な条件、日射や方位といった環境的な条件などから構成され、また、立地条件は、気候や植生、風土といった敷地が立地する地域に固有の条件、建物密度や交通網、地価や規制などの物理的・社会的な条件などから構成される。これらは建築の形態を規定する条件として、あるいは参照対象として、様々な水準で建築の設計に関わるのみならず、実体としての建築との対応関係^{注1) 注2)}を伴うことにより、建築固有の空間や形態との構成関係^{注3) 2)}を形成し、建築と一体的に認識し得る対象となると考えられる。さらに、建築との対応関係を伴う敷地および立地条件のなかでも、敷地に関する物理的条件（以下、敷地）は、建築設計の原初における基本条件であり、形態の決定に大きく関わる建築近傍の条件といえ、古くからその対応が建築の空間表現において主題となっている事例^{注4)}をみることができる。さらに、我が国の現代建築、とりわけ住宅においては、起伏に富む限られた国土に住宅地などの都市的環境が形成されてきたことを背景とした、地形の多様さや歪な形状の敷地、密集市街地における狭小敷地などといった環境下であって、建築と敷地との間にはより緊密な対応関係を伴うことから、敷地が、建築のデザインの決定における第一義的な因子となり、様々な意匠表現の成立に大きく関わっていると考えられる。これは、建築の意匠表現が、建築本体の表現を超えて、敷地やさらには都市環境といった建築外部の条件との対応関係の中に成立するという本論文の仮説であり、ここに現代日本の住宅作品に特有の枠組みを見出すことができると考えられる。

本論文では、こうした現代日本の住宅作品における建築と敷地の対応関係を、建

築のかたちの水準において検討を行う。これまでの研究において敷地は、建築のヴォリューム構成や配置、外部空間といった建築の外部および外形の構成を検討する上で前提となる与条件として扱われてきたといえるが^{注5)}、より直接的な建築本体との拮抗において、敷地は、外的な要素として建築の形態の操作レベルに働きかけ、平面形状や地形といった固有の条件に対する物理的なおさまりや、街路に面したかまえなど、建築との相補的な関係を取り結ぶことによって、建築それ自体の形態や構成を特徴づける意匠表現の成立に関わっていると考えられる。

一方、建築においてかたちとは、一般的には、建築が、物質的材料によって形象があたえられた視覚に訴える造形芸術としての側面を基底にもちながら、必ずしも目に見えるかたちそれ自体の問題に限定されない、様々な意匠的概念を包含するものであり、〈かたち〉〈造形〉〈形態〉〈形象〉といった関連することばの広がり^{注6)}と共に、これまでも様々な考察や分析が展開されてきている。例えば、建築の主に外観の造形に関する共通する特徴や形を扱った様式論としてのかたち^{注7)}、また、部

建築固有の空間や形態との構成関係の形成…敷地と建築との一体的な認識

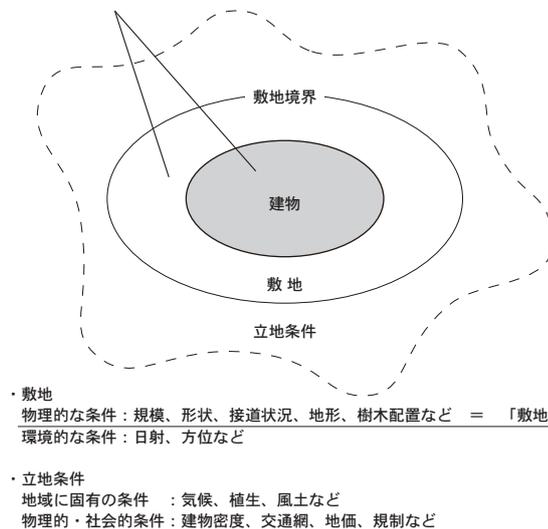


図 1-1 建築と敷地、立地条件

分と全体の関係を前提とした形態の要素と構成およびその構造的原理^{注8)} としてのかたちや、幾何学的な特性とその構成にみる形態^{注9)}、建物の現象の構造と社会における意味に関わる形象としてのかたち^{注10)}、建築のヴォリュームや室、部位を単位とする部分と全体の関係による空間構成としてのかたち^{注11)} など、文化や社会によってもたらされる慣習や、建築がかたちづくられる上での文法的な原理、また建築のかたちが形成する社会的な意味を扱ったものがあり、これらによって、建築のかたちそれ自体に関する統辞的側面や意味作用^{注12)} が明らかにされてきた。

それらを受けて、本論文では、まず、建築の領域を水平方向において規定する敷地境界と鉛直方向において規定する地面を敷地の基本要素として抽出し、それらと建築との対応関係を図形的な水準で捉える。先述のように、住宅は一般的に、敷地やその立地に関する様々な条件や法的規制などを負っている。例えば、敷地に対する建築ヴォリュームの配置に限定すると、配置によって内部空間の領域が確保されると共に、敷地境界との間には外部空間が確保される。それと同時に建築ヴォリュームの平面的な形状も敷地の形状との関係を伴って決定される。さらに、確保された外部空間には樹木が植えられ、駐車場や庭が確保される。そこには開口とそれが面する外部空間の方位に関する考慮が含まれる。また道路境界に面した構えやアプローチに関する想定も考慮される。当然ながら、建坪率や容積率、高さ規制に関する考慮も重ねられる。といったように、建築と敷地との一体的な関係による意匠表現とは、これらの対応関係や考慮の重ね合わせの複合体としての表現といえる。その上で、建築の設計においては、そういった対応関係の輻輳が前提とされながらも、それらを含み込む基本的な対応関係として、敷地の平面図に対する建築の平面の図形的な関係や、塀や垣根に妨げられず街路に立面が露出する際に意識される立面の図形とそれと接続する地面との関係、また敷地が傾斜地である場合に斜面と建築ヴォリュームや内部の室の断面の図形における相互的な関係といった、2次元における図形的な関係にみる対応関係が根元的な問題として存在していると考えられる。そこで、本論文では、敷地の基本要素と建築との図形的な関係として、まず敷地境界に関しては建築の平面の図形との、地面に関しては立面および断面の図形との関係といった、様々な敷地の形状や地形、狭小敷地といった現代日本の戸建て住宅に特有の敷

地の状況と建築との物理的な関係が顕著に表れると考えられる側面に着目している。そして、その各側面において、平面と立面においてはその外形を図形として捉えることから、それぞれ敷地境界と平面の図形どうしの幾何学的な対応関係、立面の図形的な特徴と共に地面との接続に関係する建築の要素の関係を含めた形態の検討による対応関係が、また内部空間および地面と建築ヴォリュームとの関係が表れる断面においては、内部の室、および地面と建築ヴォリュームの外形断面といった要素の組合せと配列による空間構成を表す断面の図形の検討から対応関係が捉えられると考えられる。こうして捉えられる関係は、敷地という建築外の要素との関係において顕在化される建築のかたちの一断面であり、3次元の奥行きをもった現実の建築の空間構成を構想する上でも、多くの場合、考慮され得る関係といえる。

以上より、本論文では、敷地を建築の構成に作用する外的な要素として能動的に捉え、建築の図形との間に一体的に取り結ばれる物理的関係を対応関係と定義し、各々の検討水準において、関係図式の類型を抽出している。そして、抽出された類型は、建築のデザインにおいて何らかの働きをする社会的文化的な規範といえ^{注13)}、さらに類型間には、そのような規範を成立させる枠組みが存在していると考えられる。これらのことから、本論文は、建築と敷地の図形的対応関係の図式を位置づけ、類型を抽出すると共に、類型どうしの間を関係を検討することから、対応関係の枠組みを明らかにすることを目的とする。

2 節 研究の概要

研究の方法

本論文では、現代日本の住宅作品を対象に、建築と敷地との相互的な関係について図形的な水準から検討を行うことから体系的に位置づけられる関係図式を導き、そこで複数の資料に共通する関係図式の類型を抽出している。さらに抽出された類型を比較検討することから、それぞれの図式の性格を位置づけ、対応関係の傾向を見いだしている（図 1-2）。

そのためにまず、建築の成立に関わる敷地の基本要素として、「敷地境界」と「地面」を抽出し、建築の図形との関係を、平面の図形、立面の図形、および断面の図形の 3 水準から検討している。

具体的には、「敷地境界」は、建築の規模や立体的な形状の規定に関わる基本要素といえるが、敷地と建築とが拮抗する状況においては、例えば、敷地境界からのセットバックにより外部空間が獲得されると同時に平面形状が決定されるといったように、敷地境界の形状と、建築の立体形状の前提となる平面の外形の輪郭との間に差し迫った対応関係が形成されると考えられることから、敷地境界と平面の図形との対応関係を、互いの形状の比較や互いを構成する線分同士の関係の検討から捉える。

また、「地面」は、建築が固定されると共に、構造的に自重を支える地盤を構成する基本要素であることから、例えば、起伏に対して内部空間の水平な床を獲得するための操作や、ピロティや基礎の形態といった地面との接続に関する操作の水準における対応関係が形成され、これらは、地面と立面の図形との関係や、建築の断面の図形における関係によって端的に捉えることができると考えられる。そこで、地面と立面の図形との対応関係については、立面の輪郭形状の検討と、立面と地面との接続に関わる要素の配置の検討から捉える。また、地面と断面の図形との対応関係については、アプローチや建築ヴォリュームの断面形状といった地面と建築との物理的な接触に関わる検討と、地面の起伏に対する室の配列関係などの室を単位とした内部に関する構成の検討から、断面構成として捉える。

さらに、こういった敷地境界および地面は、それ自体が様々な形態をなしており、例えば、敷地境界においては、整形や不整形といった形態、さらに敷地外の道路との関係においては1面接道や複数面接道、角地や旗竿地などの形態が存在する。また地面においても、様々な地形や、道路の取りつきの形態が存在し、このような敷地の基本要素の形態におけるヴァリエーションの存在は、起伏ある土地の開発や密集市街地における分筆等による、現代日本の戸建て住宅地において一般的な条件といえる。建築家による住宅作品には、このような敷地の様々な条件に対して、例えば、狭小な敷地の歪んだ形状に平面の外形輪郭を沿わせたり、立面にビルトイン形式の車庫の開口を配し下方が穿たれたような形状とすることによって地面からの浮遊感を表現したり、また斜面などの地形のある敷地において建築ヴォリュームを地面から分離することで地形と建築の関係の視覚化を図ったりといったように、一般の住宅にはあまり見られないような対応関係が様々な形で成立していると考えられる。本論文では、こうした建築家による敷地と建築との先鋭的な対応関係の図式を位置づけ、類型と、類型が成立する構造的な枠組みを明らかにする上で、先述のようにヴァリエーションを含む一般的な敷地の条件に対して、敷地の基本要素と建築の図形の各水準との対応関係が顕著に捉えられる検討対象の絞り込みを行う目的で、**局限化**^{注14)}を行うことが有効であると考えている。

そこで本論文では、敷地境界と建築の平面の図形との対応関係の検討においては不整形な形状の敷地における住宅を、また地面と建築の立面の図形との対応関係の検討においては街路に露出し3方を隣家に囲まれた町家型の敷地における住宅を、地面と建築の断面の図形との対応関係においては傾斜地における住宅を、**局限化の条件**^{注14)}と位置づけ(表1-1)、それぞれの条件における基本要素と建築の図形との対応関係の分析を行っている。

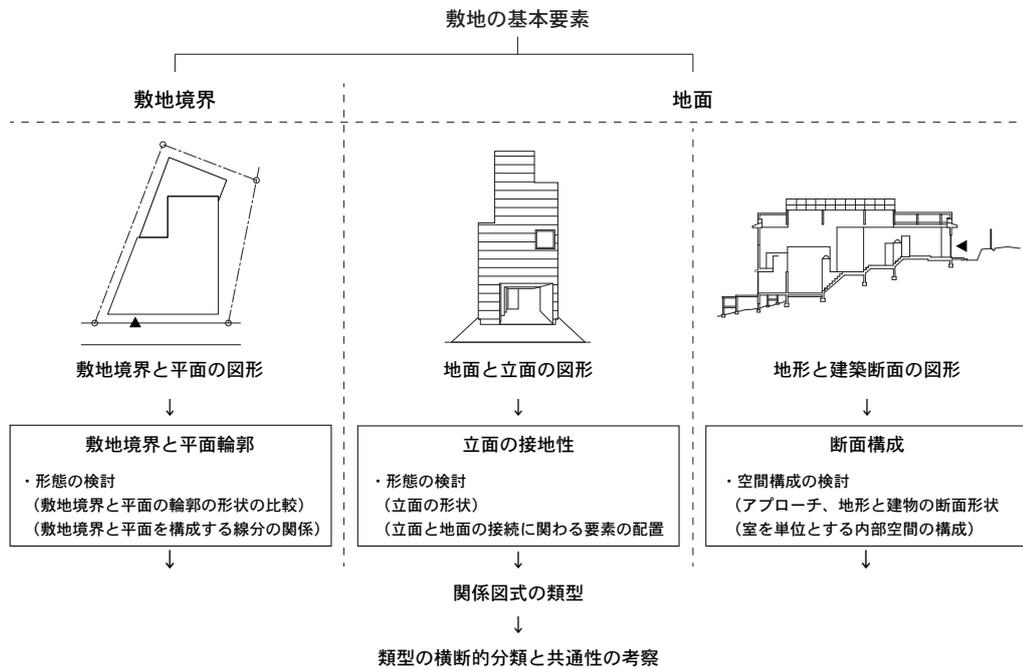
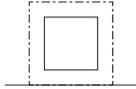
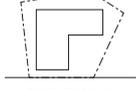


図 1-2 研究の方法

表 1-1 敷地の一般条件と局限化条件

	敷地境界	地面	
	平面の図形	立面の図形	断面の図形
(局限化の基準となる条件)	 整形敷地や不整形敷地を含む	 生垣や塀などを含む	 平坦地や様々な地形を含む
条件の局限化	 不整形敷地	 立面が街路に露出した道路境界	 傾斜地

研究の資料

本論文の分析の対象とする資料は、現代日本の住宅作品のうち、建築の形態や構成が敷地との関係において法規など特定の計画原則によらず、様々な対応関係のもと、意匠表現として成立していると考えられるものから抽出している。前述の研究の方法との対応において、具体的には、まず、中庸な密度を有する都市的環境における不整形敷地に建つ住宅^{注15)}から、建物の規模や形態の決定、および外部空間の配置を考慮する上で第一義的なファクターとなる敷地境界と建築の平面の図形との対応関係が検討できると考える。次に、街路に露出し3方を隣家に囲まれた敷地に建つ住宅^{注16)}から、形態的な操作に加えて、アプローチや開口部など機能上要求される諸要素が集約的に配置されることで複合的なあり方となる立面と地面との図形的な対応関係が、街路に面して際立ったあり方を検討できると考える。さらに、傾斜地における住宅^{注17)}から、雛壇状に造成された敷地や一方向に傾斜した斜面に建つ住宅の構成など、断面構成における地面と建築の図形との様々な対応関係を検討することができる。なお、本研究では、現代の建築ジャーナリズムの中で最も代表的なもののひとつとして、「新建築」誌、および「新建築住宅特集」誌に掲載された住宅作品を中心に分析の資料としている。

論文の構成

本論は以下に述べる6章から構成されている（図1-3）。

第1章「序論」では、研究の目的と背景、研究の概要について述べている。

第2章「敷地境界との関係にみる住宅作品の平面輪郭」では、敷地の基本要素として「敷地境界」と建築の平面の図形との対応関係を扱っている。ここでは不整形な形状の敷地に建つ住宅作品を対象に、敷地境界に対する住宅の平面輪郭の形状の近似的な関係である「適応関係」と、敷地境界線と平面輪郭線を構成する線分同士の関係である「平行関係」から、敷地境界と平面輪郭の対応関係を総合的に検討している。その結果、得られた関係図式の類型より、適応関係と平行関係が共に調和

的なあり方や、それらに対立的な関係を取り結ぶあり方といった性格を見いだすと共に、それらの種類の性格を特徴づける関係図式を位置づけている。

第3章および第4章では、敷地の基本要素として「地面」に着目し、第3章において立面の図形、続く第4章において断面の図形との対応関係を扱っている。

第3章「住宅作品における立面の接地性」では、街路に露出し3方を隣家に囲まれた町家型の住宅を対象に、立面の形状の検討から輪郭パターンを導くと共に、立面の下部とその前面の地面との形態および素材や、動線および視線による連続関係から連続モデルを導き、それらの比較検討により相対的に位置づく立面と地面との接続関係に関わる性格（接地性）を検討している。その結果、形状の安定性と連続関係の一致および不一致により、接地性が強調されるあり方や、接地性に関わる様々な表現が輻輳するあり方といった性格を位置づけている。

第4章「傾斜地における住宅作品の断面構成」では、傾斜地に建つ住宅を対象に、斜面方向に対する建物へのアプローチの関係、および建築ヴォリュームと地面との接触に関わる断面形状による「外部構成」と、内部におけるエントランスと居室等の断面における配列による「内部構成」から検討し、その結果、得られた断面構成の関係図式の類型より、斜面の方向に対する外部構成と内部構成の対応による基本型および基本型を強調する関係図式を位置づけている。

第5章「建築と敷地の図形的対応関係」では、2章から4章までに検討した、建築の図形の各水準における敷地の基本要素との対応関係の図式を比較検討することにより、局限化された敷地の物理的な特性に対する適合性の観点から、各章で得られた類型を横断的に分類すると共に、類型間に共通する性格を考察することを通して、現代日本の住宅作品における建築と敷地の図形的な対応関係の枠組みを明らかにすることを試みている。

第6章「結論」は、2章から5章までの各章で得られた成果を総括した、本論文の結論である。

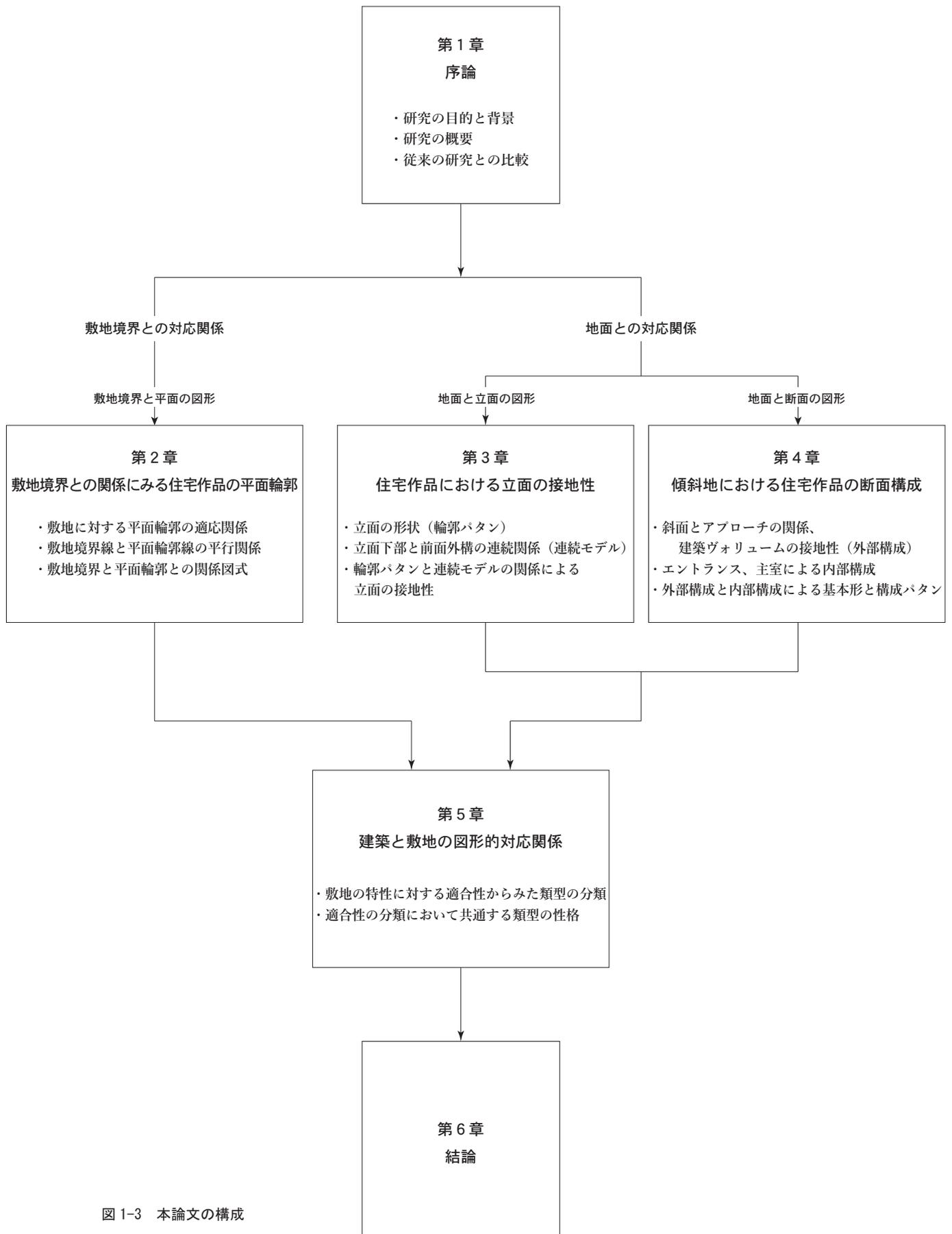


図 1-3 本論文の構成

3節 従来の研究との比較

本論文は敷地に関する物理的条件と建築との対応関係を図形的な水準で検討することで、建築外の要素と建築とによる関係図式の類型を導き、その性格を位置づけるものである。本節では、敷地と建築との関係、および建築の図形を題材とするこれまでの研究を取り上げ、本研究との比較を行う。

敷地と建築の関係を扱った研究

敷地と建築の関係を扱った研究には、ふたつの傾向がみられる。ひとつは、敷地条件と建築の内部空間の構成との関係づけを試みるものであり、南カリフォルニアにおける住宅作品を対象に、敷地内における建物の内外空間の配列と前面道路の位置や地形との関係を分析した研究¹⁵⁾、日本の地方都市の戸建住宅地における敷地の方位および間口と住宅プランとの関係を分析した研究¹⁶⁾などがある。またもうひとつは、敷地内の要素と建築による構成を扱ったものであり、敷地内の外部空間を扱った研究として、建築の外部空間の配列に関する検討を内部空間まで拡張しその関係を分析した研究^{17) 18)}、敷地外から敷地内、そして建物の入口へと至るアプローチに関わる空間領域と建築の外形構成との関係を分析した研究¹⁹⁾があり、これらは敷地内の外部空間を建築の空間構成上の要素として捉え、建築と外部空間の融合的な関係を位置づけた研究として評価できる。これらに対して本研究は、敷地それ自体の物理的な性質と建築との相互的な関係を明らかにしようとするものである。

建築の平面輪郭を扱った研究（第2章に対応）

建築の平面輪郭を扱ったものとしては、建物の外形を表す平面図形を用いたアンケート調査により、家および建築の形象の概念的内容を定量的に分析した研究²⁰⁾や、近代の住宅作品の平面における輪郭線の凹凸や伸張、室の整列、動線の分岐や折れ曲がり进行分析し建築平面の特性を明らかにした研究²¹⁾があり、前者は、建築の外形の形象としての平面図形の意味と機能を構造的に明らかにしたものとして、また後

者は、建築の平面における定量的な記述評価の可能性を提案したのとして評価できる。これらに対して、敷地境界と建物輪郭との相互的な対応関係に着目した第2章は、建築の平面の図形を、必ずしも室配列や空間の形状といった内部空間の構成に準拠したものでなく、外的な条件との対応関係によって成立するものとして捉えるものである。

建物の立面を扱った研究（第3章に対応）

建物の立面を扱った研究には、まず、都市的な環境における建物の立面を対象としたものとして、建物の立面の物理的構成と心理的評価の関係を明らかにすることを目的として、識別法により建物のファサードの形態に関する心理的分析およびその物理的構成について論じたもの²²⁾、立面のプロポーションや部位の寸法などの認知のされ方を定量的、定性的に明らかにすることを目的として、立面想起法を用いて分析を行った研究²³⁾などがある。次に、建物の立面の幾何学的な構成を扱ったものでは、ミース・ファン・デル・ローエによる建築作品における立面のプロポーションと黄金比の関係について論じた研究²⁴⁾や、様々な様式の建築における立面形態の階層構造とそれぞれの階層における黄金比の関係について論じた研究²⁵⁾などがあり、これらはいずれも黄金比を用いて人間の視覚的な認知と建築の美的構造の関係を明らかにしようとしたものであり、後者では、それに加えて立面の形態構成における階層性を提案したのとして評価できる。さらに、立面やファサードの意匠表現を建築ヴォリュームや内部の機能といった建築に内在する条件との対応によって明らかにすることを目的とした研究として、中高層建築を対象に架構が規定する建築ヴォリュームとファサードの形態構成を論じた研究²⁶⁾、清家清の住宅作品の立面表現を内部機能との関係から論じた研究²⁷⁾などがある。これらに対して、立面と地面との接続関係を扱う第3章は、建築の形態表現を、心理的な評価や、幾何学的構成といった建築それ自体に内在する条件による評価のみではなく、建築と建築外の要素との相互的な関係によって成立するものとして捉えるものである。

傾斜地における住宅、および住宅の内部構成を扱った研究（第4章に対応）

傾斜地における住宅を扱った研究には、居住者の評価をもとに斜面住宅地の住環境を分析したもの²⁸⁾、傾斜地に立地する集落における民家の向きを傾斜と方位との関係から分析したもの²⁹⁾、山間集落の屋敷正面の空間構成を地形との関係から分析したもの³⁰⁾などがあり、これらは住宅の向きや屋敷正面といった傾斜地における住宅の部分的な特徴や、条件に対する対応関係を明らかにしようとする研究といえる。また、住宅の内部構成を扱った研究には、平面や断面における幾何学的な比例関係を分析したもの³¹⁾、動線を中心に平面的、断面的な構成を分析したもの³²⁾、分析対象を特定の建築家の住宅作品³³⁾³⁴⁾や、特定地域の伝統的な住宅に限定したもの³⁵⁾³⁶⁾などがある。これらに対して、第4章は、現代住宅作品を全般的に扱い、住宅の内外全般に渡る断面の図形と斜面（地面）との間に形成される一体的な対応関係を捉えるものである。

第1章 本文注

- 注1) 参考文献1において、R・ヴェンチュリは、ムルシア教会のファサードにみられる建物そのものと建物の立地に対する異なるスケールといった両者共存 ("both and") を指摘している。また同書において、建築自体に内在する、あるいは建築と周囲との関係において“調整”と“並置”による対立性の二諸相を指摘している。これらの指摘は、建築それ自体の構成のみならず、建築がその周囲との関係においてもつじつま合わせ、あるいは対位法的な対応を行うことについての示唆と受け取ることができると同時に、ここでの周囲は「地」であり、それに対する「図」としての建築の対応という関係を前提としていっていると考えられる。
- 注2) 本研究における対応関係とは、敷地と建築との間で一体的に取り結ばれる物理的關係を意味するものであり、そこにおいては「地」としての役割と、「図」を構成する要素としての役割という、両義的な意味を敷地にみるものである。
- 注3) 構成関係とは、言語学における範列的關係と統辞的關係を比喩的に応用する建築構成学における分節と統合によって構成形式を成立させる部分と全体の関係を指す。
- 注4) 建築と敷地との対応関係が読み取れる建築作品の事例として、F・L・ライトの落水荘（1936年）では、自然の岩盤地形に対して水平方向の連続性を強調することにより、地面と建築との対立的な関係が表現されているといえる。また同じくライトのロビー邸（1910年）では、街路と平行な線で構成されるファサードに対して背後は雁行した平面形状となっており、街路に面して水平方向に連続する構えが強く意識された平面の構成といえる。一方、日本における事例として、阿部勤の中心のある家（1974年）では、角地に面する矩形の敷地に対して正方形平面が振って配置されることで敷地の角に対して距離が確保されており、敷地と平面の幾何学的な関係が空間構成の基調となっているといえる。
- 注5) 参考文献3など
- 注6) 参考文献4において、高橋鷹志は、『「かたち」といってもその意味は極めて広い。ここでは「もの」の見えの形態だけに限定せずに、部分と全体とが潑刺と共生している状態（システム）まで含めて「かたち」と呼ぶ。…』とし、建築においてかたちということばが指し示す意味の広がりにおいて、建物の目に見える有様に限定されない関係をも問題としている。
- 注7) 参考文献5において、浜口隆一は、「ここで説明しようとする建築様式とは、こうした建物の外観の特徴に関するものである。…それら様々な特徴を、ある程度、分類整理したものといったほうが正確である。」として、「建築の造形の視覚的効果」としての外観の造形を様式論として展開している。
- 注8) 参考文献6において、香山壽夫は、弁別的に取り出された形態の特徴（形態要素）とその構成形式（形態構成）、ひとつの作品において併存する複数の構成形式どうしの構造的関係（形態構造）といった、部分と全体を前提とする統辞的側面から、建築に内在的な成立条件による形態論を展開している。
- 注9) 参考文献7、8など。
- 注10) 参考文献9において、坂本一成は、「…建築においての目に見えるかたち、つまりある濃い意味を持ち、ひとかたまりをなした形象、ゲシュタルトの図像としての形象の、〈建築の空間〉における構造的な位置づけと、そこでの役割、およびその図像の社会の内での役割…」と延べ、建築のかたちについて、「…建物の現象の構造と社会における意味である…」と論じている。
- 注11) 参考文献10、11、12など。このうち参考文献10は建築ヴォリュームを単位とした、また参考文献11は建築ヴォリュームおよび内部の室を単位とした、部分（範列的關係）と全体（統辞的關係）により成立する形式性を主題とした空間構成として建築の形態を論じている。また参考文献12は内部の室を単位とした複合に、空間の大きさに関する尺度の概念を導入することにより、より実体的な空間のかたちと空間構成との関連を論じている。

注 12) 参考文献 13 において、小林克弘は次のように述べている。「…そうした形態の内在的な論理、自律的な発展を探索することは、建築造形を考える上できわめて重要であり、かつ避けて通ることのできない点である。…そして、それらが、形態を決定するさまざまな外在的要因といかに関係しているかを考察することが、建築造形全体の分析に通じるのである。」

注 13) 参考文献 14 において、アルド・ロッシは、クアトルメール・ド・カンシィによる以下の言葉を引用すると共に、類型学の有用性について言及している。『「類型」という言葉は決して、写し取られるべきものないしは完全に模倣されるべきものの謂いではなく、それ自体がモデルに対し何らかの規範として働くようなある要素を指す概念なのである。』

注 14) 本研究では、様々なヴァリエーションを含む一般的な敷地の条件に対して、平面、立面、断面の図形の各水準において、建築との対応関係が先鋭化すると考えられる敷地の条件の設定を行う目的で、資料範囲の限定を行っている。ここでは、この資料範囲の限定を「局限化」と定義し用いている。

注 15) 本研究では、現代の建築ジャーナリズムの中で最も代表的なもののひとつとして、1956 年～1984 年までの「新建築」誌、および 1985 年～1999 年までの「新建築住宅特集」誌に掲載された、敷地境界が明確に図示されている不整形敷地に建つ住宅作品のうち、中庸な密度を有する都市的な環境における住宅作品を資料としている。

同誌に掲載された住宅 2926 作品（専用住宅として著者が集計した作品数である）における内訳は、敷地境界が明確に図示されたものは 1918 作品であり、その内、不整形敷地に建つものは 395 作品であった。また実質の建坪率における作品分布の比率は、30% 未満のものは約 57%（226 作品）、30% 以上 40% 未満は約 15%（58 作品）、40% 以上 50% 未満は約 9%（36 作品）、50% 以上 60% 以下は約 12%（47 作品）、60% 超は約 7%（28 作品）であった。この結果、30% と 60% を境に資料分布に偏りがみられた。さらに、このうち大きな比率を占める建坪率が 30% 未満の作品は広大な敷地に疎に建つ住宅群であり、また住居専用地域における建坪率規制の上限値である 60% を超える作品は商業地域などの高密度な環境に建つ住宅が多いことから、本研究において検討を行う対象には含めないこととした。その結果、実質の建坪率が 30% 以上 60% 以下のもの 141 資料を対象とすることとした。

注 16) 本研究の資料は、建築専門誌の中でも最も代表的と思われる「新建築」誌、「新建築住宅特集」誌に掲載された作品を対象としている。資料の対象期間は、第 2 次世界大戦以降、特に住宅の質的向上を目的に建築基準法、建築士法や住宅金融公庫法などの法整備が進められた 1950 年以降から 2013 年までとした。この期間に掲載された住宅作品のうち、都市的な環境において立面と地面との関係が街路に面して際立つ対象として、前面道路を除き 3 方を隣家に囲まれ、前面道路に面して塀や垣根が無く立面が露出した作品 142 資料を対象としている。

注 17) 本研究が対象とする傾斜地における住宅建築には、雛壇状に造成された敷地に建つ住宅、一方向に傾斜した斜面に建つ住宅、起伏の多い複雑な地形に建つ住宅といった様々な構成が予想され、特定の計画原則によらない様々な対応関係のもと、意匠表現として成立していると予測できる。このような多元的なあり方を包括的に扱うために、ここでは、現代の建築ジャーナリズムの中で代表的なもののひとつと考えられる 1956 年～1984 年までの「新建築」誌、1985 年～1999 年までの「新建築住宅特集」誌に掲載された傾斜地における住宅作品のうち、同誌の年末アンケートの上位に挙げられた 106 作品を対象としている。

第 1 章 参考文献

- 1) R・ヴェンチュリ / 伊藤公文訳：建築の多様性と対立性 SD 選書、鹿島出版会、1982.11
- 2) 坂本一成、塚本由晴、岩岡竜夫、小川次郎、中井邦夫、足立真、寺内美紀子、美濃部幸郎、安森亮雄：建築構成学 建築デザインの方法 実教出版、2012.3

- 3) 寺内美紀子、坂本一成、奥山信一：建築の外部空間の分節と配置形式 - 領域的性格からみた建築の外部空間の構成形式に関する研究 - 日本建築学会計画系論文集 第 491 号、pp.91-98、1997.1
- 4) 高橋鷹志：かたちのことば / かたちのデータファイル デザインにおける発想の道工具箱 高橋研究室編、彰国社、p.4、1984.2
- 5) 浜口隆一：建築様式 / 建築の造形 谷口吉郎編、毎日新聞社、pp.97ff、1964.9
- 6) 香山壽夫：建築形態の構造 - ヘンリー・H・リチャードソンとアメリカ近代建築 東京大学出版会、1988.11
- 7) 中原まり、小林克弘：マッキム・ミード&ホワイトのロウ・ライブラリーにおける幾何学構成の分析 日本建築学会計画系論文集 第 454 号、pp.189-195、1993.12
- 8) 辻正矩：ファンズワース邸の平面にみられる幾何学的構成について 日本建築学会計画系論文集 第 557 号、pp.355-359、2002.7
- 9) 坂本一成：建築における図像性 / 建築に内在する言葉 TOTO 出版、pp.218ff、2011.1
- 10) 小川次郎、奥山信一、坂本一成：公共文化施設における形態構成とビルディング・タイプ - ヴォリュームの複合から見た建築の構成形式に関する研究 (2) - 日本建築学会計画系論文集 第 494 号、pp.137-145、1997.4
- 11) 中井邦夫、大内靖志、小川次郎、坂本一成：現代日本の建築作品における室の集合と外形構成 - 外形ヴォリュームの分節による建築の構成形式に関する研究 (2) - 日本建築学会計画系論文集 第 528 号、pp.125-131、2000.2
- 12) 長谷川豪、塚本由晴、田中正洋：空間の大きさを比較する室の配列 - 現代建築作品の空間構成における同一性と差異 (2) - 日本建築学会計画系論文集 第 699 号、pp.1257-1264、2014.5
- 13) 小林克弘：形態 form / 建築論辞典 日本建築学会編、彰国社、p.41、2008.9
- 14) アルド・ロッシ / 大島哲蔵、福田晴彦訳：都市の建築 大龍堂書店、1991.12
- 15) 那須聖、村田涼、加用雅信、八木幸二：内外空間の配置・配列構成に見る近代住宅の建物と敷地の関係に関する研究 - 南カリフォルニアにおける R.M. シンドラーと R.J. ノイトラの戸建て住宅作品の比較を通して - 日本建築学会計画系論文集 第 529 号、pp.179-185、2000.3
- 16) 長谷川洋、玉置伸悟：敷地条件からみた新築・戸建て住宅平面の典型像とその構成原理 - 地方都市に於ける新築・戸建て住宅の空間構成型に関する研究 その 1 - 日本建築学会計画系論文集 第 483 号、pp.189-198、1996.5
- 17) 塚本由晴、繁昌朗、坂本一成：現代日本の住宅作品における外部空間の分節と統合 - 住宅作品の構成形式に関する研究 - 日本建築学会計画系論文集 第 470 号、pp.95-104、1995.4
- 18) 川北健雄：1990 年に発表された国内の住宅作品における外部と内部の配置構成に関する研究 日本建築学会計画系論文集 第 497 号、pp.103-110、1997.7
- 19) 寺内美紀子、村田淳、坂本一成：現代日本の建築作品における外形構成とアプローチ空間 - 領域的性格からみた建築の外部空間の構成形式に関する研究 (2) - 日本建築学会計画系論文集 第 525 号、pp.129-135、1999.11
- 20) 坂本一成、青山恭之、岩岡竜夫：<家>と<建築>の外形における平面図形（シルエット）的イメージ - 建築の形象での図像性に関する研究 - 日本建築学会計画系論文集報告集 第 369 号、pp.93-102、1986.11
- 21) 北川啓介、山田好美、碓井将義、西山尚希：外形と空間構成と動線を考慮した近代住宅作品の平面特性 日本建築学会計画系論文集 第 629 号、pp.1469-1476、2008.7
- 22) 船越徹、積田洋：識別法によるファサードの特性に関する研究 - ファサードの研究 (その 1) - 日本建築学会計画系論文集 第 479 号、pp.139-147、1996.1
- 23) 趙雄、鈴木弘樹、栗生明：都市型建築における立面要素の寸法の認知に関する研究 日本建築学会計画系論文集 第 643 号、pp.2021-2027、2009.9
- 24) 佐野潤一：ミース・ファン・デル・ローエによるレイク・ショア・ドライブ・アパートメントのファサードのプロポーションにおけるダブルスクエアと黄金比 日本建築学会計画系論文集 第 537 号、pp.319-324、2000.11
- 25) 荻谷哲朗：建築立面の階層構造法による黄金分割に関する考察 日本建築学会計画系論文集 第 557 号、pp.347-354、2002.11

- 26) 小川次郎、安野彰、坂本一成：都市型中高層建築のファサードにおける形態構成 - ヴォリュームの複合から見た建築の構成形式に関する研究 (3)- 日本建築学会計画系論文集 第 496 号、pp.105-112、1997.6
- 27) 柴田晃宏、油谷千佳、是永美樹、八木幸二：清家清の住宅作品における構成要素と内部機能の関係からみた立面表現 日本建築学会計画系論文集 第 609 号、pp.201-207、2006.11
- 28) 斎藤広子：自然林のある斜面住宅地についての居住者の評価 - 住宅地における「残した緑」についての居住者の評価 その 2- 日本建築学会計画系論文報告集 第 527 号、pp.185 ~ 192、2000 年 1 月
- 29) 坂本磐雄、椿勝義：傾斜地および山すそに立地する集落の民家・主屋の向きについて - 沖縄の集落景観における平面形態の構成に関する研究・その 4- 日本建築学会計画系論文報告集 第 350 号、pp.113-123、1985.4
- 30) 小野寺淳、鎌田元弘、宮澤鉄蔵：山間集落における敷地正面空間の要素と構成に関する事例研究 - 農村集落における屋敷回り空間の「見え方」に関する研究 その 2- 日本建築学会計画系論文報告集 第 534 号、pp.139-145、2000.8
- 31) 加藤道夫、広部達也：ル・コルビュジェの形式的解釈 - 第 II 部 形式的体系によるル・コルビュジェ解釈 - 日本建築学会計画系論文報告集 第 342 号、pp.132-145、1984.8
- 32) 末包伸吾：部屋の構成とシーケンス計画にみるルドルフ・シンドラーの空間構成法 日本建築学会計画系論文報告集 第 497 号、pp.221-227、1997.7
- 33) 河田智成：アドルフ・ロースのラウムプランとシュトラッサー邸における断片化について 日本建築学会計画系論文報告集 第 509 号、pp.217-224、1998.7
- 34) 河田智成：アドルフ・ロースの住宅改造とラウムプランの生成について 日本建築学会計画系論文報告集 第 535 号、pp.269-276、2000.9
- 35) 金光鉉：住宅「演慶堂」の形態分析 - 建築形態の重層的展開についての研究その 1- 日本建築学会計画系論文報告集 第 323 号、pp.142-149、1983.1
- 36) 曹貞植、川崎清、小林正美 - 韓国・河回における伝統的住宅の空間構成に関する研究 - 住宅の類型化と空間分離の特性 - 日本建築学会計画系論文報告集 第 417 号、pp.51-60、1990.11

第2章 敷地境界との関係にみる住宅作品の平面輪郭

1節 本章の目的と概要

1-1 本章の目的

1-2 本章の概要

2節 敷地に対する平面輪郭の適応関係

2-1 建築ヴォリュームの大小関係と平面輪郭の形状

2-2 敷地境界と平面輪郭の適応関係

3節 敷地境界線と平面輪郭線の平行関係

3-1 対をなす敷地境界線と平面輪郭線の平行関係

3-2 敷地境界線と平面輪郭線の平行関係

4節 敷地境界と平面輪郭との関係図式

4-1 関係図式の類型とパターン

4-2 類型とパターンの関係

5節 小結

1 節 本章の目的と概要

1-1 本章の目的

建築の意匠においては、建物それ自体としての空間や形態の構成に因る側面が重要であることを前提として、立地する敷地環境との関係が、個別性や特殊性を際立たせる上で多くの意味を担ってきたといえる。例えば日本では、丘陵地形に沿って御茶屋と庭園が分散配置された修学院離宮、あるいは低く吹き放たれた書院広間と庭園が一体として計画された奈良慈光院などにみられる借景技法、また西洋では、自然の岩盤地形と建築が拮抗し、かつ一体的に構築された F・L・ライトの落水荘など、古くから、自然地形や風景といった敷地環境との対応関係における巧みな事例をみることができる^{注1)}。

こうした事例にみられる敷地環境を構成する環境要素のなかでも、建築の物的な領域を規定する敷地境界は、建物が密集した都市的環境においては、建物のスケールやヴォリュームの決定、および建物が配置されることにより敷地の残部として生ずる外部空間の形成に密接に関わることから、建物と敷地外の周辺環境との関係を司る重要な要素のひとつといえる。特に、敷地の狭小化が進行した現代日本の戸建住宅地において敷地境界との関係は、デザインの方針を決定する上で考慮せざるを得ない第一義的なファクターでもある。例えば、歪な敷地の形状に沿うことで最大容積を確保した不整形な建築ヴォリューム、あるいは道路境界に対してのみ平行に建物の平面が配置されることで道路に正対した明快な構えが形成される事例などでは、敷地境界に対する建築の平面的な形態の調和的あるいは対立的な対応関係が示されたものといえる。このことは即ち、現代の都市的な環境に建つ住宅作品（本章では中庸な密度を有する都市的な環境における住宅作品として、実質の建坪率 30% 以上 60% 以下の作品を分析対象としている）において、敷地境界は単なる与条件ではなく、建築との相互的な関係において建築の意匠を成立させる重要な要素のひとつとなっていることを示すものと考えられる。

そこで本章では、現代日本の住宅作品における建物輪郭の平面（以下、平面輪郭^注

2) と敷地境界に着目し、敷地境界と平面輪郭の形状に関する適応関係、および敷地境界と平面輪郭を構成する線分の平行関係を検討することから、敷地と建築の対応関係の一端を明らかにすることを目的とする。

1-2 本章の概要

都市部における住宅の設計において、敷地に対する建物の配置および形状を決定する際には、例えば、採光や通風等における良好な内部環境を実現するために、隣接地の建物との距離の確保といった敷地に残部を形成する平面的な操作が意識的に行われると考えられる。また別の視点から捉えるならば、周囲の住宅地環境における、建築の構えや調和の形成の実現が考慮された場合は、道路境界や隣地境界に対して外壁を平行に配置し、安定した街並みの形成を目論む操作も意識的に行われているといえる。その結果として形づくられる平面輪郭と敷地境界との関係は、双方の全体的な形状に共通した特徴がみられることで位置づけられる場合と、局所的に双方の線分どうしが平行関係となることで特徴づけられる場合がある。

例えば、分析例（図 2-1）の住宅では、敷地の奥に向かって幅が狭くなる不整形な四角形の敷地形状に対して大小関係のある 2 つの建築ヴォリュームが配されている。そのうち、大きい方のヴォリュームの平面輪郭は、前面道路を基準とする直交座標とそれに斜行する線分とで形づくられており、敷地の形状に対して一部に同一角度の頂点を有すなど共通性がみられるものの全体としては独立した形状といえる。また、平面輪郭を構成する線分は、道路境界と左側隣地境界の 2 箇所でのみ平行関係が認められるが、その他の箇所では非平行であることから、道路側の境界を基準に構えを形成しつつも敷地の奥側においては敷地に準拠していない平面輪郭となっている。このように、敷地境界に対する平面輪郭の形状的な適応関係（全体的な対応関係）と、互いの線分の平行関係（部分的な対応関係）の集積によって、敷地境界に対する平面輪郭の自律的あるいは他律的な性格を位置づけることができると考えられる。

本章では、敷地境界と平面輪郭の対応関係を上記の 2 水準から検討する。まず、

2節では住宅を構成する建築ヴォリュームを大小関係の有無から捉え、それらの平面輪郭の形状を敷地境界の形状に対する適応関係によって位置づけ、続く3節では敷地境界と平面輪郭それぞれを構成する線分（以下敷地境界線、および平面輪郭線）の平行関係を検討する。さらに4節では、2節および3節それぞれで得られた結果を相互に比較検討することから敷地境界と平面輪郭との関係図式を位置づけ、5節で小結を述べる。なお、平面輪郭と敷地境界の関係は敷地境界の形状に関わらず成立するが、本研究では、平面輪郭を考察する上で敷地境界との関係がより顕著にみられる不整形な敷地形状（表2-1）に建つ現代日本の住宅作品を対象とする^{注3)}。

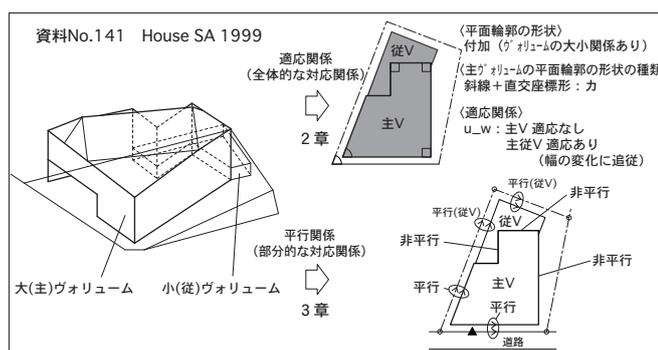


図 2-1 分析例 1

表 2-1 不整形敷地の種類

(141資料中)

	敷地境界3辺		敷地境界4辺		敷地境界5辺以上	
道路側直角1	あ	道路境界1 (2)	う	道路境界1 (12)	お	道路境界1 (18)
		複数道路* (0)		複数道路* (1)		複数道路* (4)
道路側直角0	い	道路境界1 (6)	え	道路境界1 (36)	か	道路境界1 (34)
		複数道路* (1)		複数道路* (13)		複数道路* (14)

表 2-1 注) 複数の道路境界を有する敷地(*)は、同程度の幅員で敷地に接道するものとし、幅員が大きく異なるものや一方の道路と敷地に高低差があるものなどは、接道における階層性の下位にある道路境界線を隣地境界線と同一に扱う。

2 節 敷地に対する平面輪郭の適応関係

敷地境界と平面輪郭の関係においては、境界線と輪郭線が必ずしも平行でなくとも、敷地境界と平面輪郭とが近似した形状をなすことにより、全体として敷地に平面輪郭が適応したと捉えられる状況（以下、適応関係）となる事例がみられる。

例えば、先ほどの分析例（図 2-1）の住宅は、大小複数の建築ヴォリュームが組み合わさることで平面輪郭を構成している。このうち、大きいヴォリュームの平面輪郭の形状は、直交座標を基調とした凹凸形状と 1 辺の斜線からなり、前述の通り敷地境界の 1 頂点と等しい角度をもつが、敷地境界の形状全体に対する対応関係はみられない。しかし、大小のヴォリュームが統合された平面輪郭は、道路から奥に向かって狭くなる敷地の幅の変化に追従するように変形していることから、適応関係を認めることができる。

本節では、上記の視点から敷地境界と平面輪郭の形状を比較し、敷地に対する建築の平面輪郭の適応関係について検討を行う。

2-1 建築ヴォリュームの大小関係と平面輪郭の形状

建築の全体の形状は、屋根面の分節によって大小複数の建築ヴォリュームの集合から捉えることができる（表 2-2）。敷地境界と建築の平面輪郭との関係を検討する際に、大小関係をもたない場合はひとつの建築ヴォリュームとして取り扱えるが、大小関係のある場合は、前節の分析例（図 2-1）の住宅のように、大きい方のヴォリュームと小さい方のヴォリュームが統合されたものと異なる対応関係となるものがみられることから、大きい方のヴォリューム（以下、主V）での適応関係と小さい方のヴォリューム（以下、従V）を加えた場合での適応関係という階層的な視点が必要となる^{注4)}。そこでまず、これら大小関係を前提とした建築ヴォリュームの組合せを単体、並列、付加に分類し平面輪郭の形状を検討したところ（表 2-2）、大小関係をもたない（単体および並列）もののうち単体ヴォリュームのものが全 141 資料中 52 資料、同程度の大きさの複数ヴォリュームによるもの（並列）が同 29 資料みられた。また、

大小関係があるもの（付加）は同 60 資料であった。

次に、主V^{注5)}に関する平面輪郭の形状の種類について、その幾何学性および建築のプランニングにおいて一般的に基調となる直交座標の組合せから検討を行ったところ（表 2-3）、単純幾何学形状では矩形が大半を占めた（イ、32/35 資料）。また、単純幾何学形状以外では、直交座標を基調とした矩形の組合せが多く、そのうち 1 直交座標形が最も多くみられた（ウ、50 資料）。このことから、たとえ不整形な敷地（表 2-1）であっても、矩形および矩形の複合による平面輪郭の形状が多く適用されていることがわかる。

表 2-2 建築ヴォリュームの大小関係と平面輪郭の形状

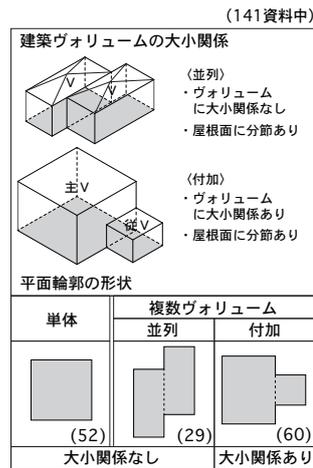


表 2-3 主ヴォリュームに関する平面輪郭の形状の種類

(141資料中)

単純幾何学形状		単純幾何学形状以外の形状					
		直交座標を基調とする形状				直交座標によらない形状	
		矩形の組合せ		斜線+直交座標形		曲線形	その他
矩形以外 ア(3)	矩形 イ(32)	1直交座標形 ウ(50)	2直交座標形 エ(5)	斜線+直交座標形 オ(11)	 カ(16)	曲線形 キ(10)	その他 ク(14)

2-2 敷地境界と平面輪郭の適応関係

一般的な住宅地の敷地割りである矩形の敷地形状に対して、非直角な頂点を有する不整形な敷地形状は、敷地全域に渡る幅の変化や屈曲、あるいは矩形以外の多角形の形状等、矩形との差異によって位置づけることができる。

そこで、敷地に対する平面輪郭の適応関係について、これら敷地形状の屈曲や幅の変化に対応して平面輪郭においても屈曲あるいは幅の変化がみられる適応関係を敷地の形状に対する追従性、また、多角形の敷地形状に対して平面輪郭が同一の頂点数を有しかつ類似した形状となる適応関係を敷地の形状に対する類似性と位置づけ整理を行った（表 2-4）。追従性に関しては敷地形状の屈曲（b）と敷地全域に渡る幅の変化（w）、類似性に関しては敷地と同一頂点数の平面輪郭（s）を位置づけ、前節で検討した主Vの平面輪郭について適応関係の分析結果を集計した（表 2-5）。これより、適応関係を有するもの（75/141 資料）のうち、追従性における敷地の幅の変化にのみ対応するものが最も多く（w、45 資料）みられた。

次に、ここで得られた主Vの適応関係（表 2-5）を前提として、従Vを含めた平面輪郭の形状についても適応関係の種類（表 2-4）の検討を行い、それらと併せて前節で位置づけた建築ヴォリュームの大小関係と平面輪郭の形状（表 2）および主Vに関する平面輪郭の形状の種類（表 2-3）を重ねて示したのが表 2-6 である。

これより、建築ヴォリュームが大小関係をもたないもの（81/141 資料）では、追従性あるいは類似性の適応関係がみられるものが 45 資料、みられないものが 36 資料であった。前者では、追従性によるものが最も多く（31 資料）、単体・並列共に矩形の組合せによるもの（ウ、エ）が 5 割強（17 資料）を占めている。また、類似性によるもの（9 資料）のうち大半（8 資料）が単体ヴォリュームからなり、これらは何れも単純な矩形（イ）であることから、不整形の度合いが低い敷地に対して矩形の平面輪郭が配された典型的なあり方といえる^{注6)}。

さらに、建築ヴォリュームに大小関係があるもの（60/141 資料）では、従Vを加えることで、主Vでの適応関係が継続するか否かに関して類似性および追従性で異なる傾向がみられた。まず、主Vで適応関係がみられる場合、その適応関係が類似

性によるものでは、従Vを加えることで適応関係がみられなくなるものが大半を占めたが（5/6 資料）、一方、適応関係が追従性によるものでは、従Vを含めた場合でも適応関係が継続するものが大半であった（19/20 資料）。このうち前者に位置づいた資料においては、すべての主Vが矩形（イ）であることから、大小関係をもたず類似性の適応関係がみられたものと同様に、矩形の主Vの配置により敷地との類似性をもちつつ、従Vによる部分の操作によって庭やアプローチといった敷地内の外部空間が個別に分節されたあり方といえる。また後者に位置づいた資料では、敷地の幅の変化に対する追従性が継続するものが大半であり（w_w、17/19 資料）、そのうち主Vが斜線+直交座標形（オ、カ）および直交座標によらない形状（キ、ク）のものが多く（12 資料）みられたことから、矩形によらない不整形な主Vが従Vを伴いつつ敷地の幅の変化に適応するあり方といえる。

次に、主Vで適応関係がみられないものについては、従Vを含めた場合では、適応関係がみられるようになるものと、変わらず適応関係がみられないものがそれぞれ同程度であった（12/30 資料、18/30 資料）。ここで両者の主Vの形状を比較すると、前者では矩形（イ）が、後者では1直交座標形（ウ）がそれぞれ半数を占めた（6/12 資料、9/18 資料）。それらは、敷地に対して適応関係がみられない矩形の主Vに従Vを加えることで適応関係が補完されるあり方と、矩形の組合せによる主Vの自律性が従Vを含めた場合でも継続されるあり方を示すものといえる。

表 2-4 適応関係の種類

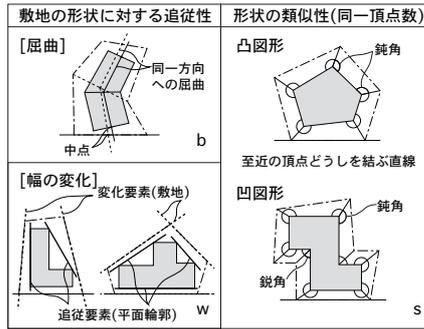


表 2-4 注)

[屈曲] 屈曲する頂点をそれぞれ結んだ線分の中点を起点に敷地端部の境界線の中点同士、平面輪郭端部の線分の中点を繋ぐ折れ線の屈曲する方向が同一となるもの。
 [幅の変化] 平面輪郭の最外部に位置する頂点を結ぶ線分(追従要素)が敷地の幅の変化に関わる境界線の組(変化要素)の開きに追従するもの。
 但し、敷地に対して平面輪郭が著しく偏心するものを除く。

表 2-5 敷地境界に対する主ヴォリュームの平面輪郭の適応関係

(141資料中)

追従性 類似性	あり			なし
	屈曲	屈曲+幅の変化	幅の変化	
あり	0 sb	0 sbw	9 sw	15 s
なし	3 b	3 bw	45 w	66 u

表 2-6 敷地境界に対する平面輪郭の適応関係

(141資料中)

[大小関係なし(単体、複数-並列)] (81)	主Vの適応関係		[大小関係あり(複数-付加)] (60)
	類似性 S(15)	追従性(幅)+類似性 SW(9)	
<p>適応関係あり(45)</p> <p>no.46 (9)</p> <p>60イ 46イ 9イ 74イ 48イ 12イ 56イ 34イ 単 120オ 並</p>	<p>59オ s_s (1)</p>	<p>22イ 主V適応関係あり 42イ →主従V適応関係あり(24) 79イ 02イ 15イ s_u (5)</p> <p>no.22</p>	
<p>no.80 (31)</p> <p>no.80 (31)</p> <p>112カ 116オ 131ウ 80ウ 20ウ 73キ 61カ 47オ 83ウ 45ウ 単 87ク 108カ 52オ 95ウ 63ウ 98ク 49キ 86イ 135ウ 77ウ 17ウ 109キ 64カ 71イ 124ウ 31ウ 24ク 32キ 72イ 125ウ 54ウ 並</p>	<p>93ア 130ア 57ウ 84キ</p> <p>sw-w : sw-sw (4)</p> <p>no.122</p>	<p>8ウ w_u (1)</p> <p>no.38</p>	
<p>適応関係なし(36)</p> <p>114ク 58キ 90オ 75ウ 39ウ 4ウ 139イ 40イ 6イ 129キ 11カ 76ウ 50ウ 16ウ 1ウ 69イ 7イ 単 132キ 43カ 37オ 66ウ 26ウ 2ウ 107イ 14イ 104ク 30カ 121ウ 62ウ 23ウ 5ウ 36カ 27カ 67ウ 29ウ 10ウ 並</p>	<p>70ウ 28ウ 41カ 100ク 128カ 68ウ 106カ 101ク 113ウ 110カ 103ク 119ウ 122カ 105ク 123ウ 53キ 126ク b_b 140オ 81ク w_w ; w-sw (19)</p>	<p>33カ 65イ 99ウ 111イ 91イ 136イ 92イ 78オ 134イ 141カ 138イ 118ウ u_b ; u_bw (12)</p> <p>no.138</p>	
	<p>u(66)</p>	<p>85ア 117イ 38ウ 13イ 15イ 3ウ 44ウ 94オ 18イ 19ウ 51ウ 89キ 35イ 21ウ 55ウ 88イ 25ウ 97ウ u_u (18)</p>	

表 2-6 注) 主Vの適応関係(表 2-5)を中央縦軸とし、左右に建築ヴォリュームの大小関係に応じた適応関係を表す。また、表中の番号および符号は該当する資料番号(付表、資料リスト)および主Vに関する平面輪郭の形状の種類(表 3)を表す。

3 節 敷地境界線と平面輪郭線の平行関係

前節で検討した適応関係は敷地に対する建築の平面輪郭の全体的な対応関係といえるが、本節では、敷地境界線と平面輪郭線による部分的な対応関係を検討する。

3-1 対をなす敷地境界線と平面輪郭線の平行関係

敷地境界線との距離から、近接し対をなす平面輪郭線を特定することができる（図2-2）。このように規定された平面輪郭線と敷地境界線の部分的な平行関係を、平行、近似、非平行の3つに整理した（表2-7）。このうち近似とは、平面輪郭線が雁行あるいは湾曲することで敷地境界線に沿うものである。また、併せて、敷地境界線と対をなす平面輪郭線に局所的なセットバックあるいは突出といった変形がみられる場合についても位置づけた（表2-8）。

例えば図3の分析例において、主Vは道路境界線と隣地境界線1の一部に平行な平面輪郭線を有し、他の隣地境界線に対しては非平行となることで、前面道路境界面に面して平行な構えが形成されている。これに対して従Vの平面輪郭線は、隣地境界線1と隣地境界線（奥）それぞれに対して平行となり、主Vの非平行な平面輪郭線の関係を打ち消すことで、主Vと従Vが合わさった平面輪郭としては道路境界および隣地境界線1、隣地境界線（奥）の3辺に平行関係が成立している。

このように、住宅作品の敷地境界線と平面輪郭線の関係においては、従Vを加えることによって主Vと敷地境界線との平行関係が調整されるあり方がみられることから、全資料について、主Vと従V双方の平面輪郭線と敷地境界線の平行関係を図2-3に示すモデル図を規範として図示し整理を行った（表2-9）。なお5辺以上の敷地境界については、敷地境界線を4つのまとまりに統合して捉えることで、建築の平面輪郭線との平行関係を図示し、比較検討を可能としている^{注7)}（図2-4）。ここでは、主Vと敷地境界線との関係を捉えることが、従Vの平面輪郭線の関わりを検討する上でも重要であると考え、主Vの平面輪郭線について、平面輪郭が住宅のアプローチや構えに関わる道路境界線との関係を縦軸に、それ以外の隣地境界線それぞれに

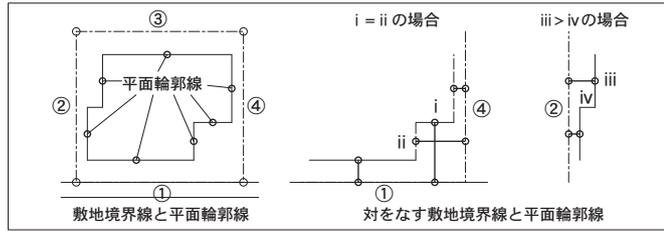


図 2-2 注) 敷地境界線と近接する平面輪郭線は、図のように $i = ii$ となる場合、 i は ①と、 ii は ④との対として取り出される。また $iii > iv$ となる場合、 iii は ②との対として取り出されるが、 iv は敷地境界線と対をなさない平面輪郭線として扱い、本章においては検討に含めない。

図 2-2 平面輪郭線の検討方法

表 2-7 敷地境界線と平面輪郭線の平行関係

平行	近似	非平行
====	~~~~

表 2-8 平面輪郭線の変形

セットバック		突出	
平行関係維持	平行関係変化	平行関係維持	平行関係変化
○	□	●	■

表 2-8 注) 1m 未満の微細な変形は検討の対象としない。

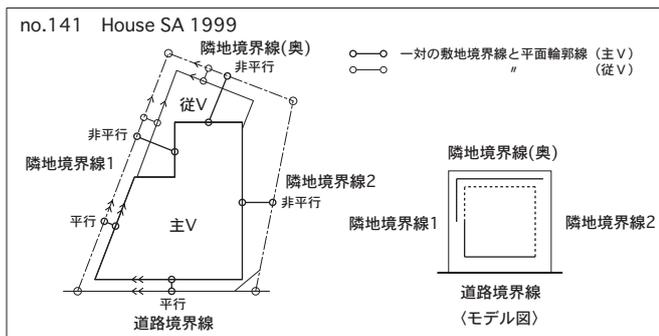


図 2-3 分析例 2

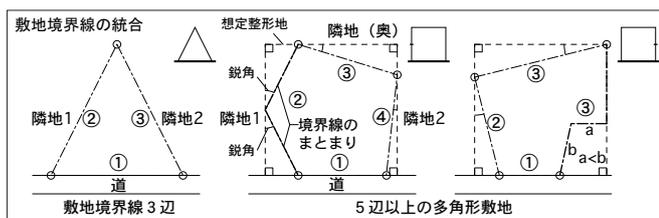


図 2-4 敷地境界線の検討方法

対する平行関係の組合せを横軸に表記している。これより、敷地境界線と主Vの平面輪郭線の平行関係の傾向（A～K）を得た（表2-9、表中のモデル図は従Vを加えることによる平行関係も図示している）。

3-2 敷地境界線と平面輪郭線の平行関係

まず、1辺の道路境界線を有する資料（108/141資料）のうち、道路境界線と平面輪郭線が平行または近似となるもの（49/108資料）の中では、隣地境界線2辺との関係が平行または近似となるB（道路・2隣地一致、18資料）が最も多くみられた。また、すべての隣地境界線に対して平行または近似となるA（一致、13資料）、すべて非平行となるF（道路一致・隣地不一致、12資料）においては、従Vを有する資料（従Vを有する資料は表2-9のマスの中で囲み表記している）の大半（5/7資料、3/4資料）が、従Vを加えても平行または近似（＝：表2-9凡例参照）となる傾向がみられ、これは、主Vの平行関係が従Vによって補強されるあり方といえる。一方、道路境界線と平面輪郭線が非平行となるもの（59/108資料）についても同様に、隣地境界線2辺との関係が平行となるE（道路不一致・2隣地一致、21資料）が最も多くみられた。

さらに、これらA～Hにおける平面輪郭線の変形（表2-8）に着目したところ、セットバックあるいは突出といった変形がみられた33資料（表中で○、□、●、■が付されたもの）のうち21資料が非平行な辺が2辺～4辺となる平面輪郭であるE、F、G、Hに分布した。このうちF（道路一致・隣地不一致）、G（道路不一致・1隣地一致）において分布の比率が特に高い傾向がみられ（7/12、6/16資料）、Fでは非平行となる隣地境界に面した変形（☆）が4資料、平行か非平行かに関わらず平面輪郭線の平行関係を維持した変形（○、●）のあるものが5資料であった。このことは、敷地境界に対して平面輪郭が平行となる関係が少ない住宅においては、敷地境界の形状とは独立した論理の中で平面輪郭の形成がなされる傾向があることを示すと考えられる。

次に、2辺の道路境界線を有する敷地（以下、角地：33/141資料）について、平

面輪郭線と平行または近似となる道路境界線の辺数に着目して検討を行った結果、2辺の道路境界線に平行または近似となるI（角地/2境界平行または近似、14資料）、および1辺の道路境界線に平行または近似となるJ（角地/1境界平行または近似、14資料）では、どちらにおいても隣地境界線との関係は全て平行または近似となるものに資料の集中がみられた（8/14資料、9/14資料）。このことは、角地という2辺の道路境界線を有する敷地環境においては、敷地境界線との平行関係が、平面輪郭の形成に關与する割合が高いことを示すものと考えられる。

表 2-9 平面輪郭線の變形

隣地境界と主Vの平行関係 道路境界と主Vの平行関係		全て平行または近似	2辺平行または近似 (敷地境界3辺の場合は全て平行または近似に含める)	1辺平行または近似	全て非平行
道路境界1辺	平行または近似 (49)	 A 一致 (13) B 道路・2隣地一致 (18)	 D 道路・1隣地一致 (6) E 道路不一致・2隣地一致 (21)	 F 道路一致・隣地不一致 (12) G 道路不一致・1隣地一致 (16)	 H 不一致 (6)
	非平行 (59)	 C 道路不一致・隣地一致 (16) D 道路不一致・2隣地一致 (21)	 E 道路不一致・1隣地一致 (16) F 不一致 (6)	 G 道路不一致・1隣地一致 (16) H 不一致 (6)	 I 2境界平行または近似 (14)
道路境界2辺(角地)	1境界平行または近似 (14)	 J 1境界平行または近似 (14) K 全て非平行 (5)	 L 道路不一致・1隣地一致 (16) M 不一致 (6)	 N 道路不一致・1隣地一致 (16) O 不一致 (6)	 P 2境界平行または近似 (14)
	全て非平行 (5)	 Q 道路一致・隣地不一致 (12) R 道路不一致・1隣地一致 (16)	 S 道路一致・隣地不一致 (12) T 道路不一致・1隣地一致 (16)	 U 不一致 (6)	 V 不一致 (6)

凡例 [みられた近似および變形] [従Vによる平行関係]

~: 主Vの近似
 ○: オフセット
 □: 欠き取り
 ☆: 非平行な平面輪郭線における變形

=: 主V (平行または近似)-従V (平行または近似)
 #: 主V (非平行)-従V (非平行)
 <: 主V (非平行)-従V (平行または近似)
 >: 主V (平行または近似)-従V (非平行)

* 道路境界線に面した近似に (*) を付す
 ●: 押出
 ■: 付加
 <*> 道路境界線に面した関係に (*) を付す

表 2-9 注) 表中の番号は資料番号 (付表, 資料リスト) を表す。また従Vを有する資料は、各マスの中で囲み表記している。

4 節 敷地境界と平面輪郭との関係図式

2 節で得られた敷地境界に対する平面輪郭の形状の適応関係（全体的関係）と、3 節で得られた敷地境界線と主 V の平面輪郭線との平行関係（部分的関係）との組合せを示したのが表 2-10 である。これより資料の偏りから不整形敷地に建つ住宅作品の平面輪郭と敷地境界との関係図式として 11 類型（I～XI）^{注8)}を導いた。さらに、類型内において特徴的なパターン（a～h）と数は少ないが特徴的な α 、 β のパターンを、主 V の平面輪郭の形状、主 V の変形及び近似操作、従 V による平行関係といった性格の重なりから位置づけた。

4-1 関係図式の類型

まず 1 辺の道路境界を有するもののうち、類型 I～IV は何れも敷地境界の形状に対して主 V の平面輪郭の形状が適応関係にあり、従 V を加えた場合でも適応関係が維持されるものである。このうち類型 I は、敷地境界線全辺に対して主 V の平面輪郭線が平行または近似であり、敷地境界に準拠した敷地適合型の関係図式である。なかでも従 V が主 V と共に敷地境界線と平行または近似となる（＝：表 2-10 凡例参照）I-a は、敷地に適合した主 V を従 V が強調・増幅して平面輪郭を構成するパターンといえる。

類型 II、III は、敷地境界線の 1 辺を除く各辺に対して平面輪郭線が平行または近似となるものであり、このうち類型 II は、道路境界線を含み平行関係を形成するものである。ここでは建築ヴォリュームが大小関係をもたないものが集中してみられることから、前面道路に平行した構えを形成しつつ、主 V の平面輪郭の変形により敷地に形状的に適応する前面道路一致・適応型の関係図式といえる。なかでも II-b は、主 V の平面輪郭の形状が矩形の組合せ（ウ）によるものであり、また近似（～）が多くみられたことから、矩形を基調とした平面輪郭の形状を適用することにより敷地に対する適応関係と平行関係を形成するパターンといえる。一方、類型 III は、道路境界線とは非平行であるが隣地境界線全辺に対して平行となる隣地境界一致・適応型の関係図式である。

表 2-10 敷地境界と平面輪郭との関係図式

主Vによる 平行関係	主, 従Vによる 適応関係	主Vでの適応関係あり		主従V適応関係なし	主Vでの適応関係なし		主従V適応関係あり
		主V, 主従V適応関係あり			主V, 主従V適応関係なし		
		大小関係なし	大小関係あり		大小関係なし	大小関係あり	
全平行	一致	73キ ~* 96ク ~ 116オ 137ク	70ウ ~* = 93ア = 106カ ○ = 126ク ● = 123ウ ~□ > 128カ ≠ I 敷地適応型		36カ □ 129キ ~*		78オ =
	道路・2隣地一致	31ウ ~*○ 80ウ ~ 82ウ ~* 83ウ ~* 24ク ○ 47オ 52オ 108カ	41カ =* 110カ ~* <= II 前面道路一致・適応型		6イ 11カ 114ク	38ウ ○● =* 51ウ =*	33カ << 65イ ≠ 118ク ~*□ ≠ α
	道路不一致・隣地一致	20ウ 60イ 77ウ 127オ	84キ ~ ≠* 101ク ≠ 105ク ≠ 113ウ ○● = 140オ = III 隣地境界一致・適応型	79イ ■ <=*	10ウ 66ウ ○ 67ウ ○ 69イ 75ウ 139イ		V 隣地境界一致・不適応型
3辺平行	道路・1隣地一致	56イ	68ウ ~○ 81ク ~ =*		5ウ	117イ ≠	141カ <<
	道路不一致・2隣地一致	9イ 12イ 34イ 45ウ 74イ 86エ 125ウ 112カ 109キ	57ウ ~ =* 103ク = IV 隣地境界基準・適応型	42イ ● =	2ウ 7イ 16ウ	15イ ●☆ ≠* 18イ ● = 21ウ ●☆ ≠* 44ウ ● =	111イ < 138イ ●●☆ ≠*
	道路一致・隣地不一致	17ウ 124ウ ○●☆ 133イ			14イ 30カ ○☆ 39ウ ○☆ 58キ ■ 121ウ	13エ ● =* 19ウ ●☆ =* 35イ ● =* 88イ ●☆ ≠	VII 単辺依存(前面道路)・不適応型
2辺平行	道路不一致・1隣地一致	46イ 64カ ○☆ 95ウ ~	β	22イ ●☆ ≠	1ウ 23ウ ● 43カ ○☆ 62ウ	85ア =* 89キ =* 97ウ =* 3ウ ●●☆ ≠* 8ウ ●☆ <= 25ウ <*<	92イ ≠* 136エ =* VIII 単辺依存(隣地境界)・不適応型
	不一致				27カ ○☆ 40イ ○☆ 90オ ○☆ 107イ ○☆ 132キ	94オ <*≠	IX 敷地不適応型
	角地/2道路平行	32キ ~*○ 72エ ~* 98ク ~* 120オ ~* 131ウ ~* 135ウ ~*	28ウ ~* =* 100ク ~* =* 119ウ ~* <≠* 130ア ~* =* 53キ ≠ X 角地道路一致・適応型		37オ	55ウ ~*● =* 122カ =*	
1辺平行	道路一致・隣地不一致	17ウ 124ウ ○●☆ 133イ			14イ 30カ ○☆ 39ウ ○☆ 58キ ■ 121ウ	13エ ● =* 19ウ ●☆ =* 35イ ● =* 88イ ●☆ ≠	VII 単辺依存(前面道路)・不適応型
	道路不一致・1隣地一致	46イ 64カ ○☆ 95ウ ~	β	22イ ●☆ ≠	1ウ 23ウ ● 43カ ○☆ 62ウ	85ア =* 89キ =* 97ウ =* 3ウ ●●☆ ≠* 8ウ ●☆ <= 25ウ <*<	92イ ≠* 136エ =* VIII 単辺依存(隣地境界)・不適応型
	角地/1道路平行	54ウ ~ 61カ ●☆ 71エ	48イ 59オ < 63ウ ~ XI 角地1道路基準・適応型	102イ <*< 115イ ○ =*	4ウ 29ウ 50ウ ○ 104ク ~*		91イ <*< 99ウ <*
平行無し					76ウ 26ウ		134イ <*
角地/道路平行無し							

凡例 [no. 資料番号] [主Vの平面輪郭形状] [みられた近似および変形] [従Vによる平行関係]

<主Vの平面輪郭形状>
 ア 単純幾何学形・非矩形 才 斜線+直交座標形
 イ " " 力 " "
 ウ 矩形的組合せ・1直交座標形 キ 直交座標によらない形状・曲線形
 エ " " 2直交座標形 ク " " その他

<みられた近似および変形>
 ~: 主Vの近似
 ○: オフセット ●: 押出
 □: 欠き取り ■: 付加
 ☆: 非平行な平面輪郭線における変形

<従Vによる平行関係>
 =: 主V(平行または近似)-従V(平行または近似)
 ≠: 主V(非平行)-従V(非平行)
 <: 主V(非平行)-従V(平行または近似)
 >: 主V(平行または近似)-従V(非平行)
 <*<: 道路境界線に面した関係に(*)を付す

類型IVは、隣地境界線2辺に対して平行または近似となる隣地境界基準・適応型の関係図式である。このうちIV-cは、主Vが矩形(イ)あるいは矩形の組合せ(ウ、エ)によるものであり、隣地境界線を基準に矩形を前提とした平面輪郭を敷地全体の形状に適応させつつ配置したパターンといえる。

類型V~IXは、何れも敷地境界の形状に対して主Vの平面輪郭の形状の適応関係がみられないものであり、従Vを加えた場合でも不適応となるものである。このうち類型Vは、道路境界線とは非平行であるが隣地境界線全辺に対して平行または近似となる隣地境界一致・不適応型の関係図式である。ここでは建築ヴォリュームが大小関係をもたないもの(V-d)のみに資料が集中し、平面輪郭の形状が矩形の組合せ(ウ)によるものが多く、不整形な敷地境界線から直角座標系を見だし矩形を基調とした平面輪郭をあてはめたパターンといえる。

類型VIは、隣地境界線2辺に対して平行または近似となるものであり、主Vが矩形(イ)あるいは矩形の組合せ(ウ)によるものが集中してみられることから、平行あるいは直角する2辺の隣地境界線に矩形を基調とした平面輪郭を対応させた隣地境界基準・不適応型の関係図式といえる。

類型VIIは、道路境界線に対してのみ平行または近似となり街への構えを形成する一方、隣地境界線に対しては非平行となるもので、単辺依存(前面道路)・不適応型の関係図式といえる。このうちVII-eは、平面輪郭の変形(●、■)がみられ、また従Vが主Vと共に道路境界線と平行または近似となることで(=*), 全体的には敷地形状と独立した平面輪郭ではあるが、道路境界線に対してのみ依存的な平行関係が従Vを加えることによって強調されるパターンといえる。

類型VIIIは、隣地境界線1辺に対してのみ平行または近似となる単辺依存(隣地境界)・不適応型の関係図式である。このうちVIII-fは、隣地境界線1辺に対してのみ依存的な主Vでの平行関係が、主Vと同様に隣地境界線1辺と平行または近似となる従Vを加えることによって強調されるパターンといえる(=)。

類型IXは、適応関係もなく、また敷地境界線の各辺に対しても主Vの平面輪郭線が平行関係をもたない敷地不適合型の関係図式である。このうちIX-gは、建築ヴォ

リユームが大小関係をもたず、主Vが敷地境界に依らず自律的な平面輪郭を形成するパターンといえる。

次に、角地における類型X、XIは、類型I～IVと同様に敷地境界の形状に対して従Vを加えた場合でも適応関係がみられるものである。このうち類型Xは、2辺の道路境界線に対して等価に主Vの平面輪郭線が平行または近似となる角地道路一致・適応型の関係図式である。なかでもX-hは、道路境界線に対する主Vの平行関係に加えて、従Vについても同じく道路境界線に対して平行または近似の関係が形成され(=*)、さらに道路境界線に面して主Vの平面輪郭の近似(~*)が多くみられることから、道路境界に面した2面のファサードを有する角地の敷地特性への対応が強調されたパターンといえる。

一方、類型XIは、道路境界のうち1辺に対して主Vが平行または近似となり、全体的には適応関係がみられながらも、角地の道路境界線2辺への対応関係にはヒエラルキーが形成される角地1道路基準・適応型の関係図式といえる。

以上、敷地境界に対する平面輪郭の全体的関係である適応関係と部分的関係の集積である平行関係の組合せから導かれた11の類型において、a～hのパターンを、各類型を特徴づける適応関係と平行関係を強調するものとして位置づけることができた。

4-2 類型とパタンの関係

ここで、資料の集中がみられなかったため類型としては抽出していないが、各類型における適応関係と平行関係の組合せを相対化し得る特徴的なパターンとして α および β を位置づけることを試みる^{注9)}(表2-10)。 α は、平行関係においては隣地境界1辺を除く敷地境界線各辺に対して主Vが平行または近似となるものである。一方、適応関係においては主Vでは適応関係がみられないが、従Vを加えることで適応関係がみられるようになるものであり、従Vが主Vの適応関係を補完することで、全体的には敷地境界との対応関係が強められる関係図式といえる。また、建築ヴォリユームが大小関係をもたない β は、敷地境界に対して適応関係を取りながらも、

平行関係では一致性が低く、隣地境界1辺のみに平行または近似となる関係図式である。

これら α および β も含めて、前項で得られた11類型、およびa～hのパタンの関係図式としての性格を布置したのが図2-5である。まず、類型I, II, III, Xは、敷地境界と平面輪郭が全体として適応関係を形成すると共に、敷地境界線との平行関係を3辺以上有することで、敷地境界との対応関係が強い関係図式といえる。一方、類型VII, VIII, IXは、適応関係が認められず、また平行関係も1辺以下と少ないことから、敷地境界との対応関係が希薄な自律的な関係図式を示している。これらはそれぞれ、敷地境界と平面輪郭に関する対応、非対応が同一となるものであり、全体的関係と部分的関係が一致した対極的なあり方といえる。このあり方の中で、パターンI-a, X-h, VII-e, VIII-fは、敷地境界線と平面輪郭線との平行関係が従Vを加えることによって強調されるものであり、それぞれが属する類型の性格を助長するものである。また、II-bとIX-gは、どちらも建築ヴォリュームの大小関係がなく、前者は矩形の組合せによる平面輪郭が敷地境界と適応関係をもち、かつ3辺以上の平行関係を有することで、後者は平面輪郭が敷地境界と無関係に配置されることで、それぞれ対極的に位置付けられる類型の性格を助長する特徴的なパターンといえる。一方これらとは対比的に、 β とV-dは、敷地境界と平面輪郭に関する対応、非対応が相反するものであり、全体的関係と部分的関係が一致しないあり方といえる。

以上は、主Vの適応関係が従Vを加えた場合においても変更なく、全体的関係と部分的関係が一致あるいは不一致といった明確な関係の中に位置づくあり方であるが、 α は、主Vの適応関係が従Vを加えることによって補完されることで、全体的には敷地境界との対応関係が強められるあり方である。

なお、上記において全体的関係と部分的関係の一致がみられた類型群の通時的な傾向を捉えると（付表、資料リスト）、1990年代の作品には類型I, II, III, Xが、1950～60年代の作品には類型VII, VIII, IXが偏在している。また1970～80年代の作品においては特に傾向を捉えることができなかった。このことは、近年、分筆による敷地の狭小化に伴って法定の建坪率に実質の建坪率が近い事例が増えていること

が一因となっていると考えられる^{注10)}が、同時に、近年の住宅作品における意匠表現が、建築本体の表現を超えて、敷地や都市環境といった外部の条件との融合的な対応関係の中に成立させようとする状況の反映を示すものと考えられることができる。

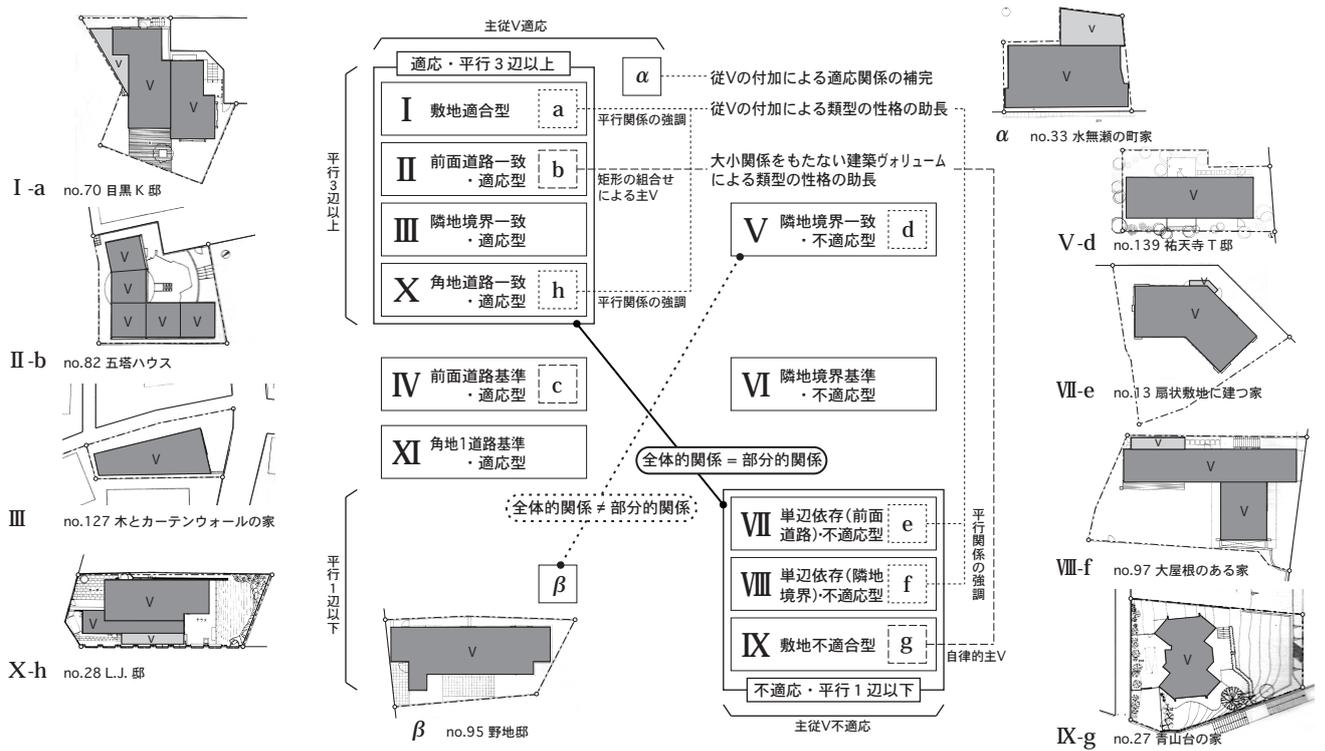


図 2-5 類型とパタンの関係図

5節 小結

以上、本章では現代日本の住宅作品の敷地境界と平面輪郭の対応関係を、敷地境界の形状に対する平面輪郭の適応関係、および敷地境界線と平面輪郭線の平行関係といった全体的関係と部分的関係から捉え、両者の傾向の組合せによる関係図式として11の類型を導き、その性格を検討した。

それらを整理すると、住宅作品の敷地境界と平面輪郭の関係は、全体的関係と部分的関係が一致した下記2つのあり方によって類型の大半が2分されることが明らかとなった。ひとつは適応関係と平行関係の敷地境界への対応が共に調和的な関係を取り結ぶもの（類型I, II, III, X）であり、もうひとつはそれらの関係が共に対立的な関係を取り結び、平面輪郭の自律性が際立つもの（類型VII, VIII, IX）であった。さらに通時的な検討により、このうち前者のあり方が現代的な傾向を表していることが明らかとなった。またそれらとは対比的なあり方として、全体的関係と部分的関係が一致しないあり方（ β , V-d）、従Vが主Vの適応関係を補完するあり方（ α ）も位置づけることができた。

このことは、現代日本の住宅作品においては、敷地境界と平面輪郭の全体的関係と部分的関係が連動した明確な関係図式のもとに、調和的あるいは自律的といった対応関係の性格が位置づいていることを示すものであると共に、1990年以降の近年においてはより調和的な関係を取り結ぶ傾向を示すものといえ、敷地環境の中での建築の意匠を考察するひとつの指標となり得るものと考えられる。

第2章 本文注

- 注1) 参考文献1において、神代は、「敷地のもつ法規的な条件や面積や包囲などは別に、その土地の表情といったものにどう対応してゆくかというところでは、建築家のそうした才能に多くがかかっている」と述べ、大陸からの伽藍配置の日本の風土への適応等、古来より行われてきた建築の敷地への調和的な手法や、フランク・ロイド・ライトの落水荘のように自然地形との対立的なあり方を例に、建築家の表現行為としての敷地と建築の対応関係について指摘している。
- 注2) 本章における平面輪郭とは、建築の上下階の外壁のうち最外郭の壁面線を指す。
- 注3) 本章で扱う不整形敷地は、正方形、長方形などの整形でない敷地形状のうち、前面道路境界1辺（角地の場合は2辺）を含む3辺又は4辺以上の敷地境界線による敷地とする。また本研究では、住宅のアプローチや構えに関わる道路境界線と平面輪郭の対応関係を重視し、不整形であっても、旗竿地のように接道幅が狭く敷地の主要な部分が道路に面さない敷地や、道路境界付近の構成が整形な敷地と同様となる道路境界線とそれに接する隣地境界線2辺が直角をなす敷地は、資料に含まない。
- 注4) 本章は住宅の平面輪郭を扱うものであるが、建築ヴォリュームについての立体的な検討を行うのは、全体形状が同じ平面輪郭であっても建築ヴォリュームの大小関係の有無により、敷地境界との対応関係において建築ヴォリュームの階層性を前提としたあり方を位置づけることができると考えるためである。これにより表2-6および表2-9において検討しているように、主Vの適応関係および平行関係が従Vが合わさった場合において変化するか否かといったあり方を見いだすことができると考えられる。
- 注5) 本章では、複数の建築ヴォリュームが大小関係を有する場合に主Vと従Vを区別すると共に、大小関係のない単体および並列のヴォリュームについては、従Vがなく主Vのみからなるものとして、その平面輪郭を主Vと呼んでいる。
- 注6) 本章では、敷地境界と平面輪郭が同一頂点数であり、かつ双方の頂点どうしを結ぶ直線と平面輪郭とがなす角度が、凸図形についてはすべて鈍角となり、凹図形については敷地境界の凸部の頂点から結ばれる直線に対しては鈍角、凹部の頂点から結ばれる直線に対しては鋭角となるものについて、形状の類似性があるものと位置づけている。
- 注7) 国税庁財産評価基本通達において、想定整形地は不整形敷地の地積の評価法として、「不整形地の全域を囲む、正面路線に面するく形又は正方形の土地」と定義されている。本研究では、5辺以上の敷地境界線からなる不整形な敷地について、道路境界線を基準に想定整形地を描き、その各辺に対して鋭角となり近接する境界線のまとまりを捉えている。
- 注8) 表2-10において、敷地境界に対する平面輪郭の形状の適応関係の有無と、敷地境界線と主Vの平面輪郭線との平行関係の傾向の組合せから、平面輪郭と敷地境界との関係図式を検討した結果、該当する資料数と関係図式数の関係は以下の通りであった。

資料数	[類型化の範囲]										
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
関係図式数	6	7	5	1	1	3	1	0	2	3	2

これより、関係図式数が1であった4資料および5資料の図式と、関係図式数が3であった6資料の図式との間に資料分布の偏りが認められることから、6以上の集中がみられたものを類型とした。その結果、類型I～XIには、全141資料中95資料が含まれた。

- 注9) パタン α および β は、該当する資料数が少ないために類型化していないものの、類型化されたものと比較する

ことよって、敷地境界と平面輪郭の対応関係の粹組みを構造的に捉えることができる関係図式であり、特に取り上げるものである。

注 10) 建坪率の区分における類型毎の資料数の分布は以下の通りであった。類型 I、II、III、X においては建坪率 50～60% の資料が多く、類型 VII、VIII、IX においては 30～40% の資料が多く分布する傾向がみられた。また何れも他の各区分において一定数の資料の分布がみられた。

		[調和的]				[自律的]						
建坪率	類型	I	II	III	X	IV	V	VI	XI	VII	VIII	IX
30~40%		1	3	2	0	5	3	5	1	6	6	5
40~50%		3	3	1	4	4	1	1	4	3	3	0
50~60%		6	4	6	7	2	2	1	1	0	1	1

表中の数字は資料数を表す。

第 2 章 参考文献

- 1) 神代雄一郎：土地と建築家の応答 敷地論その 1 新建築第 32 巻第 3 号、pp50-54、新建築社、1957.3

第2章付表 資料リスト

No.	年月	作品名	敷地	類型	No.	年月	作品名	敷地	類型
1	sk5711	丘の上の住宅	お(*)	Ⅷ △	72	sk8204	河内長野の家	か*	X ▲
2	sk5804	大森邸	え	Ⅵ —	73	sk8302	衾の住宅	あ	I ▲
3	sk5808	Fさんの家	か	Ⅷ △	74	sk8302	北嶺の家	か(*)	Ⅳ-c —
4	sk5808	実験住宅	え*		75	sk8308	大北邸	い	V-d —
5	sk5809	千駄ヶ谷の家	う		76	sk8408	木郷邸	か*	
6	sk5811	SH19	う		77	jt85夏	祖師谷の切妻	か	Ⅲ ▲
7	sk5901	菊竹自邸	か	Ⅵ —	78	jt86冬	大師の町家	え	
8	sk5902	畑田邸	か	Ⅷ-f △	79	jt86冬	おハインウス(戸口勉邸)	え	
9	sk5904	長谷川さんの住宅	え	Ⅳ-c —	80	jt8605	光十字の家	お	Ⅱ-b ▲
10	sk5910	U氏邸	え	V-d —	81	jt8606	参宮橋の住宅	え	
11	sk5911	Sさんの家	う		82	jt8609	五塔ハウス(後藤邸)	か	Ⅱ-b ▲
12	sk6003	青木邸	え	Ⅳ-c —	83	jt8703	中ノ郷の家	え	Ⅱ-b ▲
13	sk6009	扇形敷地に建つ家	い	Ⅶ-e △	84	jt8703	段状のコートハウス	か	Ⅲ ▲
14	sk6101	まちなかに建つ小住宅	お	Ⅶ △	85	jt8705	豪徳寺の切妻	う	Ⅷ-f △
15	sk6105	N氏邸	え(*)	Ⅵ —	86	jt8707	岩田邸	え	Ⅳ-c —
16	sk6110	村田邸	え(*)	Ⅵ —	87	jt8709	大磯・保田さんの家	か*	
17	sk6310	野村邸	か		88	jt8709	みくまりの家	か	Ⅶ △
18	sk6401	堀の家	え	Ⅵ —	89	jt8709	NOVELETTE	か(*)	Ⅷ-f △
19	sk6501	沢田画伯の家	え	Ⅶ-e △	90	jt8801	三界の家	う	Ⅸ-g △
20	sk6506	N氏邸	え	Ⅲ ▲	91	jt8803	優しい壁	か*	
21	sk6510	村井さんの家	え	Ⅵ —	92	jt8808	鎌倉山のアトリエ	か(*)	
22	sk6605	丘金山の家	え		93	jt8809	祐天寺の家	あ	I-a ▲
23	sk6701	旭丘の家	え(*)	Ⅷ △	94	jt8810	ハキ・コンプレックス	お	Ⅸ △
24	sk6701	海浜の家	お	Ⅱ ▲	95	jt8901	野地邸	お	β
25	sk6701	連階段の家	お	Ⅷ-f △	96	jt8903	たきて	い(*)	I ▲
26	sk6707	大きい屋根の家	え*		97	jt8904	大屋根のある家	か	Ⅷ-f △
27	sk6801	青山台の家	か(*)	Ⅸ-g △	98	jt8910	浜田山の住宅	か*	X ▲
28	sk6804	L. J. 邸	か*	X-h ▲	99	jt8911	千葉の住宅	え*	
29	sk7002	箕面の家	え*		100	jt8912	HOUSE-F	う*	X-h ▲
30	sk7002	目白の家	え	Ⅶ △	101	jt9002	本庄町の家	か	Ⅲ ▲
31	sk7101	新山邸	お	Ⅱ-b ▲	102	jt9105	茨木の住宅	え*	
32	sk7104	清水の家	か*	X ▲	103	jt9111	末広がりの家2	う(*)	Ⅳ —
33	sk7104	水無瀬の町家	お	α	104	jt9301	笹井邸	お*	
34	sk7110	ブルーボックスハウス	え	Ⅳ-c —	105	jt9301	K2 HOUSE	お	Ⅲ ▲
35	sk7110	登戸の家	え	Ⅶ-e △	106	jt9302	玉串川の家	か	I-a ▲
36	sk7112	日吉の家	お		107	jt9302	鎌倉の家	か	Ⅸ-g △
37	sk7202	粟辻邸	え*		108	jt9304	アルミの畳屋	お	Ⅱ ▲
38	sk7208	南馬込の家	う		109	jt9304	岡本邸	え	Ⅳ —
39	sk7208	白い中庭の家	か	Ⅶ △	110	jt9403	住吉山手の家	え	Ⅱ ▲
40	sk7402	キャンティレ-ルーフの家	お	Ⅸ-g △	111	jt9404	境界線上の家	か	
41	sk7408	山崎邸	お	Ⅱ ▲	112	jt9404	四つ木の家	え	Ⅳ —
42	sk7408	鶴沼の家	え		113	jt9405	相模原の家	お(*)	Ⅲ ▲
43	sk7408	世・北沢の家	か	Ⅷ △	114	jt9405	Barn-3	お	
44	sk7502	住宅 RM-NI	え	Ⅵ —	115	jt9405	阿佐谷の家	え*	
45	sk7502	サロンのある家	か	Ⅳ-c —	116	jt9406	石神井公園の住宅	う	I ▲
46	sk7508	黒の回帰	う	β	117	jt9406	STAHL	お	
47	sk7508	ル コフレ ルージュ	か(*)	Ⅱ ▲	118	jt9409	西荻の住宅	え	α
48	sk7508	自邸=スキナヤ	え*	XI —	119	jt9409	龍雲院	え*	X-h ▲
49	sk7602	I邸	え*		120	jt9504	F邸	か*	X ▲
50	sk7602	H邸	お*		121	jt9505	朱雀の家	え(*)	Ⅶ △
51	sk7602	吉祥寺S氏邸	お		122	jt9507	I-House	か*	
52	sk7609	船橋ボックス	え	Ⅱ ▲	123	jt9508	中目黒の家	う	I ▲
53	sk7609	ROU	か*	X ▲	124	jt9509	梅林の家	か	
54	sk7609	赤い家	え*	XI —	125	jt9601	鎌倉の住宅	か(*)	Ⅳ-c —
55	sk7703	ムラセハウス	え*		126	jt9608	S	え	I-a ▲
56	sk7706	上和田の家	え		127	jt9610	木とカテナールの家	え(*)	Ⅲ ▲
57	sk7708	成城の白い家	か	Ⅳ —	128	jt9701	Barn-4	か(*)	I ▲
58	sk7708	駒杵邸	か	Ⅶ △	129	jt9704	立川のハウス	い	
59	sk7802	GOH 7603	お*	XI —	130	jt9704	△ハウス	い*	X-h ▲
60	sk7802	光後邸	か	Ⅲ ▲	131	jt9706	赤穂の住宅	お*	X-h ▲
61	sk7808	窪田邸	か*	XI —	132	jt9804	萬月居	う	Ⅸ-g △
62	sk7808	踊場の家	か	Ⅶ △	133	jt9804	中郷の家	え(*)	
63	sk7808	真喜志邸	か*	XI —	134	jt9901	下総中山の家	か*	
64	sk7902	王禅寺の家	か(*)	β	135	jt9904	奥沢の家	え*	X-h ▲
65	sk7908	濱吉さんの家	う(*)	α	136	jt9904	Na	い	
66	sk7908	封印された家	え	V-d —	137	jt9905	HO-HOUSE	え	I ▲
67	sk7910	上田の住宅	か	V-d —	138	jt9906	T house	か	
68	sk8008	続・正面のない家	か		139	jt9906	祐天寺T邸	か	V-d —
69	sk8008	小金井の家	え	V-d —	140	jt9907	茗荷屋	い	Ⅲ ▲
70	sk8102	目黒K邸	か	I-a ▲	141	jt9908	House SA 1999	え(*)	
71	sk8104	久世寿	か*	XI —					

第2章付表注) 敷地の符号は表1と対応している。このうち、複数の道路境界を有する資料には[*]を、また複数の道路境界線を有するが、幅員が大きく異なるものや敷地との高低差があることなどにより、本研究において1辺の道路境界を有するものとして扱う資料には[(*)]を付している。

類型番号に付した記号は以下に対応している。また、各年代毎のタイプの分布を下記に示す。

[▲] 類型Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, X
 [△] 類型Ⅶ, Ⅷ, Ⅸ
 [—] 類型Ⅳ, V, Ⅵ, XI

・1950～60年代 ▲: 3資料, △: 9資料, —: 9資料
 ・1970～80年代 ▲: 19資料, △: 13資料, —: 16資料
 ・1990年代 ▲: 18資料, △: 3資料, —: 5資料

- 第3章 住宅作品における立面の接地性
 - 1節 本章の目的と概要
 - 1-1 本章の目的
 - 1-2 本章の概要
 - 2節 立面の形状
 - 2-1 プロポーションと幅の変化による立面の形状（第一輪郭）
 - 2-2 第一輪郭に接する開口による立面の形状（第二輪郭）
 - 2-3 第一輪郭と第二輪郭の形状の関係（輪郭パターン）
 - 3節 立面下部と前面外構の連続関係
 - 3-1 連続関係を形成する要素
 - 3-2 立面下部と前面外構の連続モデル
 - 4節 輪郭パターンと連続モデルの関係による立面の接地性
 - 4-1 関係図式の類型
 - 4-2 類型間関係
 - 5節 小結

1 節

1-1 本章の目的

建築の意匠においては、建物それ自体としての空間や形態の構成による側面が重要であることを前提として、建築を取り巻く様々な環境要素との対応関係が、現代の複雑な都市的状況との関係において成立する建築の構想という観点において、そうした構成を特徴づける上で重要な役割を担ってきたといえる。なかでも、建築の立面の意匠においては、建物が地盤に固定されざるをえないという前提条件から、地面という環境要素との接続関係を伴った形態表現が成立していると考えられる^{注1)}。たとえば日本の京都の町家では、犬矢来が街路と敷地との間の境界を明確化させると同時に、外壁の足下廻りと街路とを緩やかに繋ぎ形態的に安定した立面を構成する要素となっている。またル・コルビュジエのサヴォア邸では、建築ヴォリュームがピロティで支えられることで地面と対峙した自律的な立面が形成されている。このように、立面と地面との接続関係が意匠上重要な意味を形成している事例を数多くみることができる。

またこうした事例に加えて、敷地の狭小化が進行した近年の日本の戸建住宅地においては、前面道路に面する立面に、アプローチに関わる車庫やエントランス、主要な採光面としての開口部などの住宅の機能上要求される諸要素が集約されることから、そうした要素の配置も含めた地面との接続関係が表現されている事例が増えてきている。具体的には、立面の下部がビルトイン形式の車庫や玄関アプローチなどによって大きく穿たれ、壁面の接地長さが短い不安定な形状の立面、大きな開口部によって立面の外形輪郭が欠き取られた形状となる立面、外構の舗装と類似した仕上げにより地面との連続感が視覚的に表現された立面など、立面の輪郭の形状と建築的な要素による複合的な立面のあり方がみられるようになっている^{注2)}。このことは、建築と地面の接続関係が、立面を地面に対してどのように置くかという形態的な操作に加えて、外構や前面道路との間に形成される連続関係において特徴づけられることを示すものであり、現代の都市的な環境における建築の意匠を成立させ

る重要なテーマのひとつとなっていると考えられる。

そこで本章では、現代日本の住宅作品における前面道路に面した立面に着目し、立面輪郭の形状と、立面と地面の連続関係を検討することから、建築と地面との連続関係に関わる性格（以下、接地性）の一端を明らかにすることを目的とする。

1-2 本章の概要

都市部の、前面道路に面した住宅の立面の設計に際しては、外形のプロポーションや形状の調整といった面それ自体の形式的な操作と同時に、内部空間を背後にかかえる壁面であることから通風、採光のための窓が設置され、外部空間との関係をとるもつ必要性からアプローチのためのエントランスや車の導入口といった開口部が設置され、それらによる複合的な操作が関与していると考えられる。それらの操作により、重心が低く安定した形状や、それとは対比的に浮遊感を感じさせる形状といった、地面に対する立面の形状的な特徴が表現されるといえる。また、立面と地面とを如何に繋げるかに関しては、地面と直に接する立面下部の基礎の形態、および立面下部とその前面の外構部分との素材や色などの類似性、さらに開口部やエントランス等を介した前面道路との動線や視線の関係といった、立面が接する建築以外の部分との連続関係に関する操作が同様に検討項目となると考えられる。

たとえば、分析例（図 3-1）の住宅では、前面道路に対する間口の狭い敷地において、高さに対して接地幅の狭い縦長の立面が配されている。さらに、上方に向かって幅が狭くなる建物自体の輪郭形状に対して、側部の輪郭に沿って車庫の開口が穿たれることによって輪郭下部が欠き取られた形状となっている。このように、立面の幅と高さの関係、建物自体の輪郭形状、開口によって欠き取られた輪郭形状という 3 水準の重ね合わせによって、地面に対する立面の形状の安定感あるいは不安定感が表現されていると考えられる。また、外構および前面道路との連続関係については、基礎により立面と地面との分節が表されている一方で、外構と基礎および立面の素材に類似性が認められる。さらに、ビルトイン形式の車庫により前面道路との動線的な連続関係が表現されているといえる。このように、立面の形状と、立面前面の

外構（以下、前面外構）および前面道路との連続関係によって、安定あるいは不安定、連続関係の有無といった、立面と地面との接続関係に関わる性格（接地性）を位置づけることができると考えられる。

本章では、前面道路に面して立面が露出し残る3方を隣家に囲まれた現代日本の住宅作品を対象に、上記の立面の形状と、前面外構および前面道路との連続関係といった2水準から検討する。まず、2節では立面の形状について、幅と高さの関係（以下、プロポーション）と建物自体の輪郭形状（以下、第一輪郭）、および窓などの開口の配置によって欠き取られることで形成される輪郭形状（以下、第二輪郭）について位置づける。続く3節では立面の下部と前面外構の連続関係について、基礎形態および素材の類似性、開口部やエントランス等の動線・視線要素の有無から検討する。さらに4節では、2節および3節それぞれで得られた結果を相互に比較検討することから立面と地面の接続関係の図式を位置づけ、5節で結論を述べる。

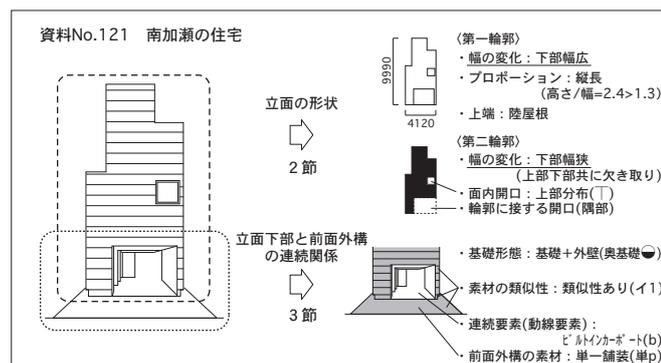


図 3-1 分析例 1

2 節 立面の形状

立面の形状は、一義的には建物自体の輪郭形状（第一輪郭）によって性格づけられるといえるが、同時に、輪郭に沿って開口が配されることにより、外壁面が穿たれると同時に欠き取られた残部として現象する立面の形状（第二輪郭）が特徴となる例がみられる。そこで本節では、まず、地面に対する立面の形状の安定性を捉える上で、立面の幅と高さの関係（プロポーション）、および接地部の幅に対する高さ方向の幅の変化に着目し第一輪郭を位置づける。次に、第一輪郭に接した開口の配置から第二輪郭を位置づけ、さらに第一輪郭と第二輪郭の関係を検討することにより立面の形状の性格を検討する^{注3)}。

2-1 プロポーションと幅の変化による立面の形状（第一輪郭）

第一輪郭の形状について、全体のプロポーションと高さ方向の幅の変化から検討を行う。まずプロポーションについて、全142資料に対して、道路側立面の幅と高さの比（高さ／間口）を求め、その分布の隔たりがみられる値（0.7および1.3）を境に、横長（< 0.7）、標準（0.7～1.3）、縦長（> 1.3）と分類したところ、標準が66資料と最も多くみられた（表3-1）。次に、接地部の幅に対する高さ方向の幅の変化について、下部幅広、等幅、下部幅狭の3つに分類し^{注4)}、プロポーションとの対応関係、および立面の上端の形状について併せて整理し検討を行った（表3-2）。その結果、幅の変化に着目すると、等幅が最も多くみられ（82/142資料）、一方で接地部の幅に対して上部の幅が広い下部幅狭については該当資料数は少なかった（16/142資料）。

2-2 第一輪郭に接する開口による立面の形状（第二輪郭）

ここで取り扱う立面の開口の種類としては、ビルトイン形式の車庫やバルコニーによるヴォリュームの欠き取りと、外壁面に穿たれる窓によって捉えることができる。それらが第一輪郭の隅部や一辺の全長に接して配されることで第一輪郭と異なる

表 3-1 立面のプロポーション

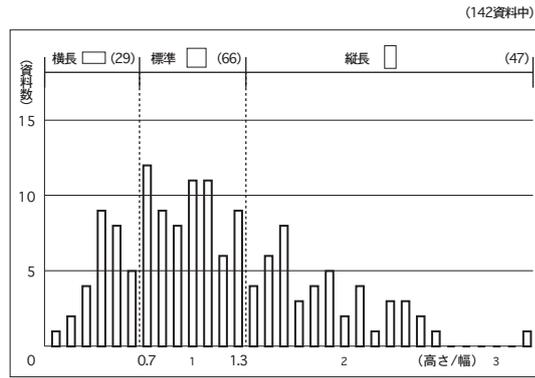


表 3-1 注) 道路側立面の高さ/幅を求め、小数点以下第 2 位を四捨五入、小数点以下第 1 位の数値を用いた。また、立面上端が勾配を有するとき、妻入の場合は立面上端を、平入の場合は軒高をプロポーション算出における高さとする。幅は軒の出を除いた最長部分の長さとする。

表 3-2 プロポーションと幅の変化による第一輪郭の形状

(142資料中)

幅の変化	下部幅広 (44)	等幅 (82)	下部幅狭 (16)	
プロポーション				
横長 (29)	(6) $_3, \wedge 2, \sim 1$	(20) $_$	(1) $_$	(2) $_1, \wedge 1$
標準 (66)	(22) $_10, \wedge 11, \sim 1$	(36) $_$	(4) $_$	(4) $_$
縦長 (47)	(16) $_3, \wedge 12, \sim 1$	(26) $_$	(2) $_$	(3) $_1, \wedge 2$

陸屋根 $_$

勾配屋根 \wedge

表 3-2 注) 下部幅狭については、下部のみ欠き取り、および上部下部共に欠き取りのものについても併せて検討している。また、立面上端の形状については、表中の符号は陸屋根 ($_$)、勾配屋根 (\wedge)、ポールド (\sim) を表す。凡例を以下に示す。

表 3-3 開口の種類

		ヴォリュームの欠き取り	窓
輪郭に接する開口	隅部	 上 1 下 15 上+下 0 (16)	 上 5 下 39 上+下 4 (48)
	辺全長	 上 10 下 1 側 4 上+下 0 上+側 0 下+側 1 (16)	 上 3 下 2 側 6 上+下 1 上+側 0 下+側 2 (14)
面内の開口		 上部分布 26 下部分布 19 全体分布 * 44 部分分布 x 18 (107)	

表 3-3 注) 表内の数字は見られた資料数を表す。また、面内の開口の分布について、第一輪郭が等幅のものは中心を、下部幅広および下部幅狭のものは幅が変化する位置を基準に立面を 4 象限に分割し、4 象限全てに面内開口が位置する場合を全体分布、上方 2 象限を上部分布、下方 2 象限を下部分布、それ以外を部分分布としている。

る立面形状が形成されると考える。そこで、これらの開口の種類について、ヴォリュームの欠き取りによるものか窓かといった種別、および第一輪郭に接する位置から分類を行い、さらに立面の面内に配される輪郭に接しない開口の分布から検討したところ（表 3-3）、まず輪郭に接する開口について、最も多くみられた第一輪郭の隅部に配される窓(48資料)のなかでは立面下部に配されるものが大半であった(39資料)。また、輪郭の一辺の全長に沿って配されるもの(辺全長)は、ヴォリュームの欠き取り、窓ともに同程度みられ(16資料、14資料)、そのうちヴォリュームの欠き取りでは上部(10資料)、窓では側部(6資料)に位置するものが多くみられた。一方、面内に配された開口の分布は、立面全体に分布するものが最も多くみられた(44資料)。

2-3 第一輪郭と第二輪郭の形状の関係(輪郭パターン)

ここで得られた輪郭に接する開口の配置により、接地部の幅に対する高さ方向の幅の変化として第二輪郭の形状を位置づけ、第一輪郭との関係、および立面上端の形状と面内の開口の分布を併せて示したのが表 3-4 である。これより、第一輪郭と第二輪郭の形状の関係のパターン(以下、輪郭パターン) A~I を得た^{注5)}。

まず、第一輪郭が下部幅広で安定形のもの(44/142資料)では、第二輪郭も同様に下部幅広となり安定形が保持される A(16資料)と、第二輪郭は下部幅狭となり不安定形へと変形する C(19資料)が同程度みられた。このうち前者では、プロポーションが標準のものに資料の集中がみられ(A2:8資料)、ここに該当する全資料において輪郭に接する開口がみられず(表中で資料番号に__が付されたもの)第一輪郭と第二輪郭が同一形状となることから、第一輪郭において立面の形状の安定性が決定づけられるあり方といえる。一方後者では、下部幅広で標準プロポーションの第一輪郭の安定形が第二輪郭によって打ち消され不安定形となるもの(C2:9資料)、および縦長のプロポーションと第二輪郭により不安定性が形成されるもの(C3:8資料)に資料の集中がみられた。

次に、第一輪郭が等幅で矩形の立面形状のもの(82/142資料)では、第二輪郭も等幅となり第一輪郭の形状が保持される E(44資料)が、不安定形へと変形する F(35資料)に対して比較的多くみられた。このうち前者では、プロポーションに関わら

ず面内の開口が全体的に分布する傾向がみられ（*：19/44 資料）、これらは、矩形の立面形状の幾何学的な特徴が均質に配された開口表現が伴うことで強調されるあり方といえる。一方後者では、標準（F2）および縦長（F3）のプロポーションのものがそれぞれ 13 資料と 14 資料みられ、どちらも立面上部に開口が集中する傾向がみられることから（┘：5/13 資料、6/14 資料）、これらは下部幅狭の第二輪郭の重心位置が開口の分布により調整されるものといえる。

さらに、第一輪郭が下部幅狭で不安定形のもの（16/142 資料）では、第二輪郭も同様に下部幅狭となり不安定形が保持される I に全資料が集中し、安定形への変形（G、H）は資料の該当がみられなかった。また、I においては、輪郭に接する開口があるもの（資料番号に_が付されないもの）が半数みられ（8/16 資料）、これらは第一輪郭の不安定形が第二輪郭により強調されるものといえる。

表 3-4 第一輪郭と第二輪郭の形状の関係（輪郭パターン）

(142資料中)

第二輪郭		下部幅広 (19)	等幅 (53)	下部幅狭 (70)	
第一輪郭				下部のみ欠き取り	上下部共に欠き取り
下部幅広 □ □ □ (44)	横長	6 × 40 * 57 ┘ A(16) A1 (3)	20△ × B (9) B1 (1)	55 下部のみ欠き取り	22△ × C(19) C1 (2)
	標準	12△┘ 10△┘ 50△┘ 29△* 17△ × 26△ 58△ × 82 A2 (8)	22△* 127 × 54 67 89 B2 (5)	29 52 * 27 132 * 138 44△* 91 72△* 114△	C2 (9)
	縦長	50△* 125△ 119△* 84△┘ 117 A3 (5)	34△* 116△ 139△ B3 (3)	45 51 18△* 65△ × 121 122△ 133△ 142△	C3 (8)
等幅 □ □ □ (82)	横長	1 * D (3) D1 (1)	30 * 2 ┘ 63 × 33 * 21 ┘ 90 × 36 * 81 ┘ 111 56 * E(44) E1 (11)	4 * 38 70 * 66 3 × 69 F (35) F1 (8)	
	標準	141 ┘ D2 (1)	16 * 71 * 48 × 46 19 * 101 * 15 × 140 31 * 109 * 129 × 7 42 * 136 * 130 × 35 43 * 10 77 E2 (22)	88 ┘ 9 11 × 105 ┘ 25 73 × 110 ┘ 64 62 * 115 ┘ 53 85 ┘ 135 F2 (13)	
	縦長	74 * D3 (1)	68 * 137 * 99 × 92 * 14 ┘ 104 112 * 47 124 * 95 128 * E3 (11)	79 ┘ 87 97 * 37 83 ┘ 100 131 × 49 86 ┘ 103 120 * 106 ┘ 126 ┘ 123 F3 (14)	
下部幅狭 □ □ □ (16)	横長	G (0)	H (0)	13 28 32 I (16) I1 (3)	
	標準	凡例 【立面上端の形状】 【面内の開口分布】 △ 勾配屋根（切妻） ┘ 上部分布 " " (曲面) ┘ 下部分布 * 全体分布 × 部分分散		32 * 8 52 * 24 * 86 * 98 41 ┘ 108 I2 (8)	
	縦長			80 * 94△ 118△ 78 93 I3 (5)	

表 3-4 注) 表中の番号は資料番号（付表：資料リスト）を表し、資料番号に付した下線は輪郭に接する変形および窓が無く第一輪郭と第二輪郭の形状が同一である資料を示す。また、() 内の数字は該当する資料数を表す。

3 節 立面下部と前面外構の連続関係

前節で検討した立面の輪郭形状は、立面の形状的な安定性を位置づける水準といえるが、本節では、立面と地面の物的な連続関係を形態および素材の側面と、動線および視線的な側面から検討する。

3-1 連続関係を形成する要素

立面と地面の形態および素材の連続関係を形成する要素として、立面の下部と前面外構（立面と前面道路との間の外構）との関係に着目し、接地に関わる基礎の形態、および視覚的な連続に関わる素材から検討を行った。まず、基礎の形態について、基礎と外壁が明確に分節されているか（基礎+外壁）、あるいは外壁と一体的か（基礎=外壁）に分類した（表 3-5）。分節されているものに関しては、基礎が外壁面から後退している特徴的な形態^{注6)}を奥基礎、その他のものについては基礎の高さにより^{注7)}高基礎および標準基礎とし、外壁と一体的なものについては、立面全体の外壁と一体のもの（一体）、および一層程度の部分まで基礎と外壁が一体的に立ち上がりその上部に外壁の分節がみられるもの（一体+外壁）とに分類した。次に、素材について、前面外構の素材、および立面下部と前面外構の素材の類似性から捉えた。前面外構の素材については、その配列的な特徴を、単一、前面道路に対して並列、縦列ないしその他の配列のパタン、前面外構なしに分類し、素材の組合せについても検討を行ったところ（表 3-6）、前面外構が単一の素材（78/142 資料）からなり、コンクリートやアスファルト等で舗装されているものが最も多くみられた（62 資料）。また、立面下部と前面外構の素材の類似性については、基礎の形態（表 3-5）を前提として、両者の素材を比較検討することから類似性の有無を捉え^{注8)}、4つに大別した（表 3-7）。その結果、基礎と外壁の分節があるもの（基礎+外壁：48 資料）の中では類似性のないものが多く（28/48 資料）、そのほとんどが前面外構、基礎、外壁面の全てに類似性がみられないものであった（□2：26/28 資料）。また、基礎と外壁が一体的なもの（基礎=外壁：86 資料）においても類似性のないものが多くみら

れた (55/86 資料)。

さらに、前面外構や前面道路といった立面が対面する環境との間では、立面に配置されるエントランスやアプローチ階段、大きな開口等が、動線や視線の相互的な連続関係の形成に介在し、立面と地面との接続関係の特徴づけていると考えられる。そこで、そのような連続関係の形成に関わる建築的な要素（以下、連続要素）について、動線的な連続に関わる要素（以下、動線要素）と視線の連続に関わる要素（以下、視線要素）に分類し集計を行ったところ（表 3-8）、最も多くみられたエントランス（98/142 資料）をはじめ、多くの資料において動線要素がみられた。

表 3-5 基礎形態

(142資料中)

基礎+外壁 (51)			基礎=外壁 (91)	
奥基礎	高基礎	標準基礎	一体	一体+外壁
				
● (9)[0]	● (9)[0]	○ (33)[3]	◎ (84)[6]	◎ (7)[0]

表 3-5 注) () 内の数字は該当する資料数、[] 内の数字は該当資料のうち基礎状の基礎をもつ資料数を表す。

表 3-6 前面外構における素材の配列的特徴

(142資料中)

素材の配列	単一	並列	縦列/他	前面外構なし
				
素材の組合せ	(78)	(42)	(14)	(8)
土・植栽・飛石等 c	16	0	1	
舗装 p	62	15	6	
土+舗装 cp		27	7	

表 3-6 注) () 内の数字は該当する資料数を表す。

表 3-7 立面下部と前面外構の素材の類似性

(142資料中)

	素材の類似性あり (51)		素材の類似性なし (83)		
	基礎+外壁	基礎のみ	基礎+外壁 (基礎=外壁)	基礎+外壁 (基礎≠外壁)	基礎のみ
基礎+外壁 (48)					
	イ1 (3)	イ2 (17) (20)	ロ1 (2)	ロ2 (26)	ロ3 (0) (28)
基礎=外壁 (86)					
	ハ (31)		ニ (55)		

表 3-7 注) () 内の数字は該当する資料数を表す。この他に前面外構が無いものが 8 資料存在する。また、前面外構の素材が複数ある場合は、立面下部と接している長さが最長となる素材をもとに立面下部との類似性を判断している。

表 3-8 連続要素

動線要素			視線要素	
階段	エントランス	ビルトインポード	大開口	壁面透過性
				
s (19)	e (98)[20]	b (62)	o (26)	t (12)

表 3-8 注) () 内の数字は各々の要素が見られた資料数を表す。エントランスについて、扉が表出せずポーチを有する資料数を [] に示している。また、大開口は前面道路に面する階レベルのものについて扱っている。

3-2 立面下部と前面外構の連続モデル

基礎形態（表 3-5）および前面外構における素材の配列的特徴（表 3-6）、立面下部と前面外構の素材の類似性（表 3-7）、連続要素（表 3-8）の組合せを整理したのが表 9 である。これより、立面と地面の接続関係の性格（接地性）を検討する上で重要な指標として、基礎形態と素材の類似性および連続要素の傾向の組合せから、①～⑥の立面下部と前面外構の連続モデルを得た^{注9)}（表 3-9）。

まず、基礎と外壁の分節が明確なもの（基礎+外壁）のうち、①は前面外構と基礎のみに素材の類似性がみられ（イ2）、連続要素として動線要素（s,e,b）が配される傾向がみられる連続モデルである（基礎類似/連続要素有）。ここには、前面外構が単一素材で舗装（単p）されている資料が多く該当したことから、素材の類似性により連続した前面外構と基礎が台座を形成し、上部の壁面と明確に分節されながらも動線的な連続関係が表現されるあり方といえる。②は前面外構、基礎、立面の全てに素材の類似性がみられず（ロ2）、動線要素あるいは視線要素により連続関係が形成される連続モデルである（類似無/連続要素有）。このうち、②-aは奥基礎（●）の基礎形態によって地面と外壁との分節が強調されるものである。また、②-bは標準基礎（○）で動線要素と連続要素を共に有するものである。

次に、基礎と外壁が一体的なもの（基礎=外壁）のうち、③は外壁が道路に近接し前面外構が無く、動線要素が配される傾向がみられる連続モデルである（外構無/連続要素有）。ここでは基礎形態が立面全体の外壁と一体（◎）で動線要素を有するもの（③-a）が多くみられた。④は前面外構と立面下部の素材が類似性を有し（ハ）、連続要素を有するまとまり（④-a, ④-b, ④-c：類似/連続要素有）と、連続要素をもたないまとまり^{注10)}（④'：類似/連続要素無）とからなる連続モデルである。このうち前者は、単一素材による前面外構の舗装（単p）の傾向がみられることから、基礎形態、素材の類似性、連続要素の全てを同時に有することで、立面下部と前面外構の連続性が積極的に表現されたあり方といえる。なかでも、④-a、④-bは基礎形態が立面全体の外壁と一体（◎）であり、④-aは動線要素と視線要素を共に有するもの、④-bは動線要素のみのものである。また④-cは基礎と一体的に立ち上が

る外壁の上部に分節がみられ（◎：一体+外壁）、動線要素を有するものである。⑤は基礎形態が立面全体の外壁と一体で、前面外構と立面下部の素材の類似性がなく（二）、連続要素を有する連続モデルである（類似無 / 連続要素有）。このうち⑤-aは動線要素と視線要素を共に有するもので、前面外構は単一素材の舗装（単 p）によるものが多くみられた。⑤-bは動線要素を有するもので、素材の配列的特徴として単一素材の舗装（単 p）によるもの、および舗装部分と非舗装部分が前面道路に対して並列に配列（並 cp）される傾向がみられた。⑥は基礎形態が一体の立面下部と前面外構との素材の類似性が無く、連続要素ももたない、立面下部と前面外構の分節が強調された連続モデルといえる（類似無 / 連続要素無）。

表 3-9 立面下部と前面外構の連続モデル

NO.	基礎形態	連続関係	配列	連続要素 動 視	連続モデル	基礎Ⅱ外壁	基礎Ⅰ外壁
34	○	-	-	e	①-a 奥基礎/動線	① 「基礎類似」連続要素有	④ 「類似」連続要素無
24	○	-	b				
101	○	-	e,b				
121	○	1	1	p	①-b 高基礎/動線	① 「基礎類似」連続要素有	④ 「類似」連続要素無
46	○	1	1	c			
109	○	1	1	cp			
122	○	1	2	p	①-c 標準基礎/動線	① 「基礎類似」連続要素有	④ 「類似」連続要素無
123	○	1	2	p			
125	○	1	2	p			
12	○	1	2	p	②-a 奥基礎/動線	② 「類似無」連続要素有	⑤ 「類似無」連続要素有
17	○	1	2	p			
22	○	1	2	p			
58	○	1	2	p	②-b 標準基礎/動線+視線	② 「類似無」連続要素有	⑤ 「類似無」連続要素有
44	○	1	2	p			
124	○	1	2	p			
61	○	1	2	cp	②-c 標準基礎/動線	② 「類似無」連続要素有	⑤ 「類似無」連続要素有
140	○	1	2	cp			
60	○	1	2	cp			
115	○	1	2	p	③-a 一体基礎/動線+視線	③ 「外構無」連続要素有	⑥ 「類似無」連続要素無
118	○	1	2	p			
130	○	1	2	p			
133	○	1	2	p	③-b 一体基礎/動線	③ 「外構無」連続要素有	⑥ 「類似無」連続要素無
97	○	1	2	p			
31	○	1	2	p			
20	○	1	2	cp	③-c 標準基礎/動線	③ 「外構無」連続要素有	⑥ 「類似無」連続要素無
1	○	1	2	cp			
126	○	1	2	cp			
71	○	1	2	cp	④-a 一体基礎/動線+視線	④ 「類似」連続要素有	⑥ 「類似無」連続要素無
89	○	1	2	cp			
102	○	1	2	cp			
39	○	1	2	p	④-b 一体基礎/動線	④ 「類似」連続要素有	⑥ 「類似無」連続要素無
82	○	1	2	p			
54	○	1	2	p			
62	○	1	2	p	⑤-a 一体基礎/動線+視線	⑤ 「類似無」連続要素有	⑥ 「類似無」連続要素無
63	○	1	2	p			
65	○	1	2	p			
68	○	1	2	p	⑤-b 一体基礎/動線	⑤ 「類似無」連続要素有	⑥ 「類似無」連続要素無
72	○	1	2	p			
94	○	1	2	p			
95	○	1	2	p	⑥ 一体基礎	⑥ 「類似無」連続要素無	⑥ 「類似無」連続要素無
137	○	1	2	p			
119	○	1	2	p			
33	○	1	2	p	⑥ 一体基礎	⑥ 「類似無」連続要素無	⑥ 「類似無」連続要素無
37	○	1	2	p			
75	○	1	2	p			
114	○	1	2	p	⑥ 一体基礎	⑥ 「類似無」連続要素無	⑥ 「類似無」連続要素無
73	○	1	2	p			
91	○	1	2	p			
99	○	1	2	p	⑥ 一体基礎	⑥ 「類似無」連続要素無	⑥ 「類似無」連続要素無
131	○	1	2	p			
142	○	1	2	p			
84	○	1	2	p	⑥ 一体基礎	⑥ 「類似無」連続要素無	⑥ 「類似無」連続要素無
9	○	1	2	p			
53	○	1	2	p			
15	○	1	2	p	⑥ 一体基礎	⑥ 「類似無」連続要素無	⑥ 「類似無」連続要素無
55	○	1	2	p			
3	○	1	2	p			
10	○	1	2	p	⑥ 一体基礎	⑥ 「類似無」連続要素無	⑥ 「類似無」連続要素無
19	○	1	2	p			
132	○	1	2	p			
117	○	1	2	p	⑥ 一体基礎	⑥ 「類似無」連続要素無	⑥ 「類似無」連続要素無
5	○	1	2	p			
8	○	1	2	p			
27	○	1	2	p	⑥ 一体基礎	⑥ 「類似無」連続要素無	⑥ 「類似無」連続要素無
28	○	1	2	p			
38	○	1	2	p			
41	○	1	2	p	⑥ 一体基礎	⑥ 「類似無」連続要素無	⑥ 「類似無」連続要素無
76	○	1	2	p			
81	○	1	2	p			
92	○	1	2	p	⑥ 一体基礎	⑥ 「類似無」連続要素無	⑥ 「類似無」連続要素無
107	○	1	2	p			
113	○	1	2	p			
129	○	1	2	p	⑥ 一体基礎	⑥ 「類似無」連続要素無	⑥ 「類似無」連続要素無
104	○	1	2	p			
48	○	1	2	p			

表 3-9 注) 表中の番号は資料番号 (付表:資料リスト) を表す。また基礎状の基礎をもつ資料は、基礎形態の符号に (*) を付した。

4 節 輪郭パターンと連続モデルの関係による立面の接地性

2 節で検討した立面の形状と、3 節で検討した立面下部と前面外構の連続関係との対応を示したものが表 3-10 である。ここでは、3 節で導いた連続モデル (①～⑥) に対して、2 節で得た第一輪郭と第二輪郭の形状の関係による輪郭パターン (A～I) の該当資料数 (連続モデル内資料数)、および各輪郭パターン毎にその総数における連続モデルへの対応比率 (輪郭パターン比率) を求めることから、立面と地面との接続関係の図式として 11 類型 (①-A～⑤-I) を導き^{注 11)}、さらに類型間の関係を、輪郭パターンと連続モデルの関係による接地性として位置づけた (図 3-2)。

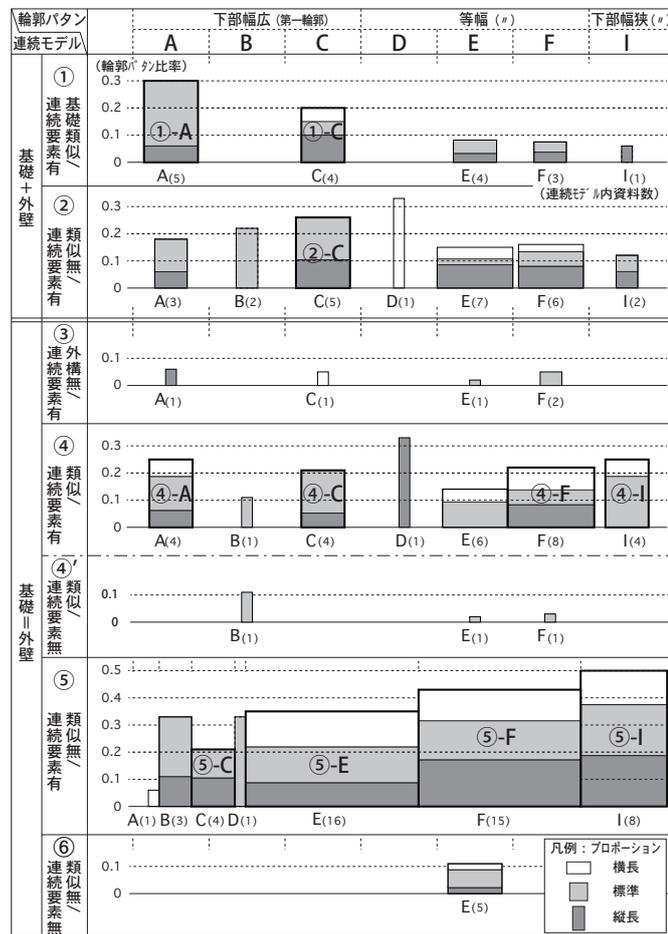
4-1 関係図式の類型

まず、基礎と外壁の分節が明確な基礎形態 (基礎+外壁) の連続モデル (①, ②) に対応する類型のうち、①-A、①-C は共に前面外構と基礎のみに素材の類似性があり、連続要素を有するものである。このうち、①-A は第一輪郭、第二輪郭共に下部幅広の安定形を保持するもの、①-C は下部幅広で安定形の第一輪郭が第二輪郭で下部幅狭の不安定形へと変形がみられるものであり、これらは前面外構と連続する台座状の基礎上部に第一輪郭において安定的な立面が配されるあり方といえる。一方、②-C は、前面外構、基礎、立面の全てにおいて素材の類似性がなく、連続要素を有するものであり、①-C と同様に安定形の第一輪郭が第二輪郭で不安定形となるものである。

次に、基礎と外壁とが一体的な基礎形態 (基礎=外壁) の連続モデル (③, ④, ⑤, ⑥) に対応する類型のうち、④-A、④-C、④-F、④-I は何れも前面外構と立面下部の素材の類似性があり、連続要素を有するものである。このうち、④-A は第一輪郭、第二輪郭共に下部幅広で安定形が保持されるものであり、④-C は下部幅広の安定形の第一輪郭が第二輪郭で下部幅狭の不安定形へと変形がみられるものである。また④-F は等幅で矩形の第一輪郭が第二輪郭で下部幅狭の不安定形となるものであり、④-I は第一輪郭、第二輪郭共に下部幅狭の不安定形となるものである。一方、⑤-C、⑤-E、⑤-F、⑤-I は何れも前面外構と立面下部の素材の類似性がなく、連続

要素を有するものである。このうち、⑤-Cは下部幅広の第一輪郭が第二輪郭で下部幅狭となるものである。また⑤-E、⑤-Fは共に等幅で矩形の第一輪郭のものであり、⑤-Eは第二輪郭においても等幅で矩形の形状が保持されるもの、⑤-Fは第二輪郭で下部幅狭の不安定形となるものである。さらに⑤-Iは第一輪郭、第二輪郭が共に下部幅狭で不安定形が保持されるものである。

表 3-10 輪郭パターンと連続モデルの関係



4-2 類型間の関係

ここで、得られた11類型を比較検討することにより、輪郭の形状および前面外構との連続関係による住宅作品の立面と地面との接続関係の性格（接地性）をみると（図3-2）、まず、①-A、①-C、④-A、④-Cは、地面に対する安定形の第一輪郭と素材の類似性、さらに連続要素を有することで、地面との接続関係が強められるあり方といえる。一方、⑤-Iは、第一輪郭が不安定形で、且つ、素材の類似性も無く、連続要素による前面道路との連続関係は保持しつつも、地面との接続関係が希薄で自律性の強い立面のあり方といえる。これらはそれぞれ、形状の安定性と素材の類似性について、立面と地面との接続関係の対応が一致した対極的なあり方といえる（図中、実線矢印）。これらに対して、④-Iと②-C、⑤-Cは立面と地面との接続関係における対応が相反するあり方であり（図中、点線矢印）、④-Iは、第一輪郭は不安定形でありながら素材の類似性を有するあり方、対極的に②-Cと⑤-Cは、安定形の第一輪郭に対して素材の類似性がないあり方である。

また、これらの性格を横断して、第二輪郭によって立面と地面との接続関係の輻輳的な性格を示すあり方として、①-C、④-C、②-C、⑤-Cおよび④-F、⑤-Fに着目すると、前者は、下部幅広で安定形の第一輪郭に対して第二輪郭は不安定形となるものである。このうち①-Cと④-Cは、形状の安定性と素材の類似性における対応の一致、および連続要素による強い接続関係が、第二輪郭によって弱められるあり方であり、②-Cと⑤-Cは、第一輪郭の安定性と第二輪郭の不安定性、さらに立面と前面外構の素材の不連続性といった、接続関係の各水準における対応が複合的に表現されるあり方である。一方、④-Fと⑤-Fは、矩形の第一輪郭と不安定形の第二輪郭という幾何学的に異なる形状の特徴が共に視覚的に表現されるあり方として整理できる。

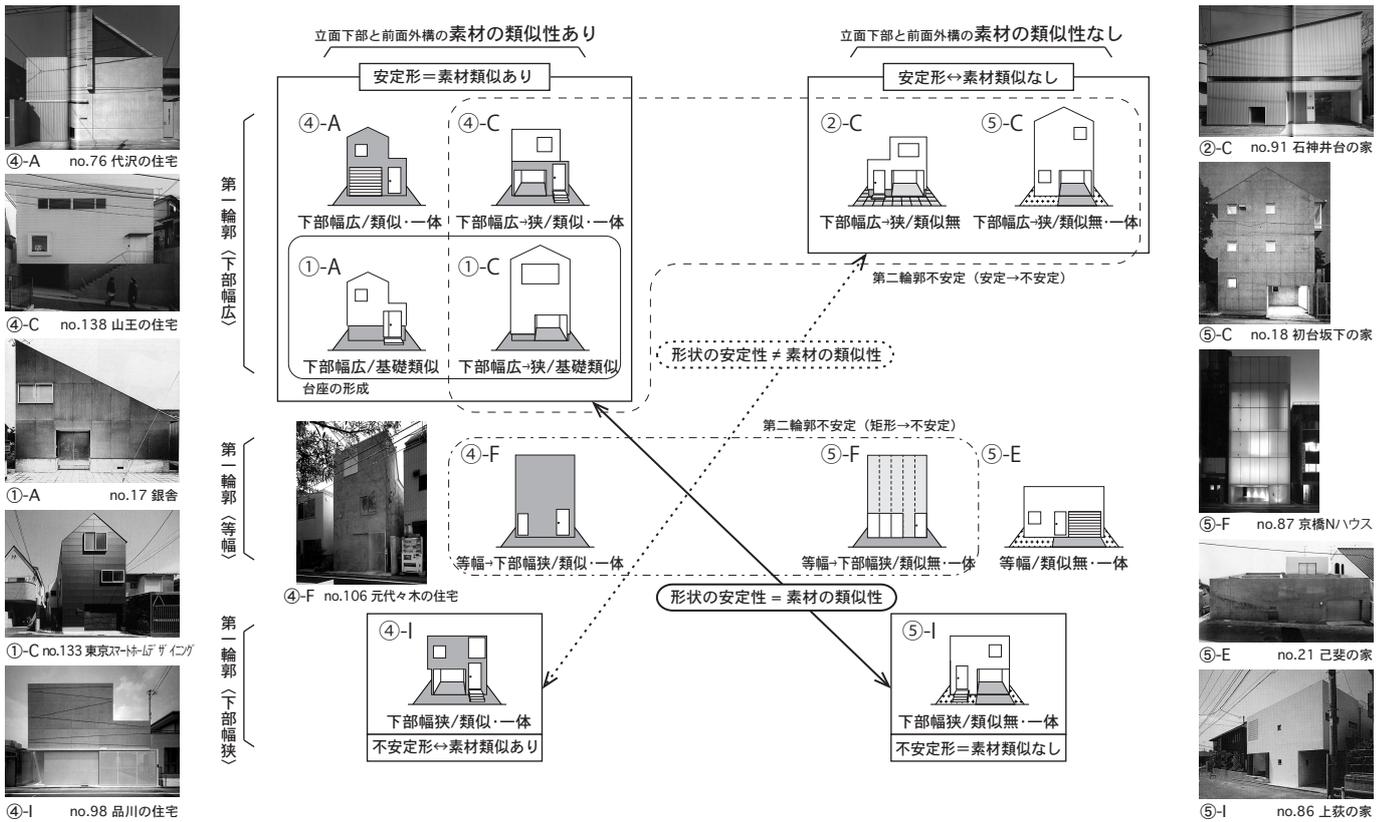


図 3-2 輪郭パターンと連続モデルの関係による接地性

5 節 小結

以上、本章では現代日本の住宅作品の立面と地面との接続関係を、立面の形状と、立面下部と前面外構との連続関係から捉え、両者の重ね合わせによる関係図式として 11 の類型を導き、その性格を検討した。

それらを整理すると、周囲を隣家に囲まれ街路に面して立面が配される住宅作品においては、立面と地面との接続関係は、大きく以下の 2 つの対比的な性格に類型の大半が位置づけられることが明らかとなった。ひとつは、立面の形状の安定性と素材の類似性の対応／非対応が一致し、接続関係が強められるもの（①-A, ①-C, ④-A, ④-C）と接続関係が希薄で自律的な立面を形成するもの（⑤-I）という対極的な性格に整理でき、全資料中 25 資料が位置づいた。これらとは対比的に、もうひとつは、形状の安定性と素材の類似性の対応／非対応が相反し、不安定な形状でありつつも素材の類似性のあるもの（④-I）、安定した形状でありながら素材の類似性がみられないもの（②-C, ⑤-C）という対極的な性格に整理することができ、全資料中 13 資料が位置づいた。

このことは、現代日本の住宅作品においては、立面の形状と素材の類似性の対応の一致により接地性が強調される明確なあり方、およびそれらの対応の不一致により接地性の輻輳を表現するあり方という関係図式のもとに立面と地面の接続関係の性格が位置づいていることを示すものであり、建築と地面との関係による意匠表現を考察する上での一指標となり得るものと考えられる。

第3章 本文注

- 注1) 参考文献1において、神代は、「土地の表面と建築の壁面なり基礎なりがぶつかっているあたりの表現は、土地と建築の対応関係に大変重要なものを秘めているように思われてくる」と述べ、建築立面と地表面のなす角度を例に、建築全体に関わる意匠表現としての立面と地面の対応関係について指摘している。
- 注2) 参考文献2において、ル・コルビュジエは、「寺院または工場の面は、大部分の場合、壁であり、それに窓や出入口の孔があく。この孔はしばしば形の破壊者となる。それを形を強調するものになさなければならない」と述べ、純粋な幾何学としての立面と、そこに開口部が穿たれることにより強調される立面の形状の関係について指摘している。
- 注3) 本章では、大開口の配置と方位との関係や立面の形状と斜線などの法的規制との関係を次のように考え扱っている。立面の形状について接地幅に対する高さ方向の相対的な幅の変化を捉える上で、輪郭に接する開口によって切り取られた形状(第二輪郭)を検討するため、開口の位置を問題としているが、大きさは問題とはならないと考えているため、主たる採光面としての大開口の配置に関わる方位については検討から除外している。また、第一輪郭が道路斜線や北側斜線によって切り取られた形状である場合もあり得るが、本節での検討においては、第一輪郭そのものの形状ではなく、第一輪郭に対して第二輪郭がどのように変化するかということに主眼を置いているため、第一義的な問題ではないと考え、検討から除外している。
- 注4) 第一輪郭の接地部の幅に対する高さ方向の幅の変化は、原則として、立面の形状が奥行き方向に連続する押し出し形状として捉えている。但し、平入りの勾配屋根のものは軒のラインを立面上端の形状として捉え、また、奥行き方向において建築ヴォリュームの分節がある場合は道路に面する建築ヴォリュームについてその立面の形状を捉えている。
- 注5) 第一輪郭の幅の変化と第二輪郭の組合せより輪郭パターンA～Iを得た。さらに第一輪郭のプロポーションより、横長、標準、縦長の別に1～3の番号を付している(例:A1、A2、A3、…)。
- 注6) 奥基礎は、外壁の仕上げ面に対して基礎の立ち上がり面が後退することで、地面と基礎上部の壁面との分節が視覚的に明確化されているものとし、外壁面に対する後退距離を40mm程度以上(仕上げ厚の例:胴縁27mm+仕上15mm)を目安として判断している。
- 注7) 本章では、木造および鉄骨造で一般的と考えられる地面からの基礎の立ち上がり高さ $\leq 400\text{mm}$ を標準基礎とし、それより高いものを高基礎としている。
- 注8) 素材の類似性の有無は、素材の系統(セメント系、金属系、木質系、石材系等)の同一性、および仕上げの色から判断している。
- 注9) 基礎と外壁が明確に分節されているもの(基礎+外壁)と基礎が外壁と一体的なもの(基礎=外壁)の別と、立面下部と前面外構の素材の類似性の有無の組合せを検討した結果、資料分布の偏りから5資料以上みられた組合せについて、連続モデル①～⑥としている。さらに、基礎形態および前面外構における素材の配列的特徴、連続要素の組合せの傾向が見られたものについて、連続モデル内の傾向(例:①-a、①-b、①-c)を位置づけている。
- 注10) 表3-10において輪郭パターンと連続モデルの対応から類型を導く上で、立面と地面との接続関係の性格を特徴づける要素として、動線要素の有無の傾向を読み取る必要性から、連続モデル④において、連続要素を有する④-a、④-b、④-cと、連続要素をもたない④'の取り扱いを区別している。
- 注11) 本章では、輪郭パターンと連続モデルの相関を検討することから類型を導いている。そのため、第一輪郭と第二輪郭の論理的な組合せによって得られた輪郭パターン毎の連続モデルにおける対応比率(輪郭パターン比率)を問題にしている。表3-10における、連続モデル①～⑥に対応する輪郭パターン比率および資料数(連続モデル内資料数)の分布は下表の通りであった。

輪郭パタン 連続材数	A (16)	B (9)	C (19)	D (3)	E (44)	F (35)	G (0)	H (0)	I (16)
①	0.31 5	0 0	0.21 4	0 0	0.09 4	0.09 3	0 0	0 0	0.06 1
②	0.19 3	0.22 2	0.26 5	0.33 1	0.16 7	0.17 6	0 0	0 0	0.13 2
③	0.06 1	0 0	0.05 1	0 0	0.02 1	0.06 2	0 0	0 0	0 0
④	0.25 4	0.11 1	0.21 4	0.33 1	0.14 6	0.23 8	0 0	0 0	0.25 4
④'	0 0	0.11 1	0 0	0 0	0.02 1	0.03 1	0 0	0 0	0 0
⑤	0.19 3	0.33 3	0.21 4	0.33 1	0.36 16	0.43 15	0 0	0 0	0.50 8
⑥	0 0	0 0	0 0	0 0	0.11 5	0 0	0 0	0 0	0 0
その他	0 0	0.22 2	0.05 1	0 0	0.09 4	0 0	0 0	0 0	0.06 1

輪郭パタンと連続モデルの対応を表す。各マスの数字は、輪郭パタン比率（左）、および連続モデル内資料数（右）を示す。

これより、輪郭パタン比率の分布を検討したところ、 $0 < (\text{比率}) < 0.1$ となる輪郭パタンと連続モデルの組合せが9マス、 $0.1 \leq (\text{比率}) < 0.2$ が9マス、 $0.2 \leq (\text{比率}) < 0.3$ が7マス、 $0.3 \leq (\text{比率})$ が4マスであり、0.2を境に分布の偏りがみられた。また連続モデル内資料数の分布をみると、資料数1が11マス、同2が3マス、同3が4マス、同4が6マス、同5が4マス、同6が2マス、同7が1マス、資料数8以上が4マスと、資料数4を境に偏りが認められた。これより、輪郭パタン比率0.2以上、且つ、連続モデル内資料数4以上を類型とした。その結果、類型①-A～⑤-Iには、全142資料中77資料が含まれた。

第3章 参考文献

- 1) 神代雄一郎：土地と建築家の応答 敷地論その1 新建築第32巻第3号、pp50-54、新建築社、1957.3
- 2) ル・コルビュジエ著、吉阪隆正訳：建築をめざして SD選書21、鹿島出版会、1967.12

第3章付表 資料リスト

No.	年月	作品名	輪郭 パタン	連続 モジュール	類型	No.	年月	作品名	輪郭 パタン	連続 モジュール	類型
1	sk5411	数学者の家	D1	②-b		72	jt9811	菅谷の家	C2	②-a	②-C
2	ak5608	マヤの家	E1	⑤	⑤-E	73	jt9902	0夫妻の家	F2	②-c	
3	sk6201	銀杏を囲む家	F1	④-a	④-F	74	jt9903	(7,000m)3/松本部	D3	④-c	
4	sk6210	正面のない家/H	F1	⑤-b	⑤-F	75	jt9906	北畠の家	F1	②-c	
5	sk7006	GAH6812	F1	④-b	④-F	76	jt0006	代沢の住宅	A2	④-b	④-A
6	sk7104	水無瀬の町家	A1	⑤-b		77	jt0008	yh	E2	⑤-a	⑤-E
7	sk7302	グリーン ボックス #2	E2	⑤-b	⑤-E	78	sk0011	小さな家	I3	⑤-a	⑤-I
8	sk7302	斉藤邸	I2	④-b	④-I	79	jt0201	代沢M邸	F3	⑤-a	⑤-F
9	sk7402	東玉川の住宅	F2	③-a		80	jt0201	P・O・M	I3	⑤-a	⑤-I
10	sk7508	等々力邸	E2	④-a		81	sk0206	テラス・ハウス	E1	④-b	
11	sk7609	緑ヶ丘の住宅	F2	④'		82	jt0206	Beaver House	A2	②	
12	sk7611	代田の町家	A2	①-b	①-A	83	jt0207	猫ノ木の家	F3	⑤-b	⑤-F
13	sk7701	上原通りの住宅	I1	⑤-b	⑤-I	84	sk0209	隅のトンガリ	A3	③-a	
14	sk7702	住吉の長屋	E3	⑤-b	⑤-E	85	jt0209	春日野道の家	F2	⑤-b	⑤-F
15	sk7905	石原邸	E2	③		86	jt0209	上萩の家	I2	⑤-b	⑤-I
16	sk7910	土岐邸	E2	⑤-a	⑤-E	87	jt0304	京橋Nハウス	F3	⑤-a	⑤-F
17	sk7912	銀舎	A2	①-b	①-A	88	jt0306	江東の住宅	F2	⑤-a	⑤-F
18	sk8005	初台坂下の家	C3	⑤-b	⑤-C	89	jt0308	白い箱の家	B2	②-b	
19	sk8006	宮田邸	E2	④-a		90	jt0311	teshihouse	E1	④-b	
20	sk8008	中央林間の家	B1	-		91	jt0405	石神井台の家	C2	②-c	②-C
21	sk8102	己斐の家	E1	⑤-b	⑤-E	92	jt0406	T・BOX	E2	④-b	
22	sk8106	祖師谷の家	C1	①-b	①-C	93	jt0407	HP	I3	⑤-b	⑤-I
23	sk8108	街舎	B2	④-c		94	jt0410	KK	I3	②-a	
24	sk8202	経堂の住宅 1980	I2	-		95	jt0502	WH	E3	②-a	
25	sk8307	九条の町家	F2	④-b	④-F	96	sk0506	ナチュラルストリップスII	F3	⑤-a	⑤-F
26	sk8312	花小金井の家	A2	④-b	④-A	97	jt0506	赤堤通りの家	F3	①-c	
27	sk8408	千石の増築	C2	④-b	④-C	98	jt0509	品川の住宅	I2	④-b	④-I
28	sk8408	松原の家	I1	④-b	④-I	99	jt0509	うなぎ001	E3	②-c	
29	sk8408	P.P.H. Pocket Park House	C2	⑤-b	⑤-C	100	jt0601	円山町のアトリエ付き住居	F3	④-b	④-F
30	sk8408	U氏邸	E1	⑤-b	⑤-E	101	jt0601	能代の住宅	E2	-	
31	jt85夏	リトル・ハウス	E2	-		102	jt0601	ガク・ハウス	A2	②-b	
32	jt85冬	T.HOUSE "STEPS"	I1	⑤-b	⑤-I	103	jt0601	LOVE HOUSE	F3	⑤-b	⑤-F
33	jt8605	長屋門のある家	E1	②-c		104	jt0602	HOUSE SH	E3	⑥	
34	jt8606	粉浜の家-II	B3	-		105	jt0604	Parallax	F2	④-b	④-F
35	jt8702	福井・勝山の家	E2	④-b		106	jt0612	元代々木の住宅	F3	④-b	④-F
36	jt8705	赤羽の家	E1	⑤-b	⑤-E	107	sk0703	HOUSE A	E2	⑥	
37	jt8710	KIM HOUSE	F3	②-c		108	jt0703	北沢の家	I2	⑤-b	⑤-I
38	jt8807	山本邸	F1	④-b	④-F	109	jt0705	吉祥寺の家	E2	-	
39	jt8807	DO FUKAZAWA	I2	②		110	jt0802	版築のある家	F2	⑤-b	⑤-F
40	jt8808	今井邸	A1	⑤		111	jt0804	36M HOUSE	E1	⑤-b	⑤-E
41	jt8809	望月邸-駿河意匠	I2	④-b	④-I	112	jt0807	柱と床	E3	⑤-a	⑤-E
42	jt8902	ブロックHOUSE-2	E2	⑤-b	⑤-E	113	jt0807	三原の家	E1	⑥	
43	jt8903	朝霞の家	E2	⑤-a	⑤-E	114	jt0809	OUCHI	C2	②-c	②-C
44	jt8905	物質試行26 小金井の住宅	C2	①-b	①-C	115	jt0810	DOUBLE CUBE	F2	①-c	
45	jt8907	S-HOUSE	C3	⑤-a	⑤-C	116	jt0811	SWING	B3	⑤-b	
46	jt9002	寿町の家	E2	-		117	jt0812	ロングトールハウス	A3	④-a	④-A
47	jt9003	OSMS-都市住宅・1990-	E3	⑤-b	⑤-E	118	jt0905	東山の家	I3	①-c	
48	jt9008	加藤邸	E2	⑥		119	jt0908	だんだんまちや	A3	②	
49	jt9102	上京の家	F3	⑤-b	⑤-F	120	jt1005	洗足の住宅	F3	④-b	④-F
50	jt9103	磯田邸	A3	⑤		121	jt1007	南加瀬の住宅	C3	-	
51	jt9203	想舎(緑町のアトリエ)	C3	④-b	④-C	122	jt1102	スプリットまちや	C3	①-a	①-C
52	jt9211	山坂の家	C2	⑤-b	⑤-C	123	jt1104	ハコノオウチ	E3	①-a	
53	jt9305	奥沢の家	F2	③-a		124	jt1105	大岡山の住宅	E3	①-c	
54	jt9501	下鴨の家	B2	②-a		125	jt1110	代々木上原の家	A3	①-a	①-A
55	jt9504	東ヶ丘の家	C1	③		126	jt1112	トシゴヤ	F3	②-b	
56	jt9505	小池邸	E1	⑤-b	⑤-E	127	jt1203	スキマノイエ	B2	⑤-b	
57	jt9510	調布の家	A1	④-c	④-A	128	jt1203	元浅草の住宅	E3	⑤-b	⑤-E
58	jt9510	本町田の住宅	A2	①-b	①-A	129	jt1205	東大泉の家	E2	⑥	
59	jt9603	House KAS	I2	⑤-b	⑤-I	130	jt1206	N邸	E2	①-c	
60	jt9605	アライグマ・ギンとの家	A2	①-c	①-A	131	jt1206	土橋邸	F3	②-c	
61	jt9707	東大阪の家	E2	①-c		132	jt1209	TAKANAWA	C2	④-a	④-C
62	jt9707	M's House	F2	②-a		133	jt1209	東京スマートホームデザイン	C3	①-c	①-C
63	jt9709	M-HOUSE	E1	②-a		134	jt1303	東玉川の家	E2	④'	
64	jt9710	三山の住宅	F2	⑤-b	⑤-F	135	jt1304	浦和の家	F2	⑤-b	⑤-F
65	jt9711	住居NO.21 千歳鳥山の家	C3	②-a	②-C	136	jt1304	屏風ヶ浦の家	E2	⑤	⑤-E
66	jt9712	平野区の町屋-能見邸	F1	⑤-b	⑤-F	137	jt1304	伊丹の住居	E3	②-a	
67	jt9803	井草の住宅	B2	⑤-b		138	jt1304	山王の住宅	C2	④-c	④-C
68	jt9807	江波の家	E3	②-a		139	jt1307	経堂の住宅	B2	④'	
69	jt9808	狹山の家	F1	⑤-b	⑤-F	140	jt1307	N邸	E2	①-c	
70	jt9809	高輪台の家	F1	⑤-b	⑤-F	141	jt1308	亀泉の家	D2	⑤-a	
71	jt9809	立体土間の家	E2	②-b		142	jt1310	辻堂の曲がり屋	C3	②-c	②-C

第4章 傾斜地における住宅作品の断面構成

1節 本章の目的と概要

1-1 本章の目的

1-2 本章の概要

2節 傾斜地の地形と住宅の断面構成

2-1 斜面とアプローチの関係, 建築ヴォリュームの接地性

2-2 エントランス、主室による内部構成

3節 外部構成と内部構成による基本形と構成パターン

3-1 基本形と構成パターン

3-2 基本形と構成パターンの関係

4節 小結

1 節 本章の目的と概要

1-1 本章の目的

住宅は、地形、方位、地域、気候等の敷地を取り巻く様々な条件との対応関係のなかでその空間構成を成立させている。なかでも傾斜地では、景観や眺望、日照、通風、排水等の条件が平地と異なるだけでなく^{注1)}、斜面特有の空間特性である上下の方向性を有し、また斜面に対して平らな床面を獲得するという前提のもと、地面と建築の即物的な関係が建築内外の構成に大きく関わることから、斜面を取り入れた様々な空間表現が成立していると考えられる。

例えば、斜面の勾配に平行な外観をもつ住宅^{注2)}や、斜面の上から建物にアプローチし眺望の開けた内部空間を有する住宅^{注3)}、また内部において床面を斜面に沿って段状とする住宅^{注4)}などが見られ、これらは傾斜地に沿った上下の方向性が表現された空間構成と捉えられる。これらのように、斜面の空間特性は、外部のみならず内部においてもその構成に強く影響を与えていると考えられることから、傾斜地においては平地においてよりさらに、地面と建築による積極的な対応関係が成立しているといえる。

そこで本章は、傾斜地における住宅作品（以下、斜面住宅とする）を対象（付表）に、アプローチや建物外形といった外部に関する構成と、断面方向における室の配列による内部の構成とを検討し、これらを総合した断面構成により、傾斜地に建つ住宅作品における地面と建築のかたちとの対応関係を捉えるものである。またこのことは、環境を与条件として受動的に捉えるのではなく、建築の構成を成立させる要素のひとつとして能動的に捉える試みであり、住宅作品の新たな全体性を思考する上での指針のひとつとなり得ると考える。

1-2 本章の概要

本章は斜面住宅の構成を、外部と内部から検討している。外部に関する構成とは、斜面方向^{注5)}におけるアプローチの向き、アプローチにおけるブリッジや外付け階段

などの接続方法、また建築ヴォリュームの断面形状と建築ヴォリュームの接地性からなる。一方内部に関する構成とは、内部の室の斜面方向における断面的な位置関係、室どうしの空間的、視覚的な連続関係、また斜面方向への出入口の有無からなる。これらを総合し、斜面の勾配、方位などの敷地条件と合わせて断面構成の関係図式として検討することにより、構成の基本的な型（以下、基本型とする）を導き、共通する性格の重なり方から各基本型のヴァリエーションといえる構成パターンを見出している。さらにこれらのことを相互に比較検討することを通して、傾斜地における地面と建築との対応関係を明らかにすることを、本章の目的とする。

本章の内容を概略すると、まず2節では、斜面とアプローチの関係および建築ヴォリュームの接地性から外部の構成を検討し、さらにエントランスと主室との断面的な位置関係から内部の構成を検討している。続く3節では、2節で得られた外部と内部の構成を相互に比較検討することから住宅の断面構成の図式を位置づけ、4節で小結を述べる。

2 節 傾斜地の地形と住宅の断面構成

傾斜地では、斜面の方向^{注6)}に沿って上からアプローチし、エントランスよりも他の室が下に位置するといった、平地に建つ建築にはあり得にくい構成が可能である。例えば、ビルディング・ワークショップ（図4-1）では、床全体が段状になっており、斜面を下っていくように、アプローチ用の斜路－エントランス－ワークスペースが配され、さらに室内から斜面に降りることが可能であり、斜面と内部構成が密着した空間構成となっている。また同様に斜面の上からアプローチし、斜面から浮いた建物であるスミス邸（図4-1）では、アプローチ用のブリッジ－エントランス－リビングといったひとつながりの空間が斜面から離れて水平方向に連続している。

このように傾斜地における住宅は、敷地の取付け道路から建物に至るまでのアプローチの斜面方向に対する向き、建築ヴォリュームの接地性、アプローチにおける建物への接続方法という外部に関する構成と、エントランスやリビングといった室の断面方向における配列、室どうしの連続関係、斜面への出入口の有無という内部に関する構成の2水準でその構成関係が大枠記述できる。そこで本章では、傾斜地における住宅のこれらの外部に関する構成と内部に関する構成を全資料（付表）に渡って分析する。

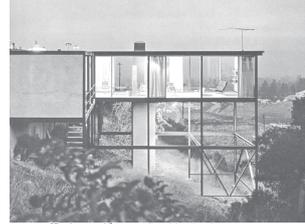
2-1 斜面とアプローチの関係、建築ヴォリュームの接地性

■斜面とアプローチの関係

斜面住宅は、別荘のように比較的余裕のある敷地に建つものや、雛壇状に宅地造成された一画に建つものなど様々な敷地環境に建つが、敷地の取付け道路ないしは敷地境界から建物のエントランスまでというアプローチが斜面方向に対してどのような向きに配されるかによって、建物と斜面の接続関係が大よそ決定されると考えられる。例えば、分析例（図4-2）では、斜面の上方の取付け道路からエントランスへ斜面を下るように直線的にアプローチすることから、斜面の方向に沿って接続される建築といえる。そこで、斜面方向に対するアプローチの向きは（表4-1.1）、上



ビルディング・ワークショップ/レンゾ・ピアノ,1991



スミス邸/クレイグ・エルウッド,1958

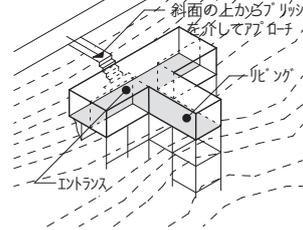
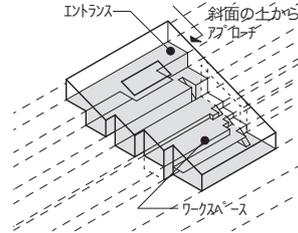


図 4-1 傾斜地における住宅作品

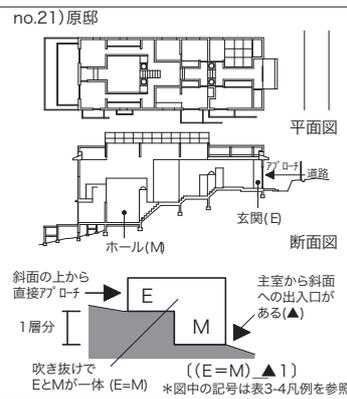


図 4-2 分析例

からアプローチするものが過半（62/106 作品）見られ、その他、下からアプローチするもの（22 作品）、斜面に直交し等高線方向にアプローチするもの（22 作品）に分けられる。また、わずかではあるが斜面の下からアプローチし、回り込んで上側からエントランスに至るといった、アプローチによって斜面全体を移動するものも見られる^{注7)}。このアプローチの際、建物との接続方法については（表 4-1.2）、過半（74 作品）のものは直接エントランスに至るが、ブリッジ（20 作品）や外付け階段（12 作品）などの動線要素を介してアプローチするものも見られる。

■建築ヴォリュームの接地性

建築ヴォリュームの接地性は、斜面の形状と建築ヴォリュームの下面の形状およびヴォリュームと地面との接触から断面的に捉えることができる（表 4-2）。建築ヴォリュームの断面形状は、その下面の形状に応じてフラットなもの（71/106 作品）と、段差があるもの（35 作品）で表され、また斜面の形状は、斜面の部分とフラットな部分との組み合わせより、斜面がそのまま現れているもの（17 作品）、斜面とフラットな部分が連続しているもの（38 作品）、斜面とフラットな部分が段差を介して接続しているもの（51 作品）とに整理できる。表 4-2 より、斜面とフラットな部分からなる地形に下面がフラットなヴォリュームが接地しているもの（32 作品）、ヴォリュームに段差があり接地しているもの（28 作品）、斜面に下面がフラットなヴォリュームが埋まるように接地しているもの（23 作品）、斜面から下面がフラットなヴォリュームが分離しているもの（15 作品）という、大よそ 4 種のあり方に殆どの資料が集中して見られた（98/106 作品）。

2-2 エントランス、主室による内部構成

本章では、住宅の内部構成を実体的な空間単位である室^{注8)}の集合から捉え、なかでも、最大の規模を有し斜面との構成関係を主調的に表すと考えられる主室と、外部との接続関係を表すエントランスとの断面的な位置関係に着目している。従って、これらが置かれる階と、その他の室が置かれる階の上下関係について分析を行う。例えば、分析例（図 4-2）は、エントランスのある階より下に主室が置かれる内部構

成である。この例では主室が最下階であるが、斜面に対する内部空間の確保という点で、その他の室が最下階としてあるか否かについて着目し、これらの上下関係を検討した（表 4-3.1）。その結果エントランスと主室が同一階にあるものが半数を超え（69/106 作品）、その他、エントランスの下に主室があるもの（17 作品）と、エントランスの上に主室があるもの（20 作品）は同程度見られた。また、わずかながら以上のような主室、他の室という分節が見られない、同規模の室が反復するもの^注⁹⁾（5 作品）や、エントランスと主室が斜面の方向に横並びに配されるもの（2 作品）など、斜面に対する多様な対応関係をもつものも見られた。

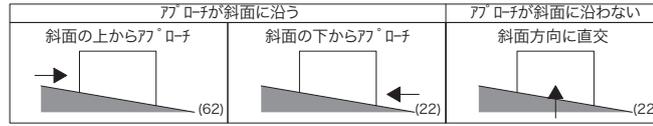
また、分析例（図 4-2）のように斜面に沿って配されたエントランスと主室を仕切らず空間的に一体とすることで、斜面の方向性を内部において表現する構成が見られることから、ここではエントランスと主室の連続関係について分析している（表 4-3.2）。そのうち、エントランスと主室が分割されているもの（52/106 作品）、空間的に一体となっているもの（42 作品）が同程度見られ、数は少ないもののエントランスと主室がガラスの間仕切りなどで視覚的に一体となっているもの（7 作品）が見られた。

その他、主室から斜面への出入口をもつものが半数近く見られ（48/106 作品）、主室と斜面の直接的な接続関係が成立している構成である。

以上より、斜面とアプローチの関係では、上からアプローチするものが多く見られ、斜面の方向にアプローチを沿わせる傾向、建築ヴォリュームの接地性では、切土等によるフラットな部分や段差のある部分にヴォリュームを接地させる傾向、また内部構成では、エントランスと主室を同一階にもつ傾向を見出した。

表 4-1 斜面とアプローチの関係

4-1.1 斜面方向に対するアプローチの向き



4-1.2 接続方法



表 4-2 建築ヴォリュームの接地性

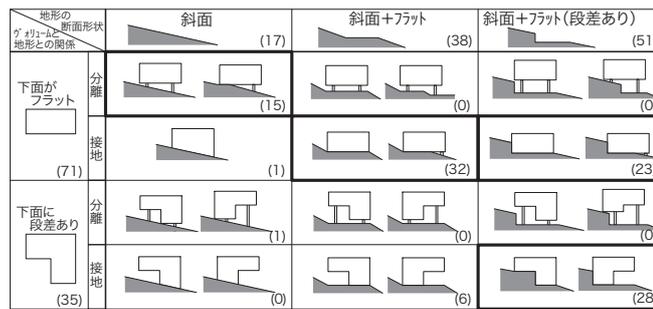


表 4-3 エントランス (E)、主室 (M) による内部構成

4-3.1 エントランスと主室の上下関係

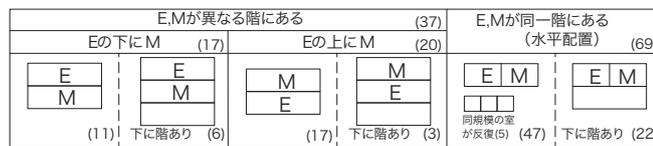
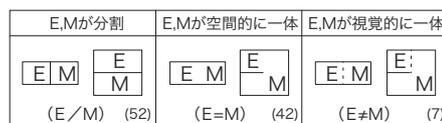


表 4-3.1 注) エントランスと主室が同一階にあるものの内、これらが斜面に対して横並びに配置されているものがわずかではあるがみられた (2/106 作品)。

4-3.2 エントランスと主室の連続関係



3節 外部構成と内部構成による基本型と構成パターン

本節では、斜面方向に対するアプローチの向きによる外部構成と、エントランスと主室の上下関係による内部構成を組み合わせることにより、斜面住宅の断面構成の関係図式の基本型（Ⅰ～Ⅳ）^{注10)}を導いている（表4-4）。さらに基本型内において特徴的なa～eの構成パターンと、基本型には含まれないがa～eの各パターンと対比的な特徴をもつイ～ハの構成を、建築ヴォリュームの接地性、斜面の勾配、エントランスと主室の連続関係、ブリッジや外階段等のアプローチにおける接続方法、主室から斜面への出入口の有無といった性格の重なりにより導いている。

3-1 基本型と構成パターン

基本型Ⅰは、斜面の上からアプローチし、エントランスの下に主室が配される断面構成であり、上から下へ向かう斜面の方向にアプローチと内部構成が共に沿う、アプローチ・内部下降型の構成である。その中で、段差を持ちつつエントランスと主室が空間的に連続し、主室から斜面の方向に出入口をもつⅠ-aは内外の連続が斜面方向に沿って表現される構成といえる。また、急斜面（表4-4:勾配1,2）に建つⅠ-bは下に階をもちつつ、エントランスと主室が段差を伴いながら空間的に一体化する構成である。これらⅠ-a,bはいずれも内部構成が空間的に一体化するもので、斜面の方向に沿ったアプローチと内部構成の方向性が視覚化される、内部一体下降パターンの断面構成であるといえる。

基本型Ⅱは、アプローチが斜面の方向に沿いながら、エントランスと主室は同一階にあることから、アプローチと内部構成が水平に配される、アプローチ・内部水平型の構成である。その中で、Ⅱ-cはアプローチのブリッジが斜面から分離した建築ヴォリュームに水平に取り付き、また主室から斜面への出入口をもつ構成である。下面がフラットなヴォリュームが接地したⅡ-dは空間的にエントランスと主室を一体化し、また主室から斜面への出入口をもつ構成である。これらⅡ-c,dはいずれも、アプローチから内部さらに斜面方向の外部へと水平方向に通過する動線をつくる、水平通過パターンの断面構成であるといえる。

基本型Ⅲは、緩勾配の斜面の下からアプローチし、エントランスの上に主室が配置され、アプローチと内部構成が共に斜面に沿って上昇する、アプローチ・内部上昇型の構成である。ここでは、エントランスの下に階をもたないものが全体を占め、下面がフラットな建築ヴォリュームや段差をもつ建築ヴォリュームが共に接地している構成などが見られた。

基本型Ⅳは、アプローチが斜面方向に直交し、エントランスと主室は水平に配置され、アプローチと内部構成が共に斜面の方向に沿わない、アプローチ・内部無方向型の構成である。Ⅳ-eは斜面から建築ヴォリュームが分離し、内部ではエントランスと主室が一体化する構成であり、斜面から独立して方向性のない内部構成をもつ、内部独立無方向パタンの構成であるといえる。

以上のように、斜面方向に対するアプローチの向きと、エントランスと主室の上下関係によって導かれる基本型に対して、内部一体下降パターン、水平通過パターン、内部独立無方向パターンといった構成パターンは、基本型の下降、上昇、水平、無方向といった構成上の性格を、室の連続関係、動線関係などによって内外に渡って表現するものといえ、各基本型の性格を強調したものと考えられる。

3-2 基本型と構成パタンの関係

3-1では斜面住宅の外部と内部の構成による4つの基本型と、基本型の性格を強調する5つの構成パターンを見出した。一方、基本型には含まれないが、条件の重なり方によって特徴的なイ、ロ、ハの構成を見出すことができた。イは、段差をもつ断面形状であり、斜面の上からアプローチし、エントランスの上に主室が配され内部構成が一体となり、アプローチ-エントランス-主室と斜面の方向に反して上昇していく断面構成である。ロは、フラットな断面形状で斜面の下からアプローチし、エントランスと主室が間仕切られて水平に配置される断面構成であり、これらは緩斜面(表3-4:勾配0,1)に多くみられる構成である。ハは、斜面の下からアプローチし、段差に応じた同規模の室が配される断面構成である。

これら特徴的なイ、ロ、ハの構成を、前節で得られたⅠ~Ⅳの基本型、基本型にお

表 4-4 外部構成および内部構成による住宅の断面構成

内部構成	エントランス(E)と主室(M)が異なる階にある				エントランス(E)と主室(M)が同一階にある(水平配置)	
	Eの下にM		Eの上にM		E,Mの下に階なし	E,Mの下に階あり
	Mの下に階なし	Mの下に階あり	Eの下に階なし	Eの下に階あり		
アプローチと接地性(外部構成)	Eの下にM		Eの上にM		E,Mの下に階なし	E,Mの下に階あり
上からアプローチ	I 103 (E=M)▲1Nv 61 (E/M)●▲1Nv 92 (E/M)●▲1		II 14 (E/M)0v 90 (E/M)●1N 46 (E/M)0Nc 49 (E/M)0c		C 3 (E=M)●▲1 55 (E/M)●2v 57 (E/M)●▲2v 68 (E≠M)●▲1*1v 41 (E=M)0v 4 (E=M)▲ON 19 (E=M)▲0v 22 (E=M)▲0v 59 (E=M)▲1v 63 (E≠M)▲1v 70 (E=M)▲0v 95 (E=M)▲0v 96 (E=M)▲1c	II 71 (E=M)●1v 84 (E≠M)1 89 (E/M)●▲1v 105 (E/M)●▲1 106 (E=M)●▲1N
アプローチが斜面に沿う	a 21 (E=M)▲1v 34 (E=M)▲1 60 (E=M)●▲1 81 (E=M)▲1v 17 (E/M)2v 31 (E/M)●▲1v 78 (E/M)▲1v		b 20 (E=M)●▲1v 66 (E=M)2v 72 (E=M)●2Nv 01 (E=M)●▲2c 38 (E/M)2N 99 (E/M)2c		イ 52 (E=M)1c 77 (E/M)●2v 104 (E=M)▲1Nc	d 74 (E=M)▲0v 76 (E≠M)0v 94 (E=M)1 6 (E/M)1v 12 (E=M)●▲1v 15 (E/M)▲1v 28 (E/M)1Nv 30 (E/M)1 33 (E/M)●▲2v 97 (E/M)▲1Nc
下からアプローチ	※1		III 80 (E/M)0c 27 (E/M)0 48 (E/M)0c 54 (E/M)▲0v 88 (E/M)0v 16 (E/M)182 (E/M)0v 24 (E/M)0c 37 (E/M)0c 39 (E/M)1 62 (E/M)1		III 7 (E=M)●0Nv 50 (E=M)▲1Nv 10 (E/M)1c 56 (E/M)0Nv 67 (E/M)▲0v 29 (U)0v 75 (E=M)0Nc 5 (U)▲1 26 (U)1v 87 (U)2N 11 (E=M)0 13 (E/M)2*2N	八 64 (E=M)1N 65 (E≠M)0Nv 85 (E=M)0v 86 (E=M)1v 73 (U)1v 98 (E/M)0v 44 (E/M)▲0Nv 51 (E=M)▲0v 53 (E/M)0v 58 (E/M)1
アプローチが斜面に沿わない(直交)	※2		IV 42 (E/M)1v 47 (E/M)0Nv 2 (E/M)▲1 23 (E=M)1v 69 (E=M)0Nv 9 (E=M)▲0v 18 (E=M)1 79 (E=M)0 83 (E≠M)1 36 (E/M)1		e 64 (E=M)1N 65 (E≠M)0Nv 85 (E=M)0v 86 (E=M)1v 73 (U)1v 98 (E/M)0v 44 (E/M)▲0Nv 51 (E=M)▲0v 53 (E/M)0v 58 (E/M)1	IV 69 (E=M)0Nv 9 (E=M)▲0v 18 (E=M)1 79 (E=M)0 83 (E≠M)1 36 (E/M)1
凡例	エントランス・主室の連続関係等 (E/M)エントランスと主室が分離 (E=M)エントランスと主室が一体 (E≠M)エントランスと主室が視覚的に一体 (U)同規模の室が戻復 ▲ 主室から斜面への出入口あり		接続手段 ● 地続きでアプローチ ● プリッジを介してアプローチ ■ 外付け階段を介してアプローチ		その他の敷地条件等 勾配 0 建物が建っている部分のレベル差が0~0.5層 1 建物が建っている部分のレベル差が0.5~1.5層 2 建物が建っている部分のレベル差が1.5層~ ※1 エントランスと主室が斜面の方向に対して横並びに配置 ※2 建物を回り込むようにアプローチ最短経路をとらない	

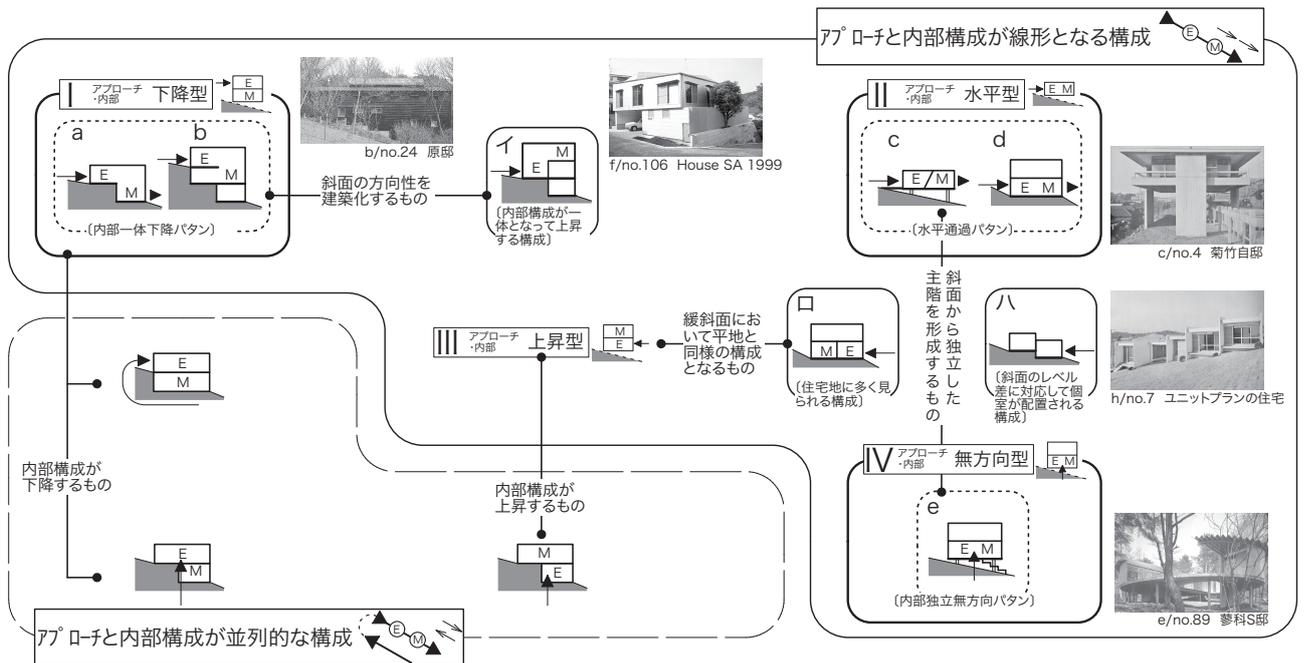


図 4-3 基本型と構成パターンの関係図

ける a～e の構成パターンとの相違により構成的性格を位置づけたものが図 4-3 である。a,b (内部一体下降パターン) とイはいずれも建築ヴォリュームに段差をもちつつ接地するものであるが、a,b は斜面に沿って上から入って下降するものであるのに対して、イは上から入ってさらに上昇することから、これらは内部構成の方向は逆行しているが、共に斜面の方向性を空間化した構成が成立しているものといえる。c (水平通過パターン) と e (内部独立無方向パターン) は、いずれも斜面から独立した建築ヴォリュームで同一階にエントランスと主室があることから斜面から独立した主階を形成するものであるといえる。基本型Ⅲ (アプローチ・内部上昇型) と口は共に緩勾配で、段差をもつ斜面、あるいは盛り土などによるフラットな部分をもつ斜面において下からアプローチするものである。こうした構成は、エントランスと主室が同一階にある構成や、エントランスの上に主室がある構成として、平地において多く見られる構成である。

以上を整理すると、傾斜地に建つ住宅には、ヴォリューム形状や室の配列によって斜面の方向性を建築化するあり方 (a,b, イ)、斜面を残して独立した建築ヴォリュームあるいは内部構成をつくることで斜面と建築の対比が表されるあり方 (c,e)、斜面の特性を捨象した平地と同様のあり方 (基本型Ⅲ, 口) という大きく3つのあり方として位置付けることができる。またこれらは、アプローチの方向や室配列といった外部と内部の構成が連動しながら、斜面特有である下降方向などの、ひとつの方向性に従って線形に統合される構成といえ、斜面という環境要素が内外に渡る全体構成を秩序付ける要素として取り入れられている。従って、このようなあり方を枠組みとして、斜面住宅の断面構成は成立しているといえる。

一方、本資料においては殆ど見られなかったが論理的に成立しうる断面構成として、斜面の下からアプローチし、エントランスの下に主室が配される構成 (表 4-4: ※ 1)、またアプローチが斜面と直交し、エントランスの上または下に主室が配される構成 (表 4-4: ※ 2) がある。これらは、アプローチの向きとエントランス-主室という内部の室の配列の方向が独立している構成であることから、例えば斜面の下の道路から建物を迂回するように斜面を登って上からアプローチするというように、

敷地の取付け道路と建物を結ぶ最も短いアプローチとは異なるものである。このような構成はアプローチで斜面全体を経験すると同時に、建築の外観と斜面の関係が多面的に表現されるものと思われる。

つまり、日本の住宅作品ではアプローチが道路からの最短経路をとり、その延長に内部構成が位置付くといった、線形的な統合関係を上位の枠組みとしながら典型的に構成が成立しているといえる。これらとは対極的な構成として、アプローチの方向が延長される内部構成ではなく、方向転換されるといった、外部と内部の構成が必ずしも連動しない並列的な方向性をもった全体構成を指摘することができる。このことは、総じて傾斜地における日本の住宅作品が斜面の方向に沿って外部と内部を連動させるという秩序のもと成立していることを示すと考えられる。

4 節 小結

以上、本章では、現代日本の傾斜地に建つ住宅作品における地面と建築のかたちとの対応関係を、斜面方向に対するアプローチの向き、建築ヴォリュームの接地性、接続方法といった外部構成と、エントランスと主室等の断面方向における配列、エントランスと主室の連続関係、主室から斜面への出入口の有無といった内部構成といった断面構成から検討した。その結果、斜面の方向にアプローチと内部構成が共に沿うもの（アプローチ・内部下降型）、斜面の方向に対してアプローチと内部構成が共に水平に配されるもの（アプローチ・内部水平型）、アプローチと内部構成が共に斜面の方向に逆らって上昇するもの（アプローチ・内部上昇型）、アプローチと内部構成が共に斜面の方向と関わらないもの（アプローチ・内部無方向型）という基本的な対応関係の図式（基本型）を導いた。さらに接地性、接続方法、連続関係、出入口の有無といった性格と、斜面の勾配、方位などの敷地条件を合わせて検討することで、共通する性格の重なり方から基本型の性格を強調するはたらきをもつ a～e の構成パターンと、基本型には含まれないその他の特徴的なイ～ハの構成を見出した。

これら基本型と構成パターンを比較検討した結果、斜面の方向性を建築化するあり方 (a,b,イ)、斜面と建築の対比が表されるあり方 (c,e)、斜面の特性を捨象した平地と同様のあり方 (基本型Ⅲ,ロ) といった大きく3つのあり方のうちに、「斜面住宅」における地面と建築のかたちの対応関係の性格を位置付けることが出来た。

それらは、外部と内部の構成が連動し、斜面の方向性に従って線形に統合されるという、ある種の合理的な秩序に基づくものであり、一方論理的に成立しうる構成として、これらとは対極的な、外部と内部が連動しない、各々異なる方向性が並列されるあり方が見出された。これらのことは、傾斜地における住宅の構成上の枠組みを相対化するものであり、斜面という環境要素と建築の新たな構成関係を創作する上での一助になり得るものと考えられる。

第4章 本文注

- 注1) 参考文献1では、「地形そのものがつくり出す魅力と、地形に適応した人工的環境の集積が生む魅力があり、そのふたつが重なり合って坂の景観を構成している」とあり、このような斜面環境の空間的特質として、変化、流動性、方向性、眺望、景観、環境条件、活気を取り上げている。本章は、斜面環境が有する空間特性である斜面に沿った方向性に着目することで、斜面と建築による空間構成を検討するものである。
- 注2) 例えば、ユニットプランの住宅（1963年、坂倉準三設計）では、建築ヴォリュームを沿わせた段状とすることで、斜面の勾配に平行な外観となっている。
- 注3) 例えば、スミス邸（1958年、クレイグ・エルウッド設計）では、斜面の上から建築にアプローチし、エントランス、リビングが斜面に対して水平に配され、斜面から浮いた位置に配されるリビングの眺望が斜面の方向に開かれる。
- 注4) 例えば、ビルディング・ワークショップ（1991年、レンゾ・ピアノ設計）では、斜面のレベル差に対応した段状の床面となっている。
- 注5) 本章では、建築が配置される傾斜地の部分において、断面においてレベルの変化を大まかに捉えられる方向を斜面方向とし、エントランスや主室などの内部構成に積極的に関わる斜面方向を、主たる斜面として扱っている。
- 注6) 本章では、斜面の上から下へ向かう方向性を、斜面の方向として扱っている。
- 注7) 斜面の下からアプローチし、回り込んで上側からエントランスに至るといった、アプローチによって斜面全体を移動するものが全106作品中1作品見られた。
- 注8) 本章では、床、壁、天井という実体の面がつくる境界によって切り取られる内部のヴォリュームを「室」とし、資料の図面および写真から判読しており、こうした室どうしの大きさの関係と斜面方向に対する位置の2つの側面から室の配列を検討している。
- 注9) 傾斜地においては、斜面のレベル差に対応して同規模の室が反復し、主室、他の室という分節によって捉えることのできないものが見られる。これらはいずれかの室がエントランスに付随してあり、エントランスと主室が同一階にあるものとして分類している。
- 注10) 基本型Ⅰ～Ⅳには全資料106作品中86作品が含まれる。

第4章 参考文献

- 1) 菊竹清訓 『斜面の構築』 「新建築」1979年7月 新建築社

第4章付表 資料リスト

No.発表号 作品名	No.発表号 作品名
1;sk5801;佐伯邸	54;jt9104;VILLA TOR
2;sk5809;傾斜地にたつ家	55;jt9108;美ヶ原高原の家
3;sk5901;菊竹自邸	56;jt9110;唐松林の家
4;sk6110;RIBI邸	57;jt9201;双極の家
5;sk6306;ユニットプランの住宅	58;jt9201;向原の家
6;sk6507;八幡野の週末住宅	59;jt9202;もうひとつのガラスの家
7;sk6508;T氏の山荘	60;jt9204;清水高原の家
8;sk6609;もみの木の家	61;jt9206;小諸の住宅
9;sk6701;山荘・もうびい・いっく	62;jt9207;目神山 TH邸
10;sk6804;石亀邸	63;jt9208;富士裾野の山荘
11;sk7101;未完の家	64;jt9212;海の家
12;sk7108;山中湖の家	65;jt9303;F山荘
13;sk7110;ブルーボックスハウス	66;jt9308;依山荘
14;sk7205;MOV山荘	67;jt9308;HIKIMA RESIDENCE
15;sk7205;画家の家	68;jt9310;ダブル・ルーフの家
16;sk7207;海の階段	69;jt9311;山中湖のガラス小屋
17;sk7209;粟津邸	70;jt9311;KAOK・ハヶ岳
18;sk7402;成城の住宅	71;jt9401;住居No.14 筑波黒の家
19;sk7504;山中湖のアトリエ	72;jt9401;南軽井沢の家
20;sk7508;山荘“T”	73;jt9402;北安曇の家
21;sk7509;原邸	74;jt9405;森の別荘
22;sk7510;谷川さんの住宅	75;jt9405;Barn-3
23;sk7604;Y邸	76;jt9405;H
24;sk7606;雪ヶ谷の住宅	77;jt9503;熱海のアトリエ住居
25;sk7702;回帰草庵	78;jt9503;ART HUT SD
26;sk7802;領壁の家	79;jt9504;志賀町の家
27;sk7803;住川邸	80;jt9508;N HOUSE
28;sk7808;伊東邸	81;jt9509;蓼科斜楼
29;sk7808;山川山荘	82;jt9512;砂色の木箱
30;sk7809;H邸	83;jt9601;青葉台の家
31;sk7810;糸島の住宅	84;jt9601;ISOBE STUDIO&RESIDENCE
32;sk7910;上田の住宅	85;jt9604;傾斜地の木箱
33;sk8101;花山第4の住宅	86;jt9607;蓼科S邸
34;sk8106;小篠邸	87;jt9608;太宰府の住宅
35;sk8108;湯の花の家	88;jt9701;那須の別荘
36;sk8204;笠間の家	89;jt9704;森の家
37;sk8211;藤井邸	90;jt9706;まんぼう1997
38;sk8310;肆木の家	91;jt9707;北巨摩シャレー
39;sk8312;ランド・シッブ 轡<イリス>	92;jt9708;ニラハウス
40;jt85春;浦崎の家	93;jt9708;箱根山荘
41;jt8605;ヴィラ森井	94;jt9711;壁のない家
42;jt8605;ハウス イン ヨコハマ	95;jt9712;読売メディア・ミヤギ・ゲ・ストハウス
43;jt8612;屋久島の家	96;jt9803;Y-HOUSE
44;jt8710;INSCRIPTION	97;jt9803;大町の家
45;jt8801;軽井沢の別荘	98;jt9804;山脇山荘
46;jt8806;葉山の家	99;jt9807;西宮苦楽園プロジェクト1期-I
47;jt8810;PLATFORM	100;jt9807;西宮苦楽園プロジェクト1期-II
48;jt8810;テンメイ・ハウス	101;jt9807;西宮苦楽園プロジェクト1期-III
49;jt8908;Transit	102;jt9807;西宮苦楽園プロジェクト1期-IV
50;jt8909;芹ヶ沢の山荘	103;jt9809;萌黄露台
51;jt9007;PLATFORM(監)	104;jt9908;HOUSE SA 1999
52;jt9008;阿品の家	105;jt9910;伊豆のキャンパス住居
53;jt9008;狐ヶ島の家	106;jt9911;鎌倉山の家

[掲載誌]sk:「新建築」誌, jt:「新建築住宅特集」誌

以上106作品

第5章 建築と敷地の図形的対応関係

1節 本章の目的と背景

2節 敷地の特性に対する建築の図形的な適合性からみた類型の分類

3節 適合性の分類において共通する類型の性格

4節 小結

1 節 本章の目的と概要

本論文は、2章～4章において、現代日本の住宅作品における敷地に関する物理的条件と建築の図形との対応関係について検討してきた。2章では、不整形な形状の敷地における敷地境界と平面輪郭との対応関係について適応関係と平行関係から検討を行い、続いて地面と建築の図形の対応関係として、3章において立面が街路に露出した道路境界となる敷地における住宅の立面と地面との関係を立面の形状と地面との連続関係から検討し、4章において傾斜地と住宅の断面構成の関係を外部構成と内部構成から検討を行った。そしてこれらの各章で得られた関係図式の類型は、局限化された敷地の条件が有する物理的な特性に対して、平面、立面、断面の図形といった建築の図形の各水準における対応関係を形成する、全体的あるいは断片的な操作の集積のあり方を見出すことによって位置づけられたものといえる。これは即ち、現代日本の住宅作品においては、建築と敷地の図形という、それぞれ独立した要素どうしを関係づける操作の組合せによって、敷地に対して建築の図形が馴染むあり方、また反対にそれらに対位的に並列するあり方やそのヴァリエーションといった、対応関係の多様な性格が意匠表現として成立していると考えられる^{注1)}。

そこで本章では、各章で得られた関係図式の類型および類型とはならないが特徴的なパターンとして取り上げた図式について総合的に比較検討を行うことにより、各章における対応関係の水準を横断して共通する類型の性格を検討することを通して、現代日本の住宅作品における建築と敷地の対応関係の図形的な枠組みを明らかにすることを目的とする。

本章の内容を概略すると、2節においては、局限化された敷地の物理的な特性に対する建築の対応関係の図形的な適合性の観点から各章における類型を横断的に分類し、3節においては、2節で分類された適合性の枠組みにおける類型間に共通する、操作の重ね合わせの性格について考察を行い、現代日本の住宅作品に特有の対応関係の枠組みとして位置づけを行う。4節では本章の小结を述べる。

2 節 敷地の特性に対する建築の図形的な適合性からみた類型の分類

本論文では、建築外の要素としての敷地と建築の図形との積極的な対応関係を抽出するために、不整形敷地、立面が街路に露出した道路境界、傾斜地といった、敷地の条件の局限化を行った。これら局限化の条件は、不整形な敷地境界の平面形状と建物の平面の図形、街路に面して露出することで構えを形成し社会性を伴う立面の図形、斜面の上方から下方へと向かう敷地の方向性と内外の建物の断面の図形といったように、2章～4章における対応関係の検討の枠組みを決定づける敷地の物理的な特性を有していると考えられることから、各章で得られた対応関係の図式とその類型の広がり、敷地の特性に対する建築の適合のあり方の広がりとして捉えることができると考えられる。そこで、本節では、2章～4章における類型を敷地の特性に対する適合性の観点から分類する^{注1)}。

敷地の特性に対する適合性は、各章の関係図式を位置づけるそれぞれ2水準^{注2)}の組合せから整理することができる(図5-1)。まず2章において、敷地境界に対して主従ヴォリュームの平面輪郭形状の適応関係があり、主ヴォリュームに関する平行関係が3辺以上である類型Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅹは、両水準共に敷地境界に準拠した関係図式であり、不整形な敷地境界の特性に対して建築の図形が「同調」した対応関係となる適合のあり方といえる。同様に3章における類型①-A、①-C、④-A、④-Cは、第一輪郭の形状が下部幅広の安定形であり、前面外構との素材の類似性を有することで、立面と地面との接続関係が強められる関係図式であり、前面外構との素材の類似性を有することで、立面と地面との接続関係が強められ「同調」した接地性のあり方である。また4章の基本型Ⅰは、外部構成と内部構成において主調となるアプローチの方向およびエントランスと主室の位置関係が、共に斜面の上方から下方へ向かう方向性と一致する関係図式であり、斜面の特性に建築の内・外の断面構成が「同調」したあり方といえる(図5-1.1)。

これらに対して、2章の類型Ⅶ、Ⅷ、Ⅸは、主従ヴォリュームに適応関係がみられず、主ヴォリュームに関する平行関係が1辺以下であり、両水準共に敷地境界への対応

が対立的な関係を取り結ぶ関係図式である。また3章の類型⑤-Iは、第一輪郭が下部幅狭の不安定形であり、素材の類似性がみられず、こちらも両水準において地面との接続関係が希薄な関係図式であり、さらに4章の基本型IVは、外部構成と内部構成の両水準で共に斜面の方向性から独立した関係図式であり、これらは何れも敷地の特性と建築の図形とが「対置」した適合のあり方といえる（図5-1.2）。

以上の「同調」あるいは「対置」に位置付く各章の類型は、関係図式を位置づける2水準がそれぞれ一致し、敷地の特性に対する適合性において強い性格を形成するものであるが、それらの関係が相反する両義的な関係図式も見いだされている（図5-1.3）。まず2章におけるパターンβは、主従ヴォリュームにおいて適応関係がみられるが平行関係は希薄なあり方であり、またパターンαは、主従ヴォリュームの適応関係と平行関係においては敷地への準拠がみられるものの、主ヴォリュームに関しては適応関係がみられないあり方である。即ち前者は適応関係と平行関係が相反し、後者は建築ヴォリュームの階層性において適応関係が相反するものであり、これらほどどちらも主従ヴォリュームの適応関係により全体的な形状の同調が図られつつも、前者においては平行関係が、後者においては主ヴォリュームの適応関係という部分における対置を含むあり方といえる（「相対化A」）。同様に3章の類型②-C、⑤-Cと4章の基本型II、構成イは、敷地の特性に対する形状の同調と部分における対置がみられる関係図式といえる。このうち、3章類型②-C、⑤-Cは、下部幅広の第一輪郭により地面との接続関係における安定性が図られるといった形状における同調と、前面外構との素材の類似性が無いことによる部分の対置といった相反が表現されたあり方であり、4章基本型IIは、斜面の方向にアプローチの向きが一致し、また構成イは、アプローチの向きおよび建築ヴォリュームの下面とも斜面に一致した外部構成に対して、内部構成は斜面と独立し、外部構成の同調と内部構成の対置といった関係の相反がみられるあり方である。

一方、前述の2章パターンα、および類型Vは、前者は主ヴォリュームにおける適応関係がなく、後者は主ヴォリューム・主従ヴォリューム共に適応関係がみられないが、どちらも3辺以上の平行関係を形成するものであり、形状の対置と部分の関

係における同調といった相対化の表現といえる（「相対化 B」）。同じく 3 章類型④-I は下部幅狭の不安定形の第一輪郭に対して素材の類似性がみられることで、2 章パターン α 、類型 V と同様に形状の対置と部分における同調が表現されているあり方といえる。

以上、本節では、局限化された敷地の物理的な特性に対する建築の図形的な適合性の観点から各章における類型を横断的に検討し、「同調」、「対置」、「相対化 A」、「相対化 B」の 4 分類に位置づけた。

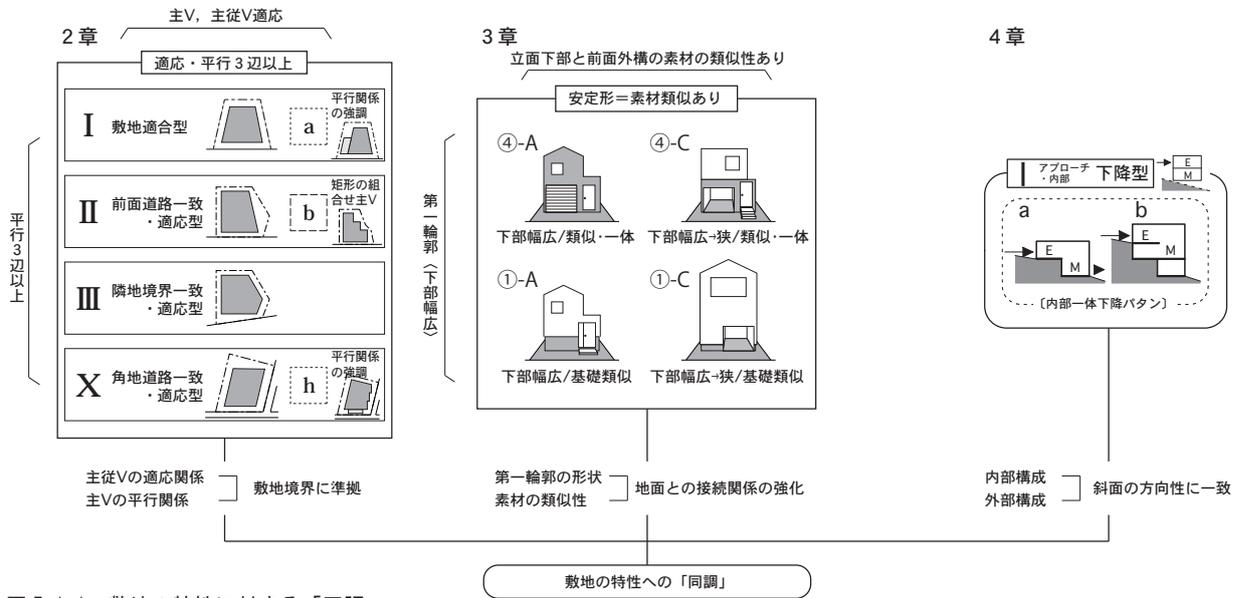


図 5-1.1 敷地の特性に対する「同調」

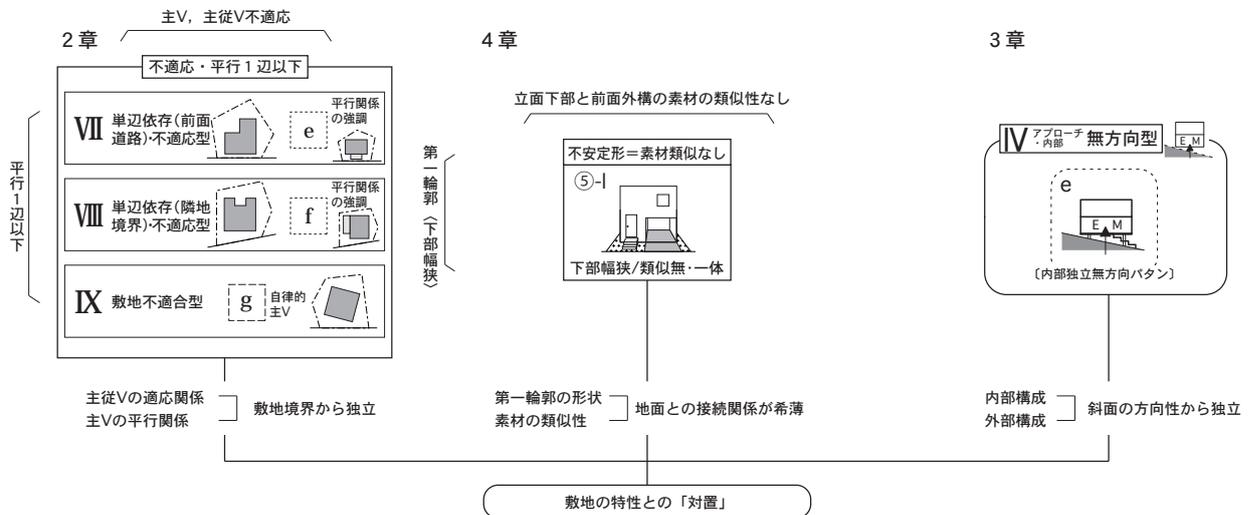


図 5-1.2 敷地の特性に対する「対置」

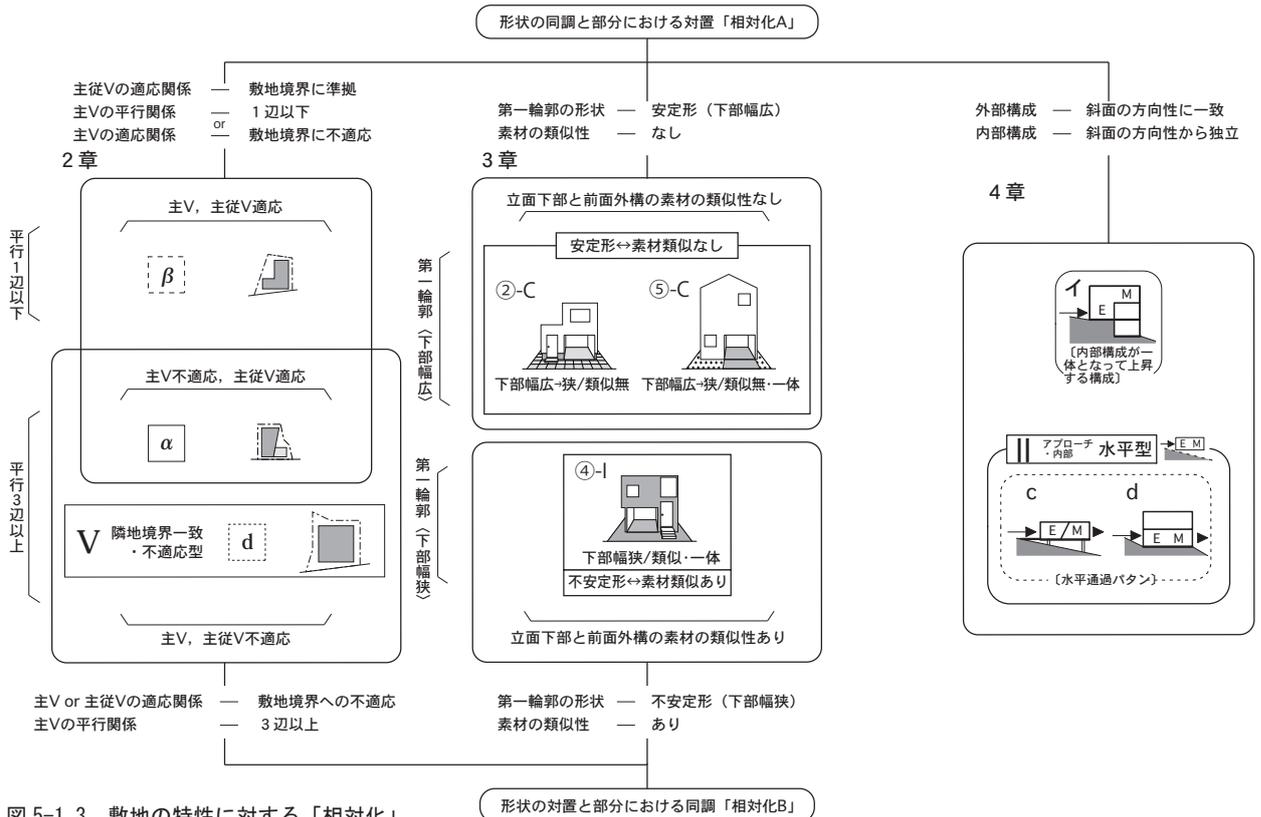


図 5-1.3 敷地の特性に対する「相対化」

図 5-1 敷地の特性に対する建築の図形的な適合性

3節 適合性の分類において共通する類型の性格

本節では、前節で位置づけた敷地の特性に対する建築の図形的な適合性の各分類ごとに、各章の類型および特徴的なパターン間における性格の共通性を検討する。ここでは、各章における関係図式の類型の位置づけに関わり対応関係の主調を形成する水準と、類型の性格の特徴づけに関わる水準との関係を検討することから、敷地と建築との対応関係における図形的な操作の重ね合わせによる性格の考察を行い、現代日本の住宅作品に特有の枠組みを考察する^{注1)} (図5-2)。

まず、「同調」の適合性に位置づいた類型のうち、2章類型Ⅱ、Ⅲは、主ヴォリュームに関する適応関係と平行関係によって、また3章類型①-A、④-Aは、第一輪郭の形状と素材の類似性によって、不整形な敷地境界とそれに沿った主ヴォリュームの平面輪郭(2章類型Ⅱ、Ⅲ)、安定形の第一輪郭の素材が前面外構に連続する(3章類型①-A、④-A)といったように、何れも、類型の枠組みを形成する各2水準の一致により敷地の特性との同調が一意的なあり方といえる。一方、2章パターンI-a、X-h、および4章構成パターンI-a、I-bは、何れも敷地と同調した類型の性格が建築の部分的な対応により強調されるあり方といえ、このうち前者は従ヴォリュームにより主ヴォリュームの平行関係が強調され、例えば前面道路に平行な平面輪郭の前面にポーチなどのヴォリュームが付随的に取り付き段階的な構えを形成する(2章パターンX-h)などといったものであり、後者は建築下面の形状が段差を伴うことで斜面の方向性に沿った外部構成の対応関係を強調し、斜面と密着した対応となるあり方である。さらに、3章類型①-C、④-Cは安定形の第一輪郭と素材の類似性といった接続関係に関する対応の一致に対して、ビルトイン形式の車庫などによって立面下部が欠き取られることで第二輪郭が不安定形となり、違反する関係図式であり、類型の主調を形成する枠組みにおける部分的な対応による調整が、両義的な性格の形成に働きかけるあり方といえる。

次に、「対置」の適合性に位置付いた類型のうち、2章類型Ⅸは、適応関係と平行関係が共にみられないことから、また3章類型⑤-Iは、不安定形の第一輪郭で且つ素材の類似性がみられないことから、どちらも敷地の特性と建築の図形との対置

が類型の形成に関わる2水準の一致により決定づけられる一意的なあり方といえる。一方、4章構成パターンIV-eは、外部構成における斜面との独立性が斜面から分離した建築下面の形状という部分的な対応により強調されるあり方である。さらに、2章パターンVII-e, VIII-fは、適応関係と平行関係が共に敷地境界と対立的な関係となる各類型において、道路境界のみ、あるいは隣地境界1辺のみといった局所への依存的な平行関係が従ヴォリュームにより強調され、前面道路に面した構えや、またある一辺の隣地境界に沿うように建築ヴォリュームを配置することで他の境界に面しては外部空間が確保されるといったあり方を補強するものであり、敷地の特性との対置的な性格に部分の調整が重ねられるあり方といえる。

さらに、「相対化」の適合性に位置付いた類型では、2章類型V、パターンβ、および3章類型④-Iが、それぞれ、主Vに関する適応関係と平行関係の相反、および第一輪郭の形状と素材の類似性の相反といった、類型の枠組みを形成する各2水準の相反により位置付く性格が一意的なあり方といえる。不整形な敷地境界に対して平行関係を保ちつつ矩形の平面輪郭を配置するもの（2章類型V）や、接地幅が狭い不安定形の立面の素材が前面外構と類似するもの（3章類型④-I）といった例が挙げられる。一方、2章パターンαは、主ヴォリュームの適応関係が従ヴォリュームが加わることで補完され、全体としては敷地に適応するようになるものであり、また4章構成イは、建築下面の形状が段差を伴うことにより斜面に対する外部構成の対応が強化されるものであり、共に部分の働きによって敷地との対応関係が同調的な性格へと調整されるあり方といえる。さらに、3章類型②-C, ⑤-Cは、不安定形の第二輪郭という部分により、互いに素材が異なる立面と地面との分節が強調され、敷地と対置した性格へと調整されるあり方といえる。同様に、4章構成パターンII-cは、主室とエントランスが水平に配されることによる内部構成の斜面からの独立性が、斜面から分離した建築下面の形状によって強調されるものであり、敷地との対置した性格へと部分の調整がなされるあり方といえる。

以上より、建築と敷地の図形的な水準での対応関係の枠組みは、類型の主調を形成する各水準の一致あるいは相反により敷地の特性との同調、対置、相対化といっ

た性格が一意的となるあり方に対して、従ヴォリューム（2章）や第二輪郭の形状（3章）、斜面と建築ヴォリュームの下面の形状（4章）といった、各類型を特徴づける部分の働きにより、その性格が強調されるあり方と、適合性の各分類を縦断して対応関係が調整されるあり方が見いだされた。さらに、部分の働きによる調整のあり方の傾向として、対立から調和へ（2章：敷地境界と平面の図形）、調和から対立へ（3章：地面と立面の図形）といった、適合性の両極への調整が一方向に働く傾向と、相対化から調和および対立へと向かう双方向の調整の傾向（4章：地面と断面の図形）が明らかとなった（図5-3）。これは即ち、必ずしもそのものを一望することのできない平面の図形の水準においては、第一段階の操作において敷地と建築とが対置した性格に対して重ね合わせられる第二段階の操作として、従ヴォリュームが適応関係や平行関係を補完するなどの部分の働きにより、敷地に対応して建築の図形を馴染ませるといった傾向を示すものといえ、また、視覚的に捉えることが可能な立面の図形の水準においては、平面とは対照的に、第一段階の操作において第一輪郭の形状の安定性や前面外構との素材の類似性の組合せにおいて同調した性格に対して、第二段階の操作においては不安定形の第二輪郭という部分の働きが重ね合わせられることにより、安定形の第一輪郭との対比が表現される傾向があることを示していると考えられる。さらに、断面の図形の水準においては、斜面に沿わせる、あるいは独立させる、といった第一段階の対応関係の性格が強く作用し、建築ヴォリュームの下面の形状による部分による第二段階の操作の重ね合わせにおいても、同調および対置の両極への集約が図られる傾向があることを示すものと考えられる。

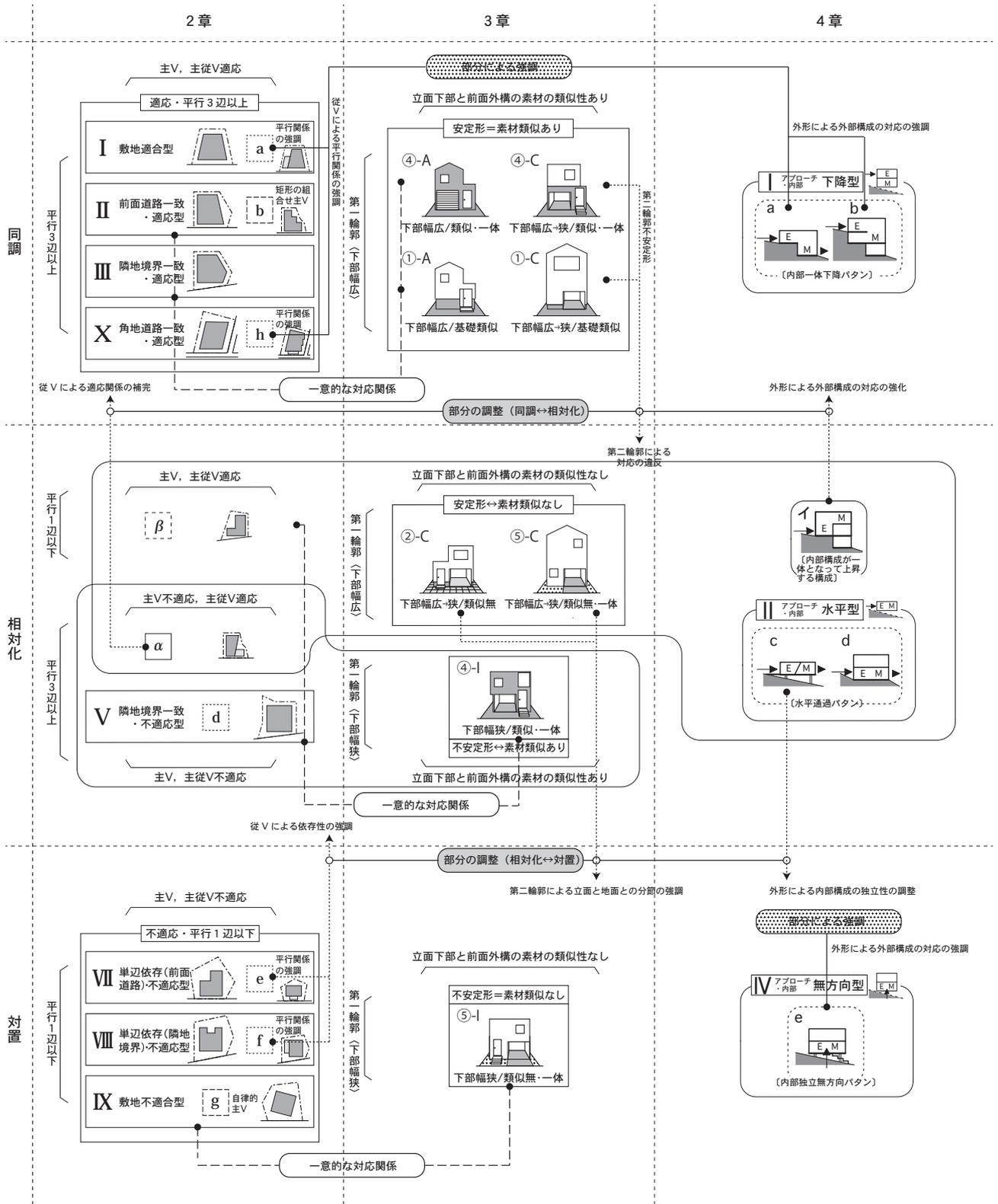


図 5-2 類型およびパターンにおいて共通する性格

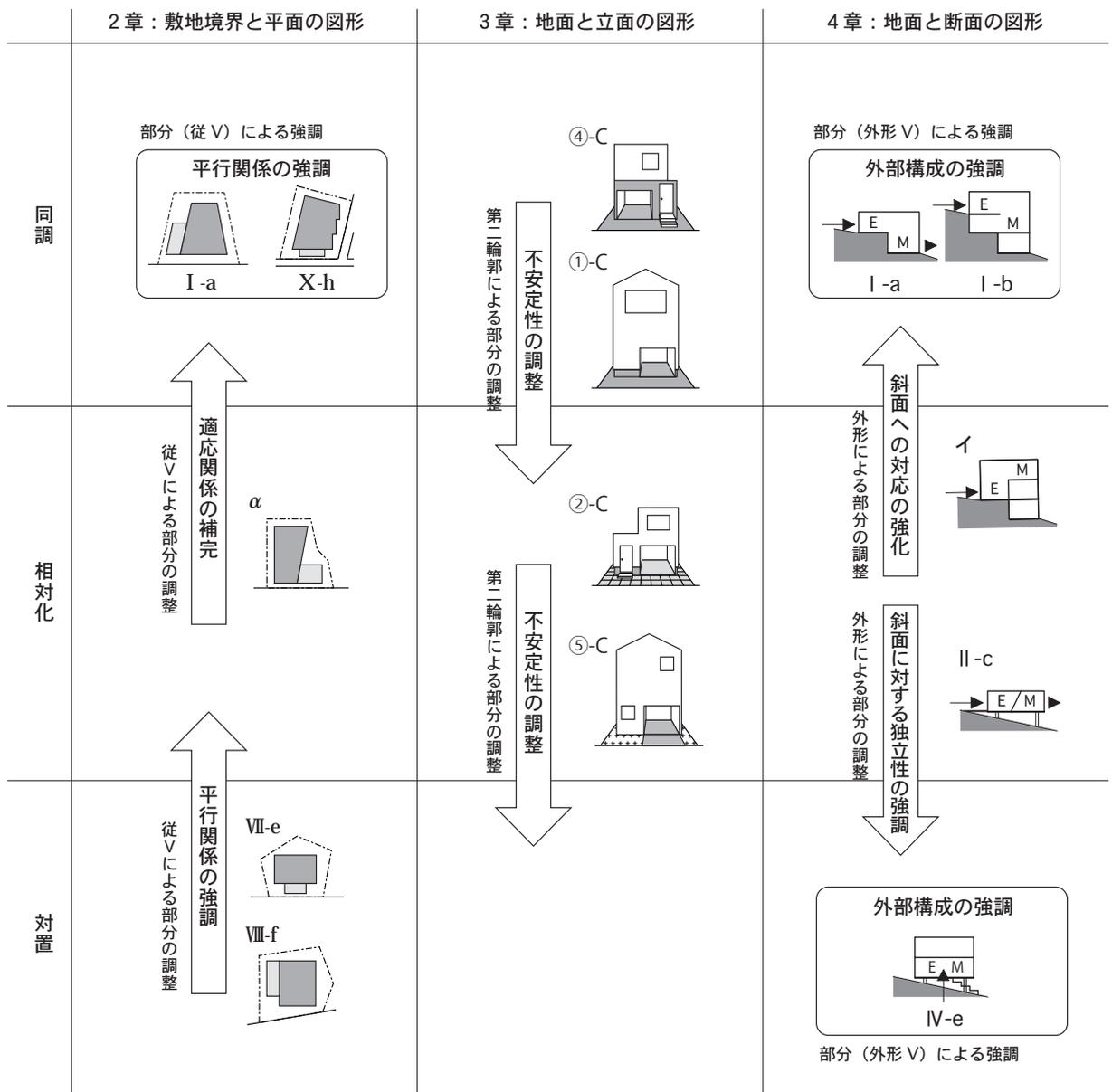


図 5-3 部分の働きによる適合関係に関する性格の強調と調整

4 節 小結

本章では、2章～4章の各章で得られた類型および特徴的なパターンを、局限化された敷地の条件が有する物理的な特性に対する建築の図形的な適合性の観点から横断的に分類し、さらに、各章の類型の位置づけに関わり対応関係の主調を形成する水準の関係、および各類型とパターンの特徴づけに関わる水準の関係を検討することから、類型間に共通する性格を考察した。

その結果、適合性の観点による分類では、敷地の特性に対して「同調」した対応関係となる適合のあり方（2章類型Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ，Ⅹ、3章類型①-A，①-C，④-A，④-C、4章基本型Ⅰ）、「対置」するあり方（2章類型Ⅶ，Ⅷ，Ⅸ、3章類型⑤-I、4章基本型Ⅳ）、敷地との対応関係に関する水準が相反する関係を取り結び、形状の調和と部分の関係における対立が表現されるあり方（「相対化A」：2章パターン α ， β 、3章類型②-C，⑤-C、4章基本型Ⅱ，構成Ⅰ）、敷地との形状的な対立と部分における調和が表現されたあり方（「相対化B」：2章パターン α ，類型Ⅴ、3章類型④-I）という4つのあり方に整理できた。さらに、適合性の各分類における類型間に共通する性格として、敷地に対する対応関係が類型の主調を構成する水準の組合せにより同調、対置、相対化といった性格が一意的となるあり方（同調：2章類型Ⅱ，Ⅲ、3章類型①-A，④-A / 対置：2章Ⅸ、3章類型⑤-I / 相対化A，B：2章類型Ⅴ，パターン β ，3章類型④-I）、部分の働きにより適合性に関する性格が強調されるあり方（同調：2章パターンⅠ-a，Ⅹ-h、4章構成パターンⅠ-a，Ⅰ-b / 対置：4章構成パターンⅣ-e）、さらに部分の働きにより適合性に関する性格が調整されるあり方（同調：3章類型①-C，④-C / 対置：2章パターンⅦ-e，Ⅷ-f / 相対化A，B：2章パターン α ，3章類型②-C，⑤-C、4章構成Ⅰ，構成パターンⅡ-c）といった大きく3つの性格が見いだされた。さらに、平面、立面、断面の図形の各水準における傾向として、平面の図形の水準においては、従ヴォリュームにより敷地境界の形状との同調に働く傾向が、また、立面の図形の水準においては、第二輪郭の形状により地面と建築の図形との対置へと働く傾向が、さらに、断面の図形の水準においては、建築ヴォ

リウム下面の形状により同調と対置の両極へと働く傾向が得られた。

このことは、現代日本の住宅作品における建築と敷地の図形的な対応関係の類型の枠組みとして、同調と対置を両極としつつ、断片的な部分の操作の重なりによる強調や調整の働きによって、対応関係の多様なあり方が位置付き、特徴的な性格が形成されていることを示すものと考えられる。

なお、現実の敷地において建築は、敷地が面する方位や日射、道路斜線や日影などの建物の外形に関わる法的規制、敷地内の既存樹木との位置関係といった、様々な制約や条件を担って成立している。これらは本論文において扱ってきた建築の平面、立面、断面の図形との対応関係、およびその関係図式のタイプの位置づけに少なからず関与している可能性も考えられる。方位を例とするならば、平面においては、南に向いた敷地境界線に対して平面輪郭線をセットバックすることで庭と内部への採光を確保し、一方道路境界に対しては平行な構えを形成するなどといった場合は、道路境界線を基準とする平面輪郭線が得られるであろう。また、立面においては、北向きに接道している場合は、敷地の奥側に庭を確保できるゆとりがあるならば、そこに主要な開口を向け、道路に面しては開口を設けないという選択も考えられる。断面においても、南下がりの斜面の場合に、北側からアプローチし、斜面を下るように床を配することで、内部において採光と同時に南向きの眺望を得ることが考えられる^{注3)}。本論文では、建築の構成や形態を構想する、その原初における物理的な対応関係として、敷地と建築との図形的な関係を抽出することに意図を置き、それらの制約や条件を一旦除外している。しかし、ここで得られた関係図式やその構造的な枠組みは、上述した様々な制約や条件に対する具体的な対応の重なりによってかたちづくられる建築の全体形の想起に結びつく主調を示すものと考えられ、同調や対置、それを強調し、調整する対応関係は、その上に集積する様々な対応関係を含み込むものと考えている。

第5章 本文注

- 注1) 参考文献1において、R・ヴェンチューリは、ヴィラ・ピグナテッリ (Villa Pignatelli, S. Giorgio a Cremano) とヴィラ・パロンバ (Villa Palomba, Torre del Greco) のファサードを比較し、「前者のファサードにおいては、各々の要素相互間の折り合いやつじつま合わせが図られた結果、対立性（を含んだ諸要素）は調整されている。後者のファサードにおいては、各々の要素は対比的で、幾重にも重ねられて、接近しているので、対立性（を含んだ諸要素）はそのまま並置されている。」と述べ、異なる要因によって規定される部分の形態同士の関係を例に、同時に存在する要素間の対立性のヴァリエーションとして、変化に合わせた“調整”と対比的なもの“並置”を指摘している。本章は、これを参照すると同時に、敷地と建築の図形という具体的な要素間の物理的な関係を問題とすることにより、2節において、2～4章で得られた対応関係の性格の分類を行っている。さらに、3節において、対応関係の性格を特徴づける操作の重ね合わせに着目し、対応関係の枠組みを構造的に位置づけている。
- 注2) 2章～4章の各章において関係図式の位置づけに関わる2水準とは、それぞれ、主従ヴォリュームの適応関係および主ヴォリュームの平行関係（2章）、第一輪郭の安定性および立面と前面外構との素材の類似性（3章）、斜面に対するアプローチの向きおよび主室とエントランスの上下関係（4章）を指す。
- 注3) 第4章においては、表4-4において断面構成と斜面の方位との関係についての検討を行ったが、基本型や構成パターン、特徴的な構成として得られた関係図式において、大きな傾向は得られなかった。このことは、斜面と建築の図形との対応関係においては、斜面の上下の方向性が、より主調的な関係の形成に働くことを示唆するものと考えられる。

第5章 参考文献

- 1) R・ヴェンチューリ / 伊藤公文訳：建築の多様性と対立性 SD 選書、鹿島出版会、1982.11

第 6 章 結論

本論文は、2章から4章に渡り、現代日本の住宅作品を対象として、建築の構成に作用する外的な要素として敷地を能動的に捉え、建築の図形との相補的な関係を検討してきた。本章では、各章において明らかとなった成果を総括し、結論とする。

第2章「敷地境界との関係にみる住宅作品の平面輪郭」では、敷地境界と建築の平面の図形の対応関係について、不整形な形状の敷地に建つ住宅作品を対象に、敷地境界の形状に対する平面輪郭の適応関係と、敷地境界線と平面輪郭線の平行関係といった全体的関係と部分的関係から検討を行った。そしてこれら2水準を組み合わせることより、敷地境界と平面輪郭との関係図式の類型と類型内において特徴的なパターン、さらに類型化されないが各類型における適応関係と平行関係の組合せを相対化する特徴的なパターンを抽出し、それら類型およびパターン間の関係について考察を行った。

その結果、全体的関係と部分的関係の一致によるものが類型の大半を占め、そこから、〈適応関係と平行関係の敷地境界への対応が共に調和的なあり方〉、〈適応関係と平行関係が共に対立的なあり方〉といった性格が見いだされた。また、これらとは対比的な性格として、〈全体的関係と部分的関係が一致しないあり方〉、〈従ヴォリュームが主ヴォリュームの適応関係を補完するあり方〉といった性格も位置づけることができた。

第3章「住宅作品における立面の接地性」では、地面と建築の立面の図形の対応関係として、立面が街路に露出し3方を隣家に囲まれた住宅を対象に、プロポーションと幅の変化による第一輪郭と開口の配置による第二輪郭といった立面の形状の検討から輪郭パターンを位置づけ、さらに立面下部と前面外構の形態や素材、連続要素による連続関係の検討から連続モデルを位置づけた。そしてこれらの重ね合わせにより、立面と地面との接続関係の図式の類型を導き、その性格の考察を行った。

その結果、立面の形状の安定性と素材の類似性が《共に対応あるいは非対応となる》あり方、およびそれらの対応が《相反するあり方》といった2つの対比的な性格に

類型の大半が位置づき、さらに前者においては立面と地面との〈接続関係が強められるあり方〉、〈接続関係が希薄なあり方〉、また後者においては〈不安定な形状でありつつも素材の類似性を有するあり方〉、〈安定した形状でありながら素材の類似性がみられないあり方〉といった、それぞれ互いに対極的な性格に整理することができた。

第4章「傾斜地における住宅作品の断面構成」では、地面と建築の断面の図形の対応関係について、傾斜地に建つ住宅を対象に、斜面方向に対する建物へのアプローチの関係、および建築ヴォリュームと地面との接触に関わる断面形状による外部構成と、内部におけるエントランスと主室等の断面における配列による内部構成の2水準から検討を行った。そしてこれらの重ね合わせから、傾斜地形と断面構成の関係図式の基本型、および基本型を特徴づける構成パターン、類型には含まれないが特徴的な構成を導き、それらの関係の考察を行った。

その結果、〈斜面の方向性を建築化するあり方〉、〈斜面と建築の対比が表されるあり方〉、〈斜面の特性を捨象した平地と同様のあり方〉といった、外部と内部の構成が連動し、斜面の方向性に従って線形に統合されるある種の合理性に基づく3つのあり方を見いだすことができた。

第5章「建築と敷地の図形的対応関係」では、2章から4章で得られた類型を比較検討することにより、局限化された敷地の物理的な特性に対する建築の図形的な適合性の観点から各章で得られた類型を横断的に分類し、さらに各分類において類型間に共通する性格について考察を行った。

その結果、まず、適合性の観点による分類として、各章において類型の位置づけに関わる対応関係の主調を形成する2水準の関係を検討することより、両水準の対応が一致することで敷地の特性に対して「同調」するあり方、両水準共に敷地の特性に対して独立的なあり方となる「対置」、さらに両義的な適合のあり方として、両水準が相反する関係を取り結び、形状の同調と部分における対置が表現される「相

対化 A)、敷地との形状の対置と部分における同調が表現される「相対化 B」といった4つのあり方に整理できた。

次に、適合性の各分類において類型間に共通する性格として、〈類型の主調を形成する水準の組合せにより同調、対置、相対化といった性格が一意的となるあり方〉、〈部分の働きにより適合性に関する性格が強調されるあり方〉、〈部分の働きにより適合性に関する性格が調整されるあり方〉といった3つの性格を見いだした。さらに、平面、立面、断面の図形の各水準における部分の働きの傾向の検討により、平面では従ヴォリュームにより敷地境界の形状との同調に働く傾向が、また、立面では第二輪郭の形状により地面と建築の図形との対置へと働く傾向が、さらに、断面では建築ヴォリューム下面の形状により同調と対置の両極へと働く傾向が得られた。

このことは、現代日本の住宅作品において、調和と対立を両極としつつ、部分の操作の重なりによって特徴づけられる建築と敷地の図形的な対応関係の枠組みが成立していることを示すものと考えられる。

以上、現代日本の住宅作品における建築と敷地の図形的対応関係を、局限化された敷地の物理的条件と建築との実体的な関係として捉え検討してきた。敷地を建築の構成に作用する外的な要素と位置づけ、建築と一体的に取り結ばれる関係を捉える本研究の成果は、建築を取り巻くより広範な物理的環境との間に形成される相互的な関係によって特徴づけられる建築の形態や構成の成立の可能性を示唆するものと考えられる。

関連論文目録

<本論文に関連する審査論文>

- ・ 遠藤康一、寺内美紀子、坂本一成：
傾斜地における住宅建築の断面構成 - 建築と周辺環境による空間構成に関する研究
日本建築学会計画系論文集 第 561 号、pp.145-150、2002.11
- ・ 遠藤康一、塩崎太伸、奥山信一：
敷地境界との関係にみる不整形敷地に建つ住宅作品の平面輪郭 - 建築と敷地の対応関係に関する研究 -
日本建築学会計画系論文集 第 709 号、pp.579-589、2015.3
- ・ 遠藤康一、大嶽陽徳、塩崎太伸、奥山信一：
現代日本の住宅作品における立面の接地性 - 建築と地面の接続関係に関する研究
日本建築学会計画系論文集 第 733 号、pp.625-633、2017.3

<本論文に関連する口頭発表論文>

- ・ 遠藤康一、坂本一成、小川次郎、寺内美紀子、足立真、貝島桃代：傾斜地における現代日本の住宅作品の断面構成 日本建築学会大会学術講演梗概集（九州）F-2、pp.547-548、1998.9
- ・ 本橋良介、坂本一成、遠藤康一、中井邦夫、足立真、安森亮雄、久野靖広、岡村航太：敷地形状との関係からみた住宅作品の平面輪郭 日本建築学会大会学術講演梗概集（東海）F-2、pp.361-362、2003.9
- ・ 大嶽陽徳、遠藤康一、阿部沙佳、塩崎太伸、奥山信一：現代日本の住宅作品の立面における壁面の形状と開口の配置 - 建築と大地の接続関係に関する研究 (1) 日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）DVD、pp.417-418、2014.9
- ・ 遠藤康一、大嶽陽徳、阿部沙佳、塩崎太伸、奥山信一：立面の構成および前面外構との連続関係からみる建築の接地性 - 建築と大地の接続関係に関する研究 (2) 日本建築学会大会学術講演梗概集（近畿）DVD、pp.419-420、2014.9
- ・ 塩崎太伸、遠藤康一、奥山信一：敷地境界と平面輪郭の対応関係 - 不整形敷地に建つ現代日本の住宅作品の平面輪郭に関する研究 (1) 日本建築学会学術講演梗概集（関東）DVD、pp.427-428、2015.9
- ・ 遠藤康一、塩崎太伸、奥山信一：敷地境界と平面輪郭の関係図式 - 不整形敷地に建つ現代日本の住宅作品の平面輪郭に関する研究 (2) 日本建築学会学術講演梗概集（関東）DVD、pp.429-430、2015.9

<その他の口頭発表論文>

- 48 編 日本建築学会大会学術講演梗概集（共著）

謝辞

私は、東京工業大学で学部から大学院まで建築を学んだ後の、この約10年間で東京工業大学の博物館で過ごしてきました。博物館は、調査や研究から素材としての資料に潜む新たな価値を論理的に導くと同時に、展示やワークショップなどといったかたちある姿への変容の作業を通して、その価値の共有を社会的に試みる場所、つまり論理と実践とが一体となったものづくりの現場といえます。一方では建築の研究と設計を生業とする私のなかにおいて、この論理と実践が不可分なものづくりであるという一点において、両者は、矛盾無くほぼ同一の意味を形成しています。

この論文は、建築空間の操作において普遍性をもつ枠組みを新たに位置づける試みとして、私が学生時代からもち続けてきたテーマを発展させ、まとめたものです。論理と実践の不可分を唱えつつも、博物館での慌ただしい日常の中でやや実務への偏向が否めなかった私に対して、論文をまとめる機会と共に多大なるご助言をいただいた、東京工業大学環境・社会理工学院の奥山信一教授には、執筆に際しても度重なるご指導を賜り、論理性と建築設計における実感とが一致したなかに新たな認識を生み出すことの重要性を学ばせていただいております。また、友人として多くの助言と激励をいただいた同学院の塩崎太伸准教授には、2節、4節の、宇都宮大学の大嶽陽徳助教には、4節のもととなる論の共同研究者として、論理の構築に関わる議論に長い時間を割いていただきました。

また、このテーマをもち続ける最初のきっかけを下さったのは、学生時代長きにわたって指導を賜った師匠である同大学院の坂本一成名誉教授でした。坂本先生には、論文を指導していただいただけでなく、研究室における設計プロジェクトの実務の担当や、現在の博物館での仕事に連続する展覧会のデザインやマネジメントを担当させていただくことを通じて、建築論と建築設計両面における私自身の営みの根底部分の形成に現在に至るまで多大なる影響をいただいております。同時に、坂本研究室に所属していた際の諸先輩方の教えと、後輩方々との昼夜の境無く交わした議論は、この論文において用いている建築的な言語の基礎かたちづくっていると思います。私が大学院に在籍していた当時に助手（助教）をされていた先輩である、

信州大学の寺内美紀子准教授には、3節のもととなる論の共同研究者として、同じく神奈川大学の中井邦夫教授、日本工業大学の足立真教授、宇都宮大学の安森亮雄准教授には、現在に至るまで叱咤激励と折々の局面において助言を賜りました。また、坂本研究室の先輩である久野靖広氏(アトリエ・アンド・アイ)と後輩の岡村航太氏(8d一級建築士事務所)とは、互いの設計活動を始めるにあたり協働し、先輩や後輩という垣根を越えて論理と実践の一体化への試みの辛苦を共に経験させていただきました。

最後に、業務の傍らでこの論文をまとめることにご理解を賜り、過大な環境を与えて下さった、東京工業大学博物館の亀井宏行教授、道家達将特命教授、広瀬茂久特命教授、阿児雄之特任講師をはじめとするスタッフの方々には、感謝の念に堪えません。ものづくりの価値の多様化を受け止め、発信を推し進めるべき存在である工業大学の博物館は、グローバル化や卓越性といったファッションナブルなスローガンの語義に反して、ともすれば狭い視野に陥りかねない現代の大学や研究機関、ものづくりの現場が置かれる状況において、実践の中に意味を問うことの出来る数少ない存在といえます。建築という専門的な視座と、広くものづくりに関する普遍性を見出そうとする視座という両面から思考することで、私のなかにおいても初めて論理と実践に関する実感を得ることができるようになってきたと思っています。その他、ここまでの研究や設計、博物館での活動においてお世話になった全ての方々に、心より感謝の意を表します。

2017年3月 遠藤康一

資料編

- 第2章 敷地境界との関係にみる住宅作品の平面輪郭
- 第3章 住宅作品における立面の接地性
- 第4章 傾斜地における住宅作品の断面構成

第2章 敷地境界との関係にみる住宅作品の平面輪郭（全141資料）

凡例



平面図
写真
など

資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係 主V_主従V	道路境界数	平行数 (道路)	平行数 (隣地)	みられた 近似/変形	従Vの 平行関係	平行関係 の傾向	関係図式 の種類
				形状	大小関係									
141	jt9908	House SA 1999	え(*)	付加	あり	カ	u_w	1	平行	1		<<		

表 2-1

表 2-2

表 2-3

表 2-4

表 2-5

表 2-6

表 2-7

表 2-8

表 2-7

表 2-9

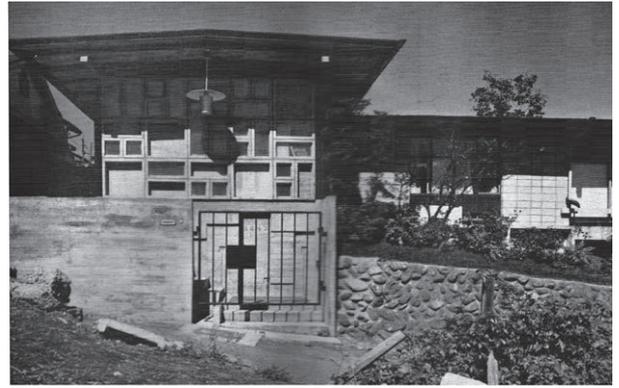
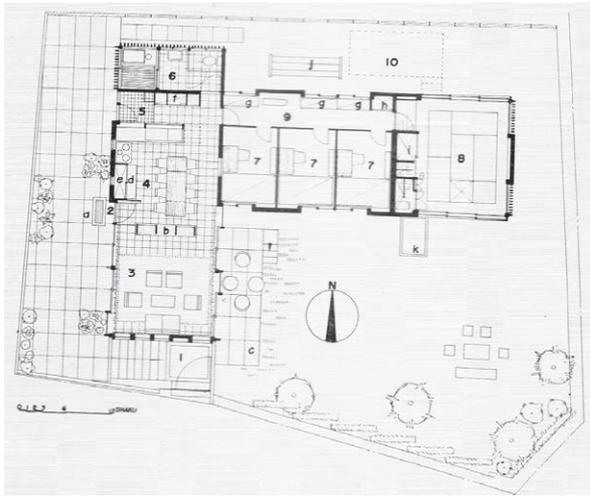
表 2-10

図 2-5

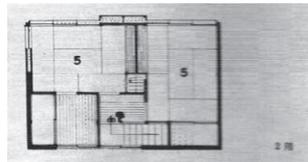
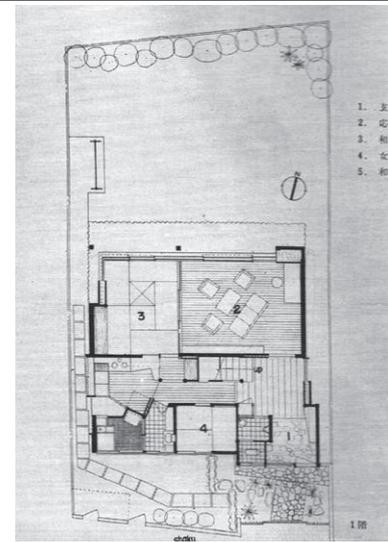
2節

3節

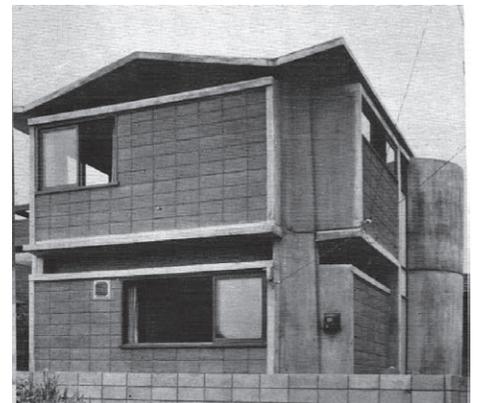
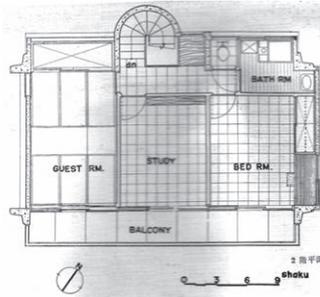
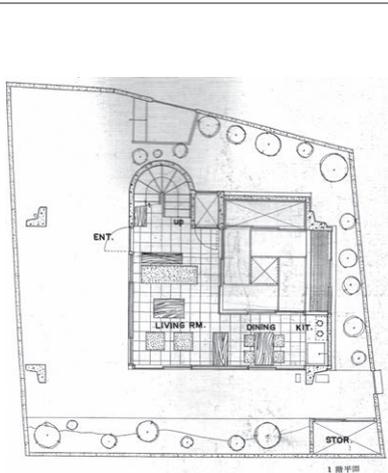
4節



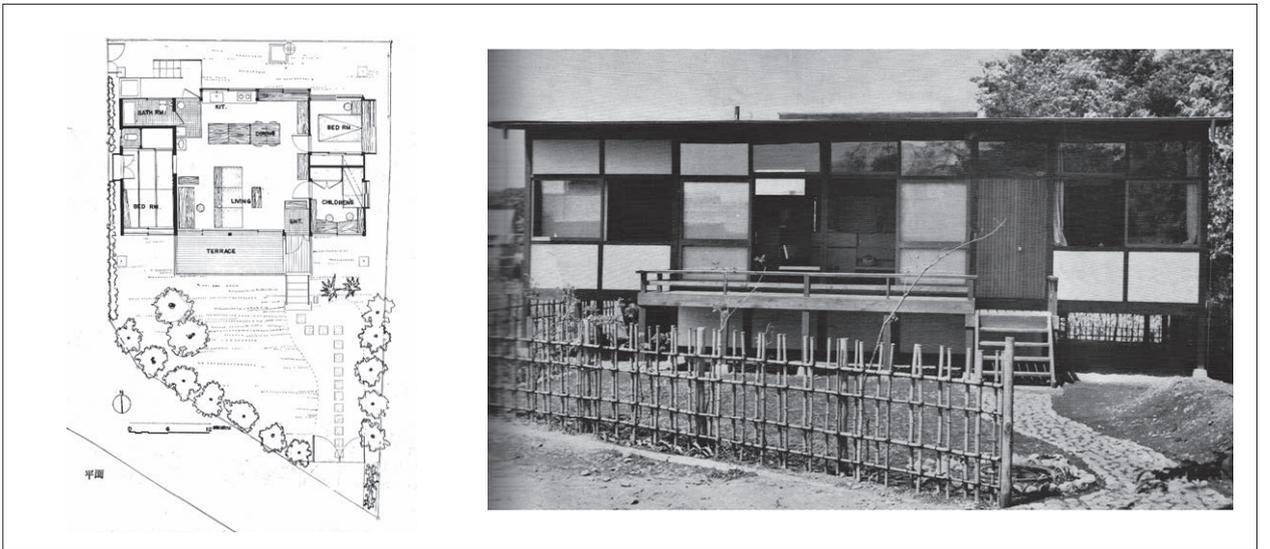
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
1	sk5711	丘上の住宅	お(*)	単体	なし	ウ	u	1	0	1			G	VIII



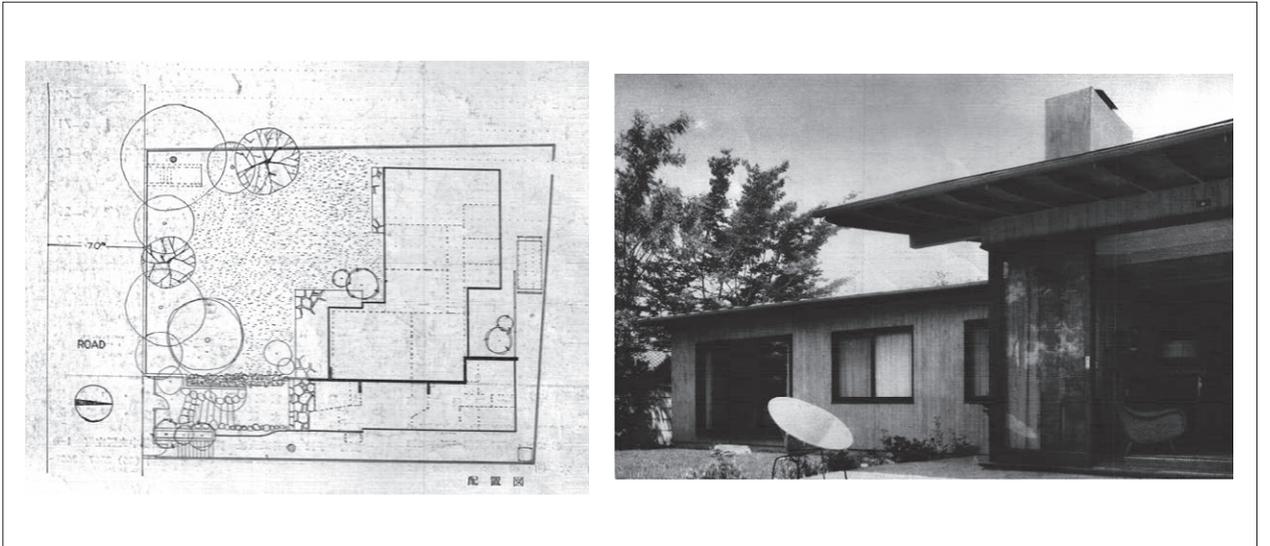
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
2	sk5804	大森邸	え	単体	なし	ウ	u	1	0	2			E	VI



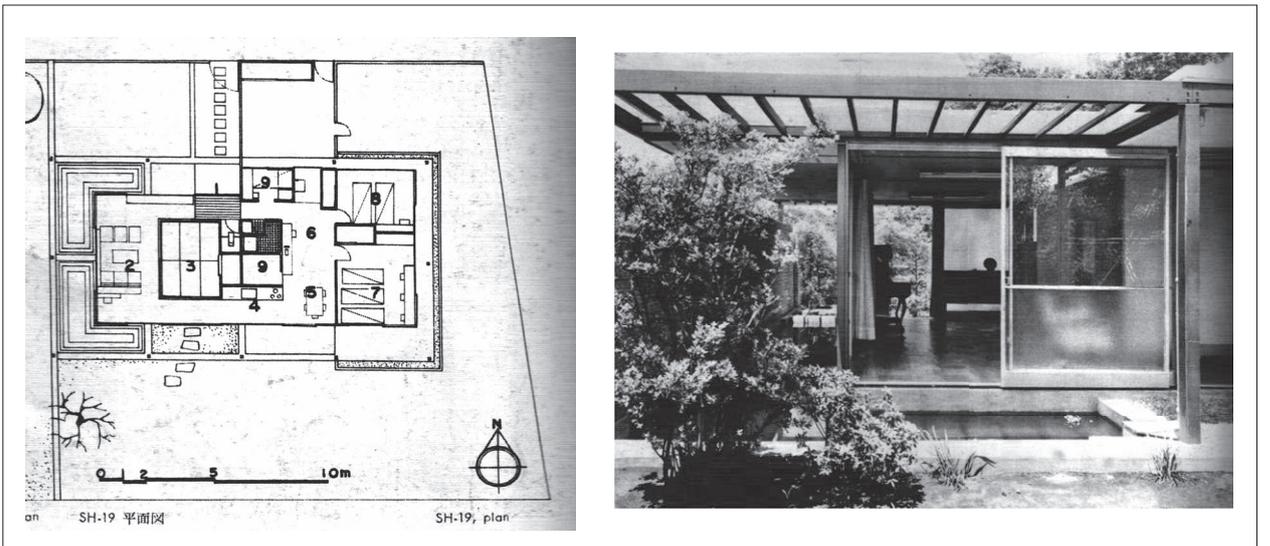
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
3	sk5808	Fさんの家	か	付加	あり	ウ	u_u	1	0	1	●■☆	≠*	G	VIII



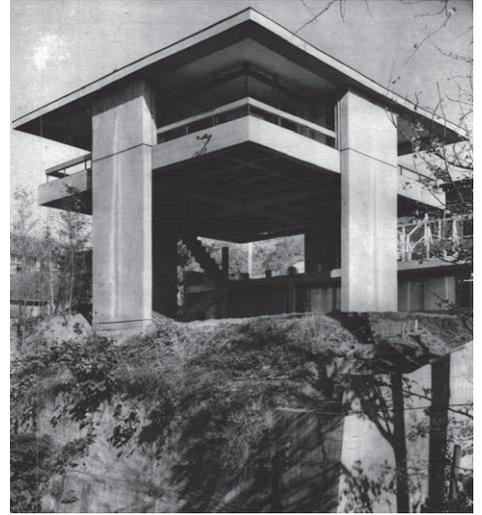
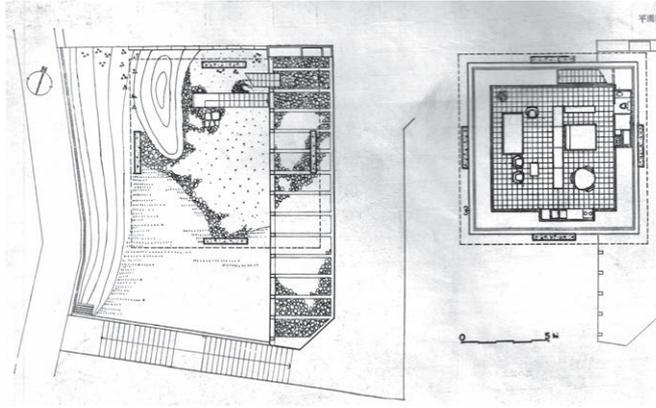
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
4	sk5808	実験住宅	え*	単体	なし	ウ	u	2	1	2			J	



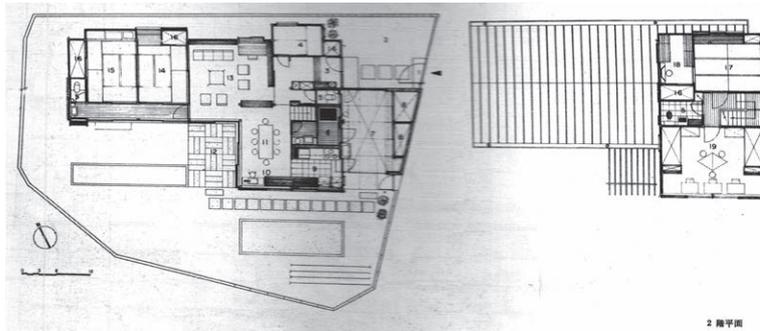
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
5	sk5809	千駄ヶ谷の家	う	並列	なし	ウ	u	1	1	1			D	



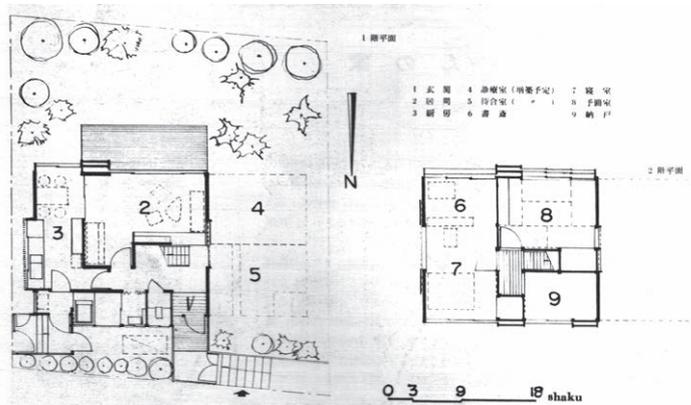
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
6	sk5811	SH19	う	単体	なし	イ	u	1	1	2			B	



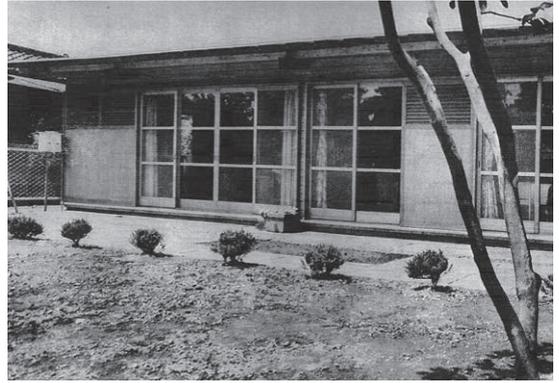
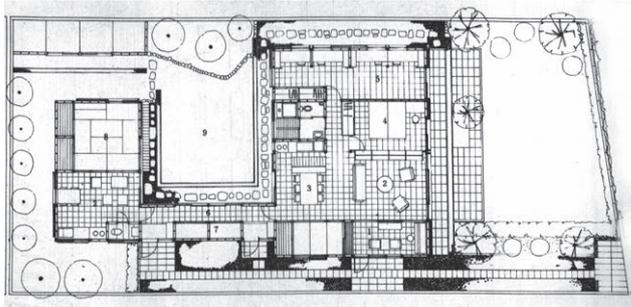
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
7	sk5901	菊竹自邸	か	単体	なし	イ	u	1	0	2			E	VI



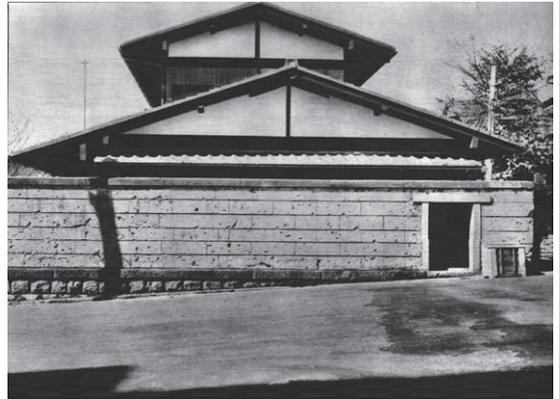
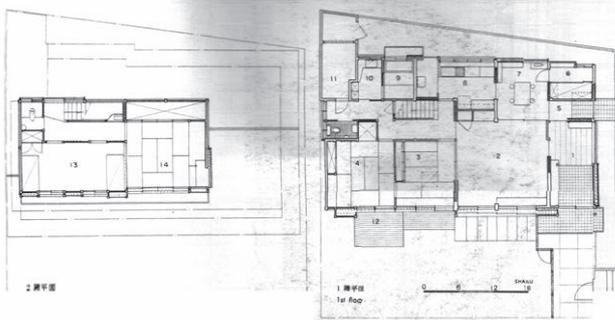
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
8	sk5902	畑田邸	か	付加	あり	ウ	w_u	1	0	1	■☆	<*	G	VIII-f



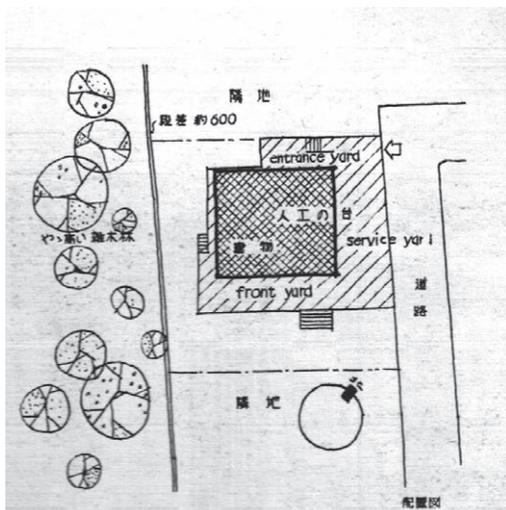
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
9	sk5904	長谷川さんの住宅	え	単体	なし	イ	s	1	0	2			E	IV-c



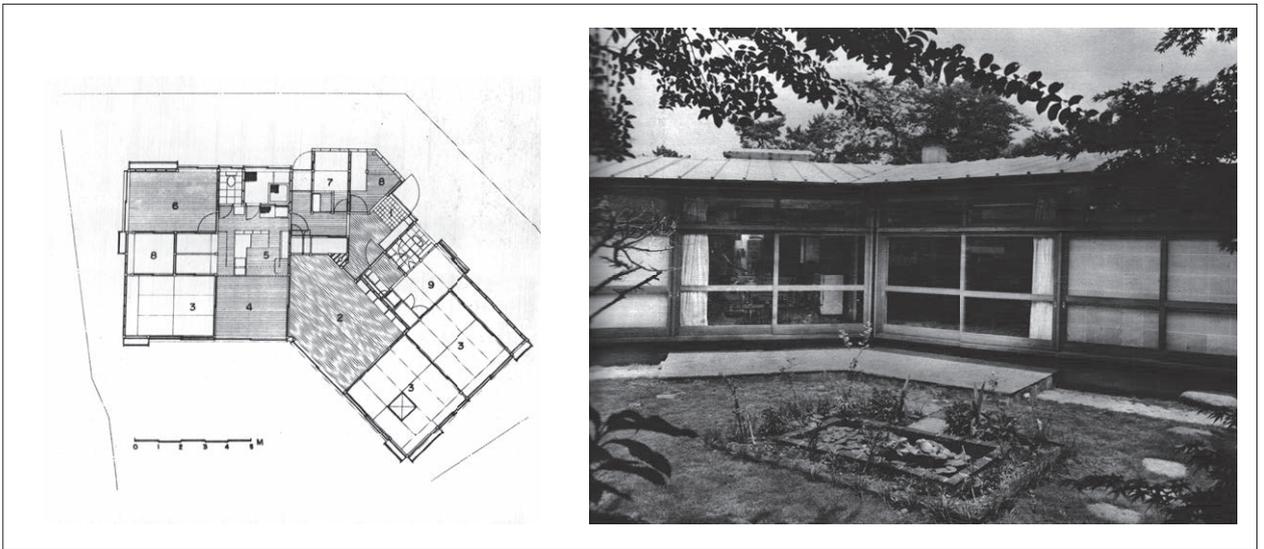
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
10	sk5910	U氏邸	え	並列	なし	ウ	u	1	0	3			C	V-d



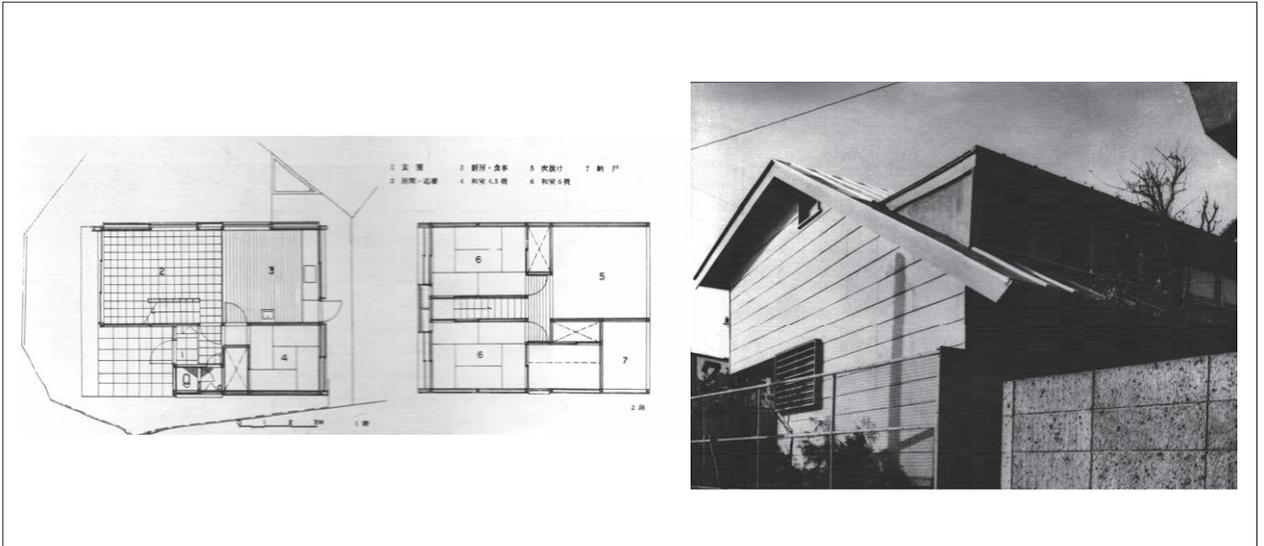
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
11	sk5911	Sさんの家	う	単体	なし	カ	u	1	1	2			B	



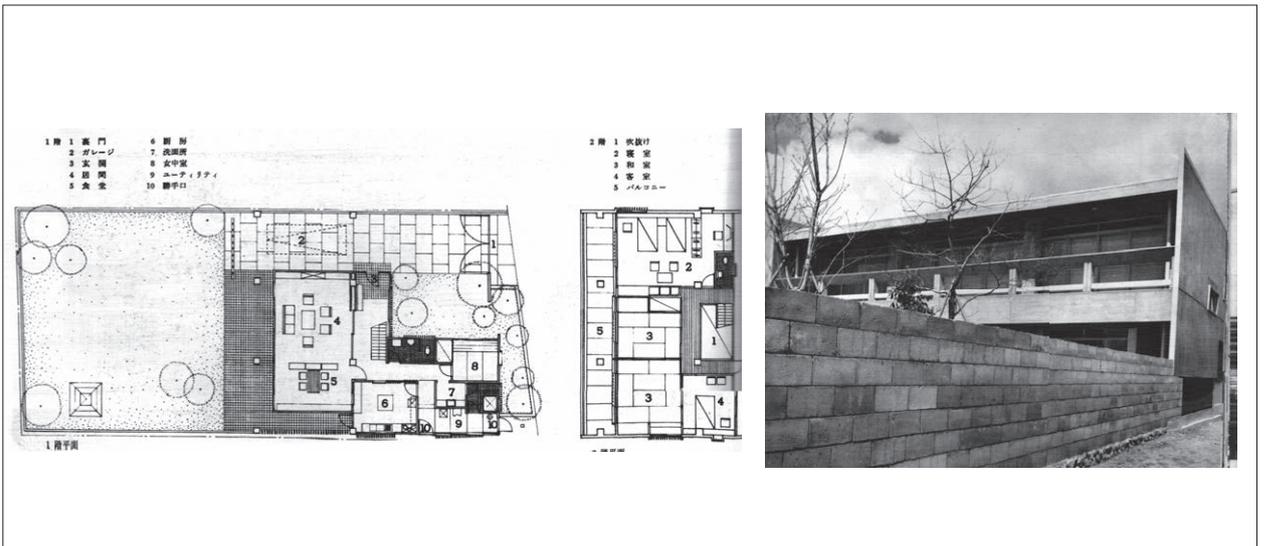
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
12	sk6003	青木邸	え	単体	なし	イ	s	1	0	2			E	IV-c



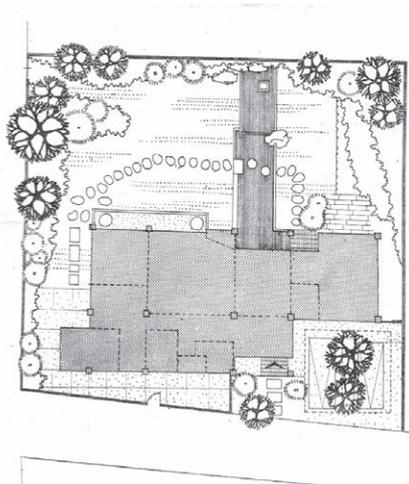
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
13	sk6009	扇状敷地に建つ家	い	付加	あり	工	u_u	1	1	0	●	=*	F	VII-e



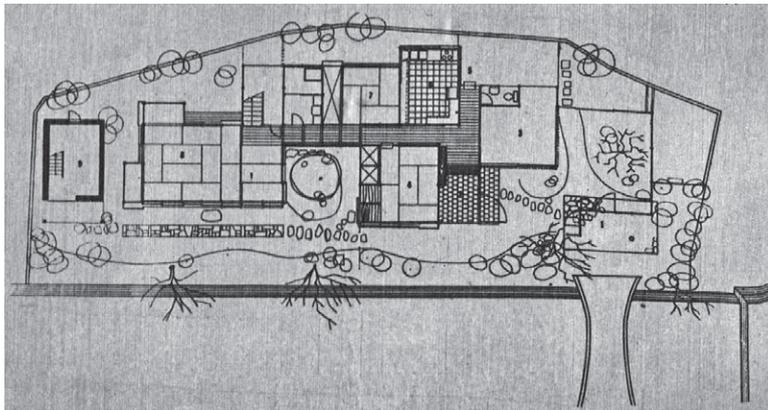
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
14	sk6101	まちなかに建つ小住宅	お	単体	なし	イ	u	1	1	0			F	VII



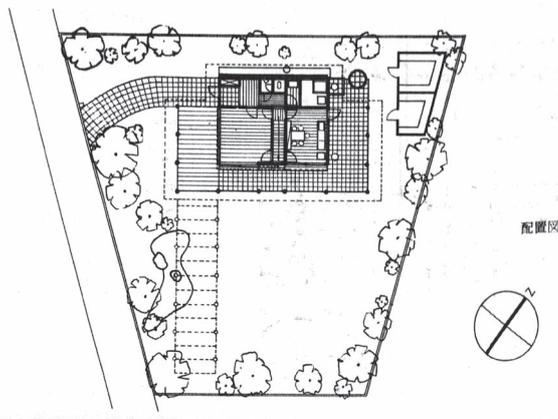
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
15	sk6105	N氏邸	え(*)	付加	あり	イ	u_u	1	0	2	●☆	≠*	E	VI



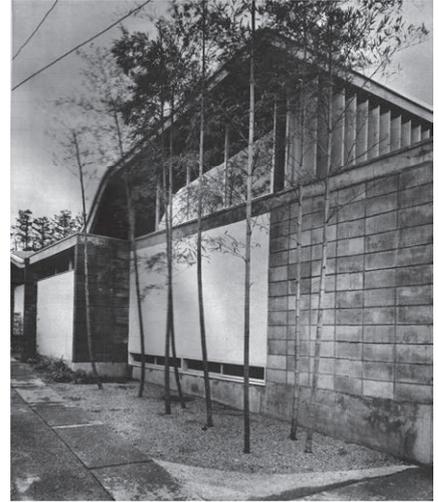
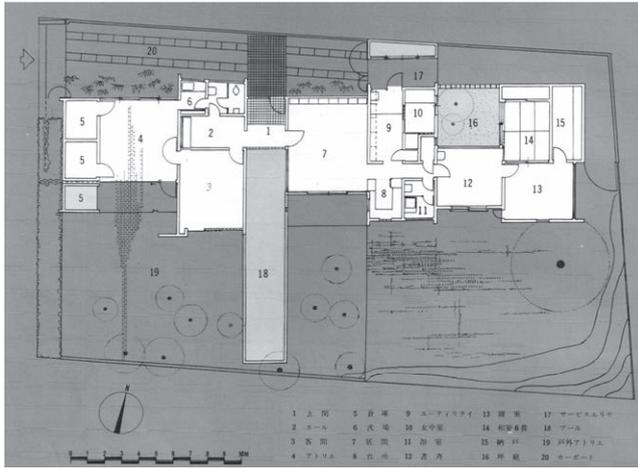
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
16	sk6110	村田邸	え(*)	単体	なし	ウ	u	1	0	2			E	VI



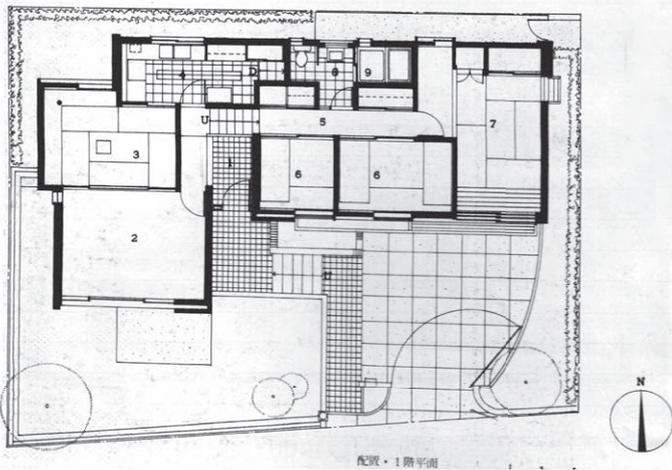
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
17	sk6310	野村邸	か	並列	なし	ウ	w	1	1	0			F	



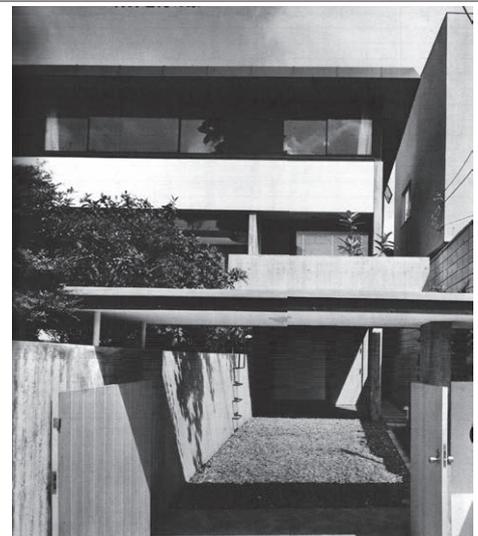
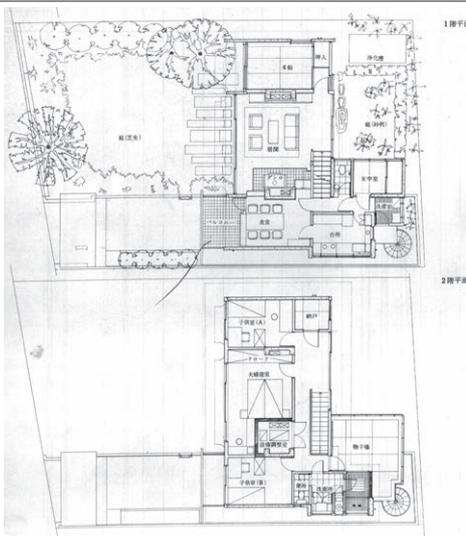
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
18	sk6401	堀の家	え	付加	あり	イ	u_u	1	0	2	●	=	E	VI



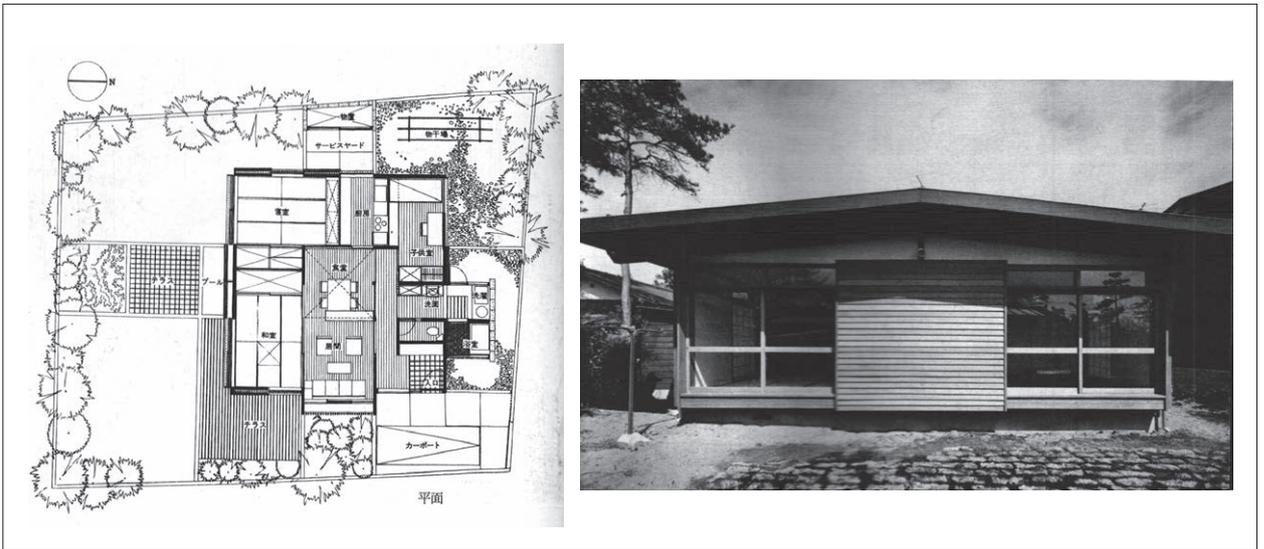
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
19	sk6501	沢田画伯の家	え	付加	あり	ウ	u_u	1	1	0	■☆	=*	F	VII-e



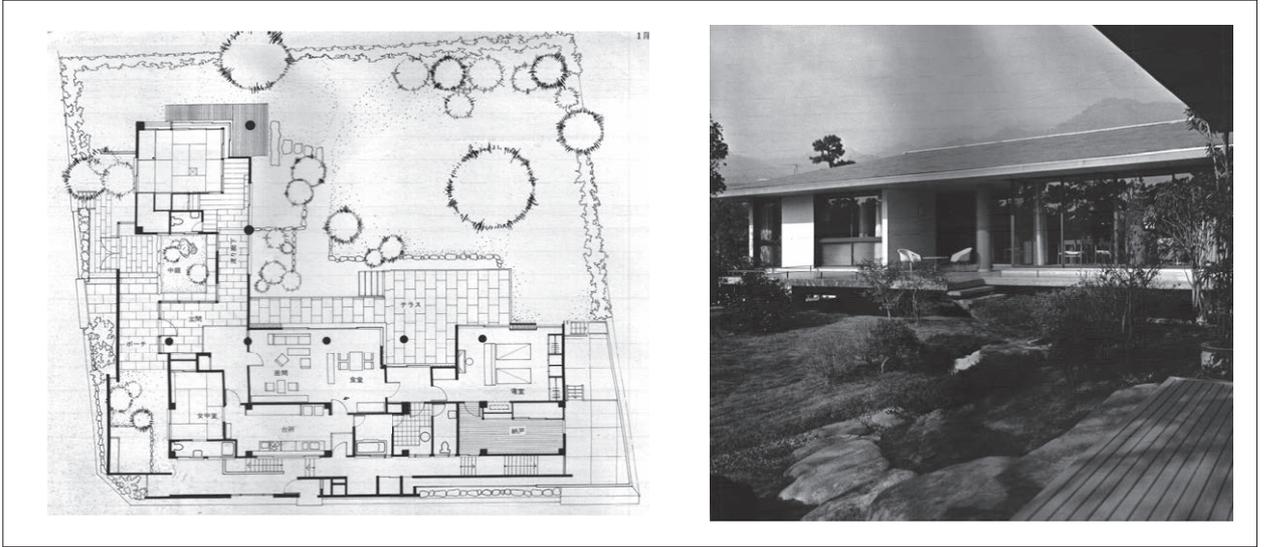
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
20	sk6506	N氏邸	え	単体	なし	ウ	w	1	0	3			C	III



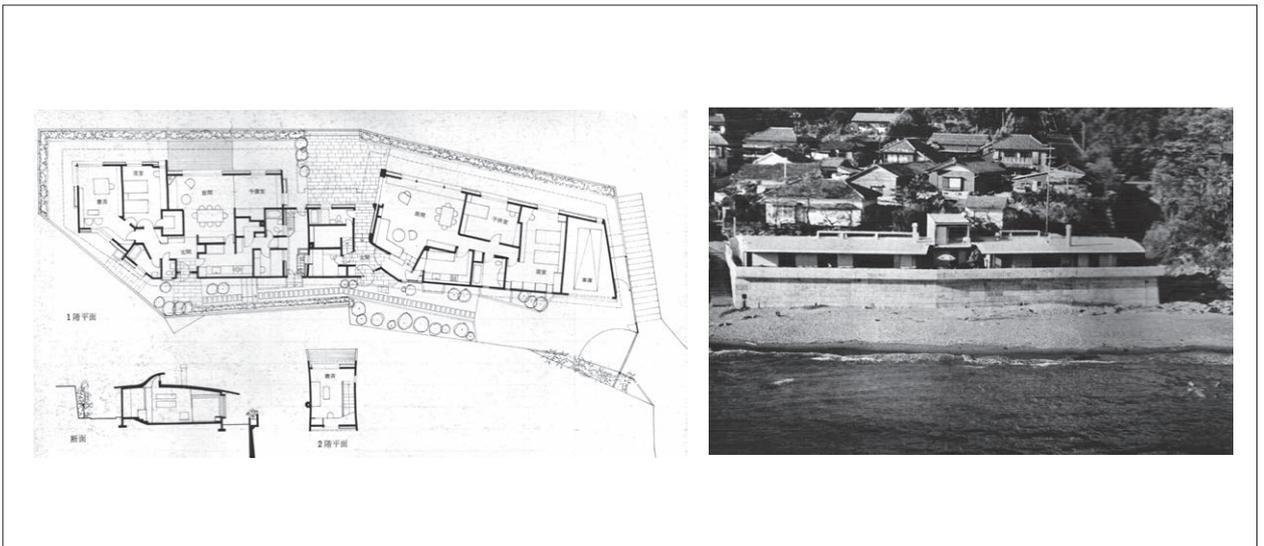
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
21	sk6510	村井さんの家	え	付加	あり	ウ	u_u	1	0	2	●☆	≠*≠	E	VI



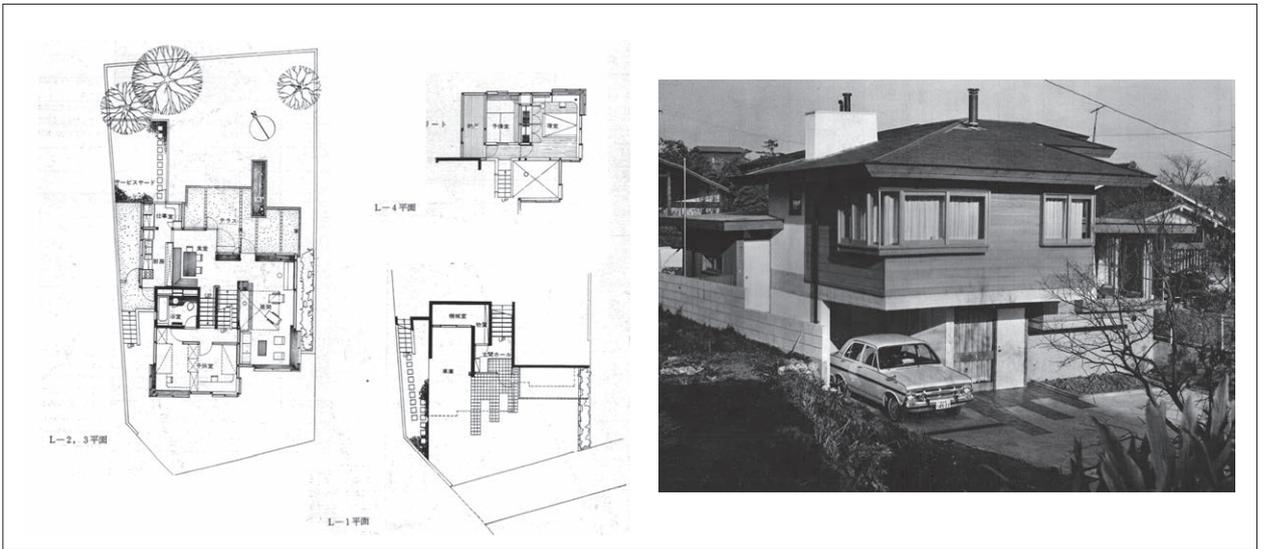
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
22	sk6605	丘金山の家	え	付加	あり	イ	s_u	1	0	1	●☆	≠	G	



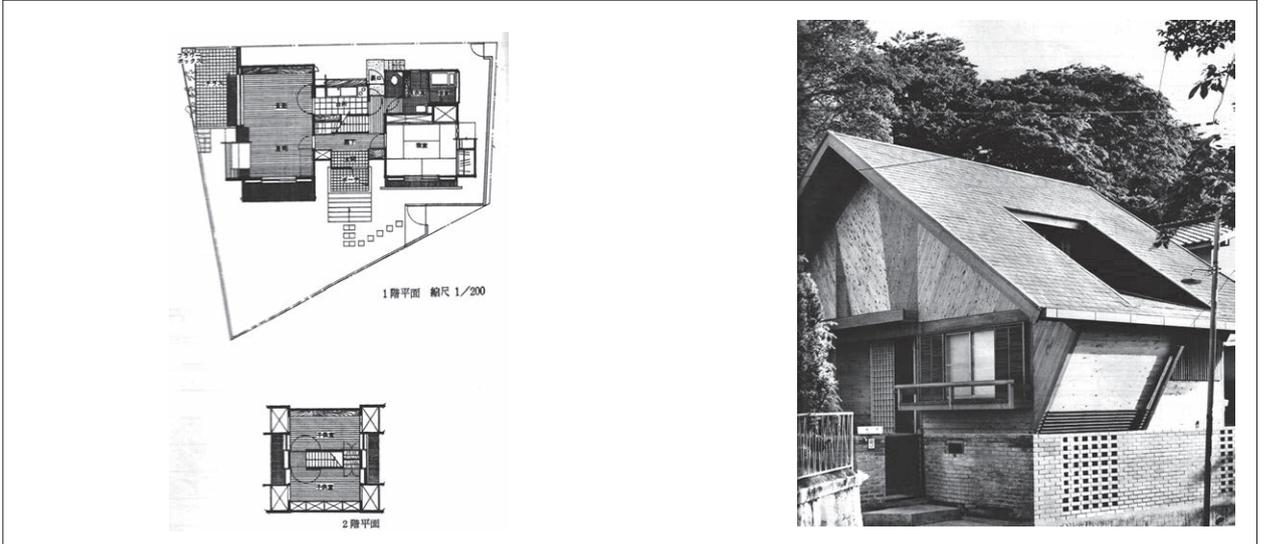
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
23	sk6701	旭丘の家	え(*)	並列	なし	ウ	u	1	0	1	●		G	VIII



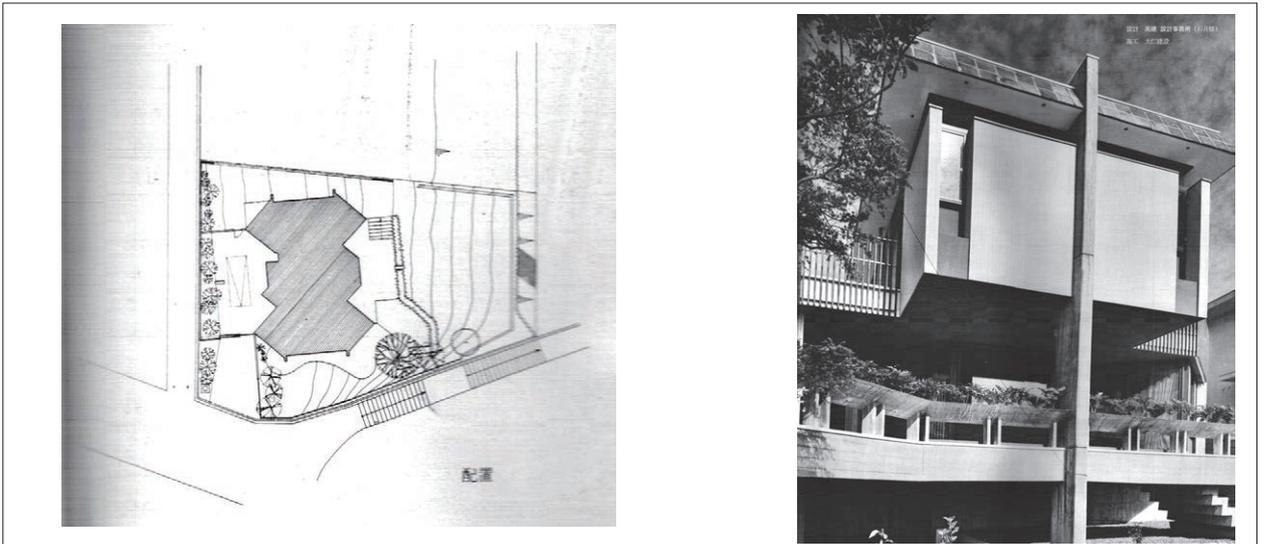
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
24	sk6701	海浜の家	お	並列	なし	ク	b	1	1	2	○		B	II



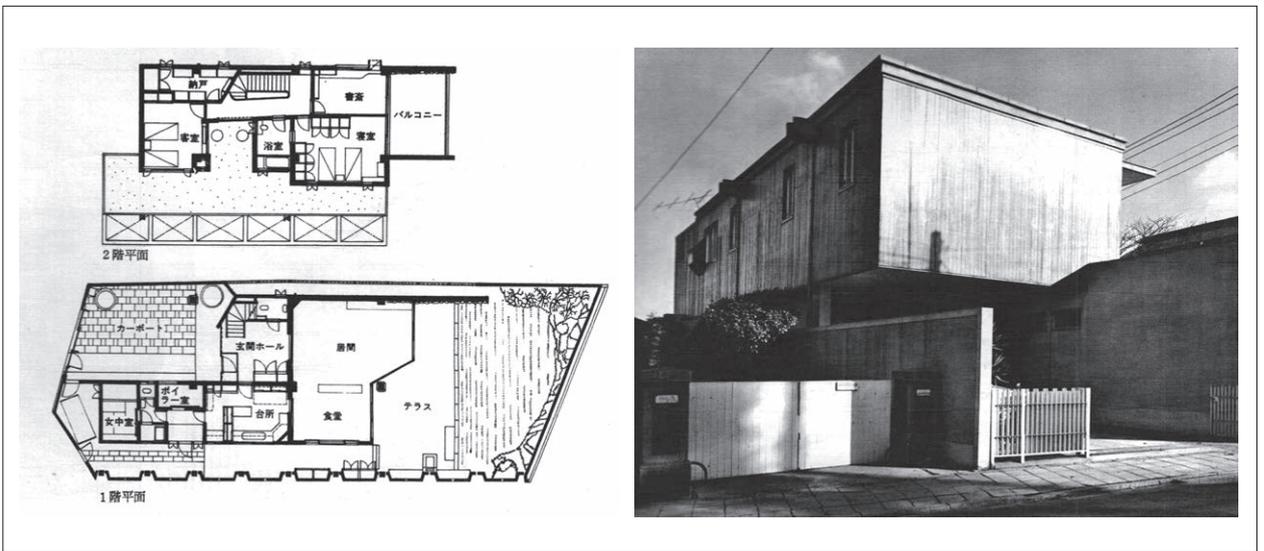
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
25	sk6701	連階段の家	お	付加	あり	ウ	u_u	1	0	1		<* <	G	VIII-f



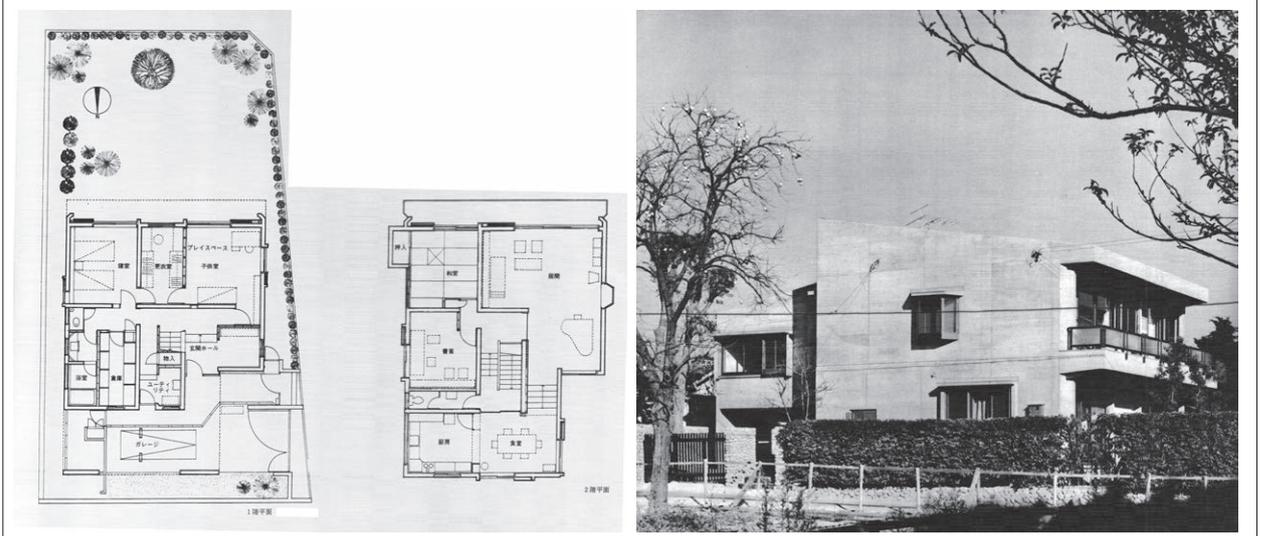
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
26	sk6707	大きい屋根の家	え*	単体	なし	ウ	u	2	0	1			K	



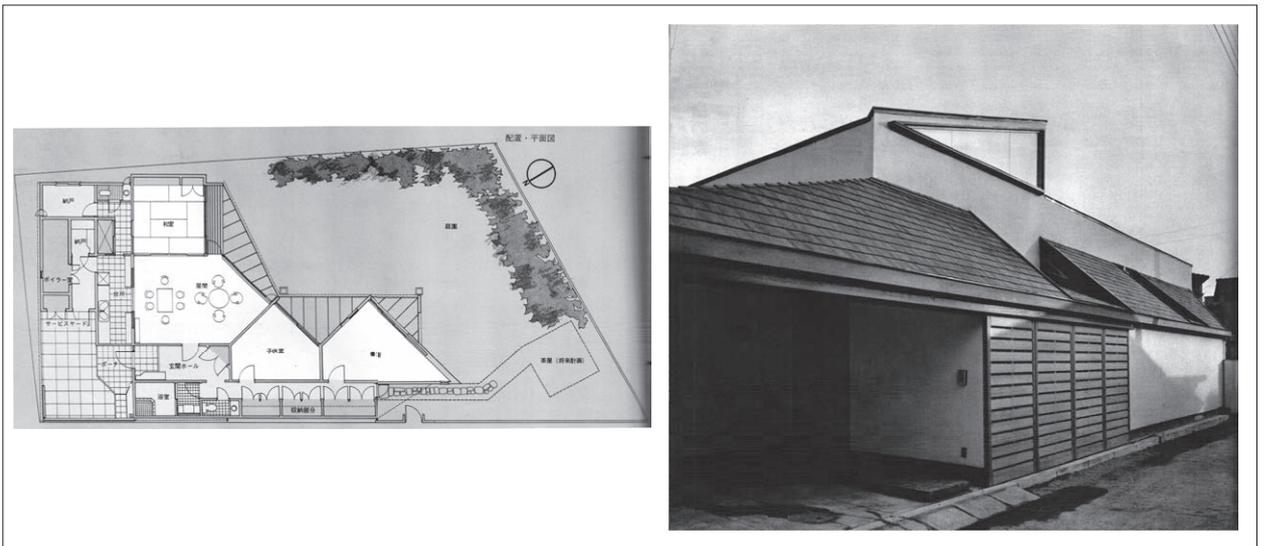
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
27	sk6801	青山台の家	か(*)	並列	なし	カ	u	1	0	0	○☆		H	IX-g



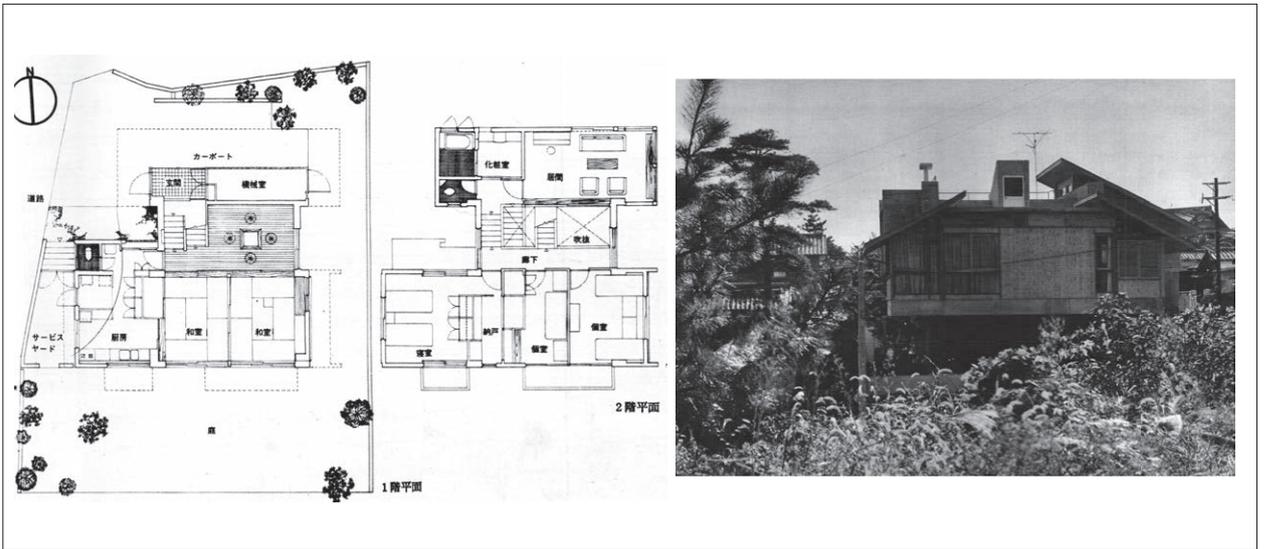
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
28	sk6701	L.J. 邸	か*	付加	あり	ウ	2_2	2	2	2	~*	=*	I	X-h



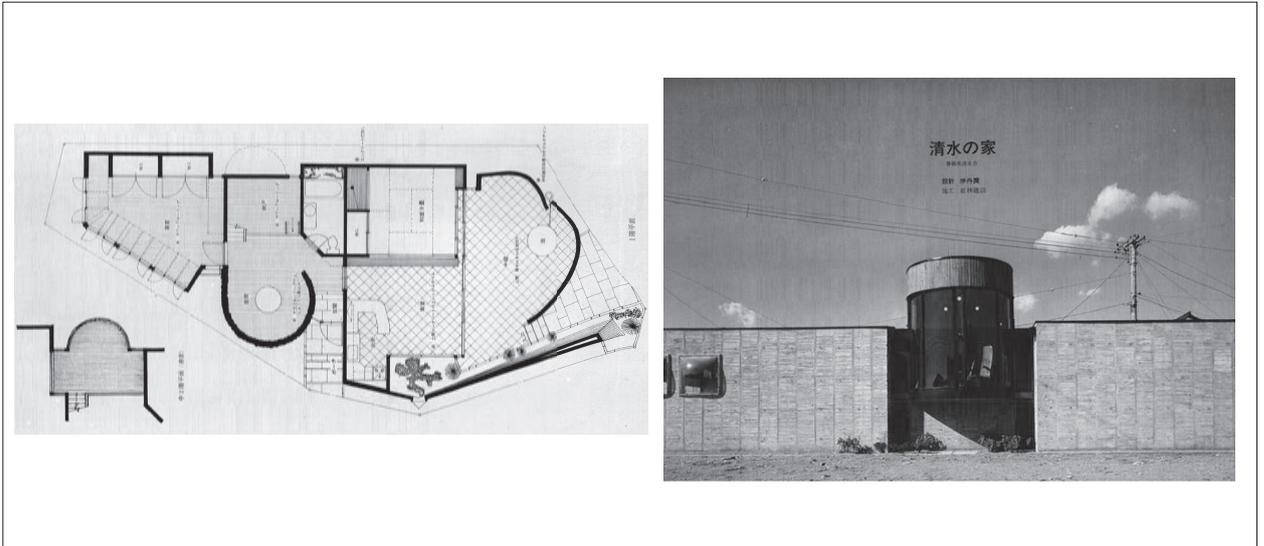
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
29	sk7002	箕面の家	え*	並列	なし	ウ	u	2	1	2			J	



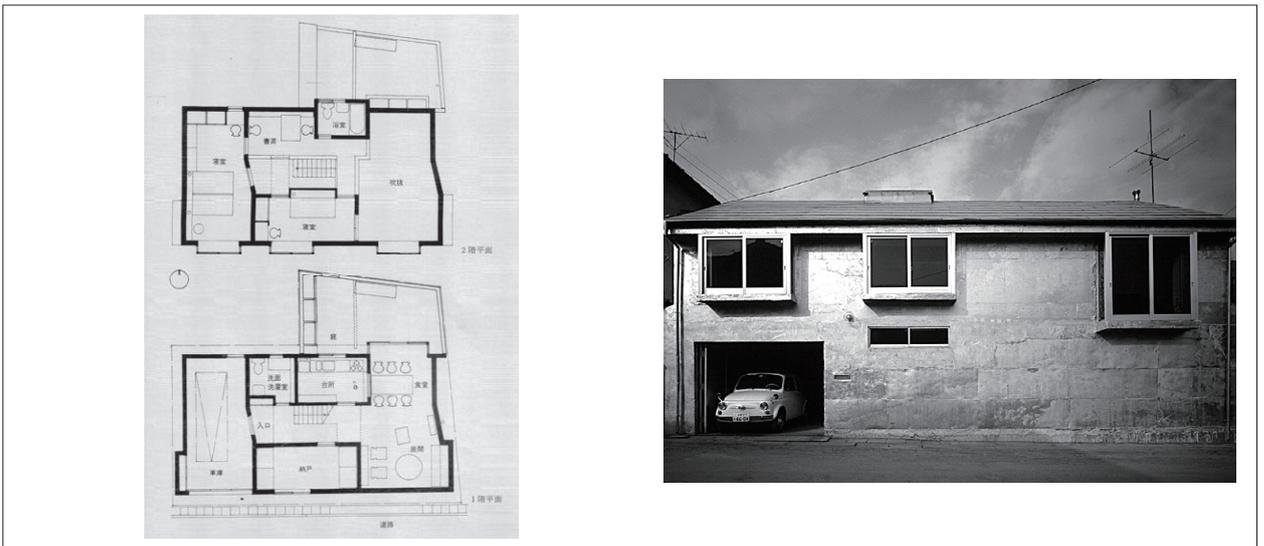
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
30	sk7002	目白の家	え	並列	なし	カ	u	1	1	0			F	VII



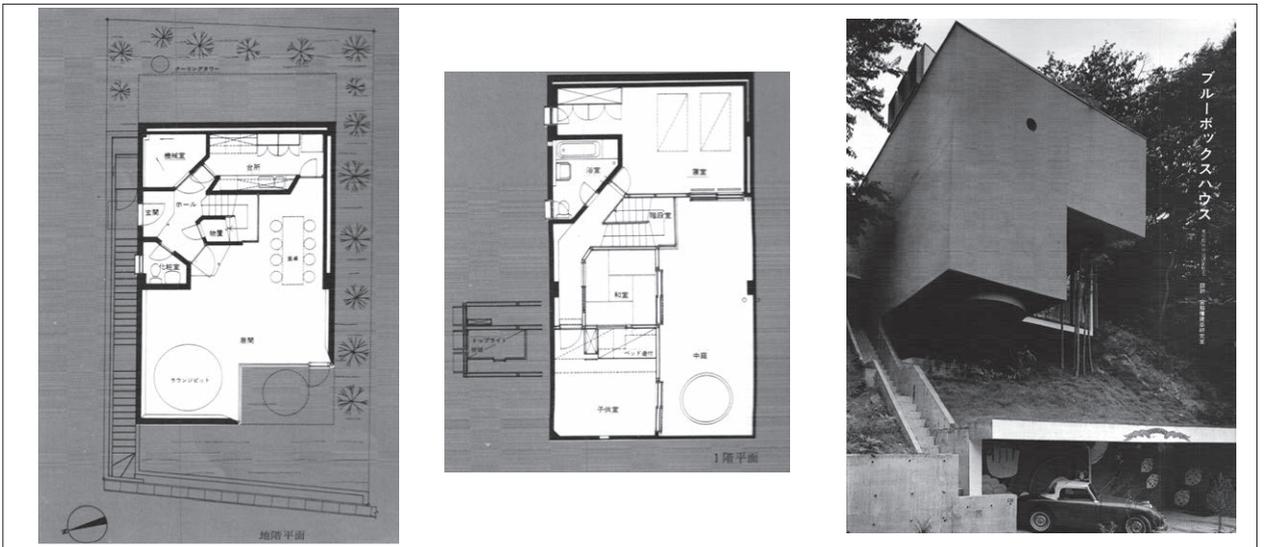
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
31	sk7101	新山邸	お	並列	なし	ウ	w	1	1	2	~*○		B	II-b



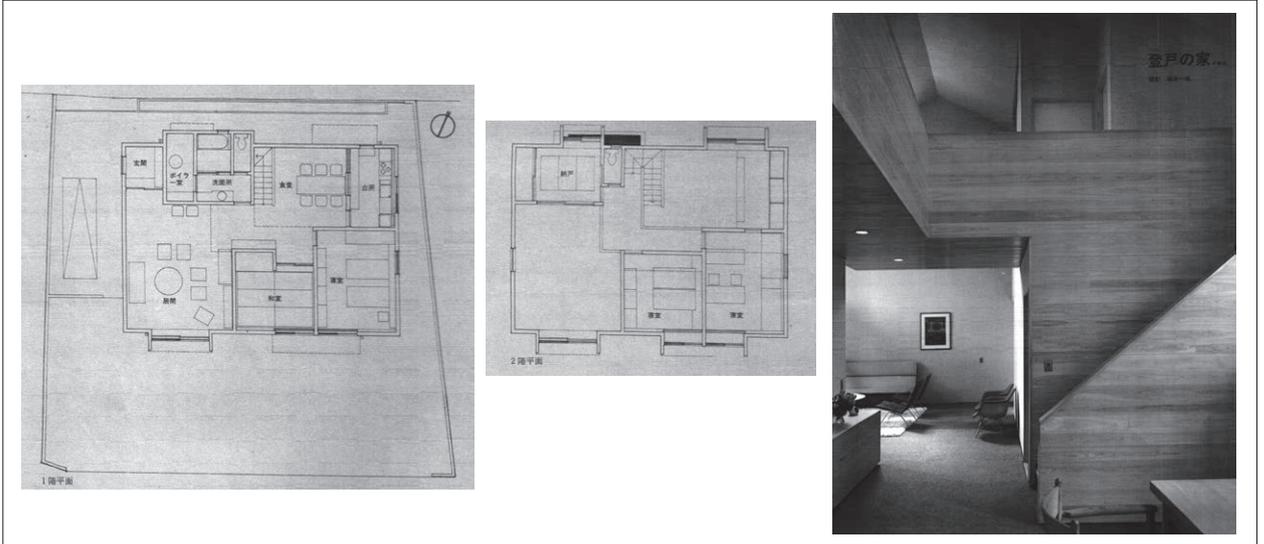
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
32	sk7104	清水の家	か*	並列	なし	キ	bw	2	2	1	~*○		I	X



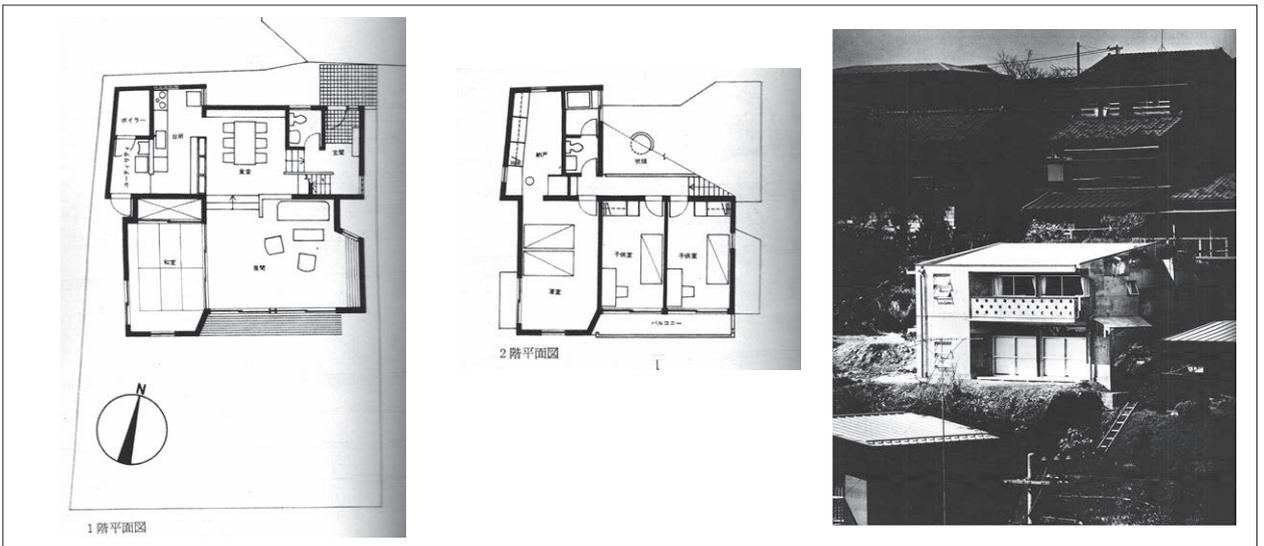
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
33	sk7104	水無瀬の町家	お	付加	あり	カ	u_b	1	1	2		<<	B	α



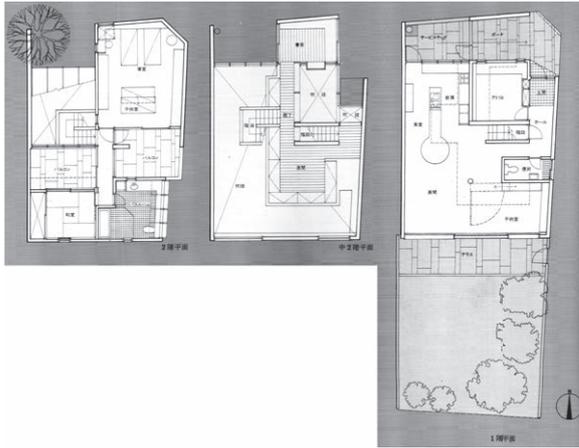
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
34	sk7110	ブルーボックスハウス	え	単体	なし	イ	s	1	0	2			E	IV -c



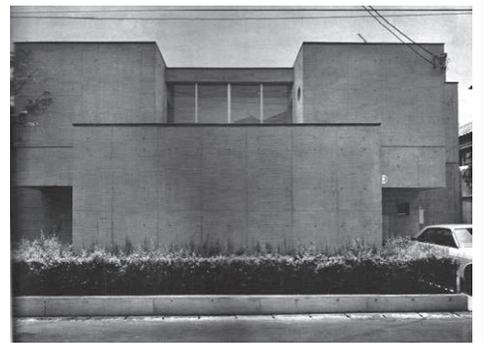
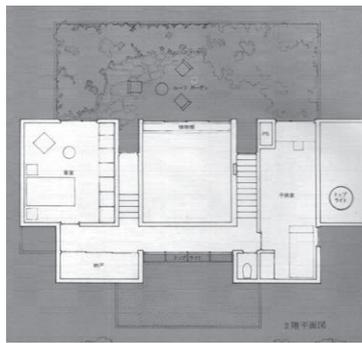
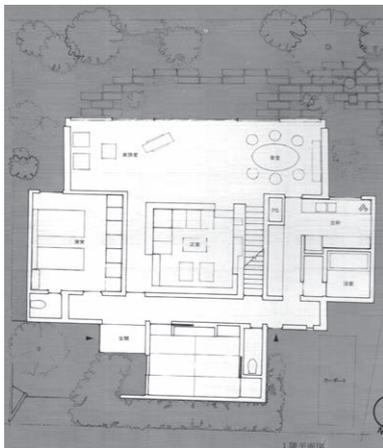
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
35	sk7110	登戸の家	え	付加	あり	イ	u_u	1	1	0	●	=*	F	VII -e



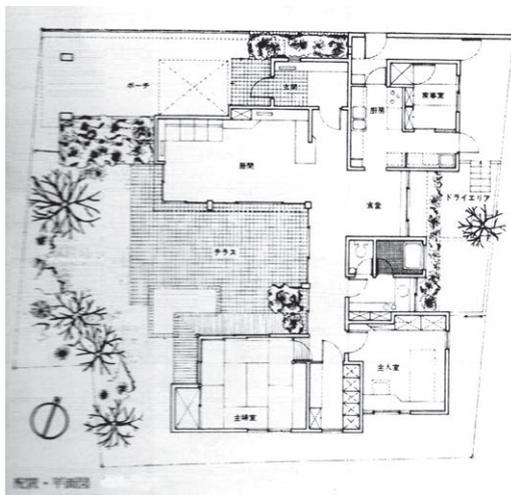
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
36	sk7112	日吉の家	お	並列	なし	カ	u	1	1	3	□		A	



資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
37	sk7202	栗辻邸	え*	単体	なし	オ	u	2	2	1			I	



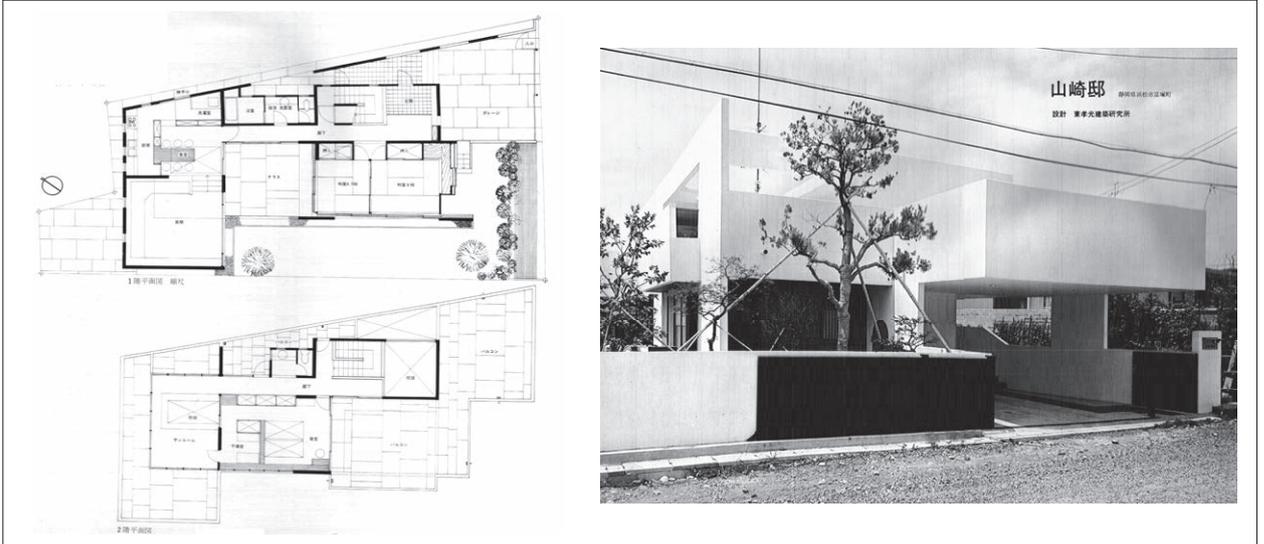
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
38	sk7208	南馬込の家	う	付加	あり	ウ	u_u	1	1	2	○●	=*	B	



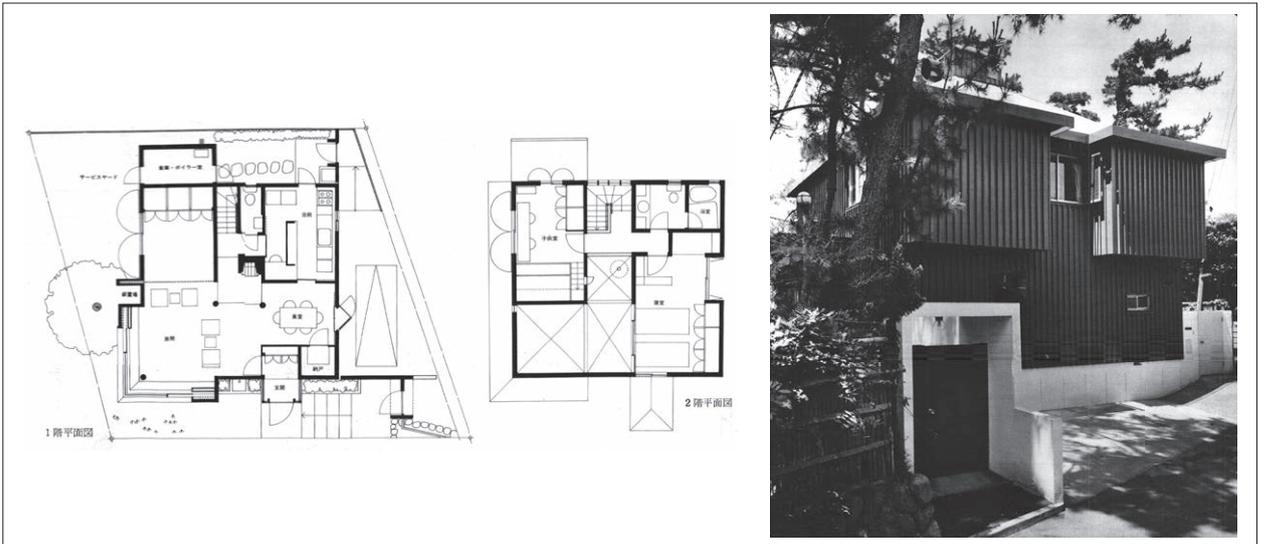
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
39	sk7208	白い中庭の家	か	単体	なし	ウ	u	1	1	0	○☆		F	VII



資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
40	sk7402	キャンティレバー・ルーフの家	お	単体	なし	イ	u	1	0	0			H	IX-g



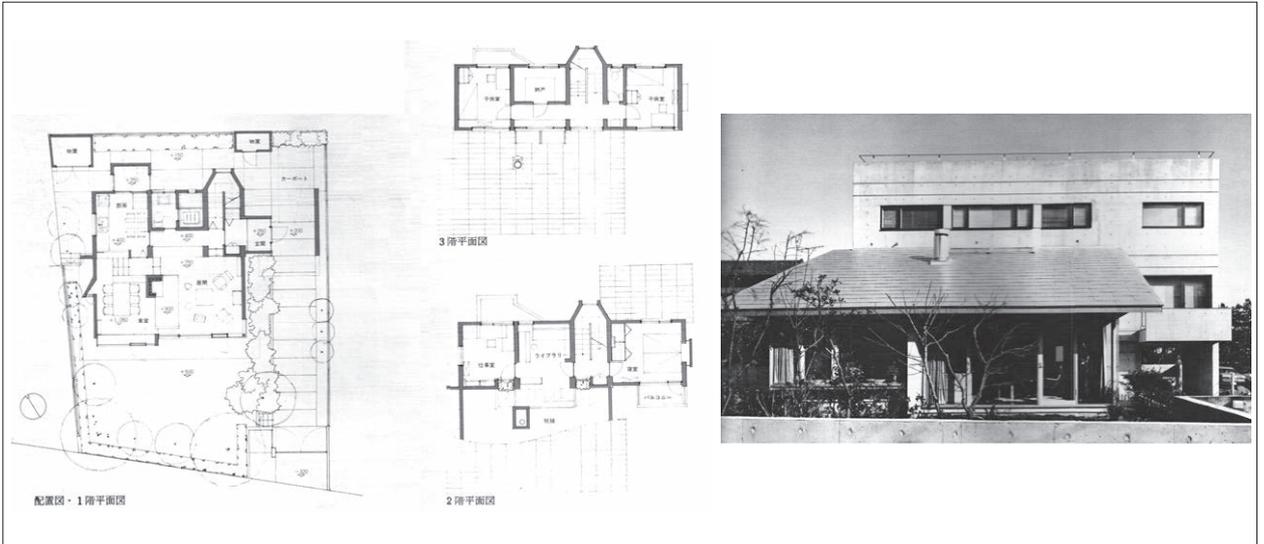
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
41	sk7408	山崎邸	お	付加	あり	カ	w_w	1	1	2		=*	B	II



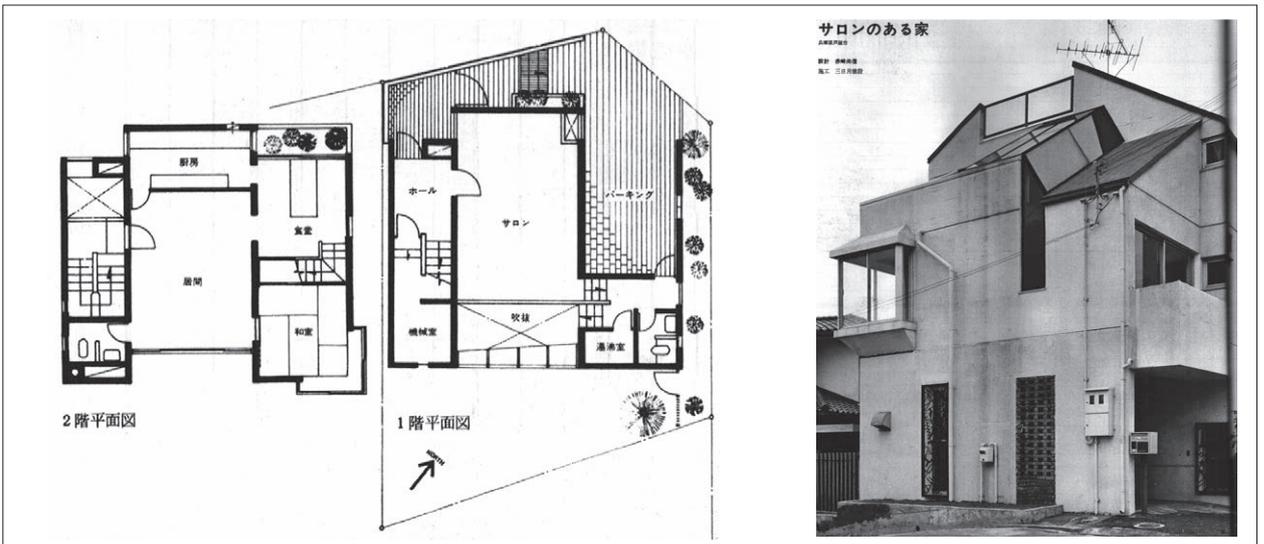
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
42	sk7408	鶴沼の家	え	付加	あり	イ	s_u	1	0	2	●	==	E	



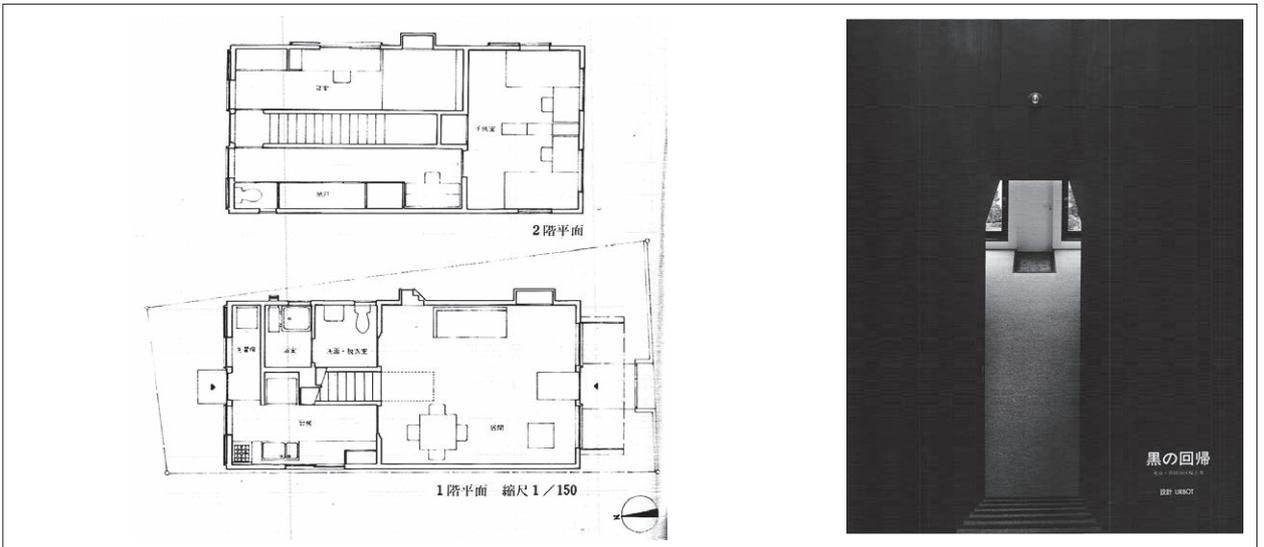
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
43	sk7408	世・北沢の家	か	単体	なし	カ	u	1	0	1			G	VIII



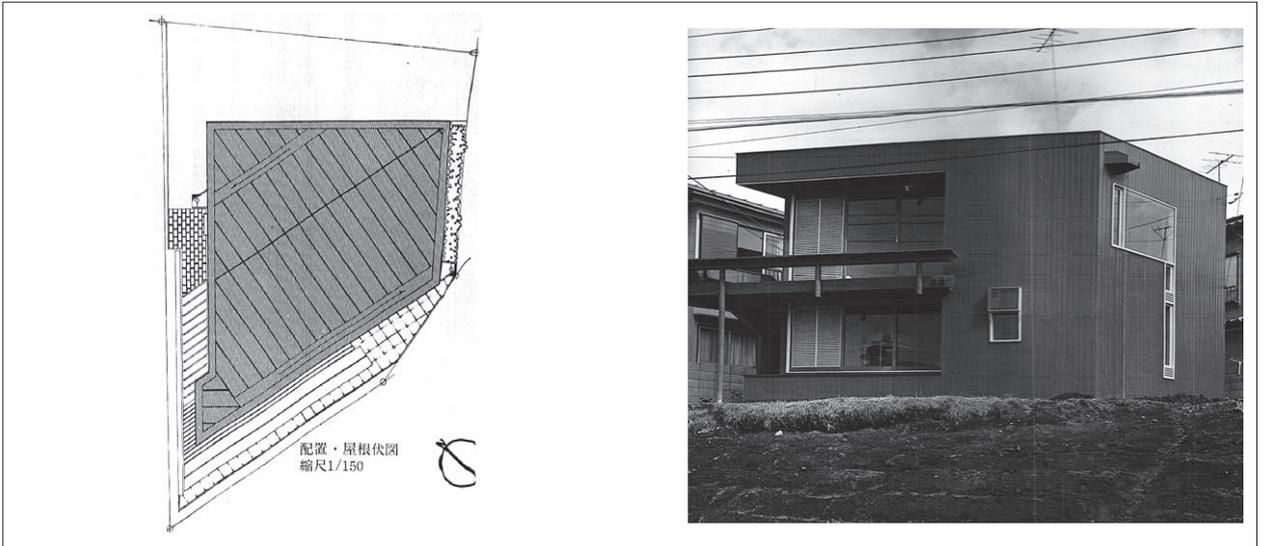
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
44	sk7502	住宅 RM-NT	え	付加	あり	ウ	u_u	1	0	2	●	==	E	VI



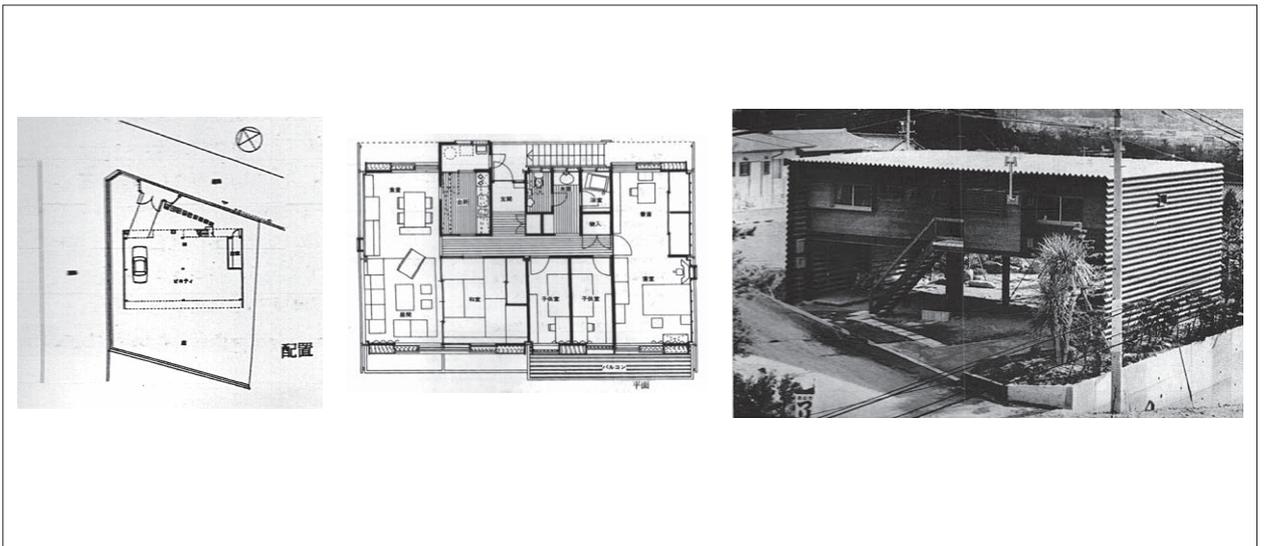
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
45	sk7502	サロンのある家	か	単体	なし	ウ	w	1	0	2			E	IV-c



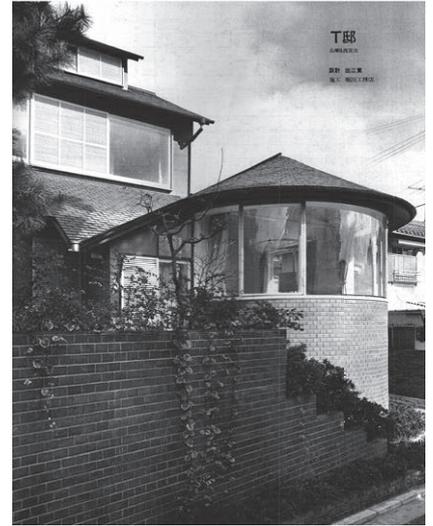
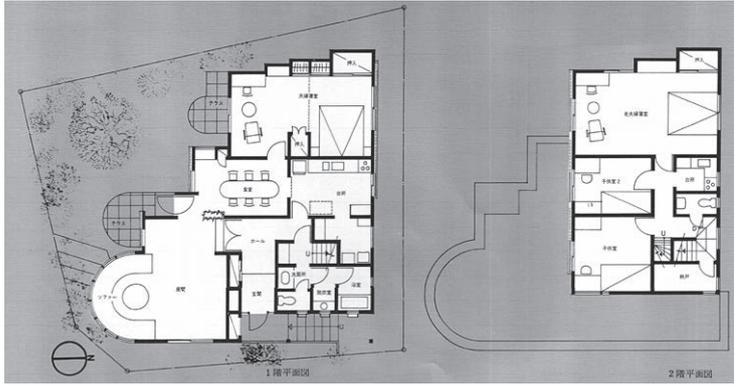
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
46	sk7508	黒の回帰	う	単体	なし	イ	s	1	0	1			G	β



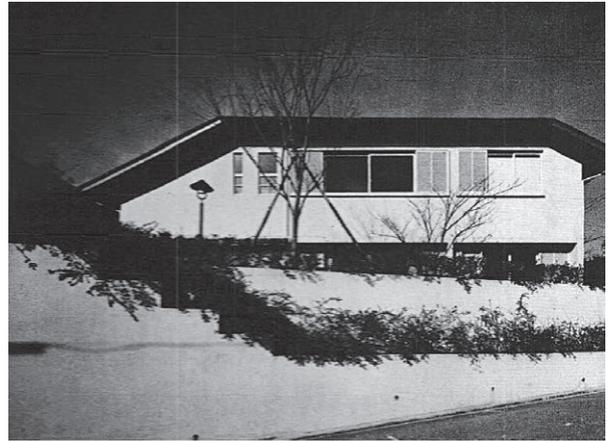
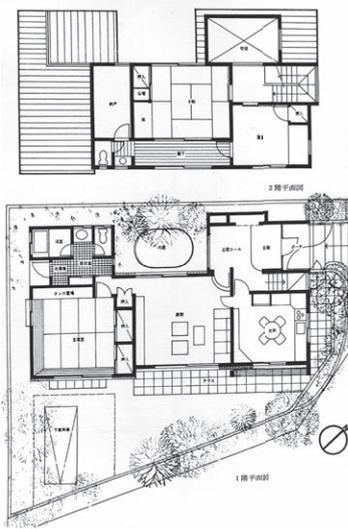
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
47	sk7508	ルコフレルージュ	か(*)	単体	なし	オ	w	1	1	2			B	II



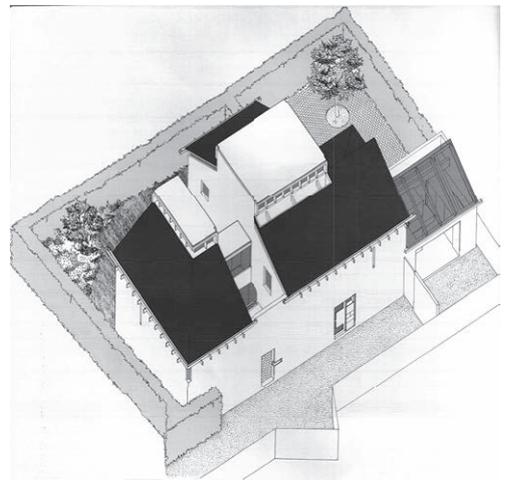
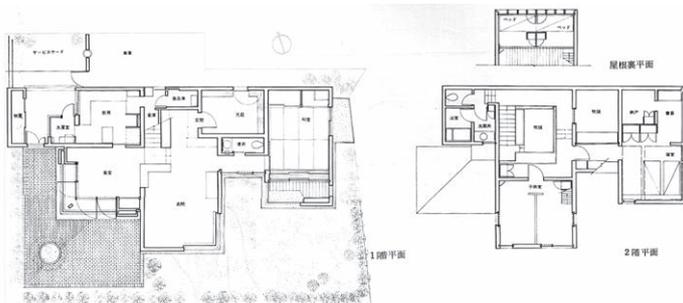
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
48	sk7508	自邸=スキナヤ	え*	単体	なし	イ	s	2	1	0			J	VI



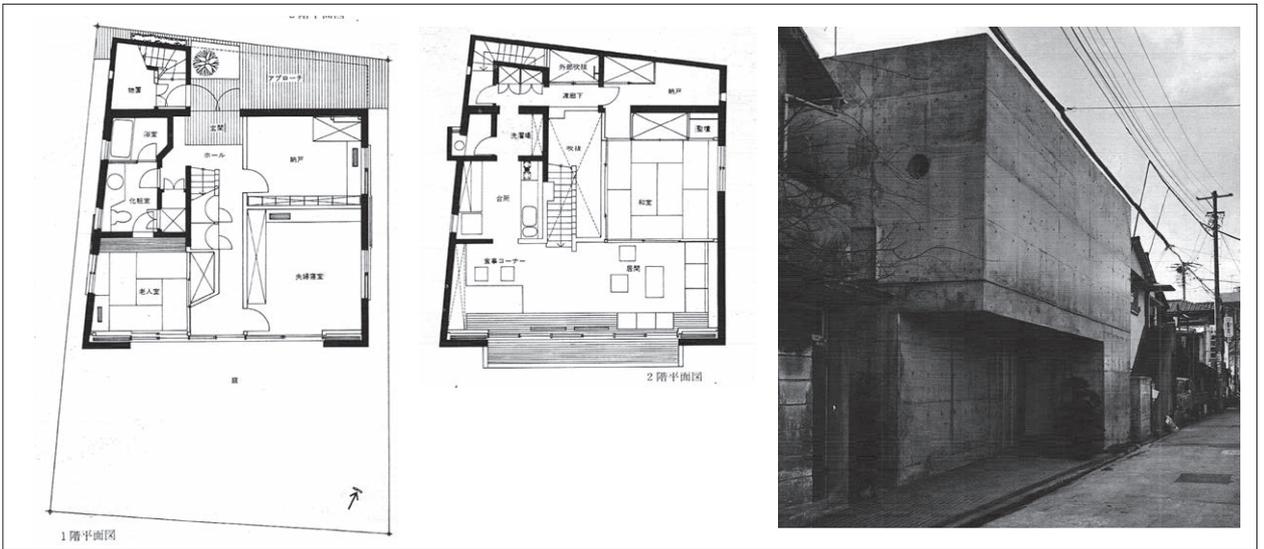
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
49	sk7602	T邸	え*	並列	なし	キ	w	2	0	2	~*		K	



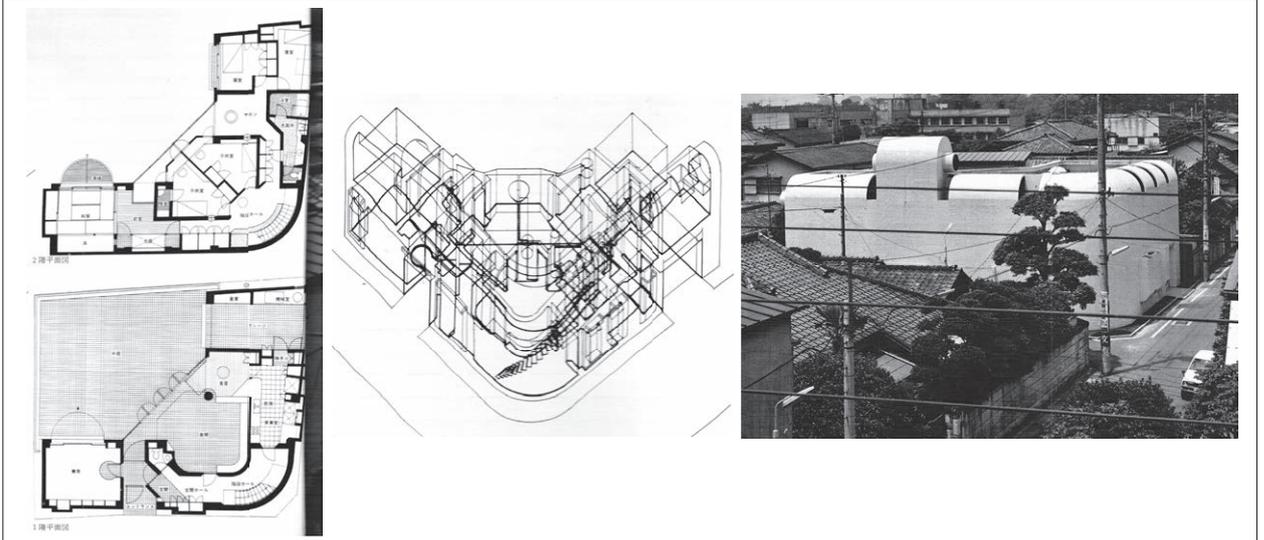
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
50	sk7602	H邸	お*	単体	なし	ウ	u	2	1	2	○		J	



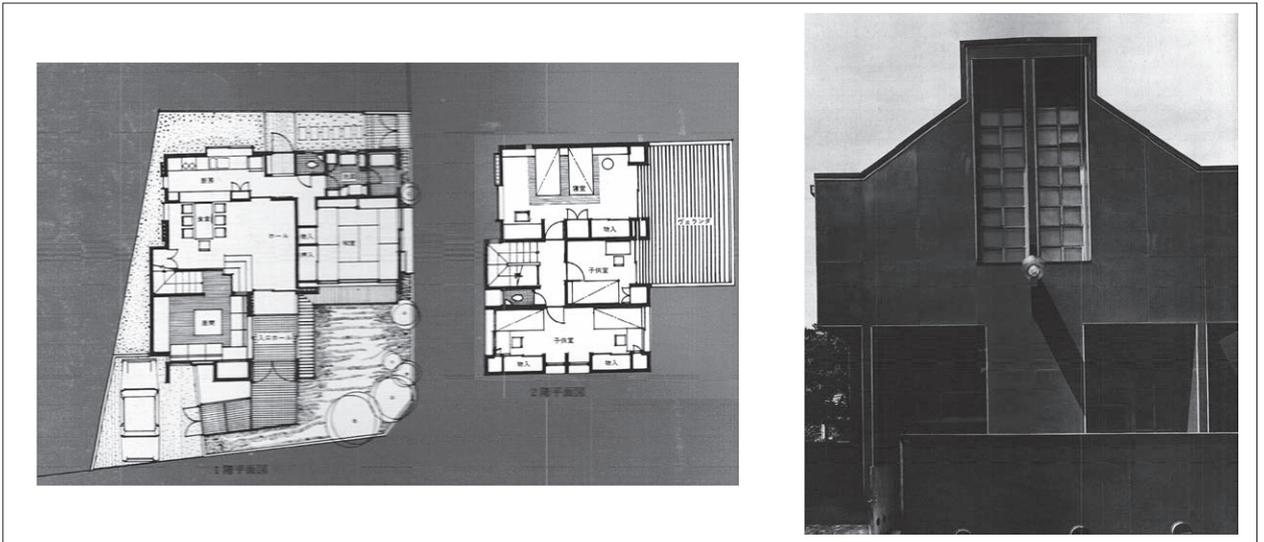
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
51	sk7602	吉祥寺 S氏邸	お	付加	あり	ウ	u_u	1	1	2		==	B	



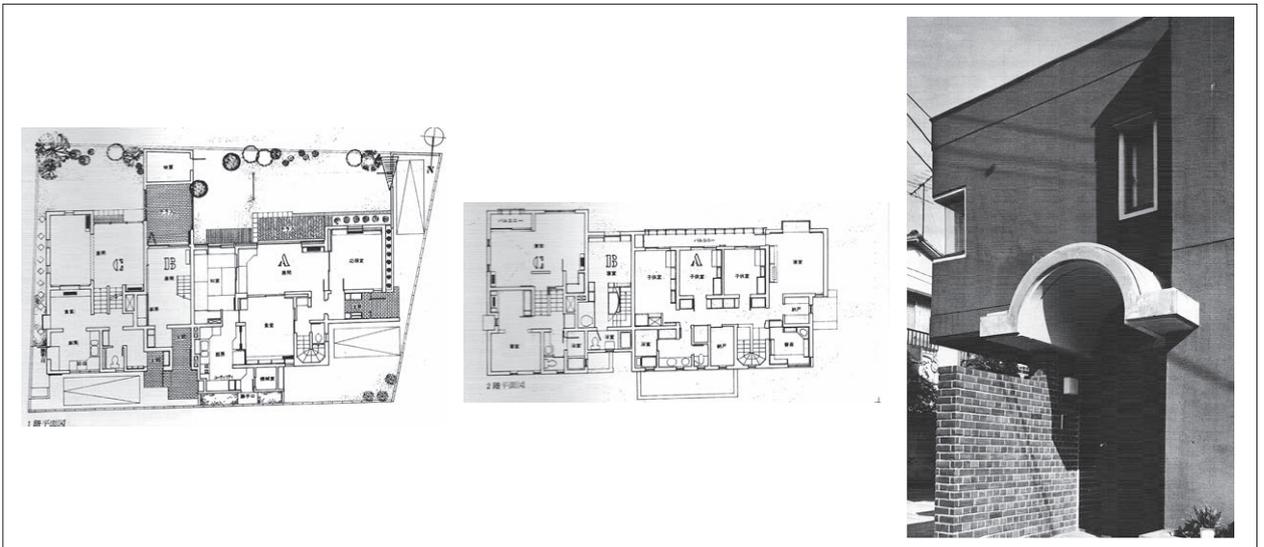
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
52	sk7609	船橋ボックス	え	単体	なし	オ	w	1	1	2			B	II



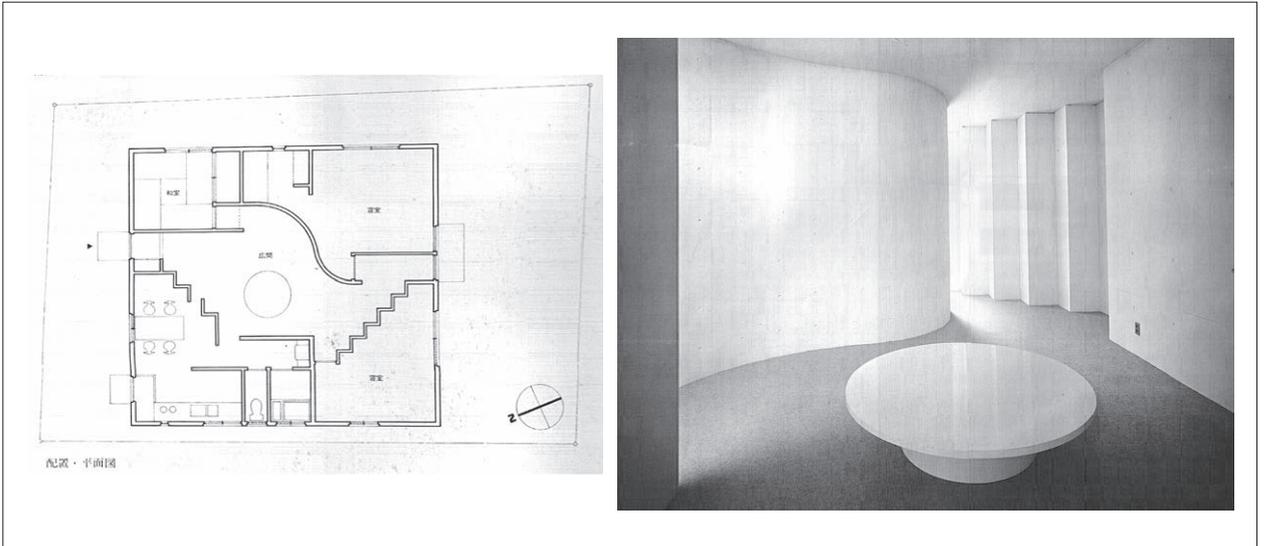
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
53	sk7609	ROU	か*	付加	あり	キ	w_w	2	2	2		≠≠	I	X



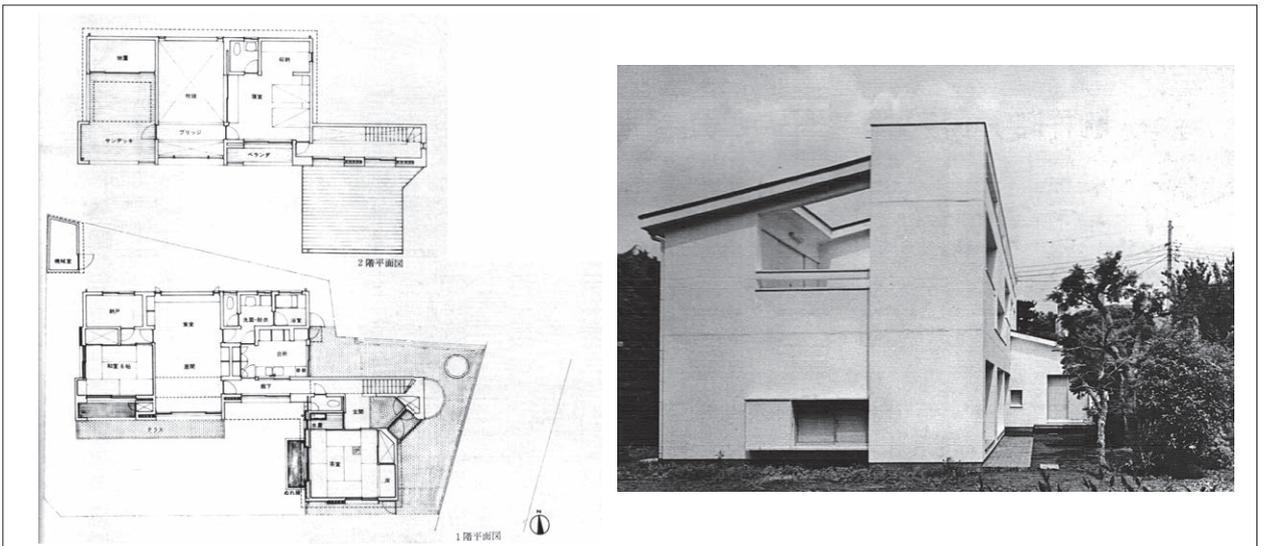
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
54	sk7609	赤い家	か*	並列	なし	ウ	w	2	1	2	~		J	XI



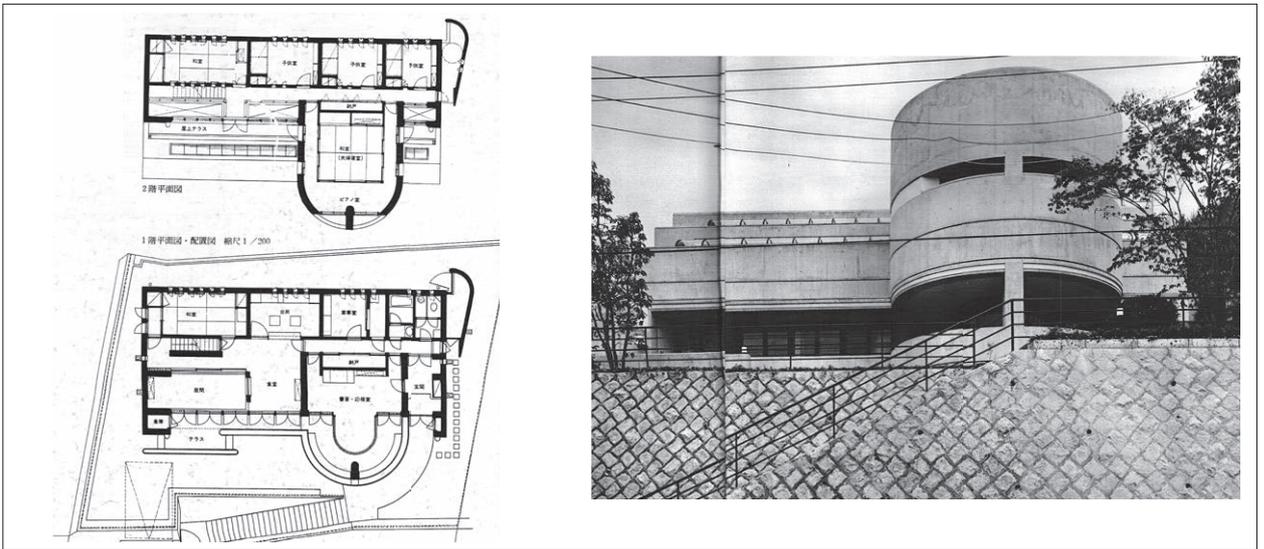
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
55	sk7706	ムラセハウス	え*	付加	あり	ウ	u_u	2	2	0	~*●	=*	I	



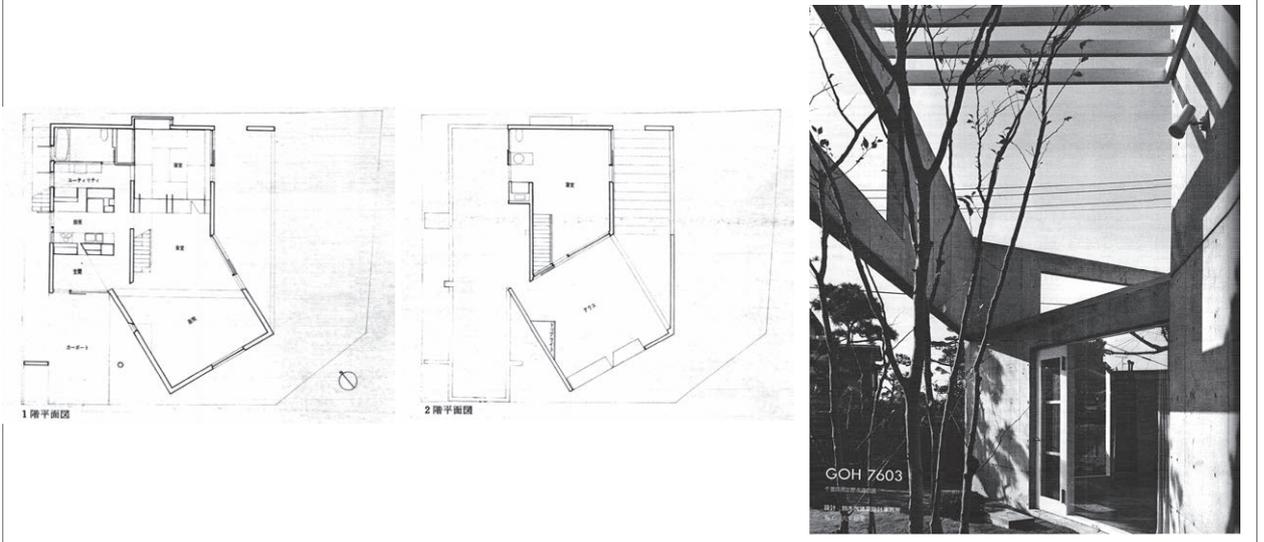
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
56	sk7708	上和田の家	え	単体	なし	イ	s	1	1	1			D	



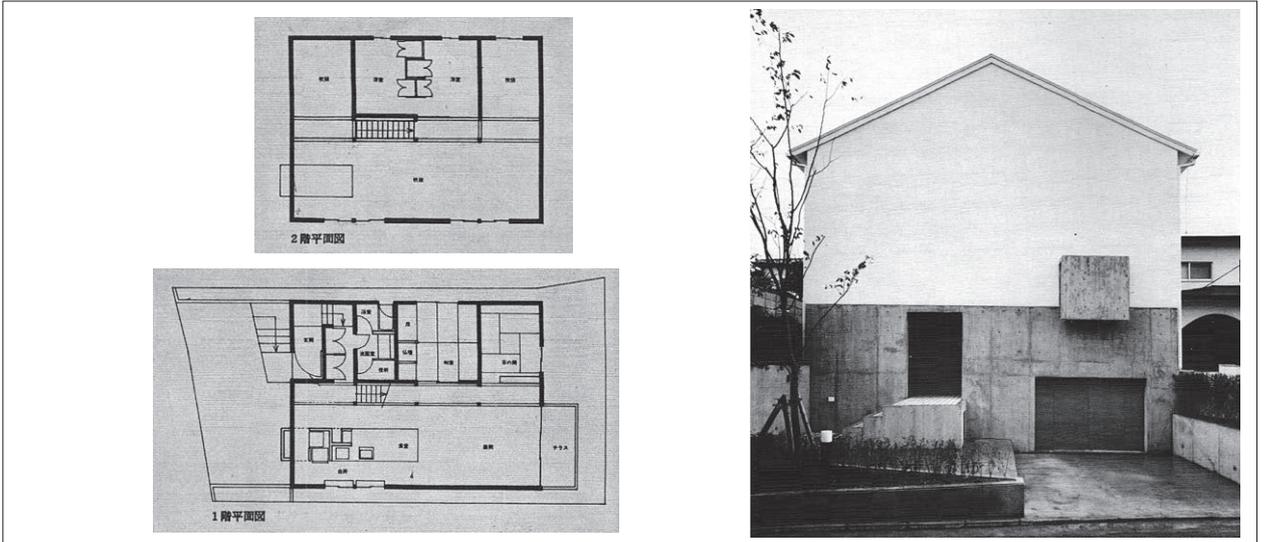
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
57	sk7708	成城の白い家	か	付加	あり	ウ	sw_w	1	0	2	~	=≠*	E	IV



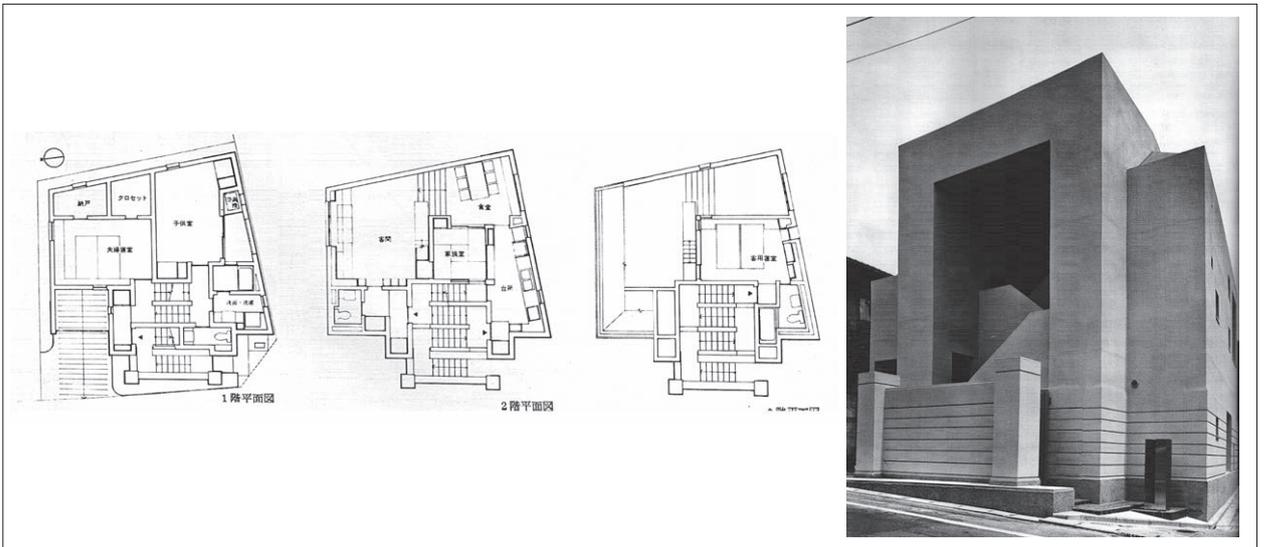
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
58	sk7708	駒杵邸	か	単体	なし	キ	u	1	1	0	■		F	VII



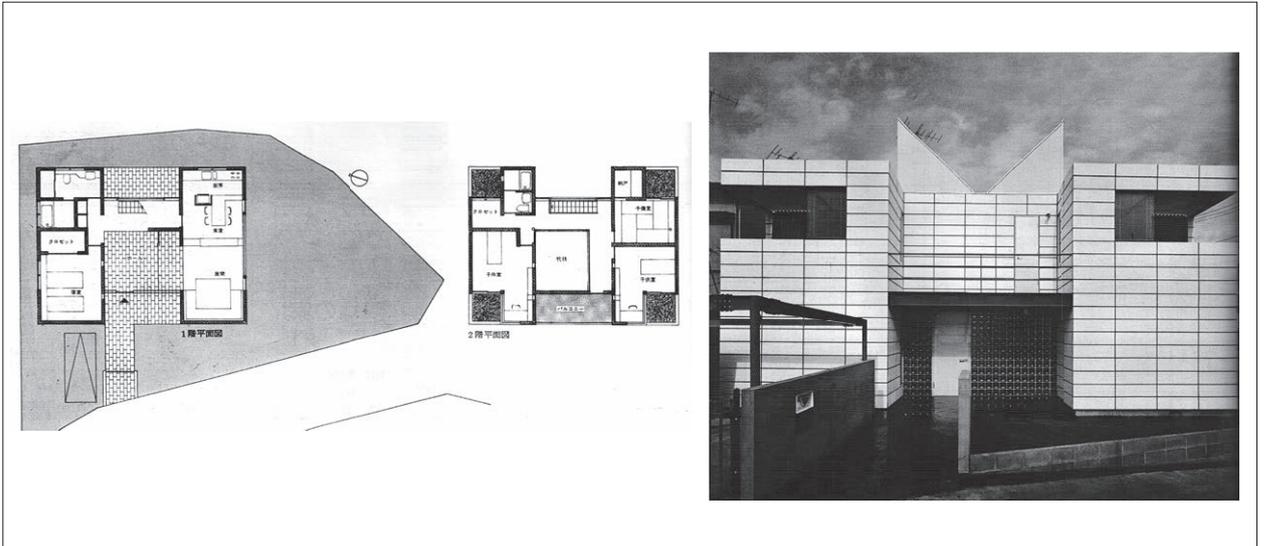
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
59	sk7802	GOH 7603	お*	付加	あり	才	s_s	2	1	2		<	J	XI



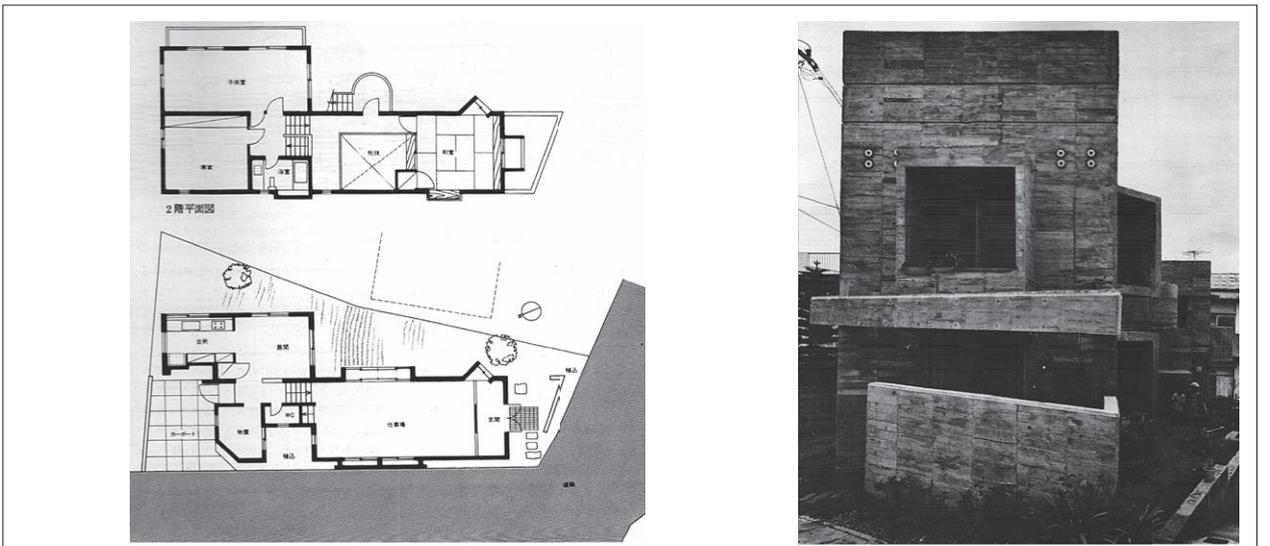
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
60	sk7802	光後邸	か	単体	なし	イ	s	1	0	3			C	III



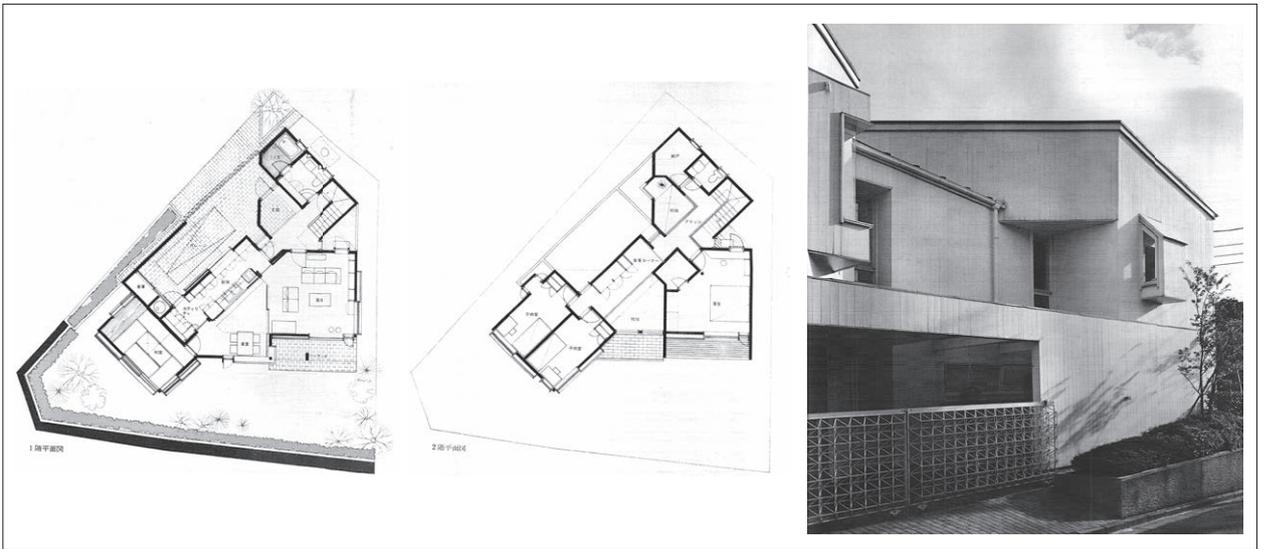
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
61	sk7808	窪田邸	か*	単体	なし	カ	w	2	1	2	●☆		J	XI



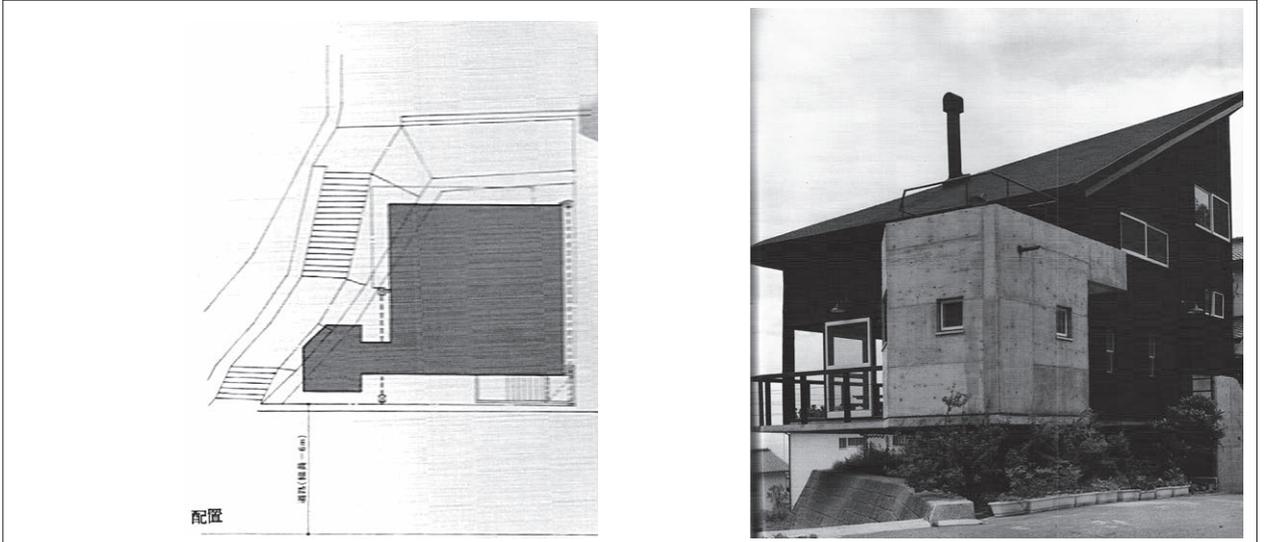
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
62	sk7808	踊場の家	か	並列	なし	ウ	u	1	0	1	○☆		G	VIII



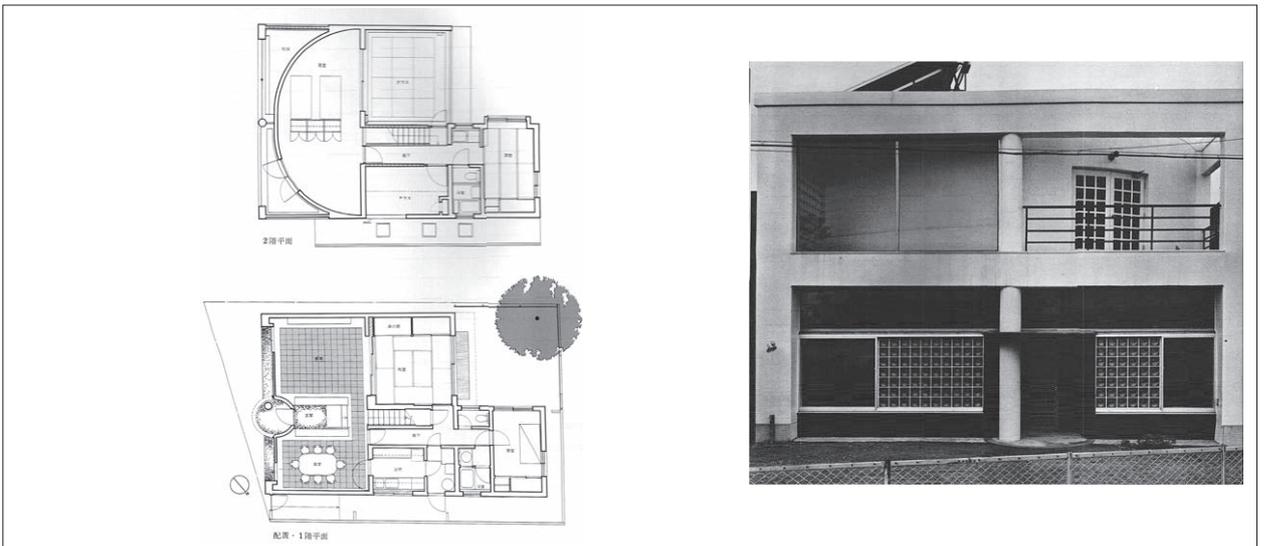
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
63	sk7808	真喜志邸	か*	単体	なし	ウ	w	2	1	1	~		J	XI



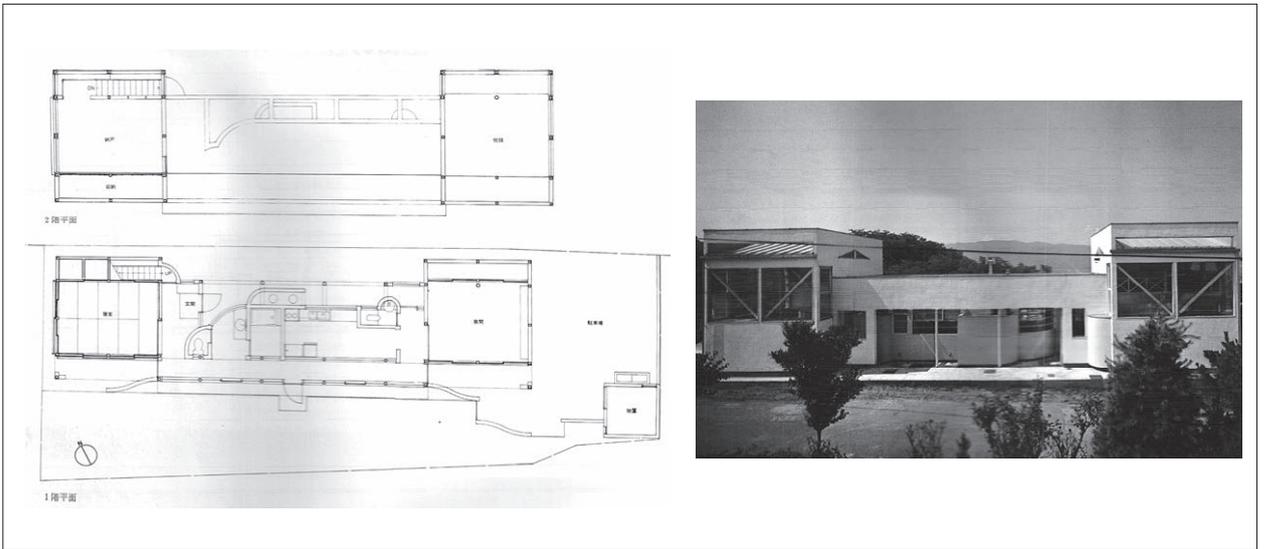
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
64	sk7902	王禅寺の家	か(*)	並列	なし	カ	w	1	0	1	○☆		G	β



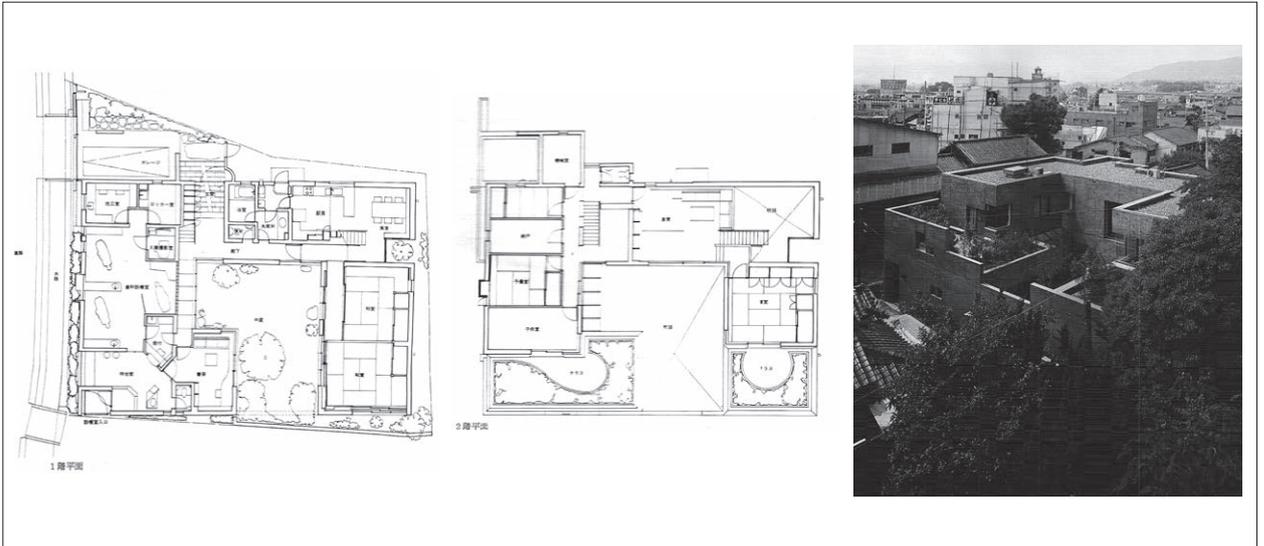
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
65	sk7908	濱吉さんの家	う(*)	付加	あり	イ	u_w	1	1	2		≠	B	α



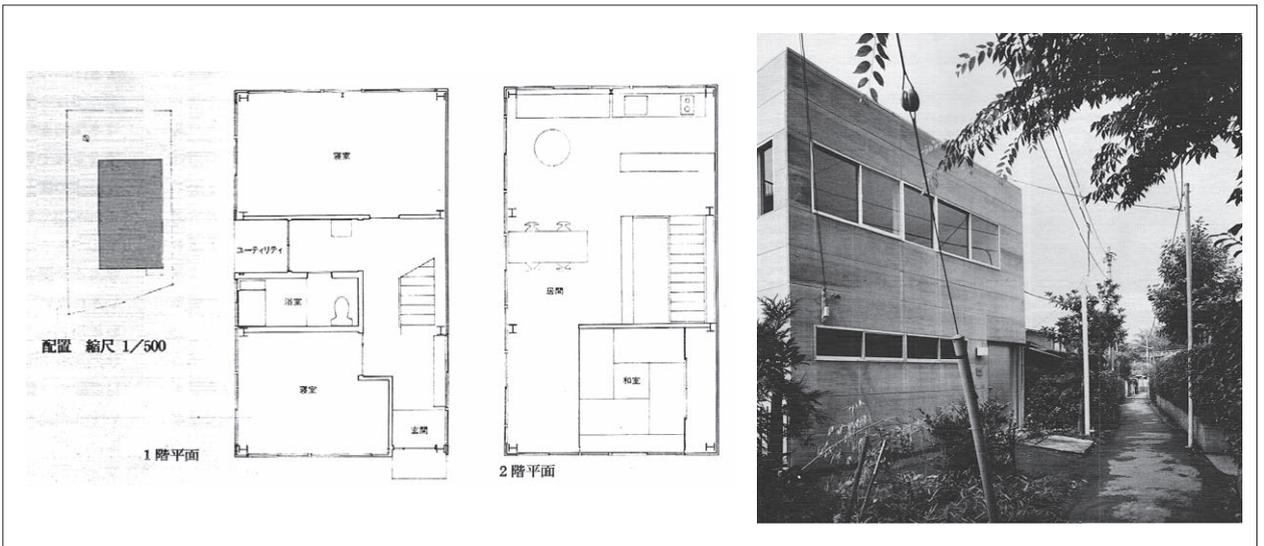
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
66	sk7908	封印された家	え	単体	なし	ウ	u	1	0	3			C	V-d



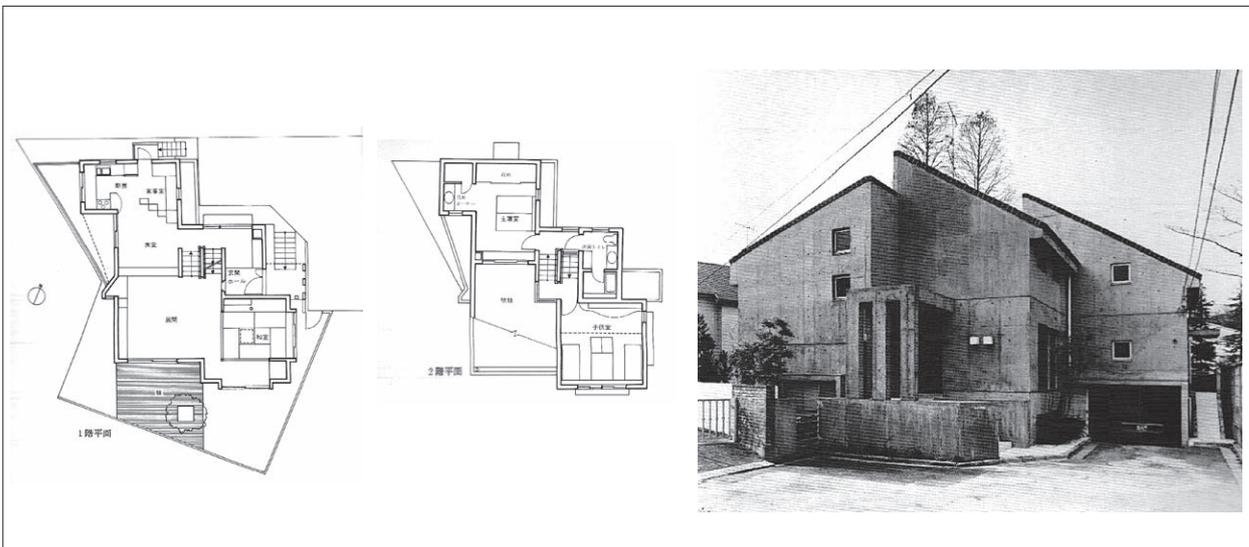
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
67	sk7910	上田の住宅	か	並列	なし	ウ	u	1	0	3	○		C	V-d



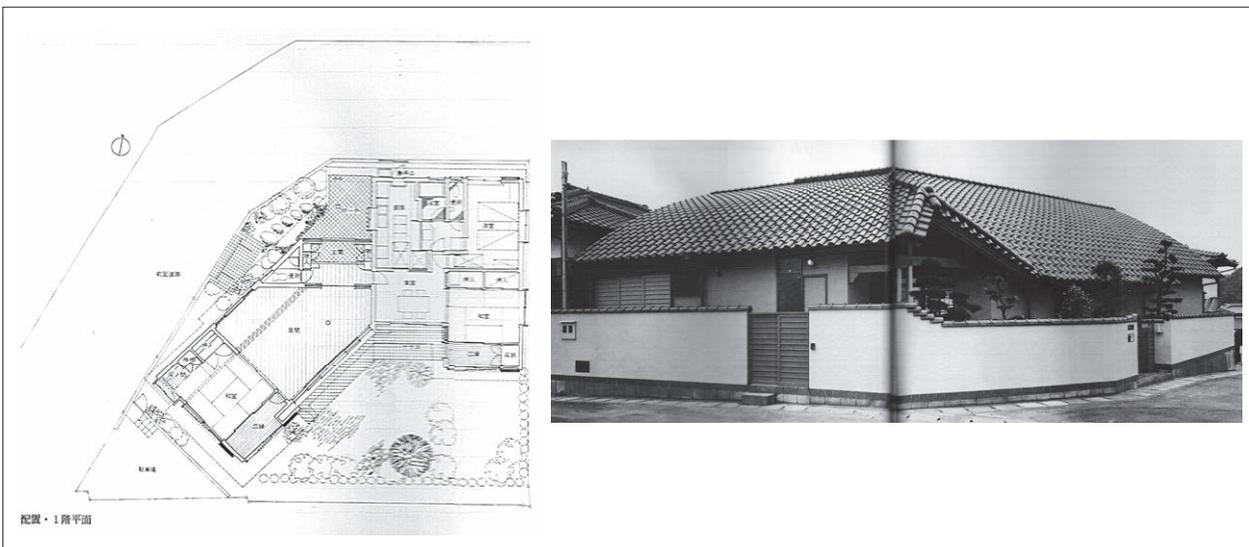
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
68	sk8008	続・正面のない家	か	付加	あり	ウ	w_w	1	1	1	~○☆		D	



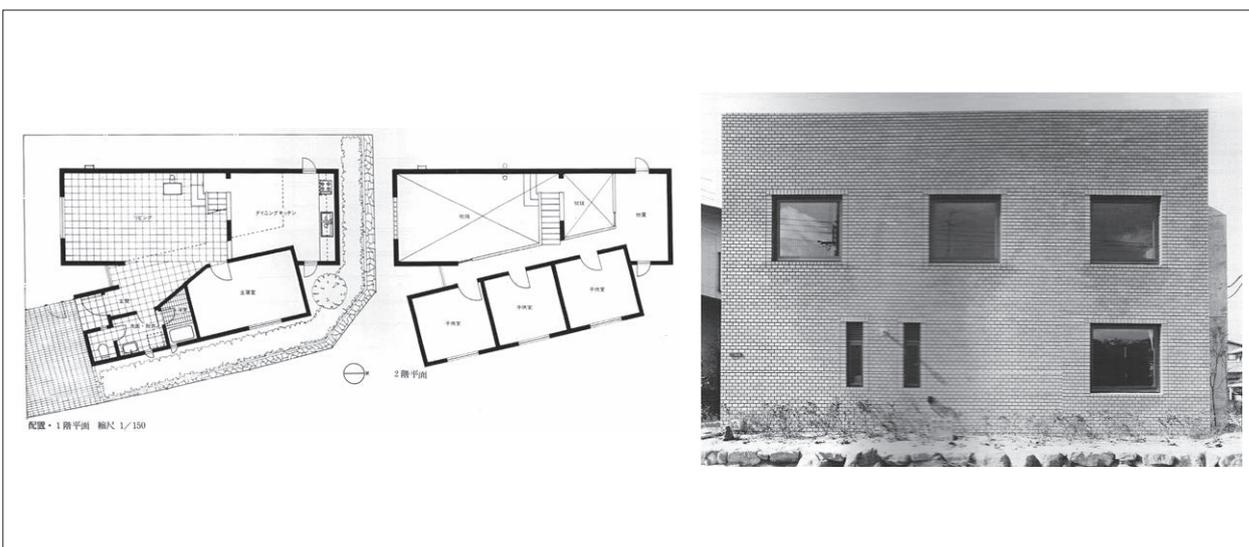
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
69	sk8008	小金井の家	え	単体	なし	イ	u	1	0	3			C	V-d



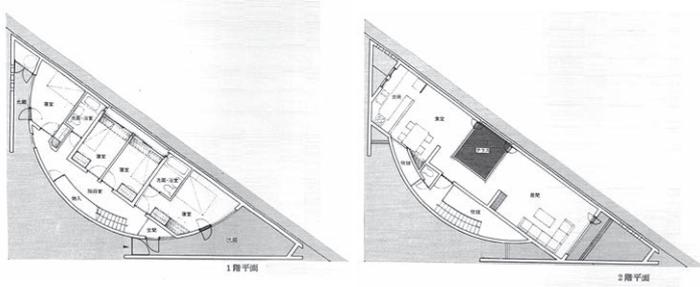
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
70	sk8102	目黒K邸	か	付加	あり	ウ	b_b	1	1	3	~*	=	A	I-a



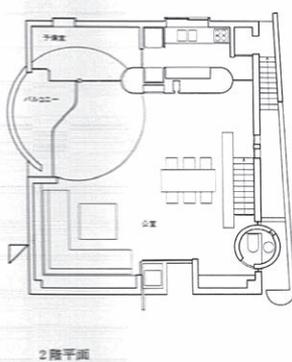
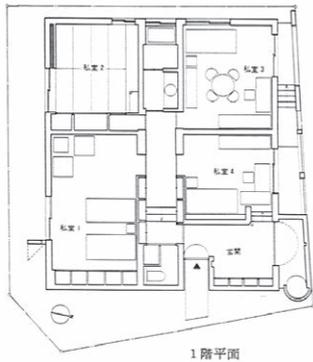
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
71	sk8104	久世寿	か*	並列	なし	エ	w	2	1	2			J	XI



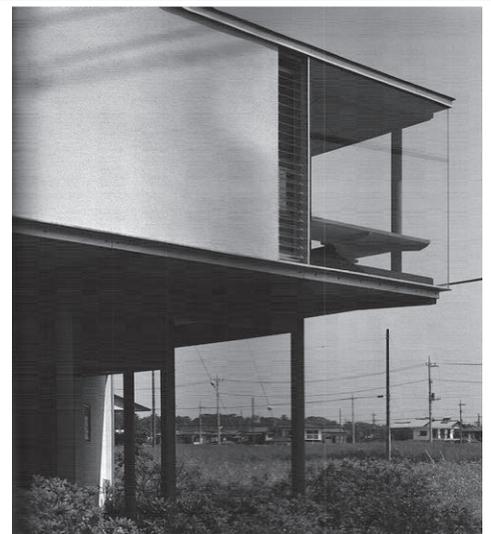
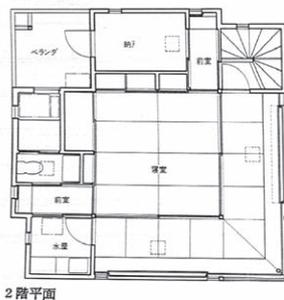
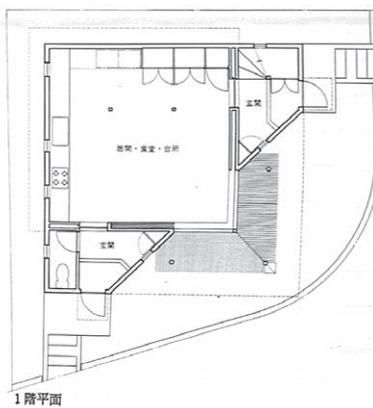
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
72	sk8204	川内長野の家	か*	並列	なし	エ	w	2	2	2			I	X



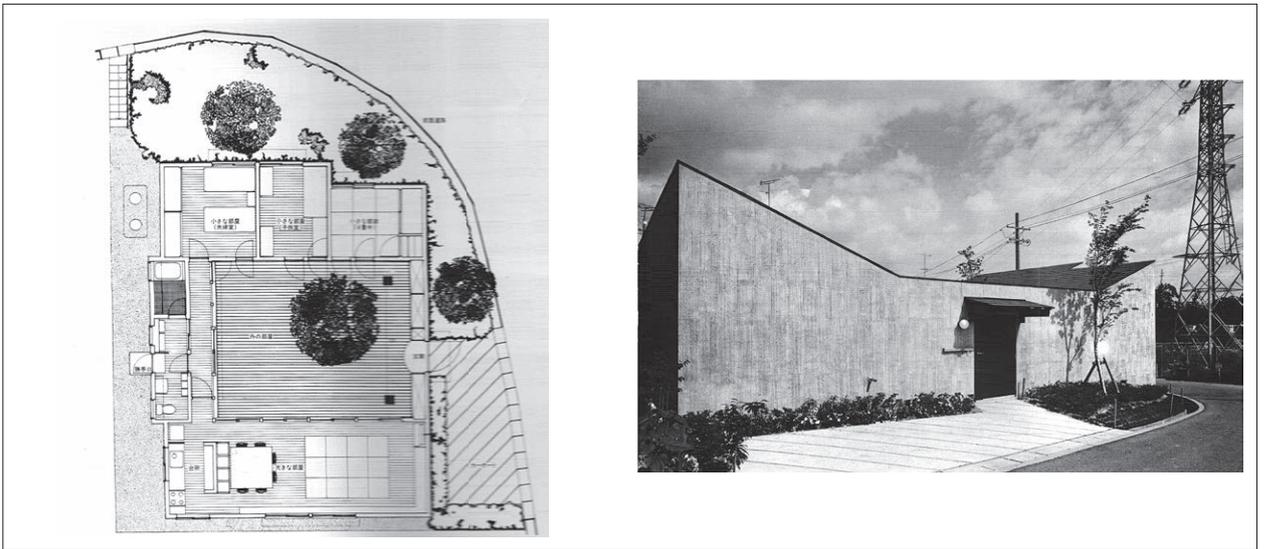
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面 輪郭の形状	適応関係 主V_主従V	道路 境界数	平行数 (道路)	平行数 (隣地)	みられた 近似/変形	従Vの 平行関係	平行関係 の傾向	関係図式 の種類
				形状	大小関係									
73	sk8302	衾の住宅	あ	単体	なし	キ	w	1	1	2	~*		A	I



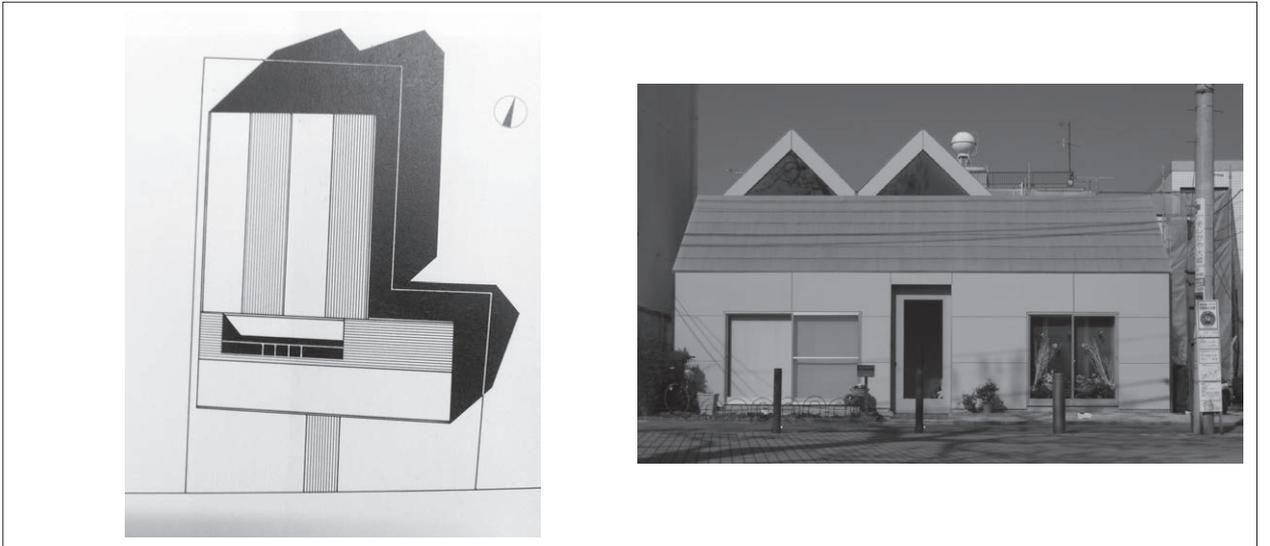
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面 輪郭の形状	適応関係 主V_主従V	道路 境界数	平行数 (道路)	平行数 (隣地)	みられた 近似/変形	従Vの 平行関係	平行関係 の傾向	関係図式 の種類
				形状	大小関係									
74	sk8302	北嶺の家	か(*)	単体	なし	イ	s	1	0	2			E	IV-c



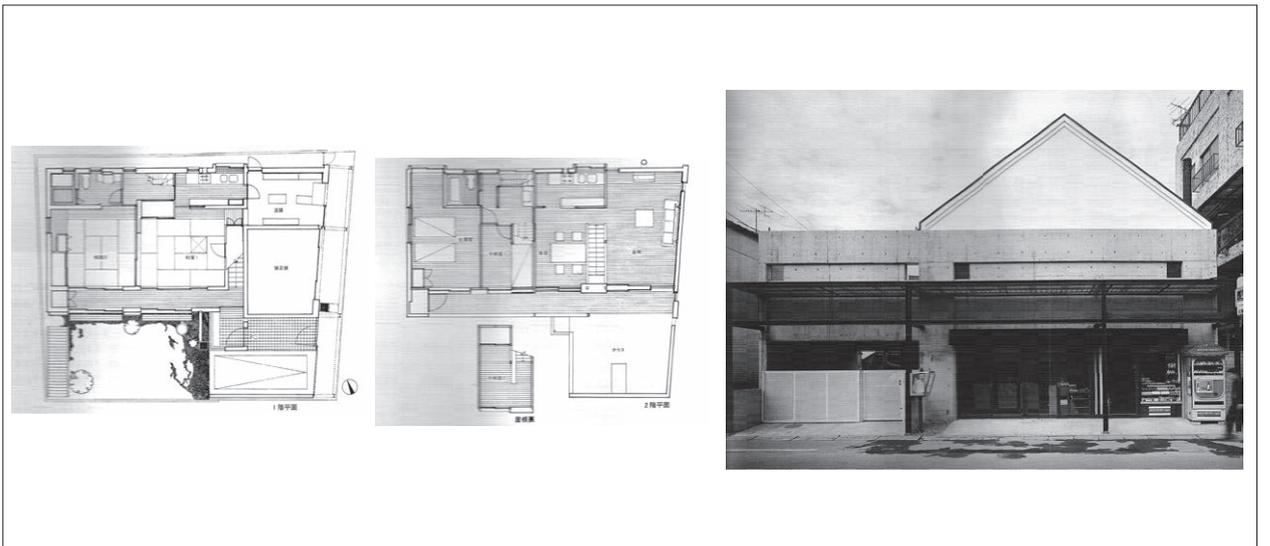
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面 輪郭の形状	適応関係 主V_主従V	道路 境界数	平行数 (道路)	平行数 (隣地)	みられた 近似/変形	従Vの 平行関係	平行関係 の傾向	関係図式 の種類
				形状	大小関係									
75	sk8308	大北邸	い	単体	なし	ウ	u	1	0	2			C	V-d



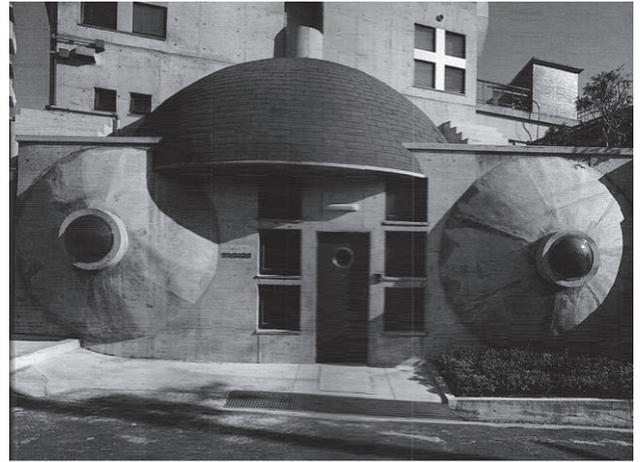
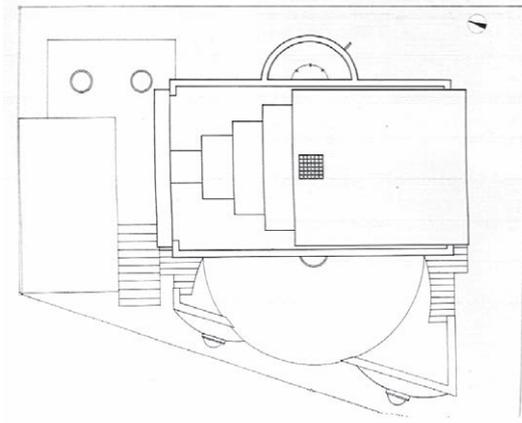
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
76	sk8408	木邨邸	か*	単体	なし	ウ	u	2	0	2			K	



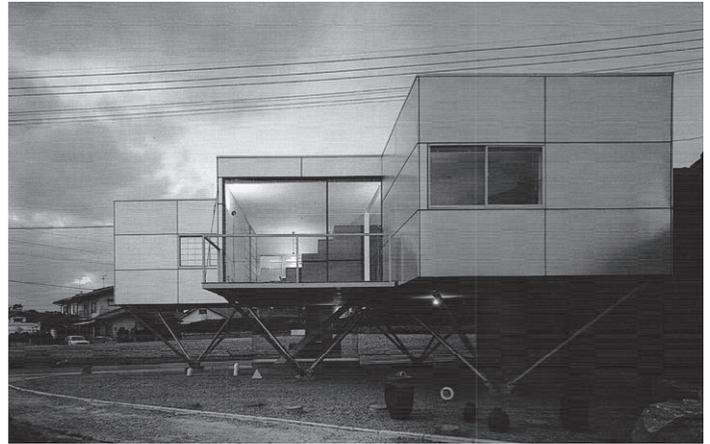
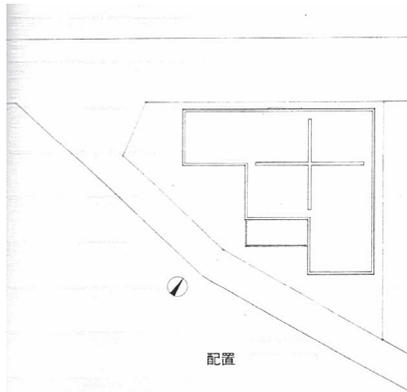
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
77	jt85 夏	祖師谷の切妻	か	並列	なし	ウ	bw	1	0	3			C	III



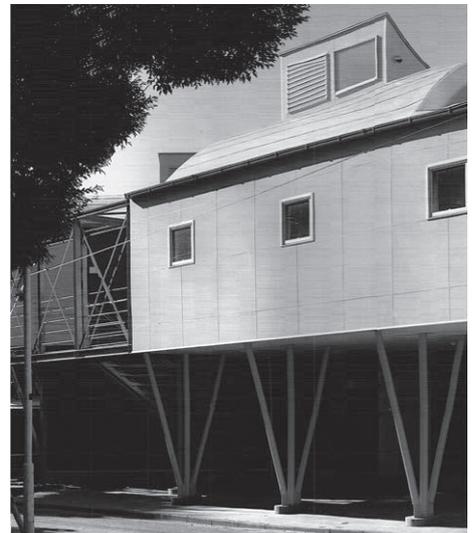
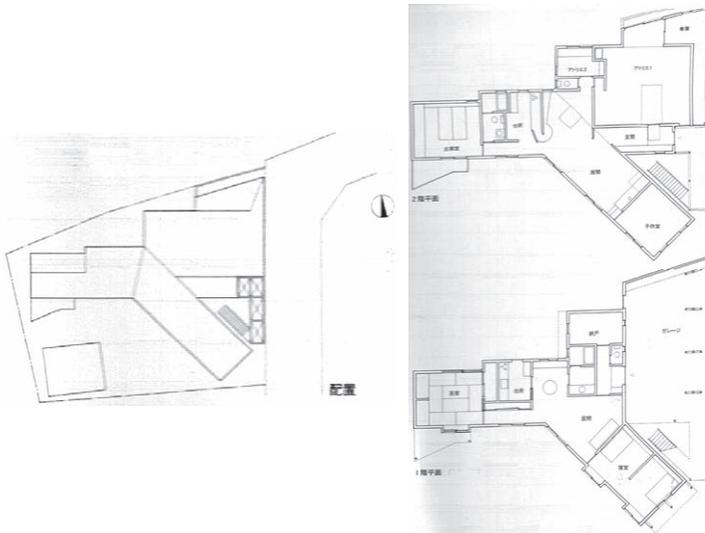
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
78	jt86 冬	大師の町家	え	付加	あり	才	u_w	1	1	3		=	A	



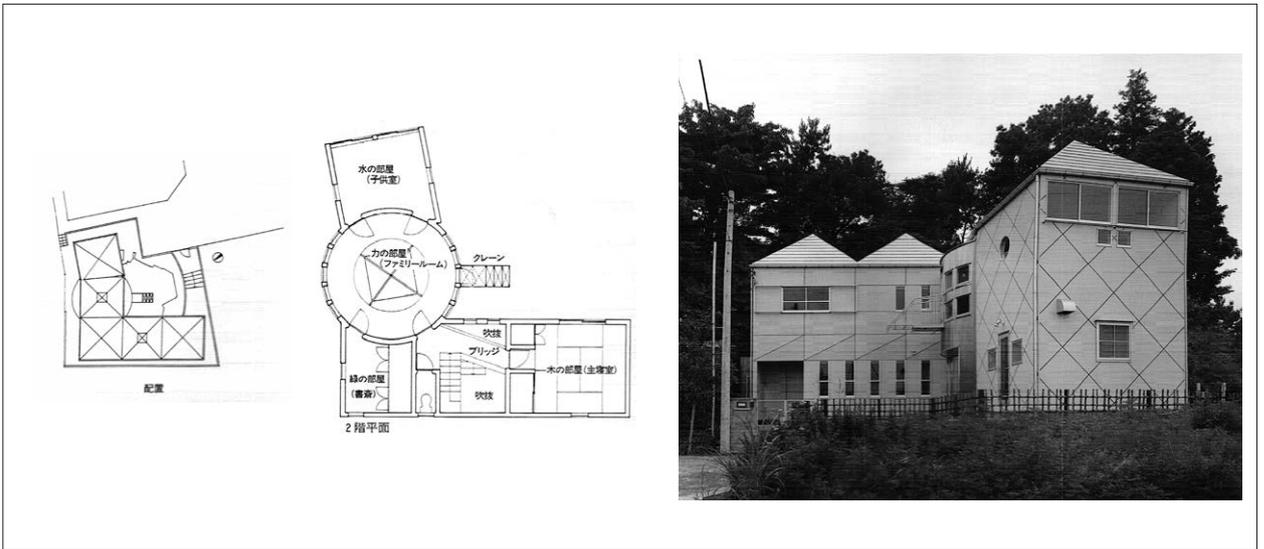
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
79	jt86冬	オッパイハウス (戸口勉邸)	え	付加	あり	イ	s_u	1	0	3	■	=<*	C	



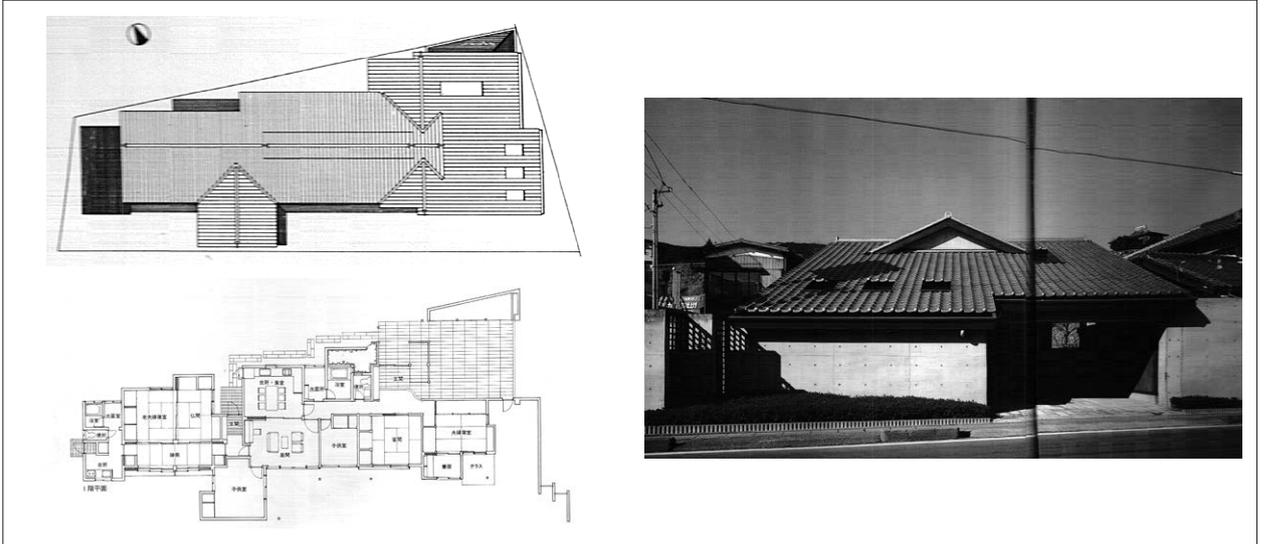
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
80	jt8605	光十字の家	お	単体	なし	ウ	w	1	1	2	~		B	II -b



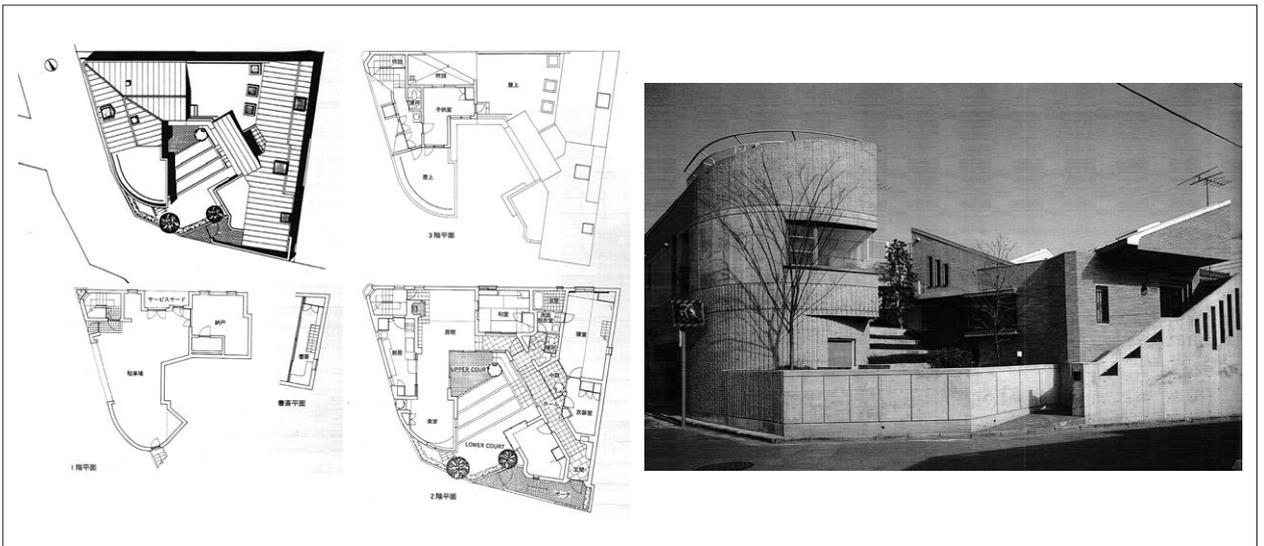
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
81	jt8606	参宮橋の住宅	え	付加	あり	ク	w_w	1	1	1	~	=*	D	



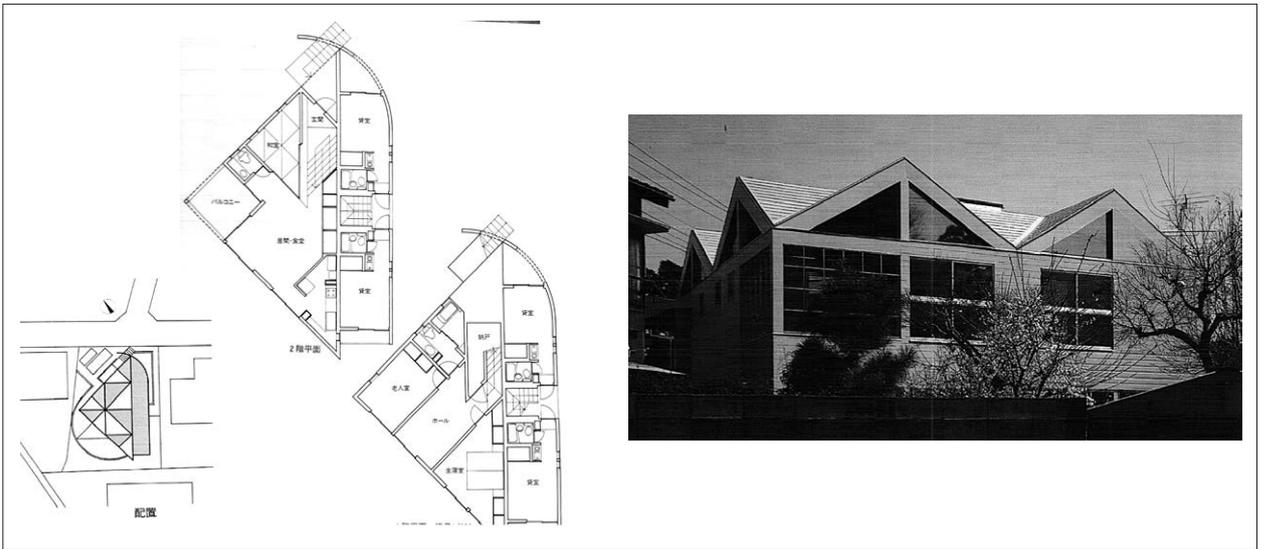
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
82	jt8609	五塔ハウス (後藤邸)	か	並列	なし	ウ	sw	1	1	2			B	II -b



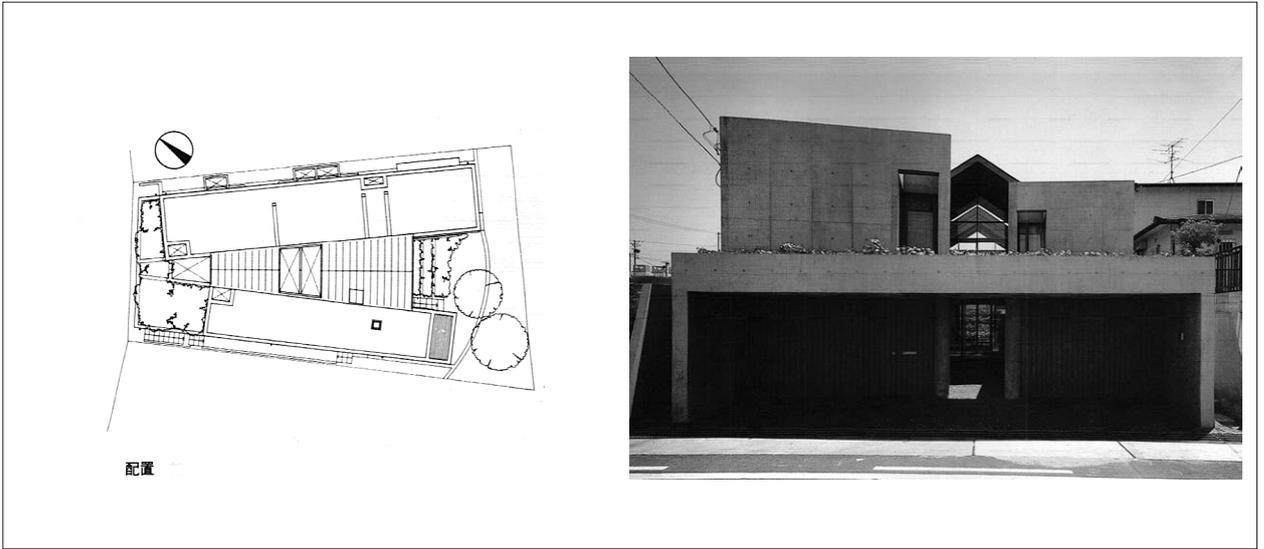
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
83	jt8703	中ノ郷の家	え	単体	なし	ウ	w	1	1	2	~*		B	II -b



資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
84	jt8703	段状のコートハウス	か	付加	あり	キ	sw_sw	1	0	3	~	≠	C	III



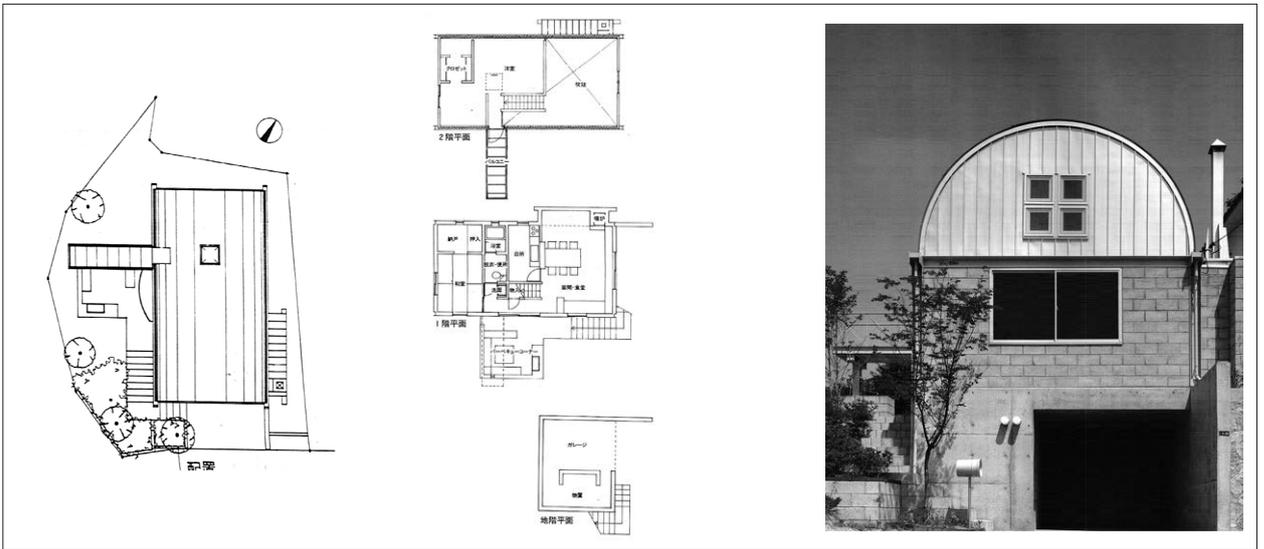
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
85	jt8705	豪徳寺の切妻	う	付加	あり	ア	u_u	1	0	1		==	G	VIII-f



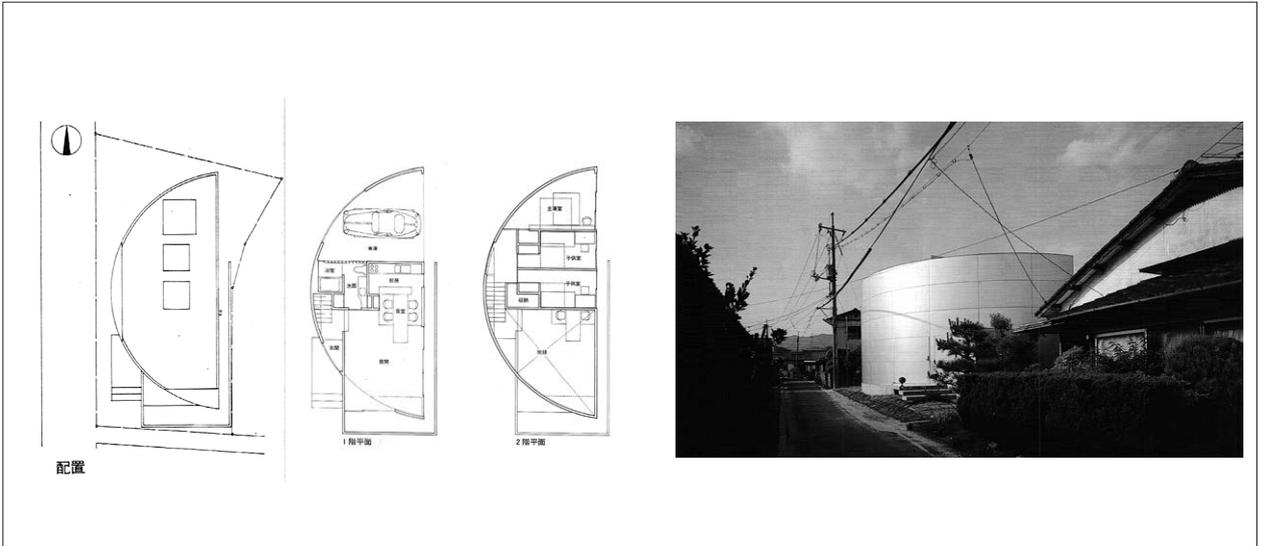
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
86	jt8707	岩田邸	え	並列	なし	エ	w	1	0	2			E	IV-c



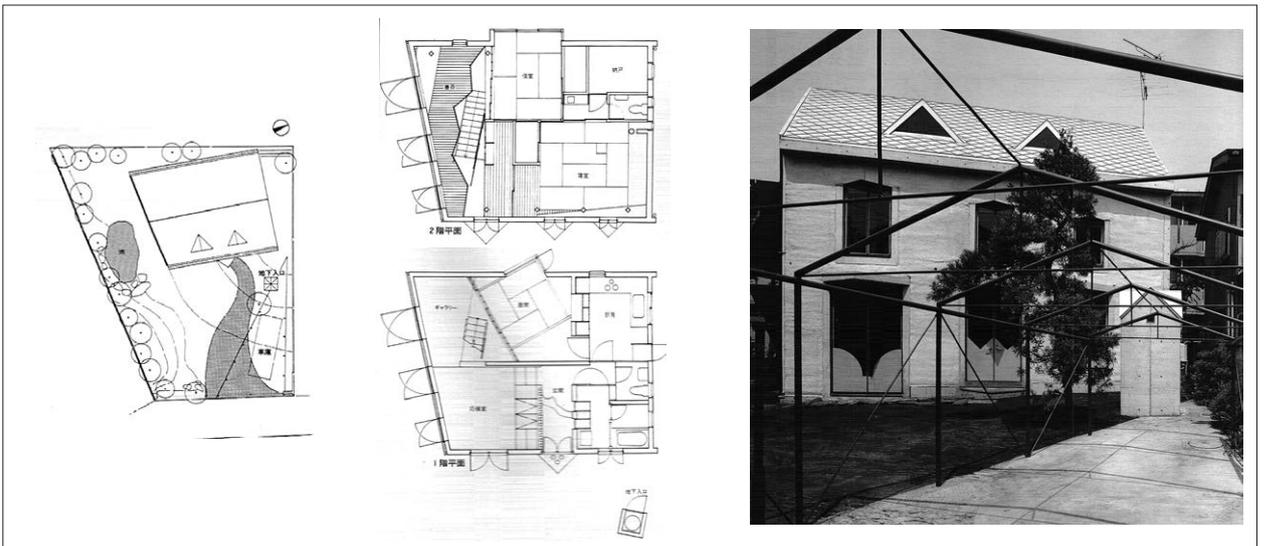
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
87	jt8709	大磯・保田さんの家	か*	単体	なし	ク	b	2	0	1			K	



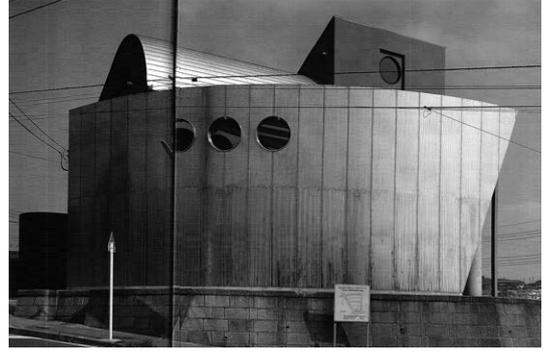
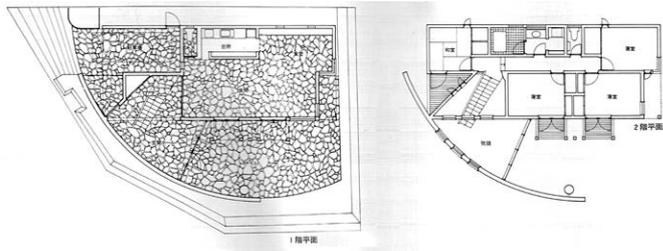
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係 主V_主従V	道路境界数	平行数 (道路)	平行数 (隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
88	jt8709	みくまりの家	か	付加	あり	イ	u_u	1	1	0	●☆	≠	F	VIII-f



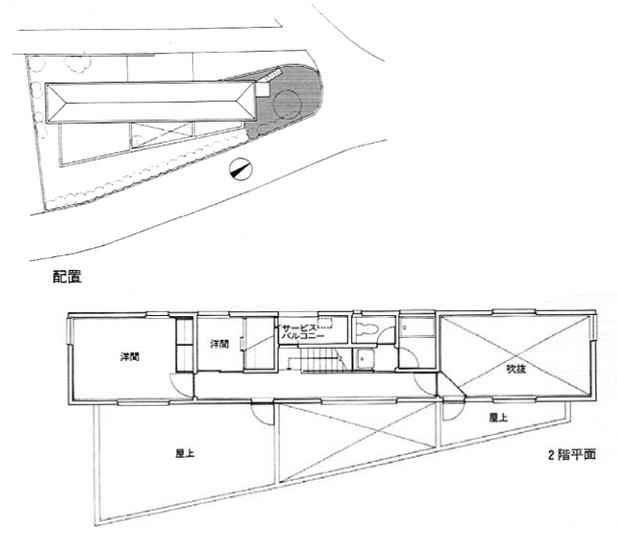
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係 主V_主従V	道路境界数	平行数 (道路)	平行数 (隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
89	jt8709	NOVELETTE	か(*)	付加	あり	キ	u_u	1	0	1		=≠	G	IV-c



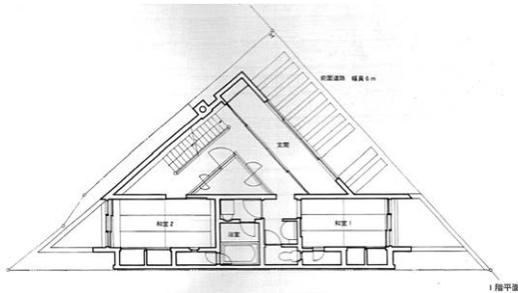
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係 主V_主従V	道路境界数	平行数 (道路)	平行数 (隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
90	jt8801	三界の家	う	単体	なし	オ	u	1	0	0			H	



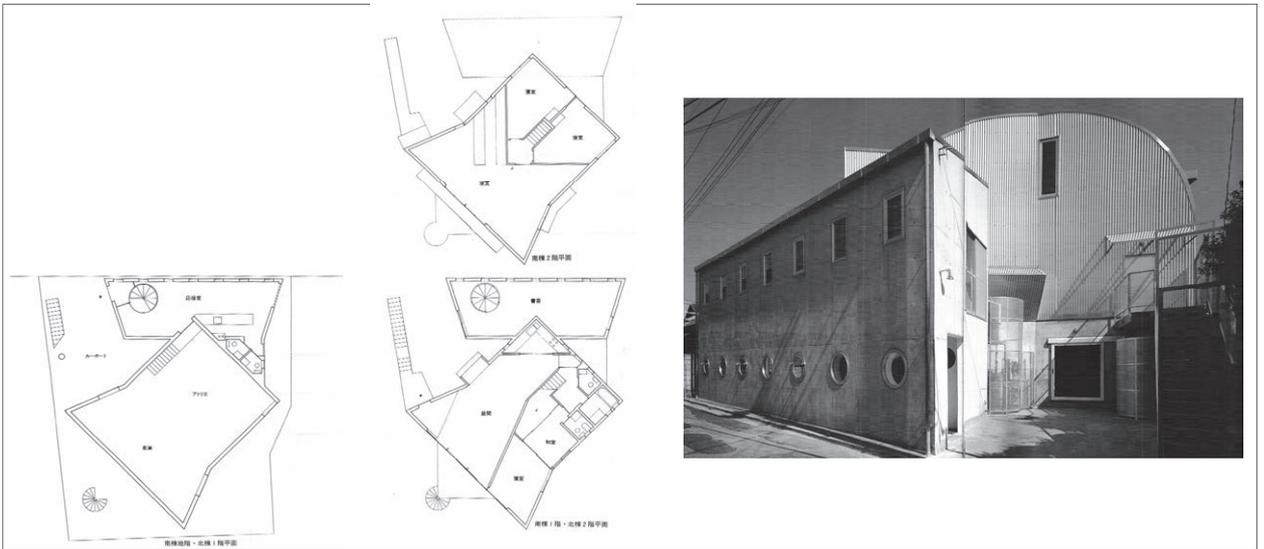
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面 輪郭の形状	対応関係 (主V_主従V)	道路 境界数	平行数 (道路)	平行数 (隣地)	みられた 近似/変形	従Vの 平行関係	平行関係 の傾向	関係図式 の種類
				形状	大小関係									
91	jt8803	優しい壁	か*	付加	あり	イ	u_w	2	1	2		<* <*	J	



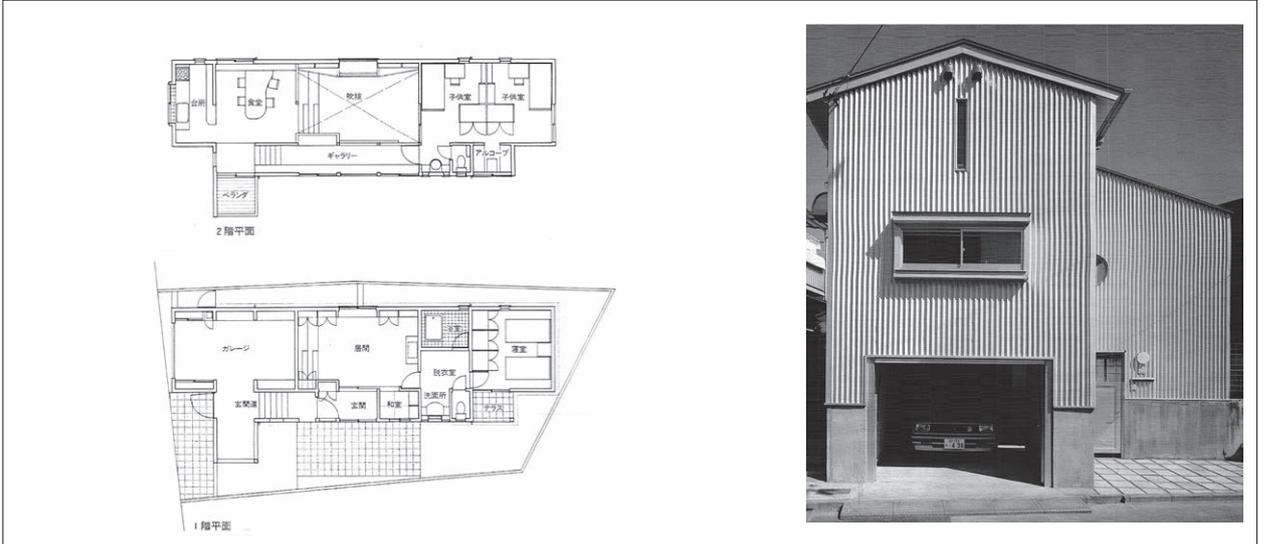
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面 輪郭の形状	対応関係 (主V_主従V)	道路 境界数	平行数 (道路)	平行数 (隣地)	みられた 近似/変形	従Vの 平行関係	平行関係 の傾向	関係図式 の種類
				形状	大小関係									
92	jt8808	鎌倉山のアトリエ	か(*)	付加	あり	イ	u_w	1	0	1		≠*	G	



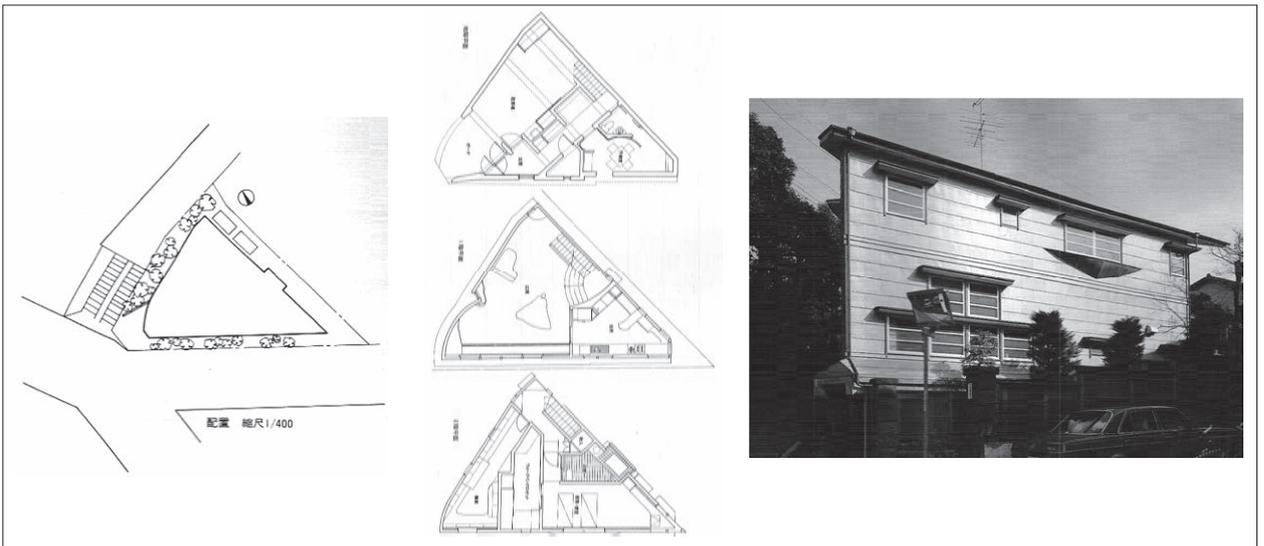
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面 輪郭の形状	対応関係 (主V_主従V)	道路 境界数	平行数 (道路)	平行数 (隣地)	みられた 近似/変形	従Vの 平行関係	平行関係 の傾向	関係図式 の種類
				形状	大小関係									
93	jt8809	祐天寺の家	あ	付加	あり	ア	sw_w	1	1	2		=	A	I-a



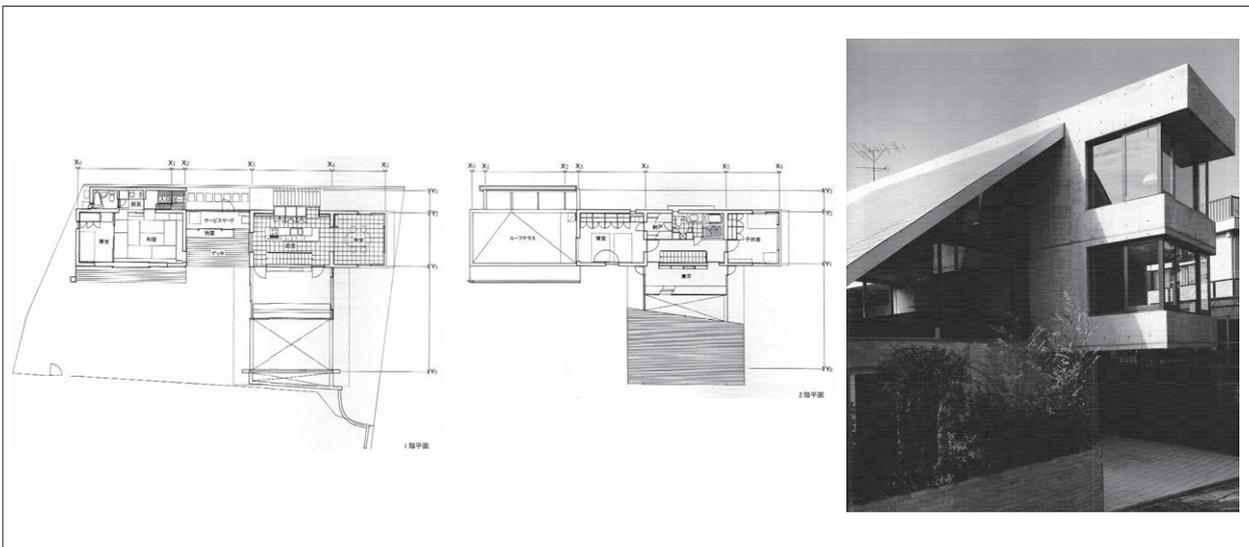
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係主V_主従V	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
94	jt8810	ハネギ・コンプレックス	お	付加	あり	オ	u_u	1	0	0		<* ≠#	H	IX



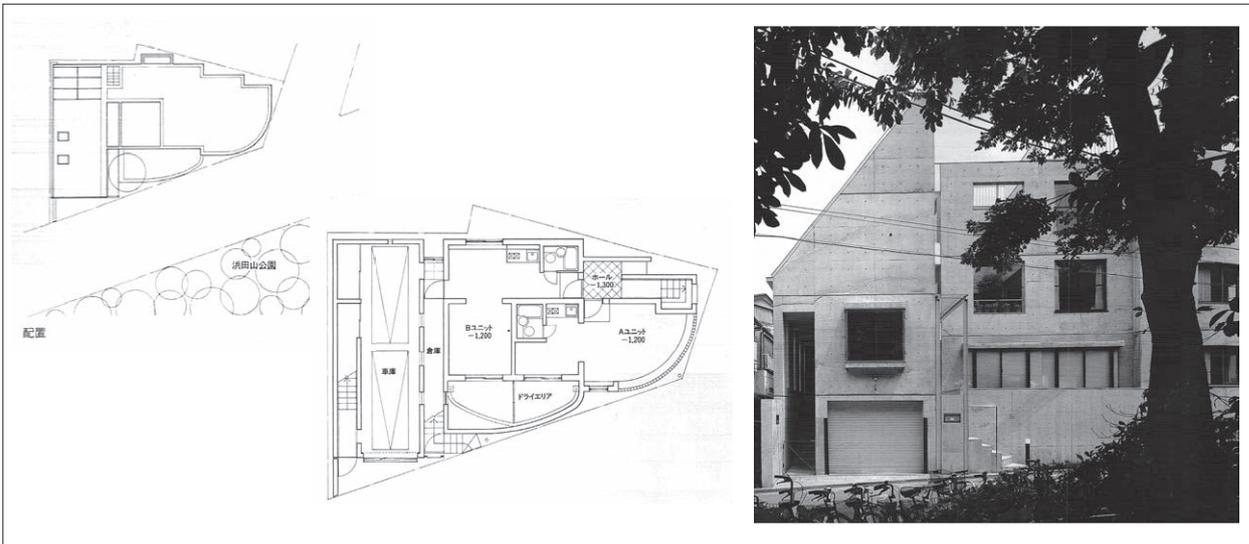
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係主V_主従V	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
95	jt8901	野地邸	お	単体	なし	ウ	w	1	0	1	~		G	β



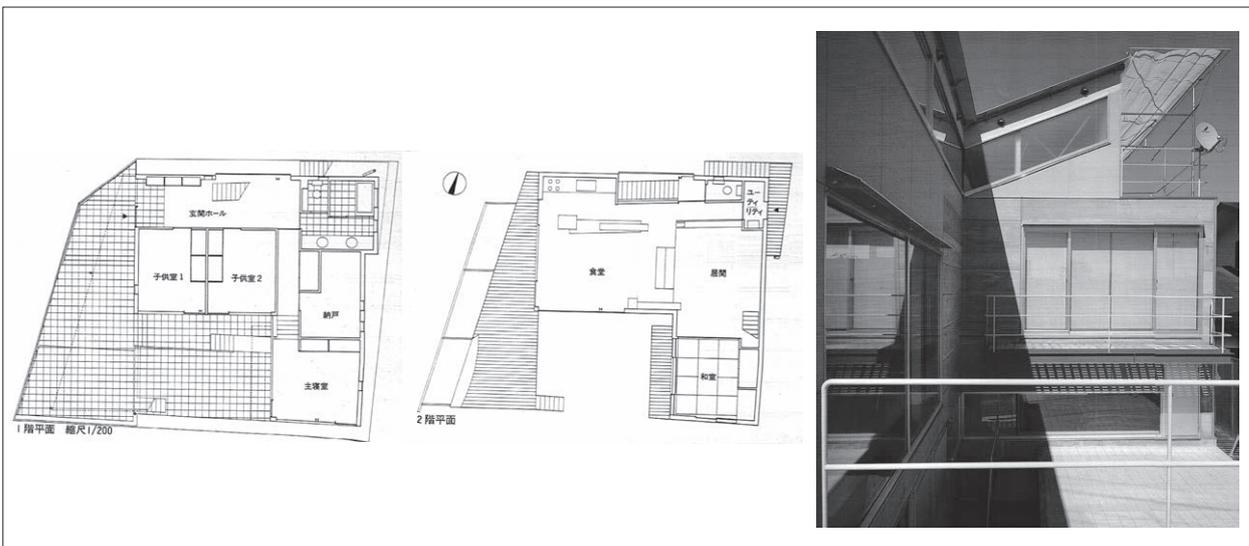
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係主V_主従V	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
96	jt8903	たきて	い(*)	単体	なし	ク	sw	1	1	2	~		A	I



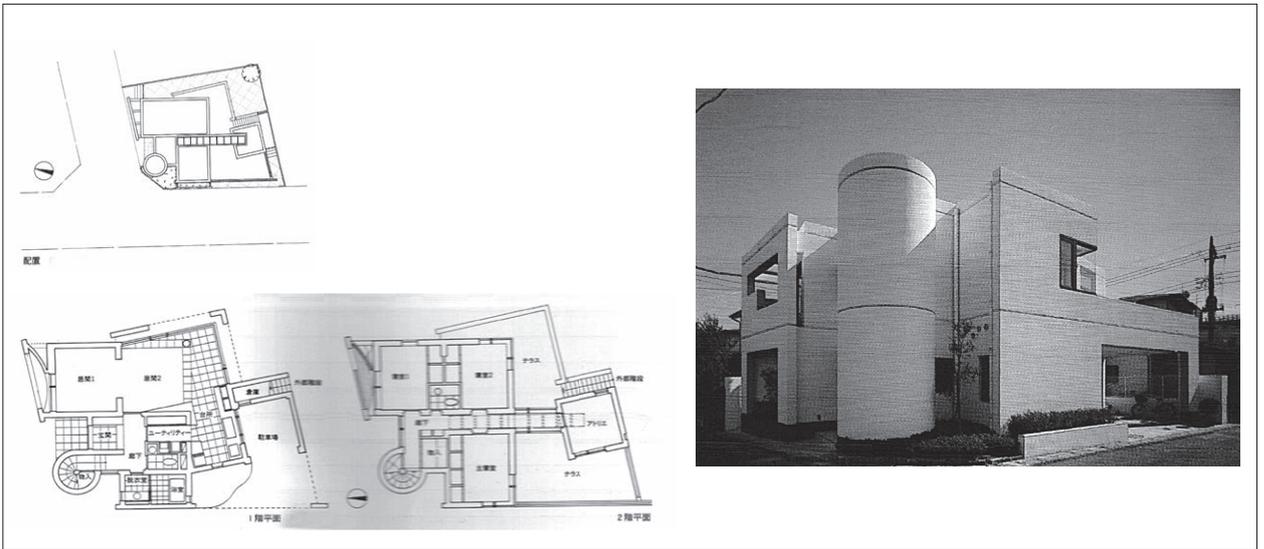
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
97	jt8904	大屋根のある家	か	付加	あり	ウ	u_u	1	0	1		=	G	VIII-f



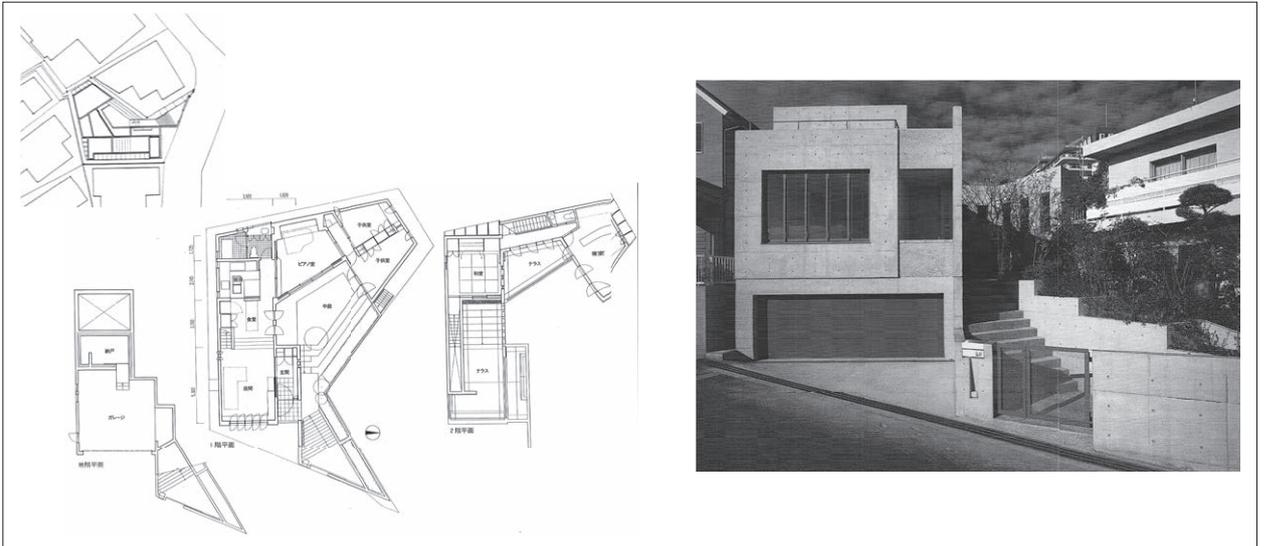
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
98	jt8910	浜田山の住宅	か*	並列	なし	ク	w	2	2	2	~*		I	X



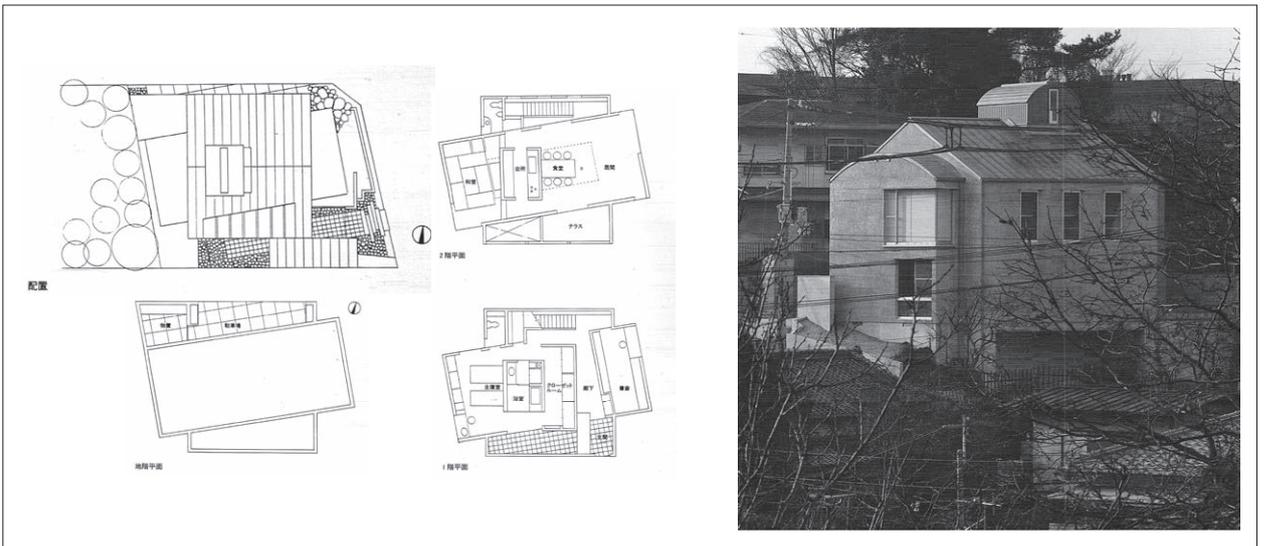
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
99	jt8911	千葉の住宅	え*	付加	あり	ウ	u_w	2	1	2	~	<*	J	



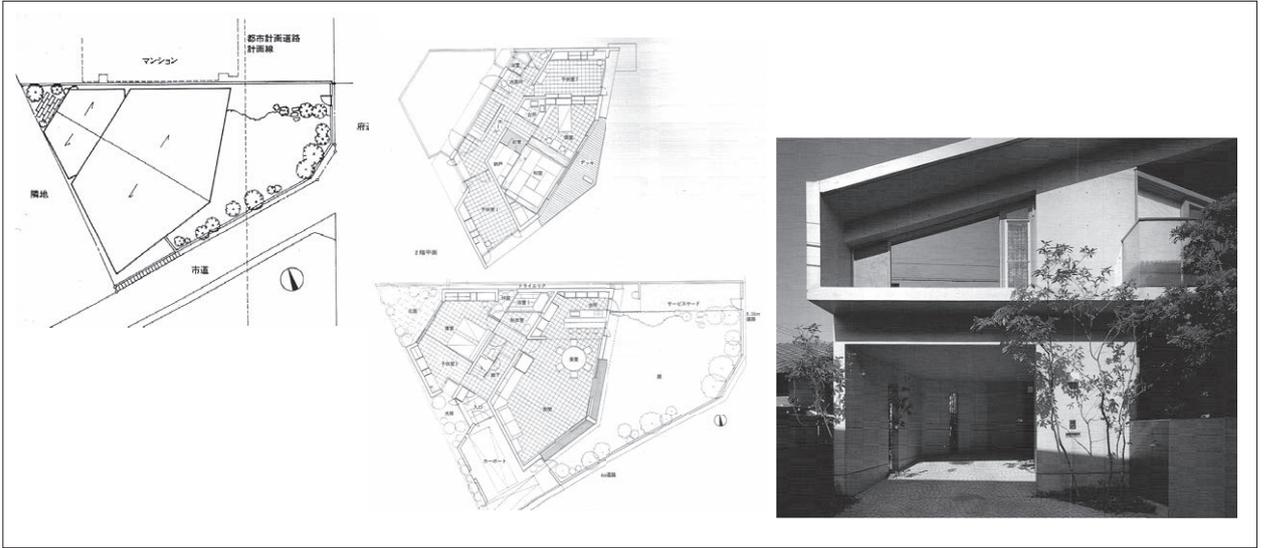
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係 (主V_主従V)	道路境界数	平行数 (道路)	平行数 (隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
100	jt8912	HOUSE-F	う*	付加	あり	ク	w_w	2	2	1	~*	=*	I	X-h



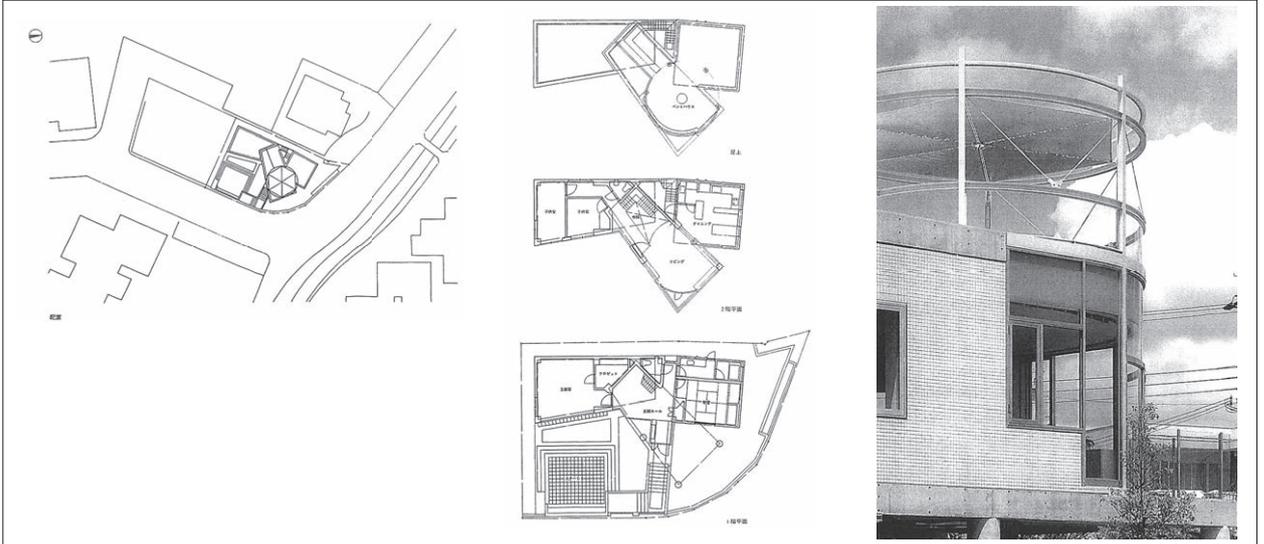
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係 (主V_主従V)	道路境界数	平行数 (道路)	平行数 (隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
101	jt9002	本庄町の家	か	付加	あり	ク	w_w	1	0	3		≠	C	III



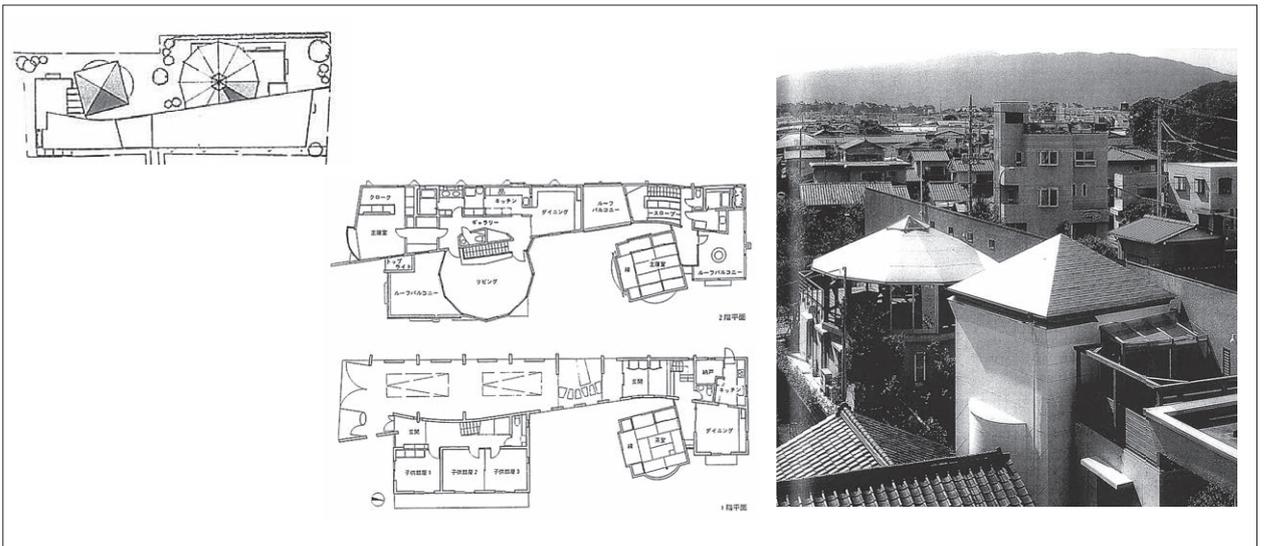
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係 (主V_主従V)	道路境界数	平行数 (道路)	平行数 (隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
102	jt9105	茨木の住宅	え*	付加	あり	イ	s_u	2	1	1		<*<*	J	



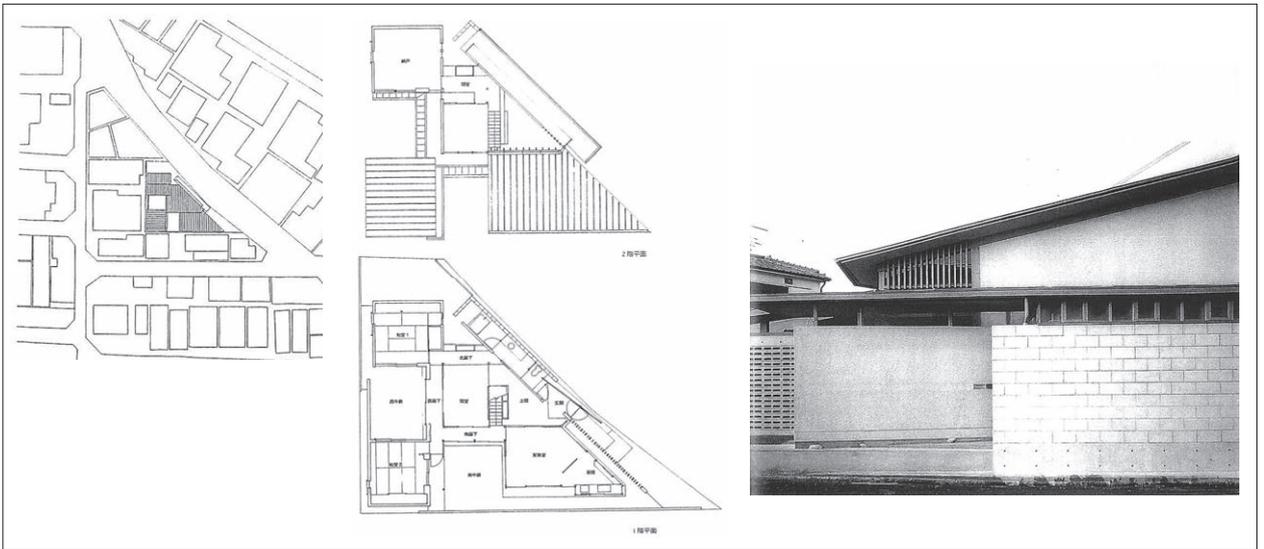
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
103	jt9111	末広りの家2	う(*)	付加	あり	ク	w_w	1	0	2		==	E	IV



資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
104	jt9301	笹井邸	お*	並列	なし	ク	u	2	1	2	~*		J	



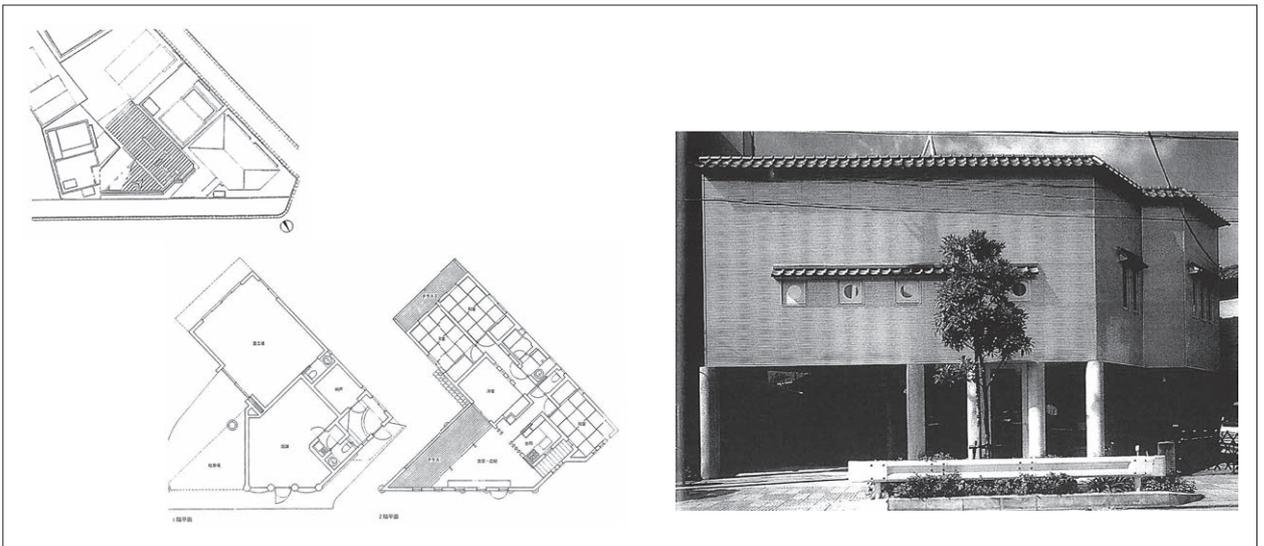
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
105	jt9301	K2 HOUSE	お	付加	あり	ク	w_w	1	0	3		≠	C	III



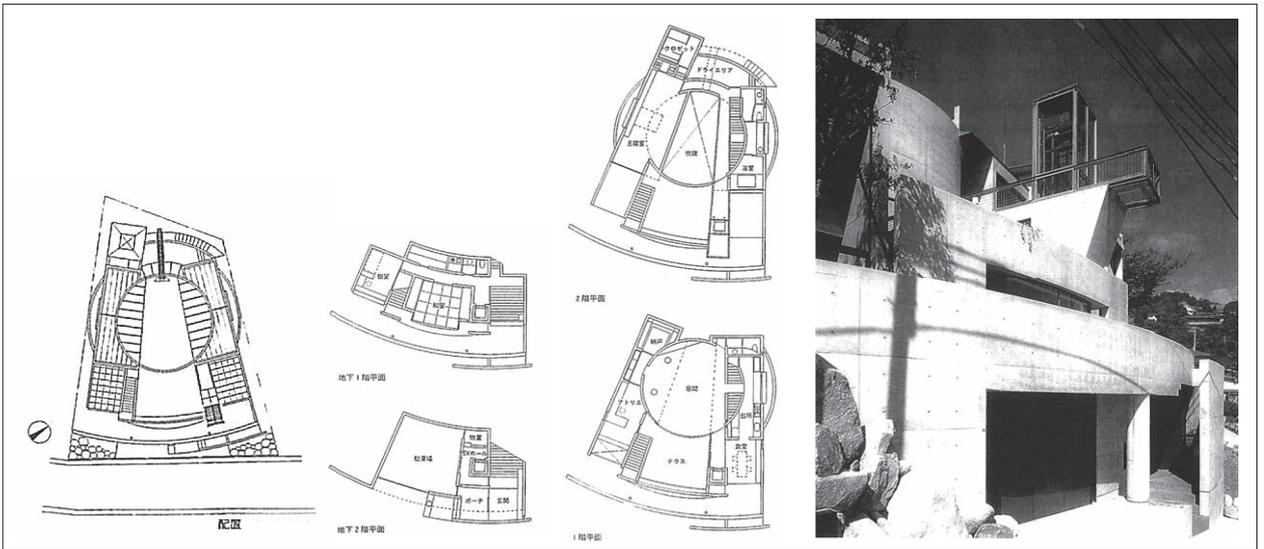
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
106	jt9302	玉串川の家	か	付加	あり	カ	w_w	1	1	3	○	=*	A	I-a



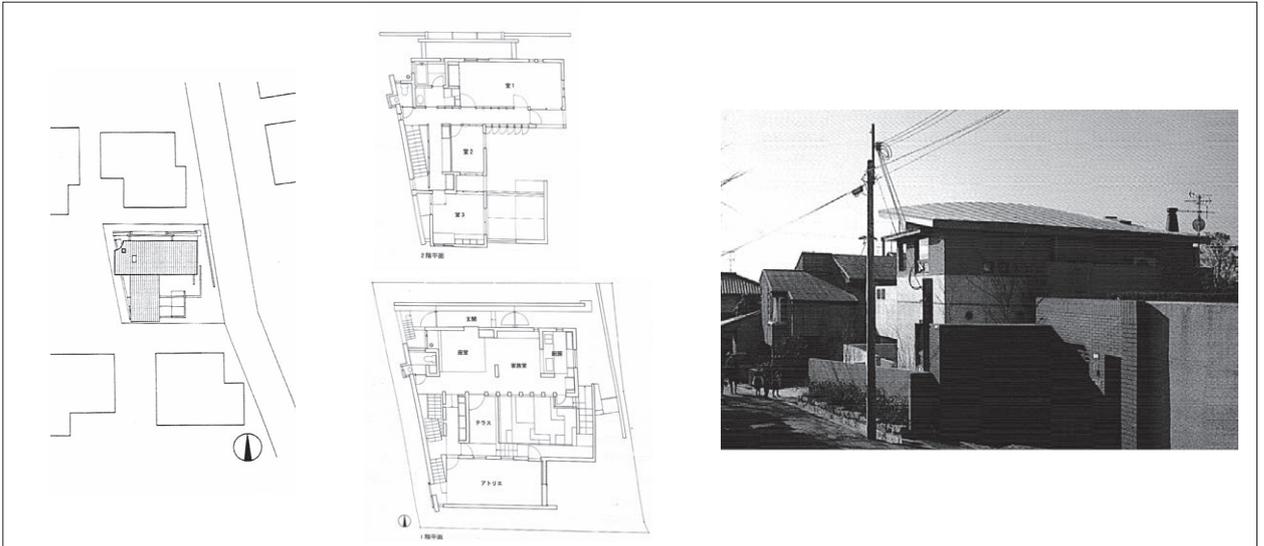
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
107	jt9302	鎌倉の家	か	単体	なし	イ	u	1	0	0	○☆		H	IX-g



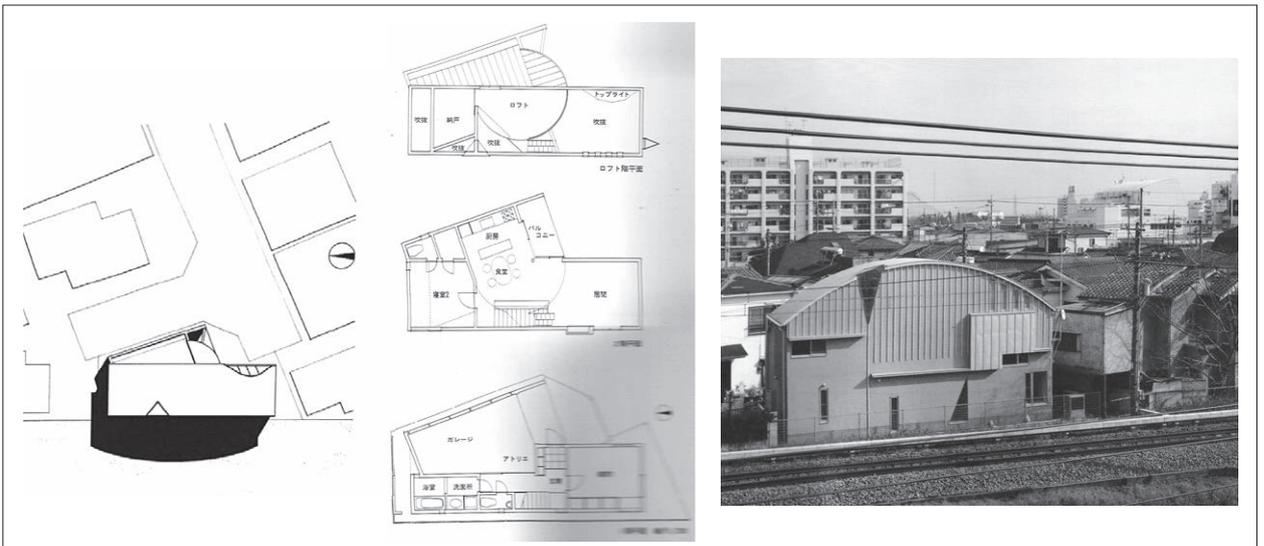
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
108	jt9304	アルミの畳屋	お	単体	なし	カ	bw	1	1	2			B	II



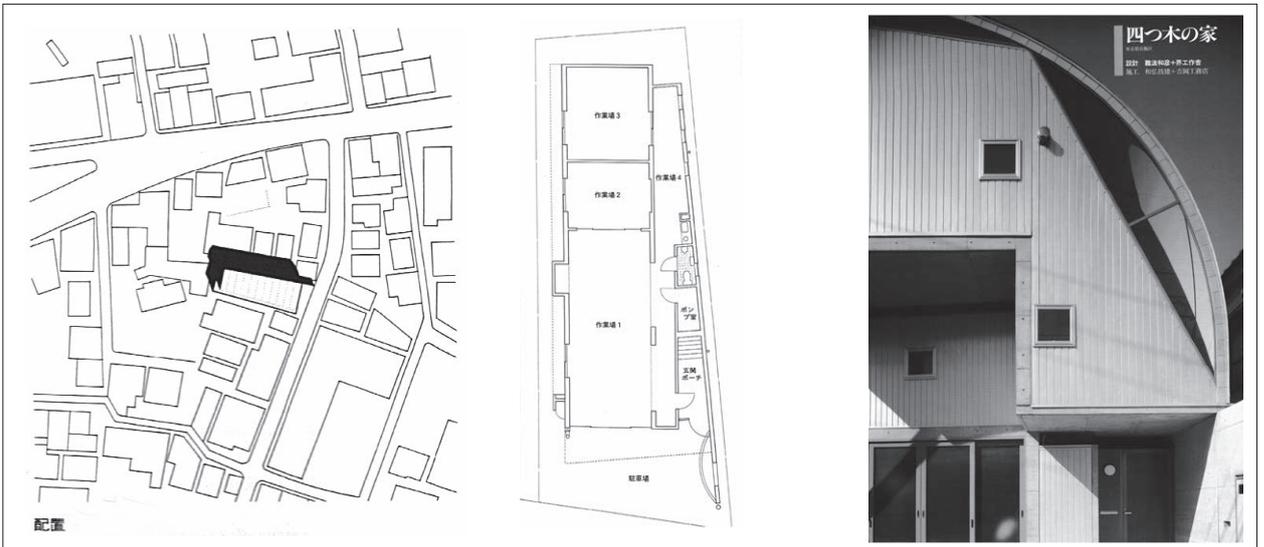
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係 主V_主従V	道路境界数	平行数 (道路)	平行数 (隣地)	みられた 近似/変形	従Vの 平行関係	平行関係 の傾向	関係図式の 類型
				形状	大小関係									
109	jt9304	岡本邸	え	並列	なし	キ	w	1	0	2			E	IV



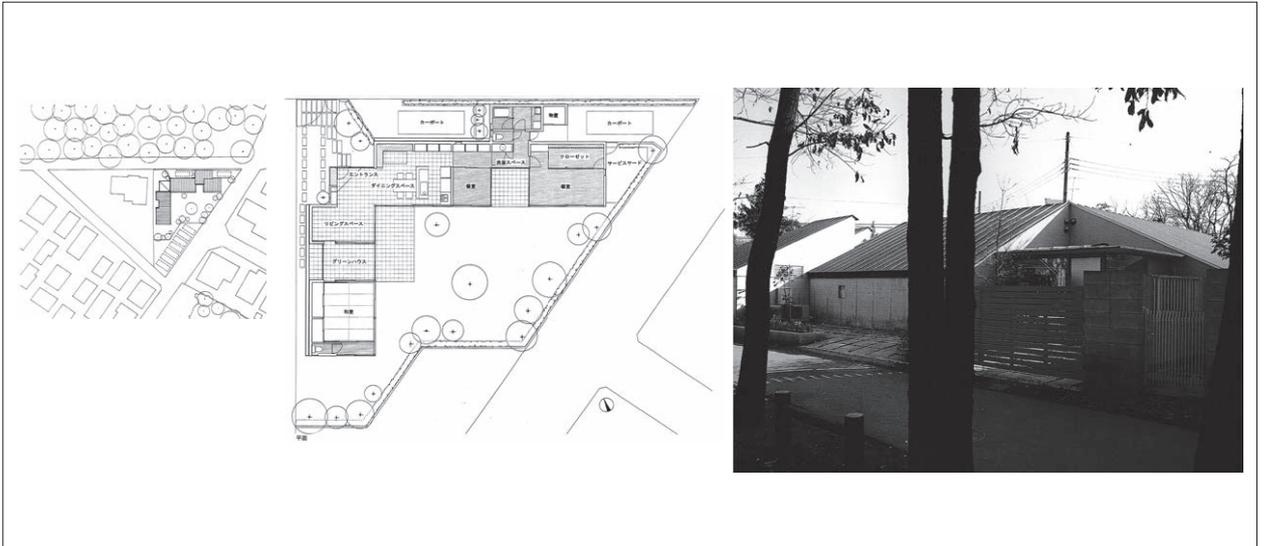
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係 主V_主従V	道路境界数	平行数 (道路)	平行数 (隣地)	みられた 近似/変形	従Vの 平行関係	平行関係 の傾向	関係図式の 類型
				形状	大小関係									
110	jt9403	住吉山手の家	え	付加	あり	カ	w_w	1	1	2	~*	=<	B	II



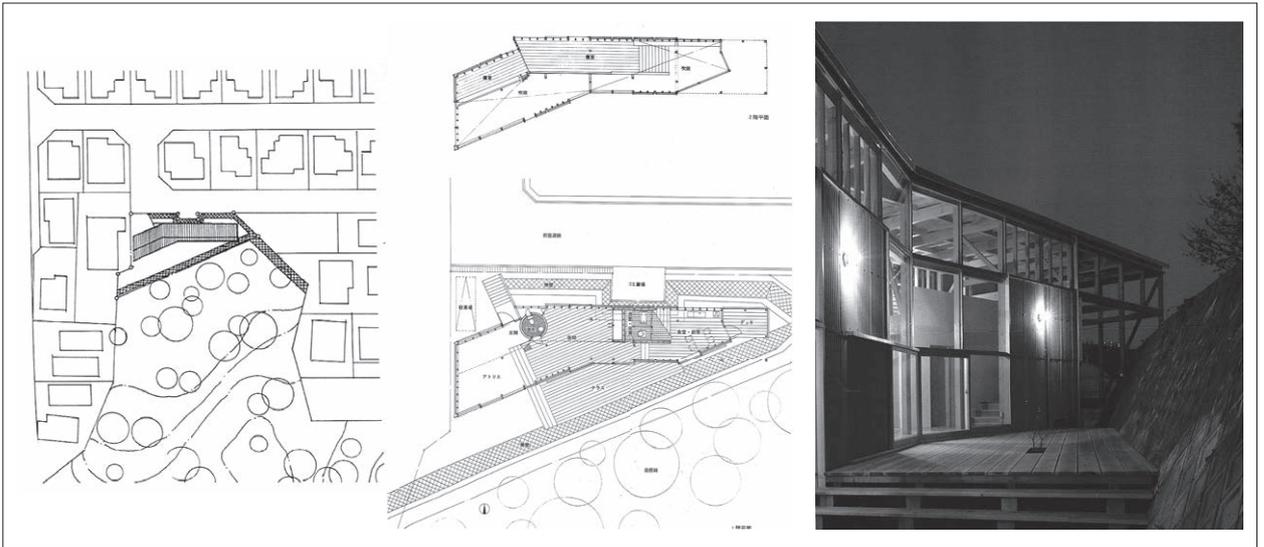
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係 主V_主従V	道路境界数	平行数 (道路)	平行数 (隣地)	みられた 近似/変形	従Vの 平行関係	平行関係 の傾向	関係図式の 類型
				形状	大小関係									
111	jt9404	境界線上の家	か	付加	あり	イ	u_bw	1	0	2		<*	E	



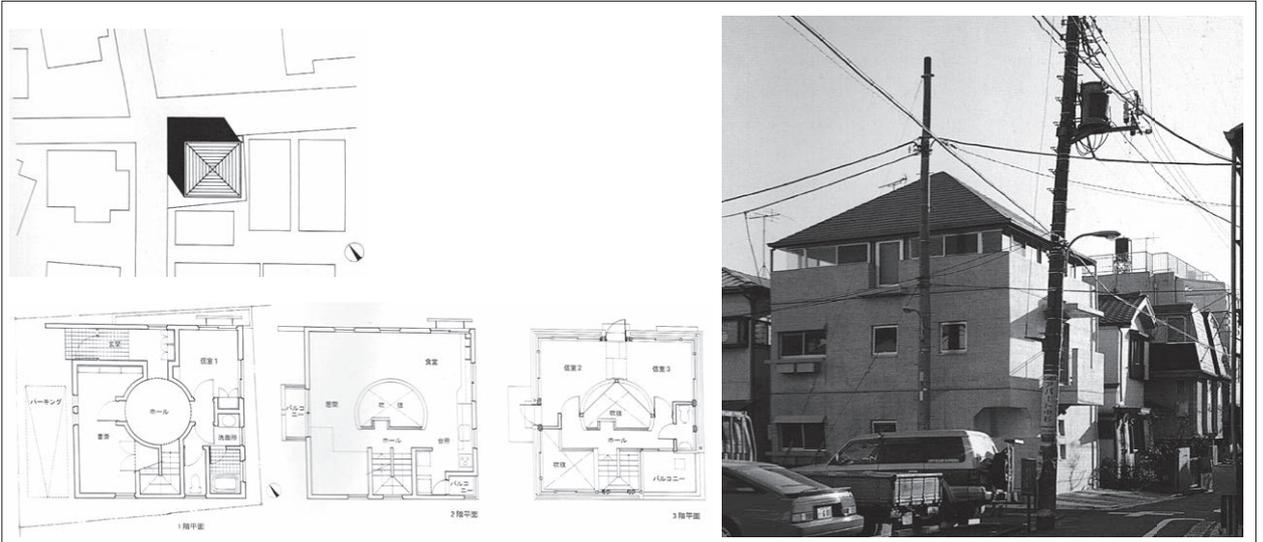
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
112	jt9404	四つ木の家	え	単体	なし	カ	w	1	0	2			E	IV



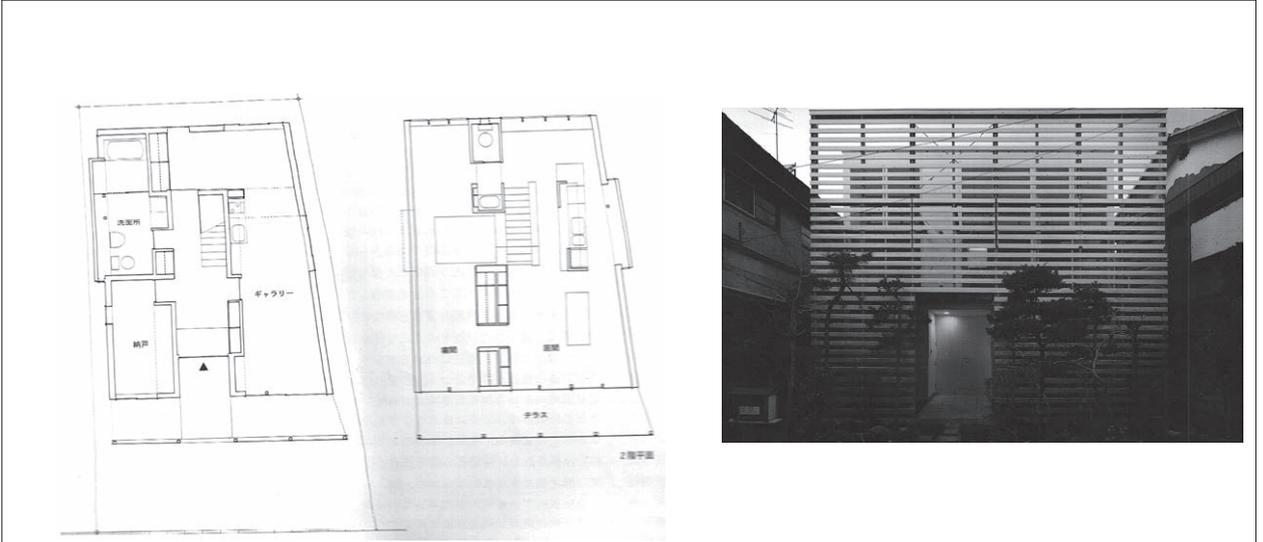
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
113	jt9405	相模原の家	お(*)	付加	あり	ウ	w_w	1	0	3	○●	==	C	III



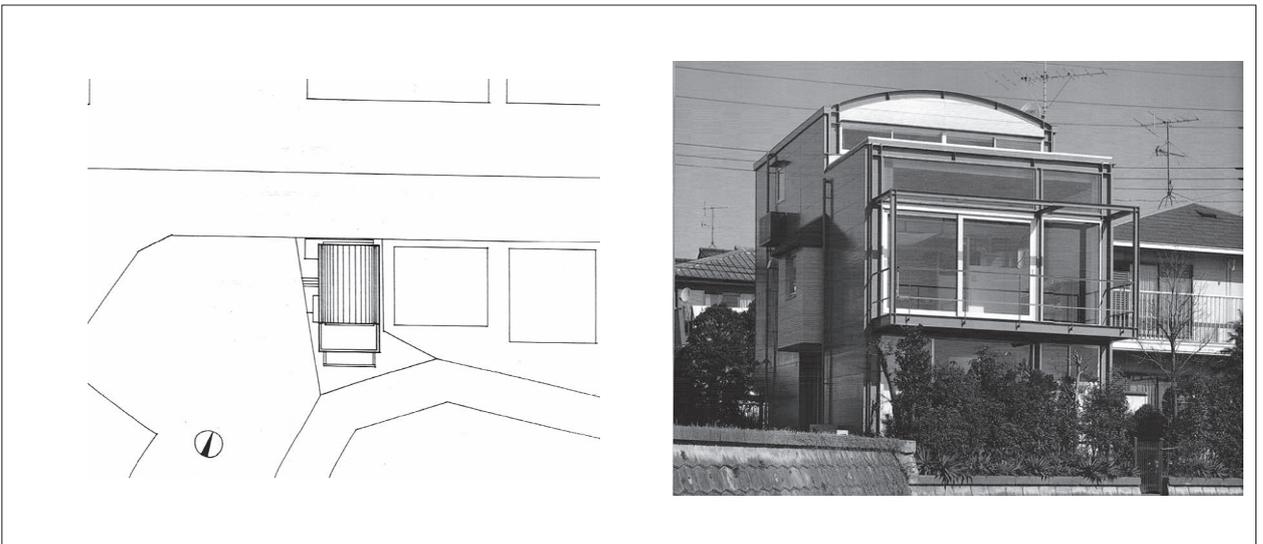
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
114	jt9405	Barn-3	お	単体	なし	ク	u	1	1	2			B	



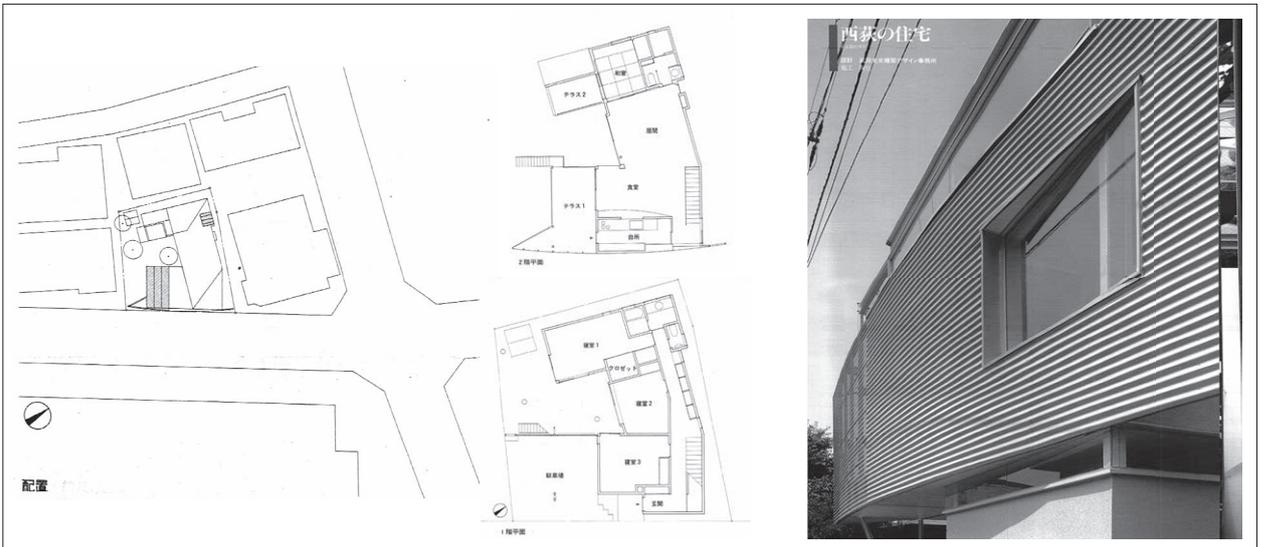
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
115	jt9405	阿佐谷の家	え*	付加	あり	イ	s_u	2	1	0	●	=*	J	



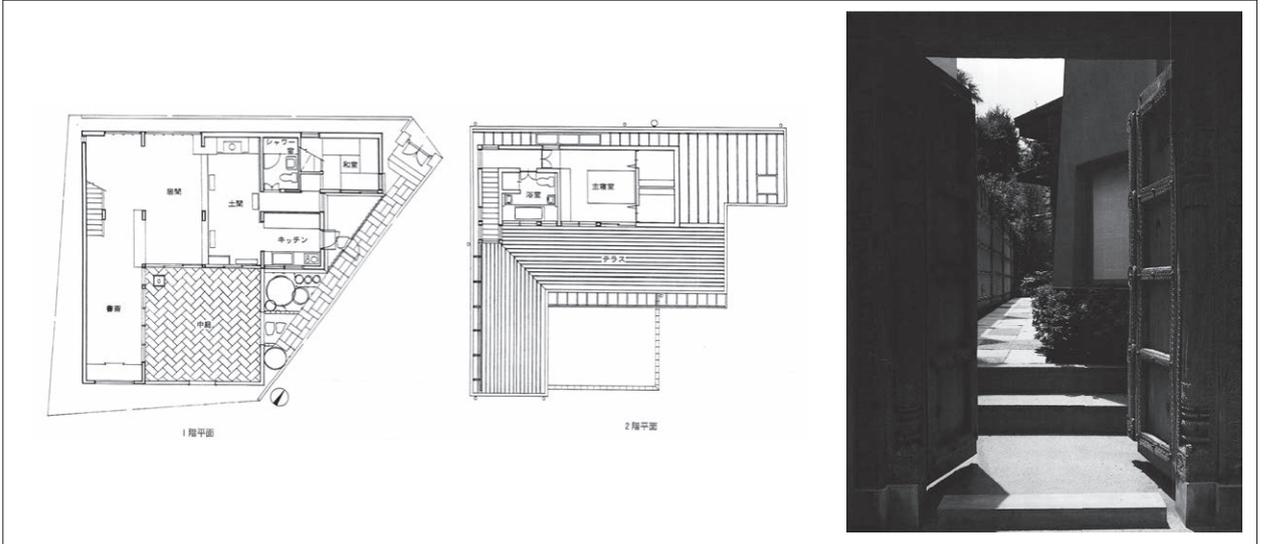
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
116	jt9406	石神井公園の住宅	う	単体	なし	オ	w	1	1	3			A	I



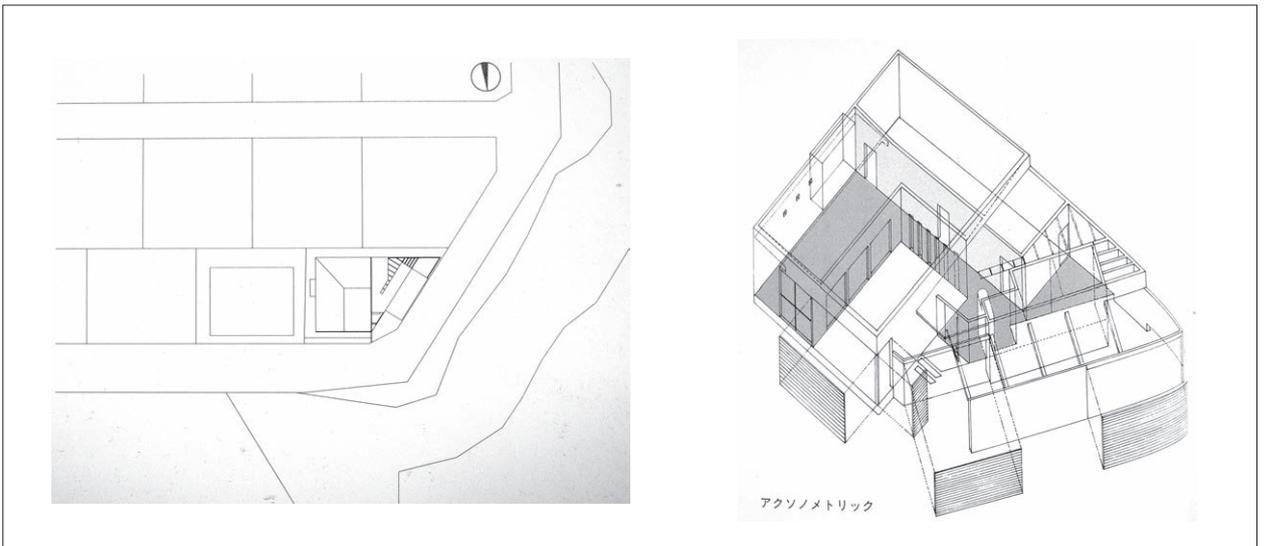
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
117	jt9406	STAHL	お	付加	あり	イ	u_u	1	1	1		≠	D	



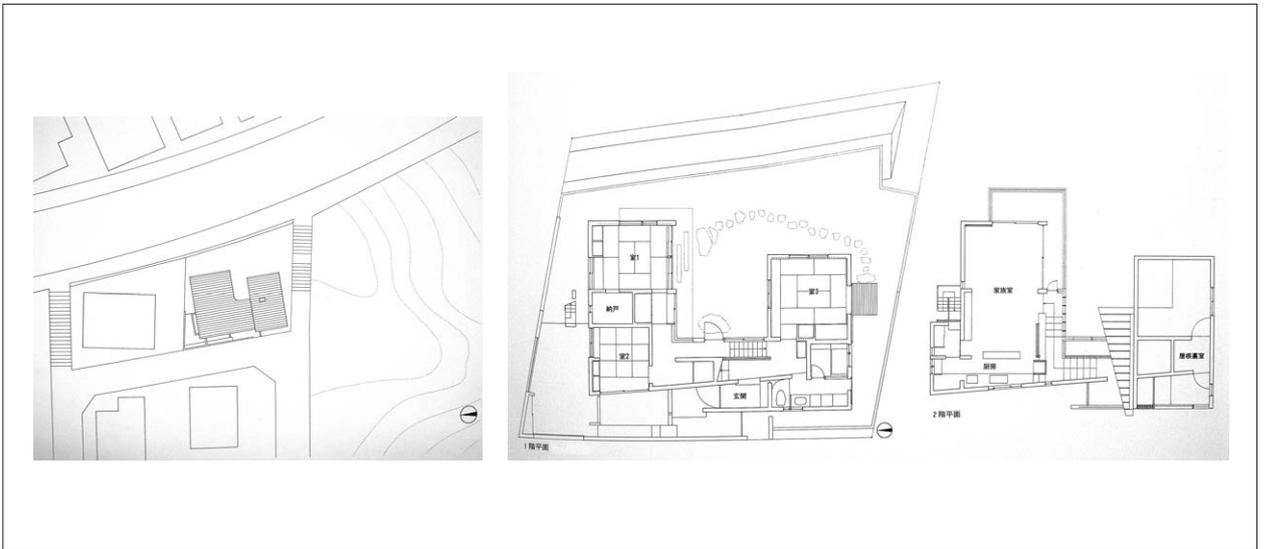
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
118	jt9409	西萩の住宅	え	付加	あり	ク	u_w	1	1	2	~*□	≠	B	α



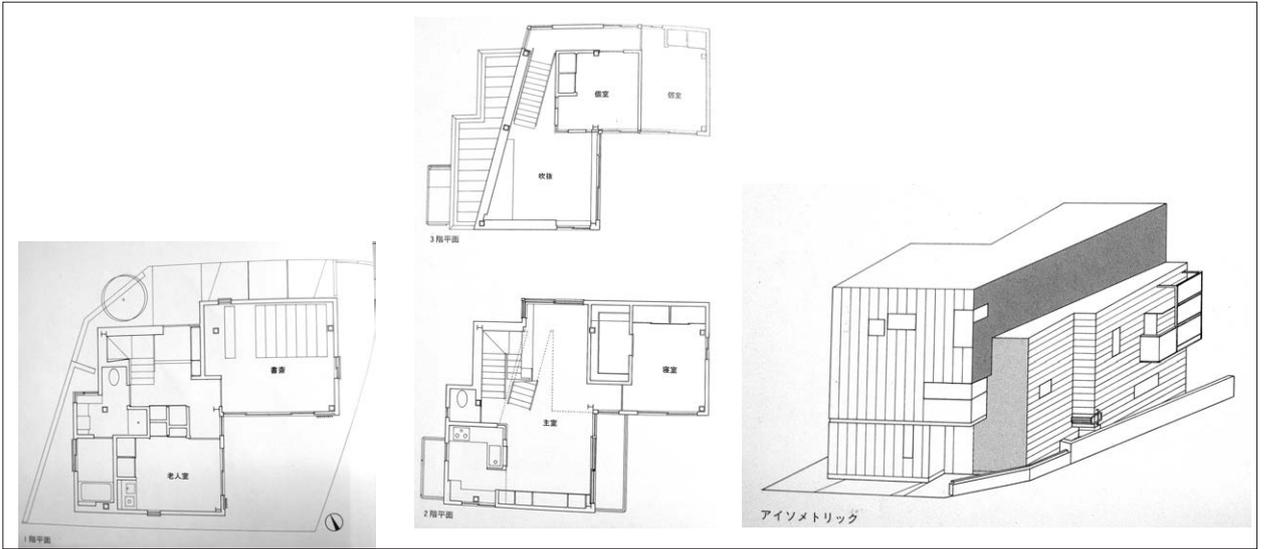
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
119	jt9409	龍雲院	え*	付加	あり	ウ	w_w	2	2	0	~*	<*≠	I	X-h



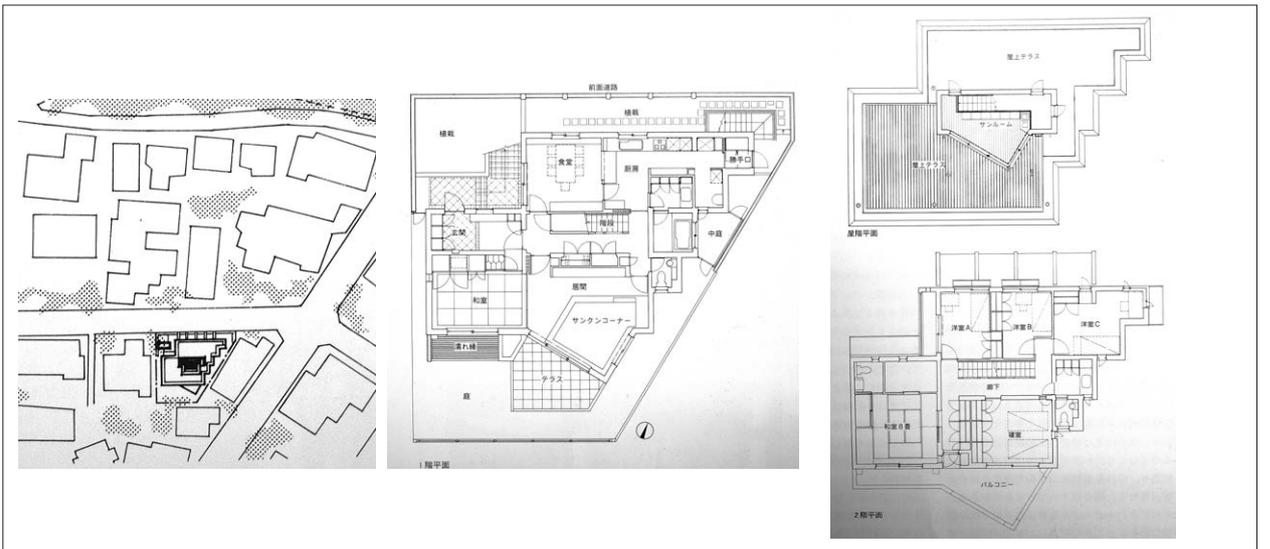
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
120	jt9504	F邸	か*	並列	なし	オ	s	2	2	2			I	X



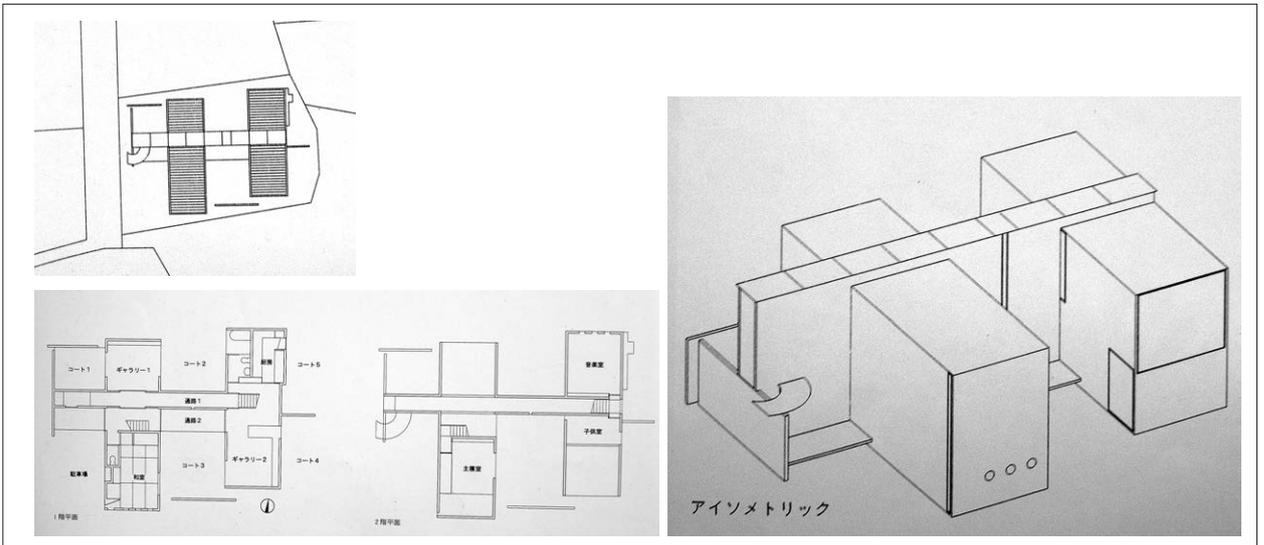
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
121	jt9505	朱雀の家	え(*)	並列	なし	ウ	u	1	1	0			F	VII



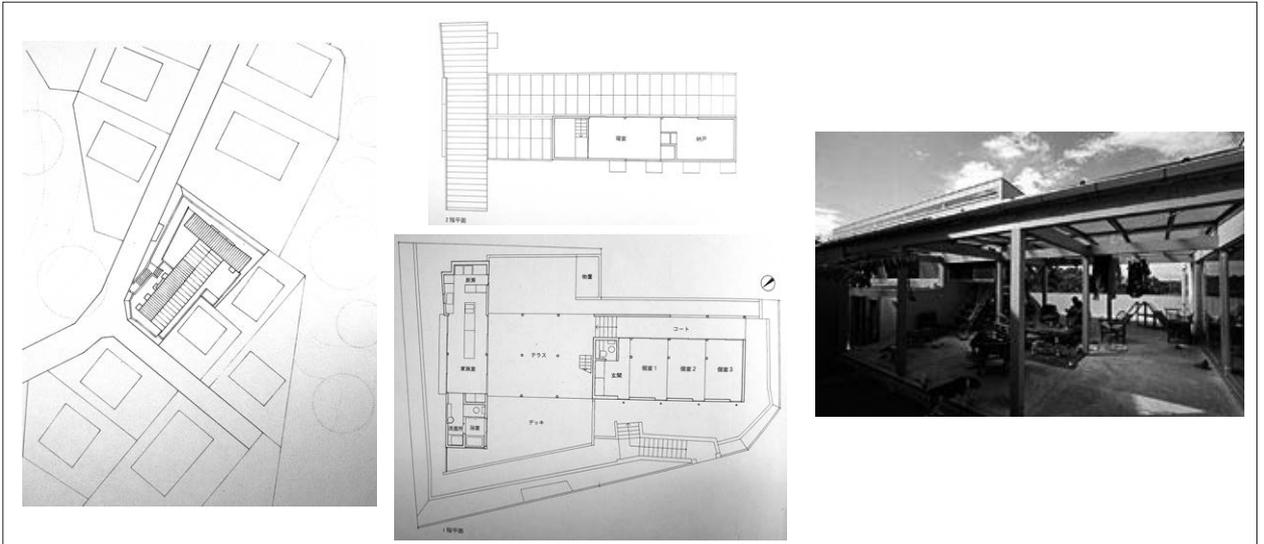
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
122	jt9507	I-House	か*	付加	あり	カ	w_w	2	2	1		=*	I	



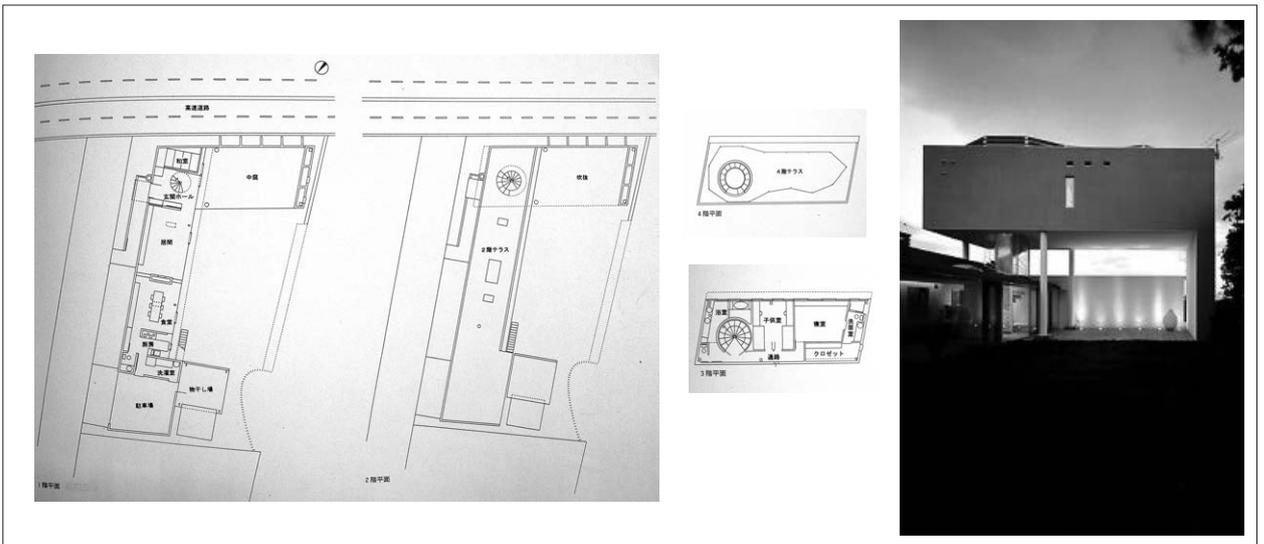
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
123	jt9508	中目黒の家	う	付加	あり	ウ	w_w	1	1	3	~■	>	A	I



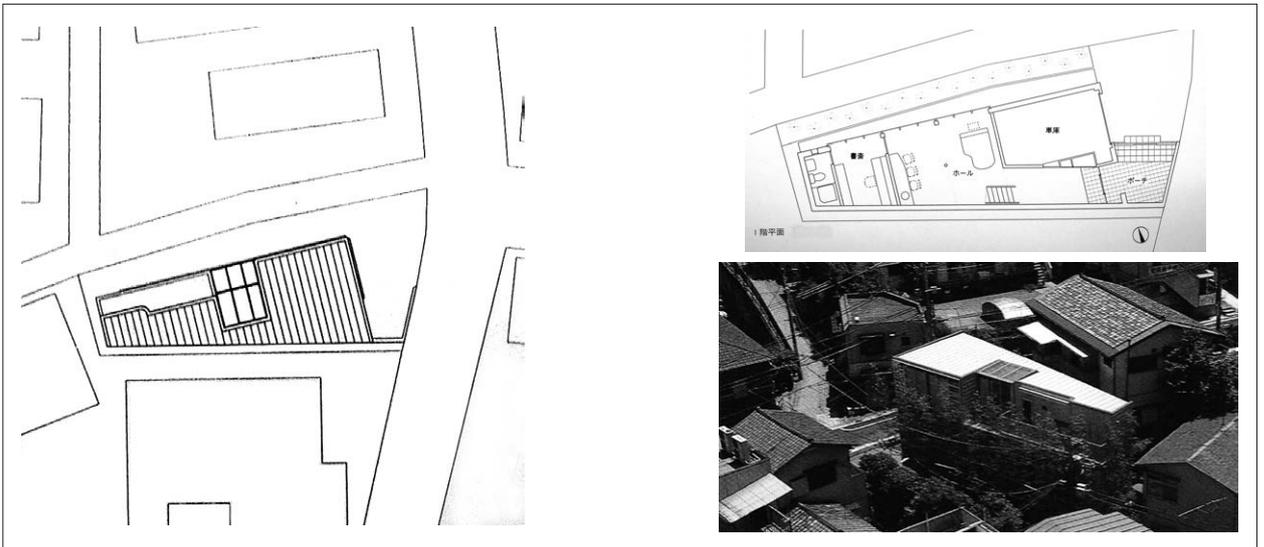
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
124	jt9509	梅林の家	か	並列	なし	ウ	w	1	1	0	○●☆		F	



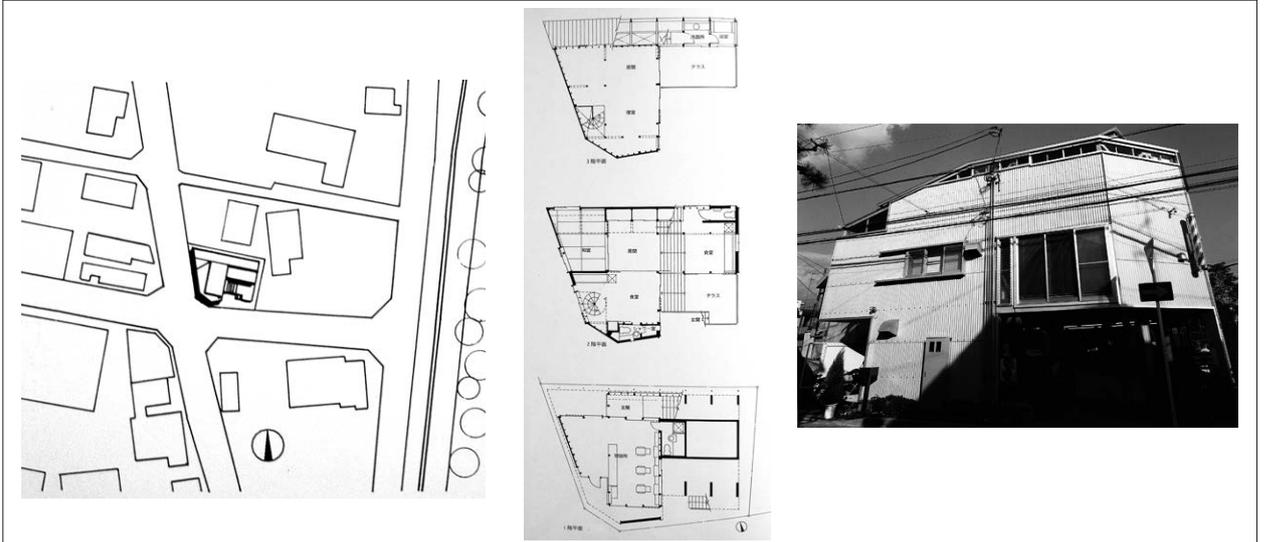
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
125	jt9601	鎌倉の住宅	か(*)	並列	なし	ウ	w	1	0	2			E	IV -c



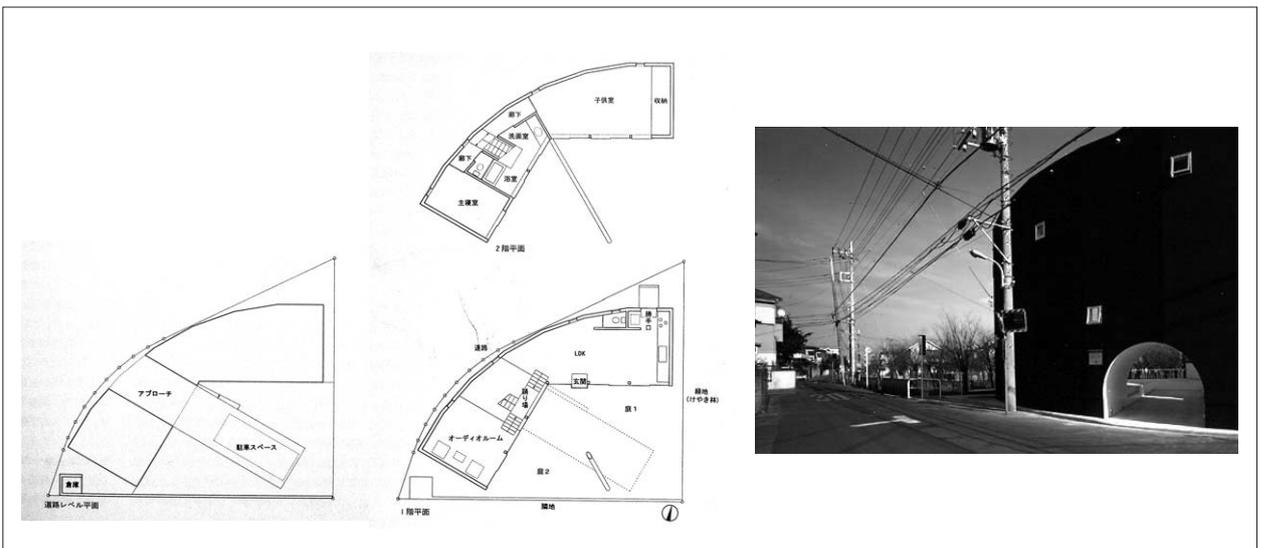
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
126	jt9608	S	え	付加	あり	ク	w_w	1	1	3	●	=	A	I -a



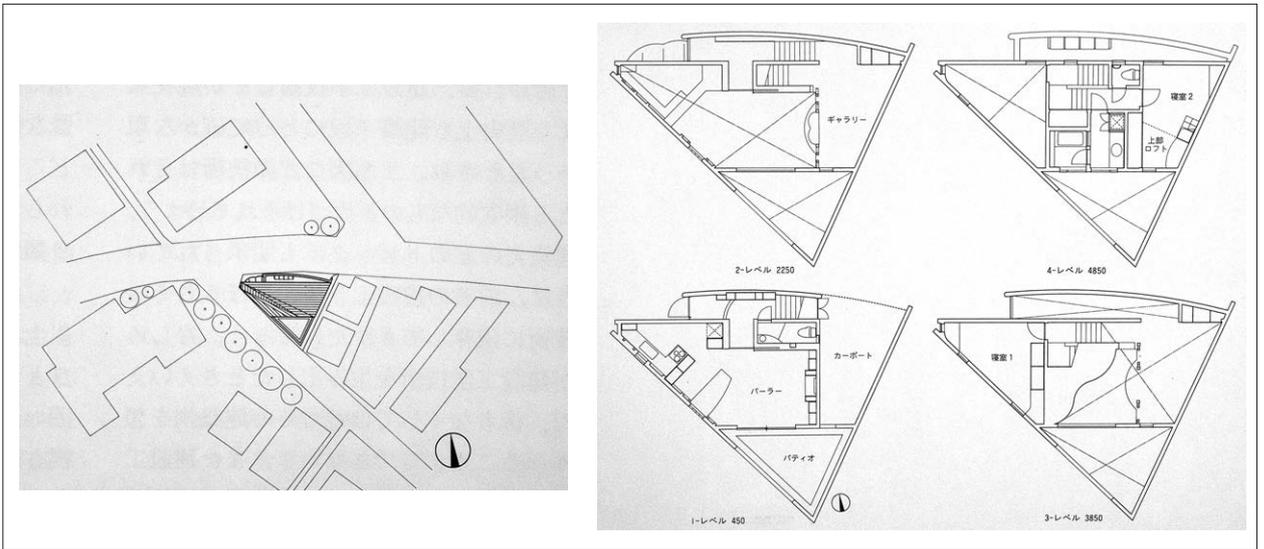
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面 輪郭の形状	適応関係 主V_主従V	道路 境界数	平行数 (道路)	平行数 (隣地)	みられた 近似/変形	従Vの 平行関係	平行関係 の傾向	関係図式 の種類
				形状	大小関係									
127	jt9610	木とカーテンウォールの家	え(*)	単体	なし	オ	sw	1	0	3			C	III



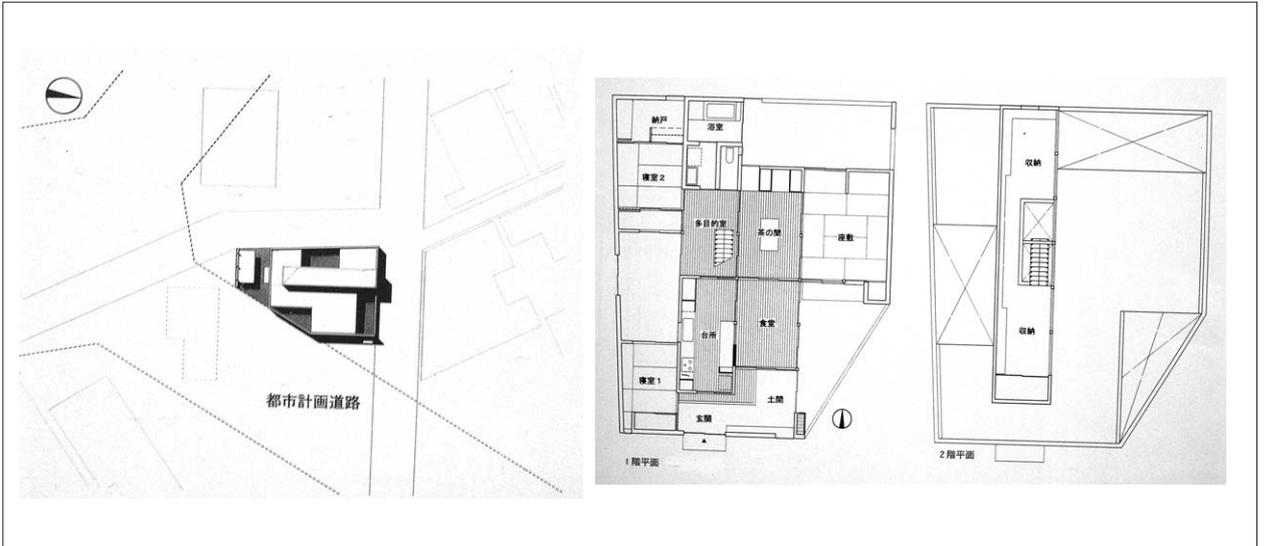
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面 輪郭の形状	適応関係 主V_主従V	道路 境界数	平行数 (道路)	平行数 (隣地)	みられた 近似/変形	従Vの 平行関係	平行関係 の傾向	関係図式 の種類
				形状	大小関係									
128	jt9701	Barn-4	か(*)	付加	あり	カ	w_sw	1	1	3		≠	A	I



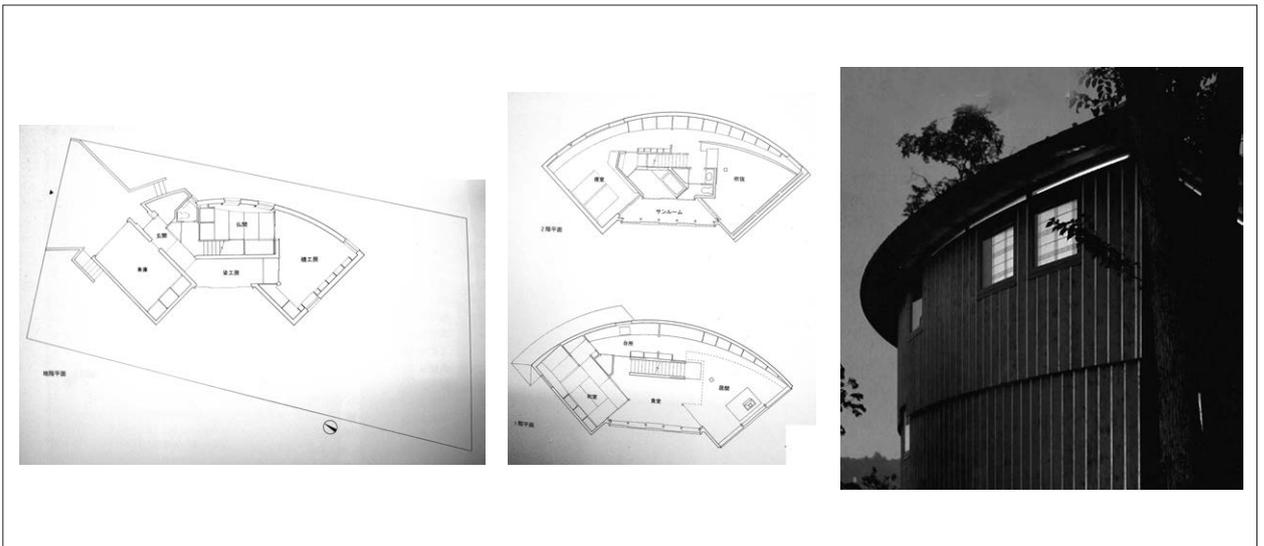
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面 輪郭の形状	適応関係 主V_主従V	道路 境界数	平行数 (道路)	平行数 (隣地)	みられた 近似/変形	従Vの 平行関係	平行関係 の傾向	関係図式 の種類
				形状	大小関係									
129	jt9704	立川のハウス	い	単体	なし	キ	u	1	1	2	~*		A	



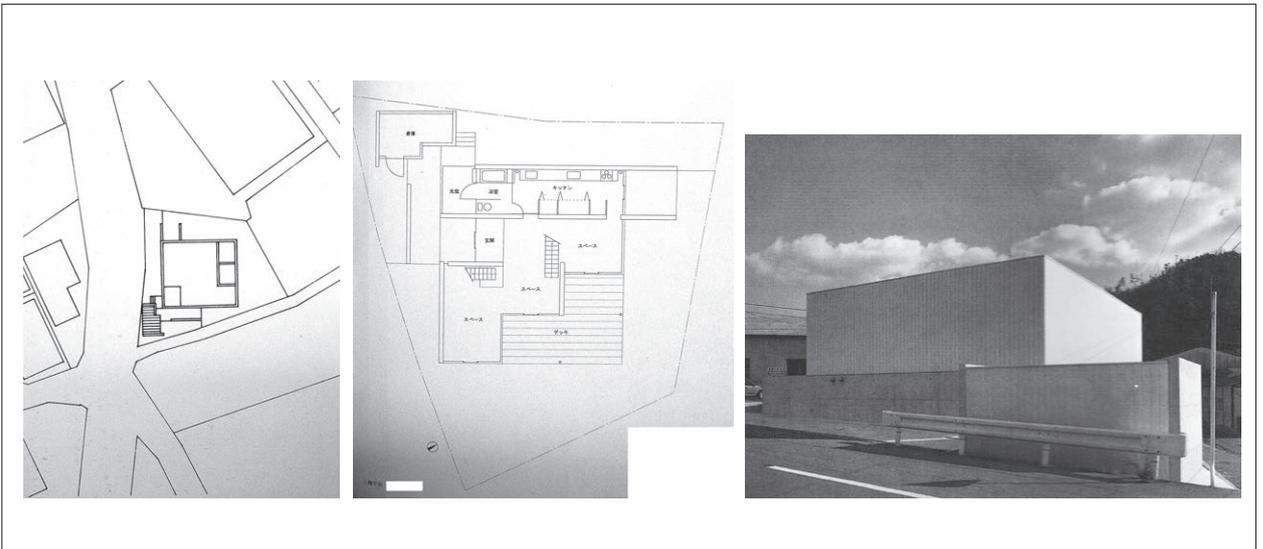
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
130	jt9704	△ハウス	い*	付加	あり	ア	sw_sw	2	2	1		=*	I	X-h



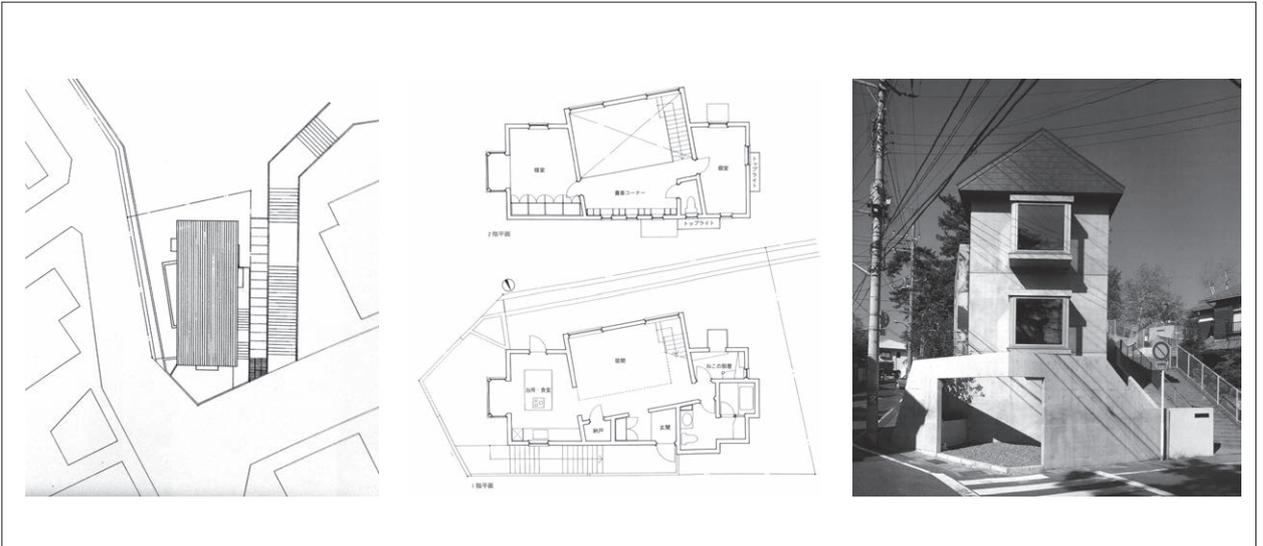
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
131	jt9706	赤穂の住宅	お*	単体	なし	ウ	w	2	2	2	~○		I	X-h



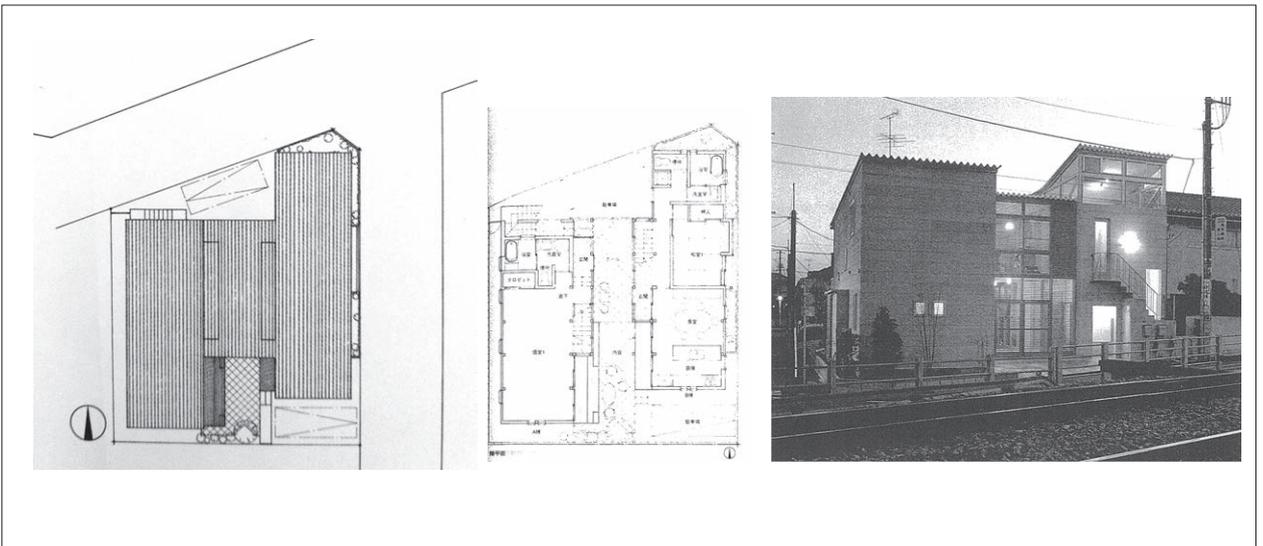
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
132	jt9804	萬月居	う	単体	なし	キ	u	1	0	0			H	IX-g



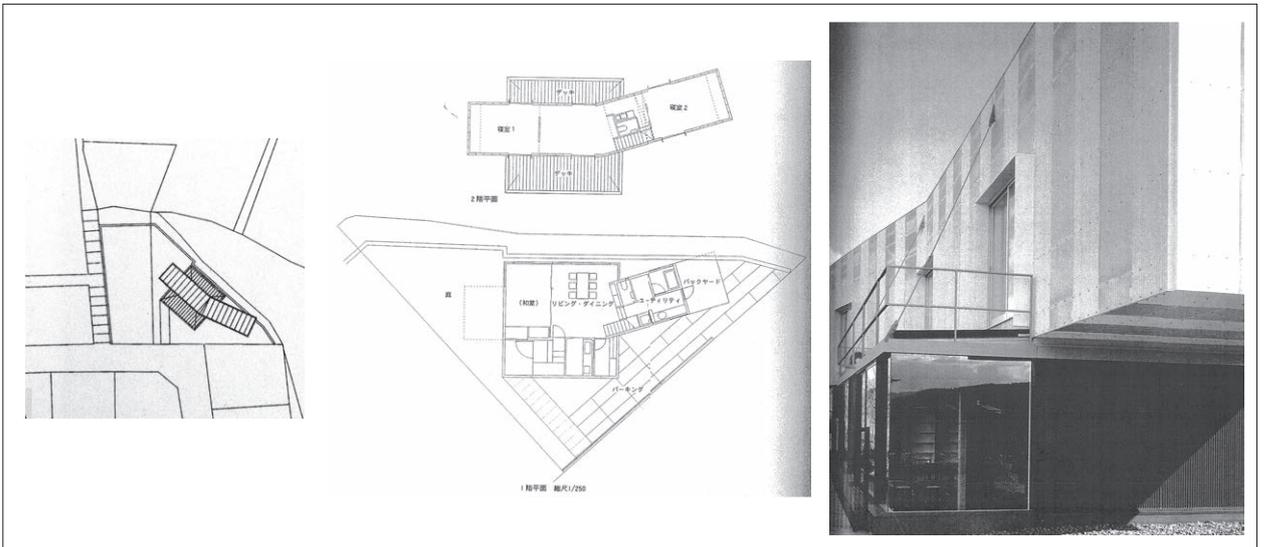
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
133	jt9804	中郷の家	え(*)	単体	なし	イ	sw	1	1	0			F	



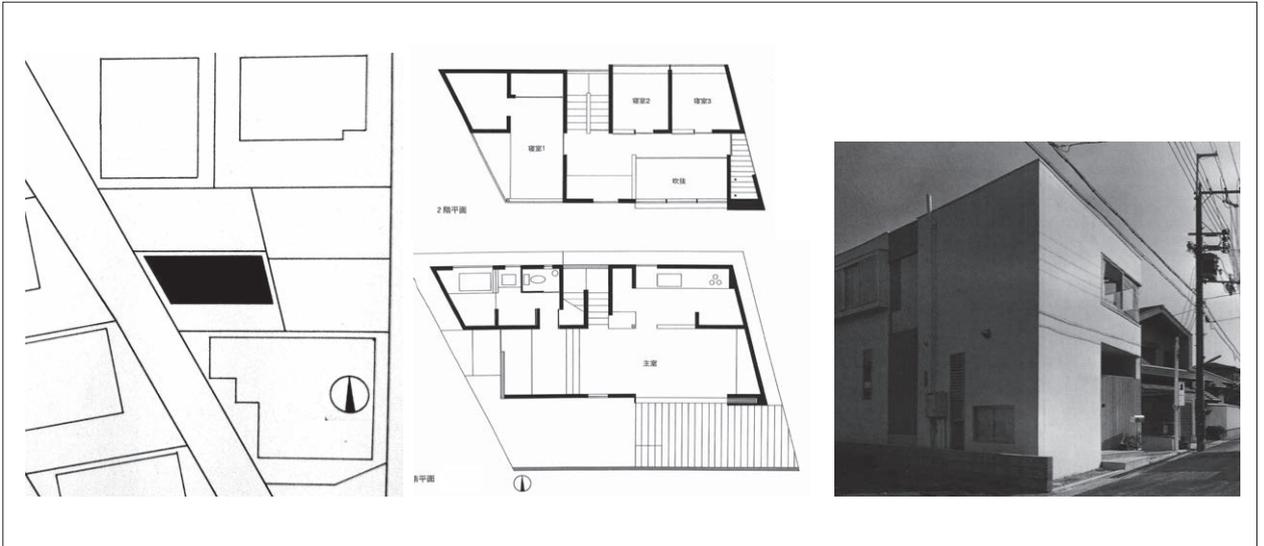
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
134	jt9901	下総中山の家	か*	付加	あり	イ	u_w	2	0	1		<*	K	



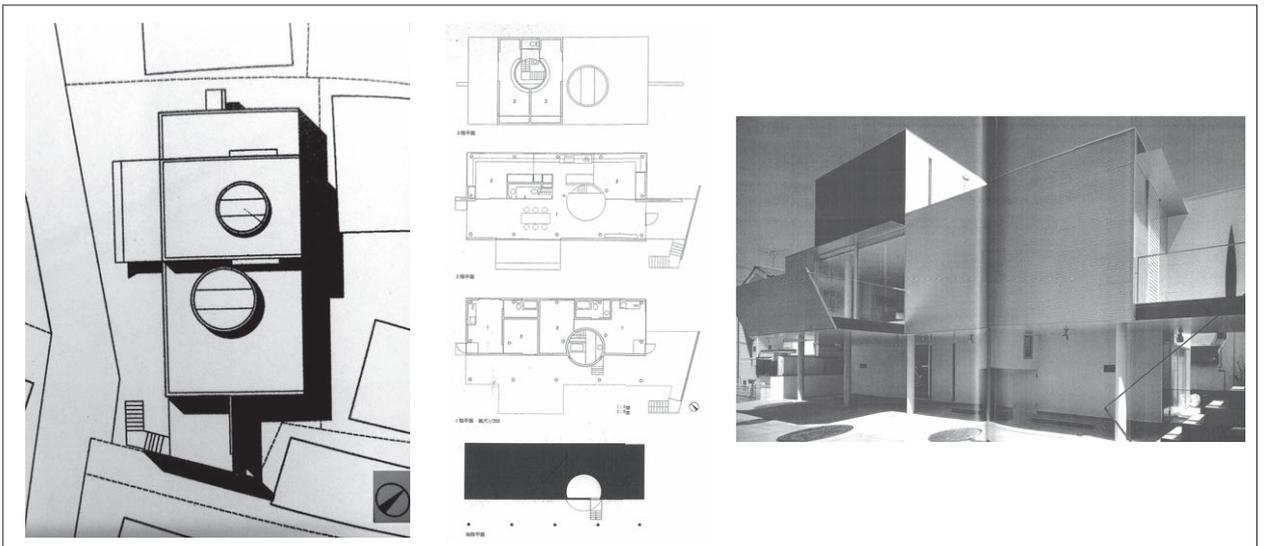
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
135	jt9904	奥沢の家	え*	並列	なし	ウ	w	2	2	2	~*		I	X-h



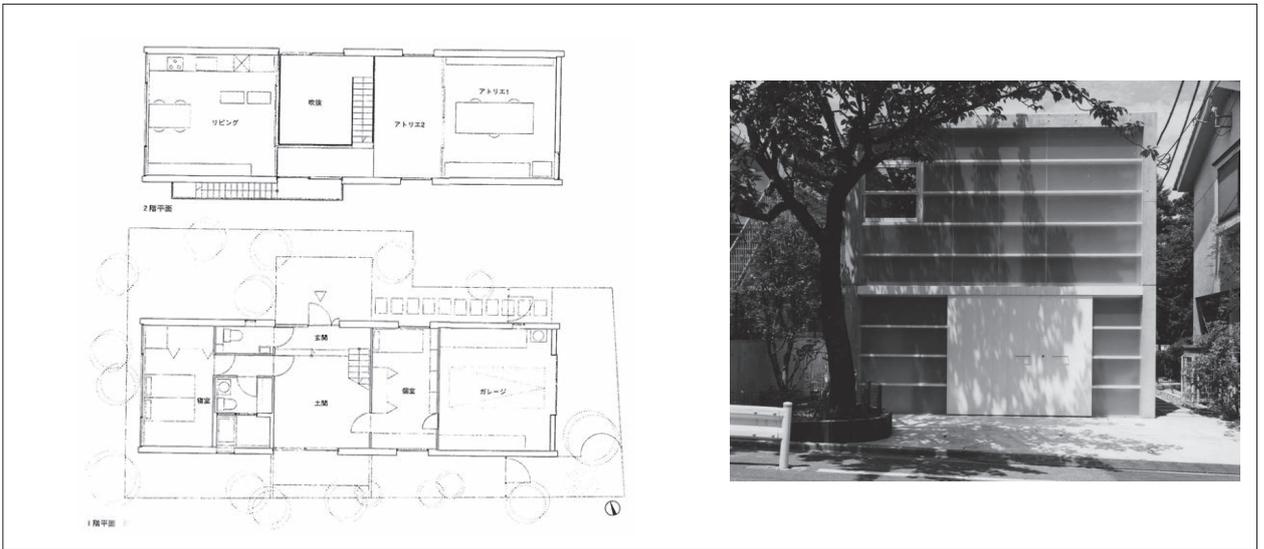
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
136	jt9904	Na	い	付加	あり	工	u_w	1	0	1		=≠*	G	



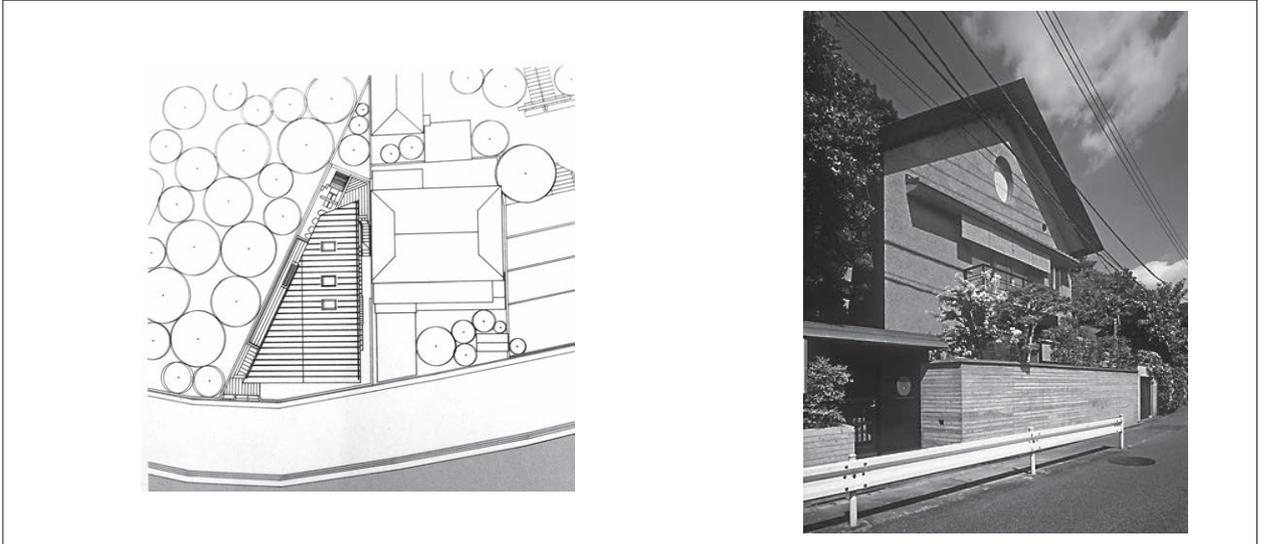
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
137	jt9905	HO-HOUSE	え	単体	なし	ク	sw	1	1	3			A	I



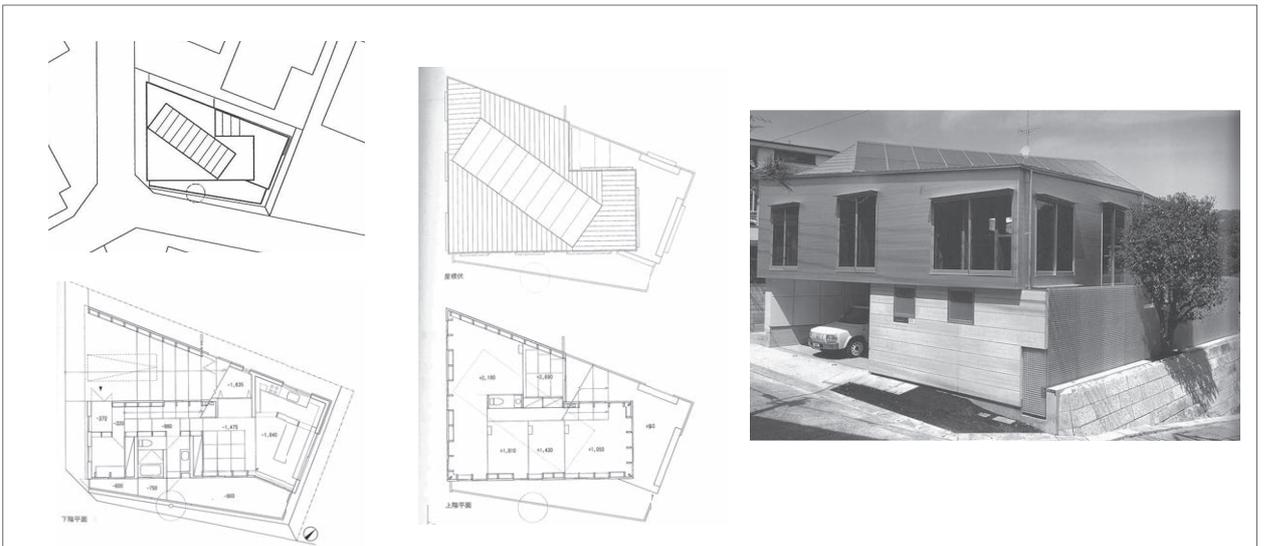
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
138	jt9906	T house	か	付加	あり	イ	u_w	1	0	2	●■☆	<≠*	E	



資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
139	jt9906	祐天寺丁邸	か	単体	なし	イ	u	1	0	3			C	V-d



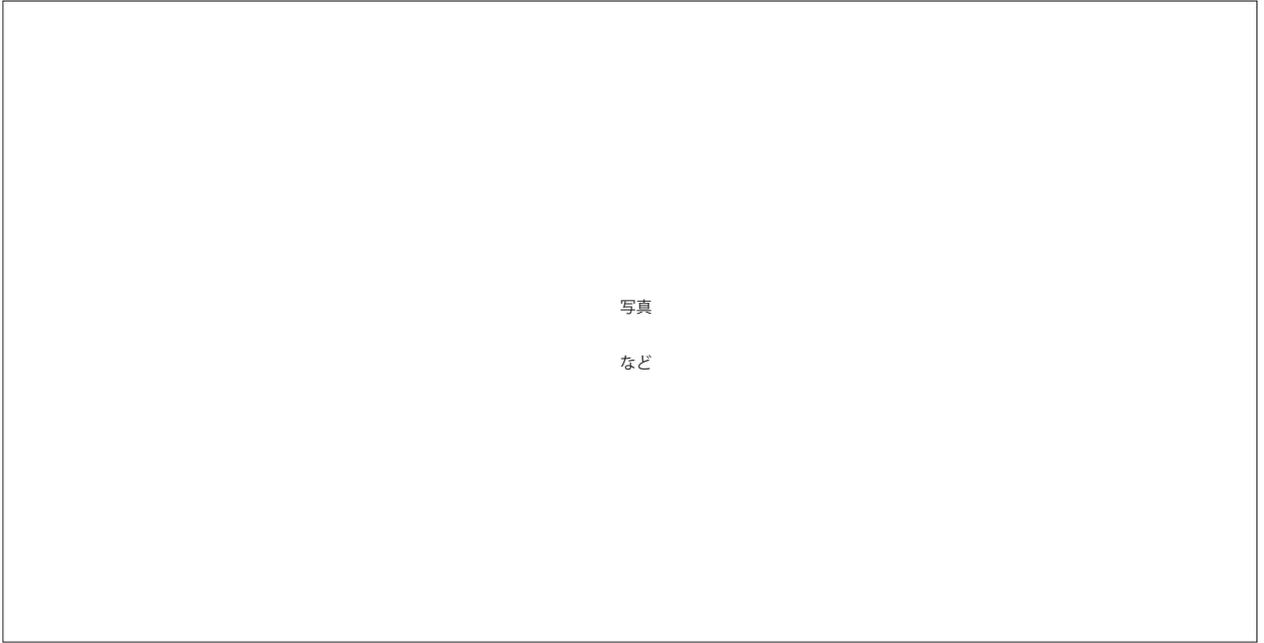
資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
140	jt9907	茗荷屋	い	付加	あり	オ	w_w	1	0	2		=	C	III



資料 No.	掲載年月	作品名	不整形敷地の種類	建築ボリューム		主Vの平面輪郭の形状	適応関係(主V_主従V)	道路境界数	平行数(道路)	平行数(隣地)	みられた近似/変形	従Vの平行関係	平行関係の傾向	関係図式の類型
				形状	大小関係									
141	jt9908	House SA 1999	え(*)	付加	あり	カ	u_w	1	1	1		<<	D	

第3章 住宅作品における立面の接地性（全142資料）

凡例



写真

など

資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パターン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	フット 幅	幅の 変化	上端 形状	ガ リウム	窓	ガ リウム	窓									
121	jt1007	南加瀬の住宅	2.4	縦長	△	—	下				⊥	◆	C-3	●	単 p	イ 1	b		

表 3-1

表 3-2
表 3-2 注

表 3-3

表 3-4

表 3-5

表 3-6

表 3-7

表 3-8

表 3-9

表 3-10
図 3-2

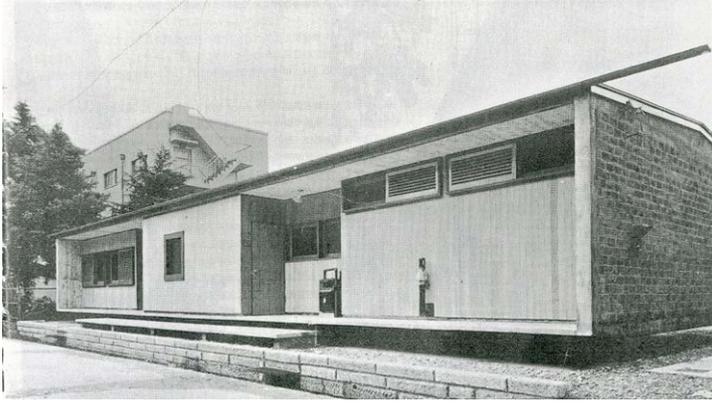
2 節

3 節

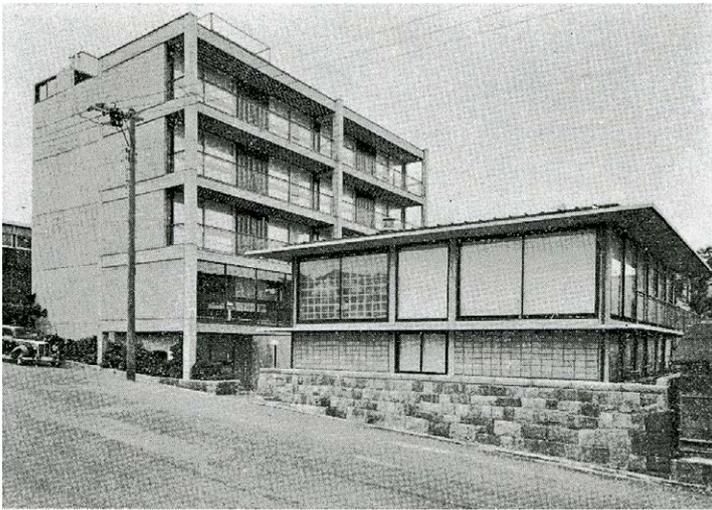
4 節

- △ 下部幅広
- 等幅
- ▽ 下部幅狭 (下部のみ欠き取り)
- ◇ " (上部下部共に欠き取り)

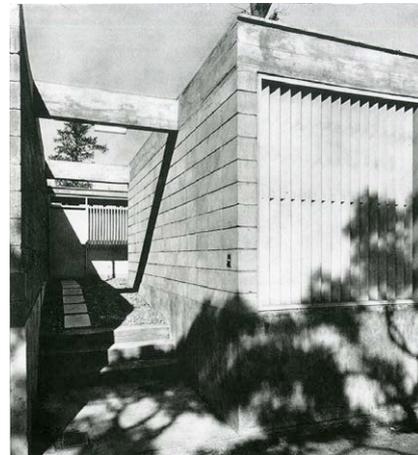
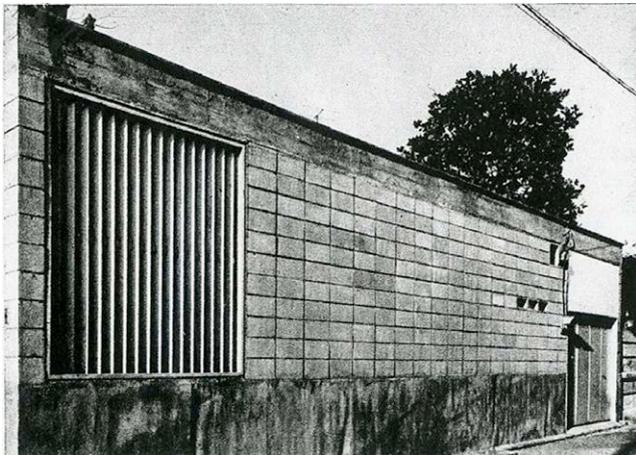
- ▲ 下部幅広
- △ " (第一輪郭と同一形状の第二輪郭)
- 等幅
- " (第一輪郭と同一形状の第二輪郭)
- ▼ 下部幅狭 (下部のみ欠き取り)
- ▽ " (") (第一輪郭と同一形状の第二輪郭)
- ◆ " (上部下部共に欠き取り)
- ◇ " (") (第一輪郭と同一形状の第二輪郭)



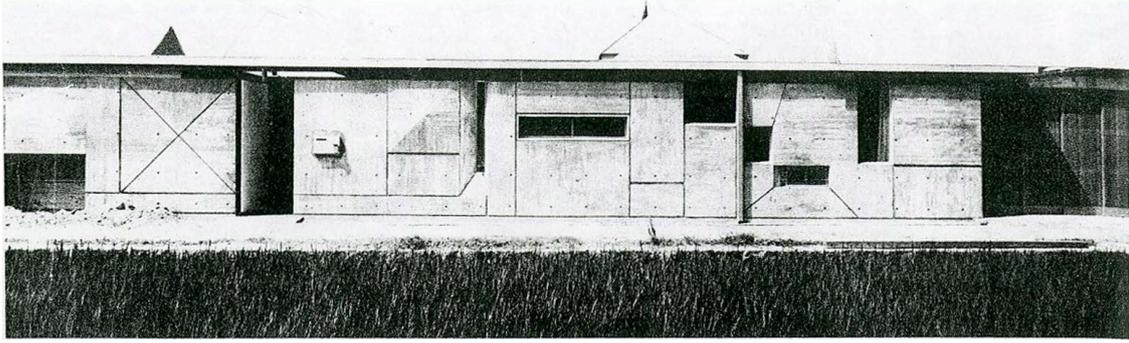
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口				面内開口分布	第二輪郭形状	輪郭パターン	基礎形態	素材の配列	素材の類似性	連続要素	連続モデル	関係図式の類型
			高/幅	ア	ブ	幅の変化	上端形状	ゲ	エ	セ									
1	sk5411	数学者の家	0.2	横長	□	—		上			*	▲	D1	☉	並 cp	口 2	s,t	㊸-b	



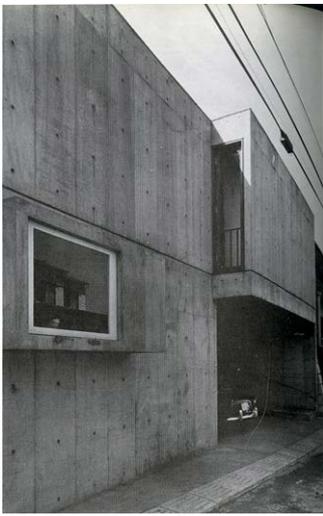
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口				面内開口分布	第二輪郭形状	輪郭パターン	基礎形態	素材の配列	素材の類似性	連続要素	連続モデル	関係図式の類型
			高/幅	ア	ブ	幅の変化	上端形状	ゲ	エ	セ									
2	sk5608	マヤの家	0.4	横長	□	—		上		⊥	■	E1	◎	パ cp	ニ	o	㊸	㊸-E	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口				面内開口分布	第二輪郭形状	輪郭パターン	基礎形態	素材の配列	素材の類似性	連続要素	連続モデル	関係図式の類型
			高/幅	ア	ブ	幅の変化	上端形状	ゲ	エ	セ									
3	sk6201	銀杏を囲む家	0.3	横長	□	—		下		側	x	▼	F1	◎	単 p	ハ	b,o	㊸-a	㊸-F



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類	
			高/幅	ア ワ	ツ シ	幅の 変化	上 端形状	ゲ メ	メ ム	窓										ゲ メ
4	sk6210	正面のない家/H	0.1	横長	□	—		下				*	▼	F1	◎	並 cp	二	e	⑤-b	⑤-F



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類	
			高/幅	ア ワ	ツ シ	幅の 変化	上 端形状	ゲ メ	メ ム	窓										ゲ メ
5	sk7006	GAH6812	0.5	横長	□	—	上	下				⊥	◆	F1	◎	単 p	ハ	b	④-b	④-F



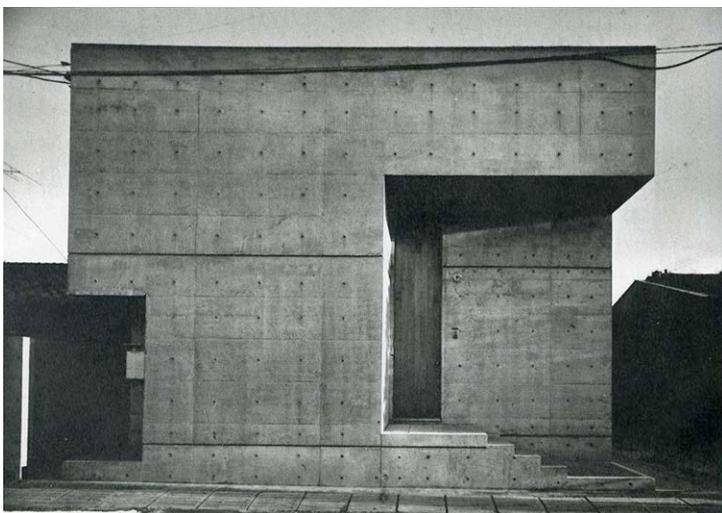
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類	
			高/幅	ア ワ	ツ シ	幅の 変化	上 端形状	ゲ メ	メ ム	窓										ゲ メ
6	sk7104	水無瀬の町家	0.4	横長	△	—						x	△	A1	◎	単 p	二	b	⑤-b	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	ツ シ ク	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
7	sk7302	グリーンボックス #2	1.0	標準	□	—					x	■	E2	◎	並 cp	ニ	s,e	⑤-b	⑤-E



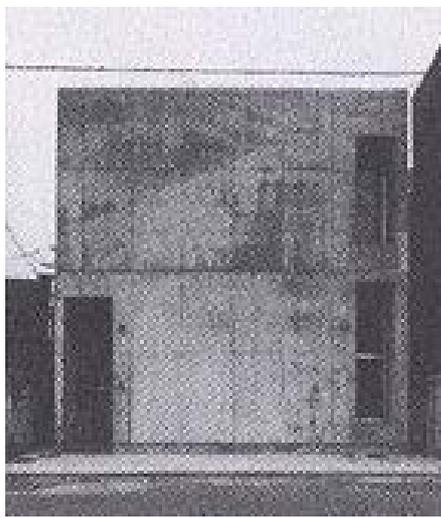
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	ツ シ ク	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
8	sk7302	斉藤邸	1.0	標準	◇	—		下			*	◆	I2	◎	単 p	ハ	s,e,b	④-b	④-I



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	ツ シ ク	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
9	sk7402	東玉川の住宅	0.7	標準	□	—	下					▼	F2	◎	-	-	s,e	③-a	



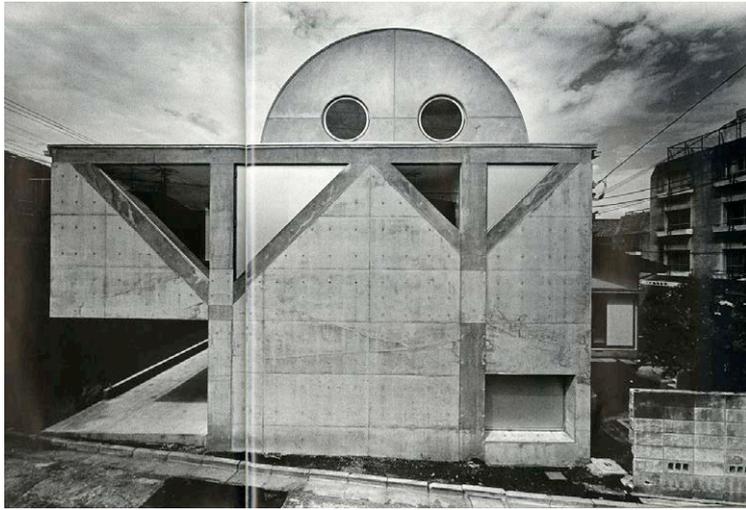
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類		
			高/幅	ア ワ	ウ コ	エ ホ	フ ヘ	セ ソ	タ チ	ツ テ										カ キ	ク ケ
10	sk7508	等々力邸	0.9	標準	□	—							⊥	□	E2	◎*	単 p	ハ	e,o	④-a	



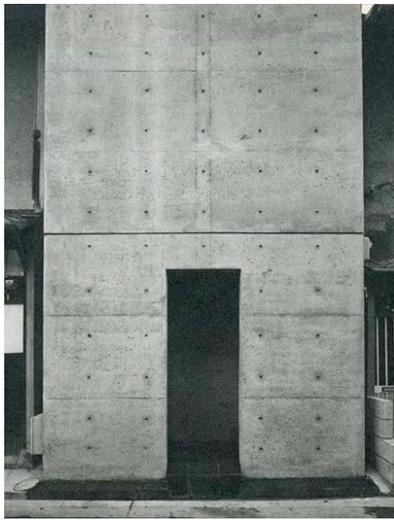
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類	
			高/幅	ア ワ	ウ コ	エ ホ	フ ヘ	セ ソ	タ チ	ツ テ										カ キ
11	sk7609	緑が丘の住宅	1.0	標準	□	—		下				×	▼	F2	◎	単 p	ハ	-	④'	



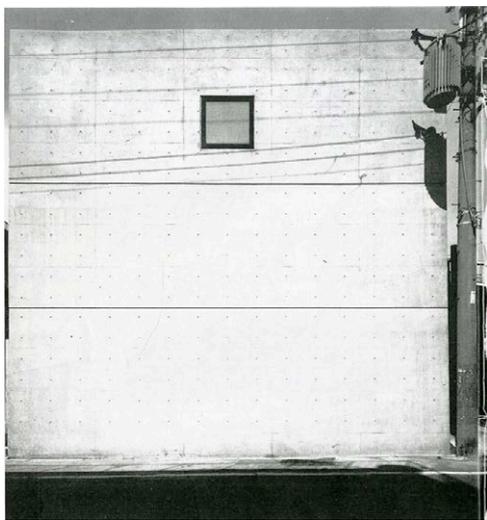
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類	
			高/幅	ア ワ	ウ コ	エ ホ	フ ヘ	セ ソ	タ チ	ツ テ										カ キ
12	sk7611	代田の町家	0.8	標準	△	^						⊥	△	A2	●	単 p	イ 2	b	①-b	①-A



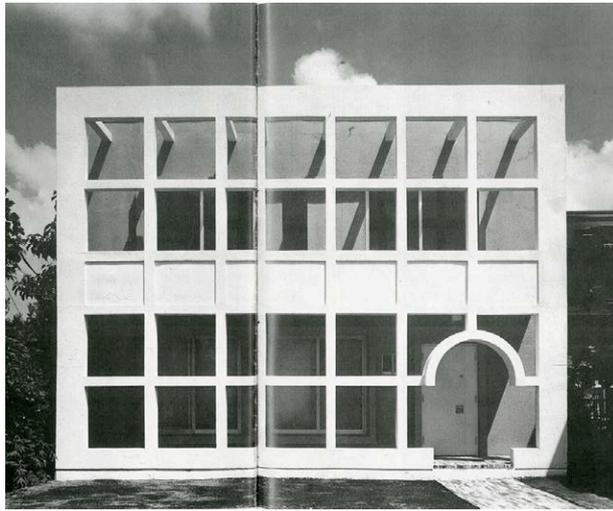
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類			
			高/幅	ア ワ ク	シ ノ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム										窓		
13	sk7701	上原通りの住宅	0.6	横長	◇	∩					下	上		上	▼	11	◎	並 cp	ニ	b	⑤-b	⑤-I



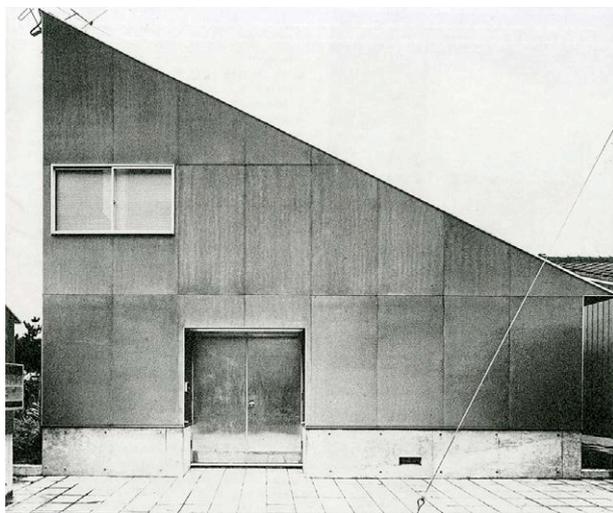
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類		
			高/幅	ア ワ ク	シ ノ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム										窓	
14	sk7702	住吉の長屋	1.7	縦長	□	—							⊥	□	E3	◎*	単 p	ニ	e	⑤-b	⑤-E



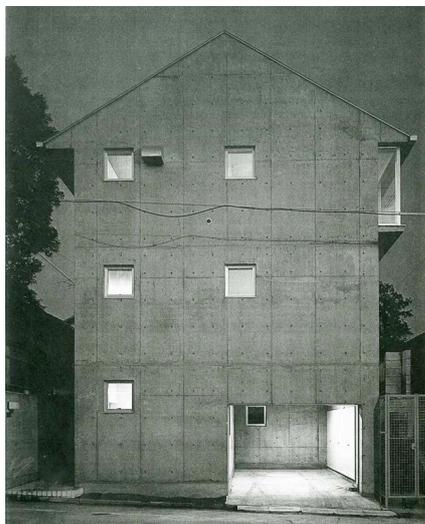
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類		
			高/幅	ア ワ ク	シ ノ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム										窓	
15	sk7905	石原邸	1.0	標準	□	—							⊥	□	E2	◎	-	-	-	③	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ン	幅の 変化	上端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム	窓									
16	sk7910	土岐邸	0.7	標準	□	—					*	□	E2	◎	並 cp	二	e,t	⑤-a	⑤-E



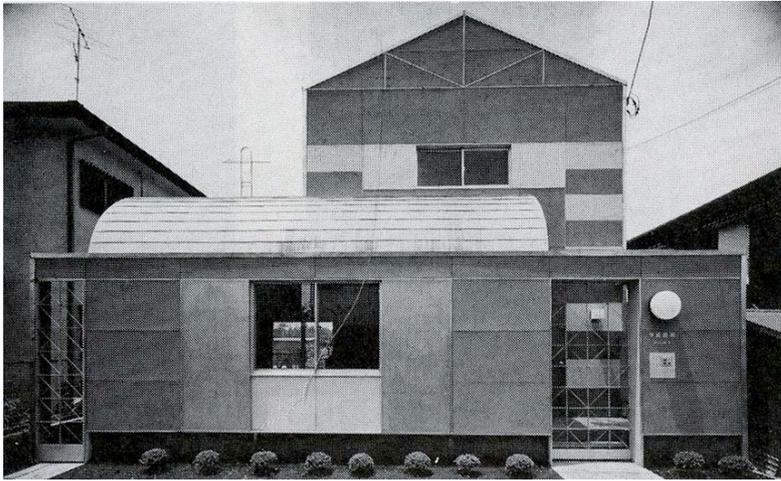
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ン	幅の 変化	上端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム	窓									
17	sk7912	銀舎	0.9	標準	△	△					x	△	A2	●	単 p	イ 2	e	①-b	①-A



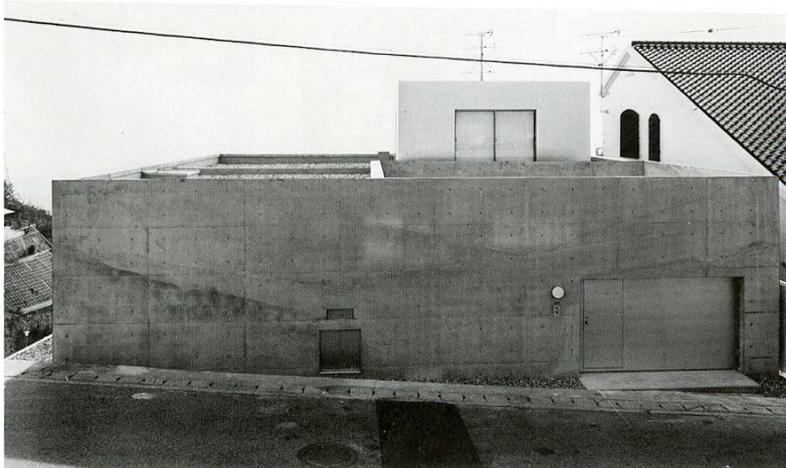
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ン	幅の 変化	上端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム	窓									
18	sk8005	初台坂下の家	1.5	縦長	△	△		下			*	◆	C3	◎	並 cp	二	b	⑤-b	⑤-C



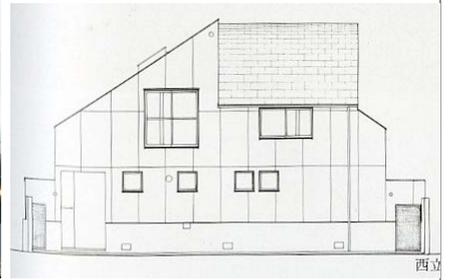
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	ビ ツ	幅の 変化	上 端形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
19	sk8006	宮田邸	0.9	標準	□	—					*	□	E2	◎	単 p	ハ	e,o	④-a	



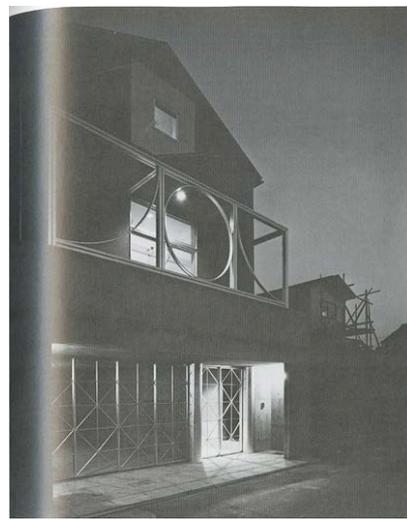
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	ビ ツ	幅の 変化	上 端形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
20	sk8008	中央林間の家	0.6	横長	△	△			上	側	×	■	B1	○	並 cp	ロ 1	e,o	-	



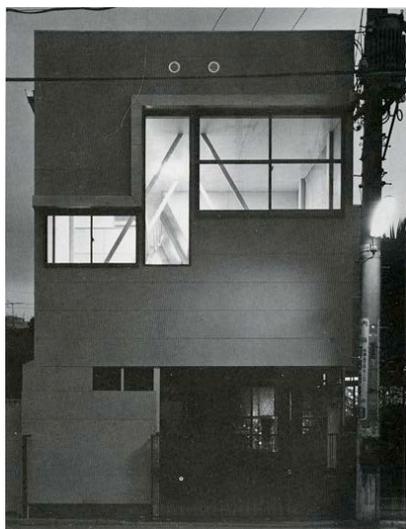
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	ビ ツ	幅の 変化	上 端形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
21	sk8102	己斐の家	0.3	横長	□	—					上	□	E1	◎	並 cp	ニ	e,b	⑤-b	⑤-E



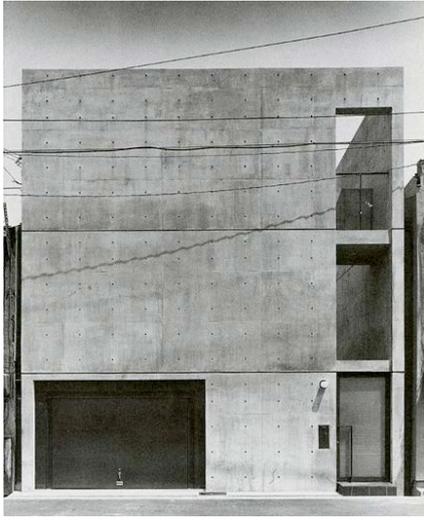
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類		
			高/幅	ア ワ	ワ ビ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム										窓	
22	sk8106	祖師谷の家	0.6	横長	△	△				下			x	◆	C1	●	単 p	イ 2	e	①-b	①-C



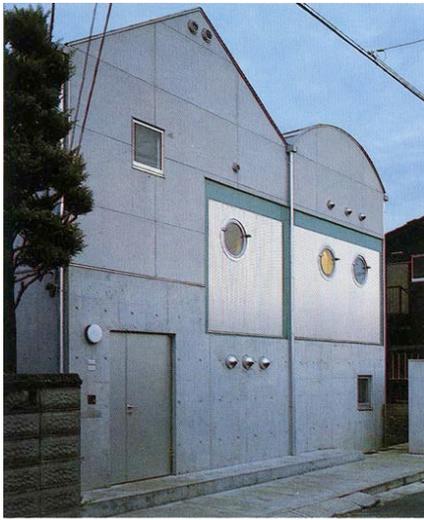
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類		
			高/幅	ア ワ	ワ ビ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム										窓	
23	sk8108	街舎	1.2	標準	△	△				上			*	■	B2	◎	単 p	ハ	e,b	④-c	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類		
			高/幅	ア ワ	ワ ビ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム										窓	
24	sk8202	経堂の住宅 1980	1.3	標準	◇	—							*	◇	I2	○	-	-	b	-	



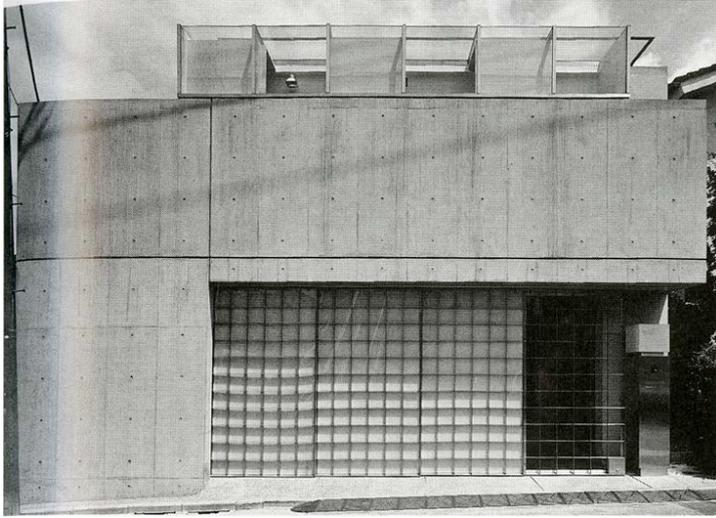
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	バ ン	幅の 変化	上 端	形状	ゲ メ ム	窓									
25	sk8307	九条の町家	1.1	標準	□	—		下		側		▼	F2	◎	並 p	ハ	e,b	④-b	④-F



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	バ ン	幅の 変化	上 端	形状	ゲ メ ム	窓									
26	sk8312	花小金井の家	0.8	標準	△	ハ					*	△	A2	◎*	パ p	ハ	e	④-b	④-A



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	バ ン	幅の 変化	上 端	形状	ゲ メ ム	窓									
27	sk8408	千石の増築	0.7	標準	△	ハ		下			丁	◆	C2	◎	単 p	ハ	b	④-b	④-C



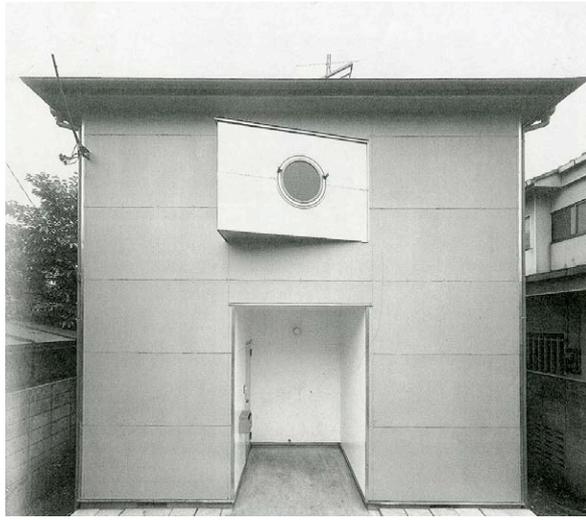
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口				面内開口分布	第二輪郭形状	輪郭パターン	基礎形態	素材の配列	素材の類似性	連続要素	連続モデル	関係図式の類型
			高/幅	アール	幅の変化	上端形状	階部	窓	階部	窓									
28	sk8408	松原の家	0.5	横長	◇	—					上	▼	I1	◎	単 p	ハ	b	④-b	④-I



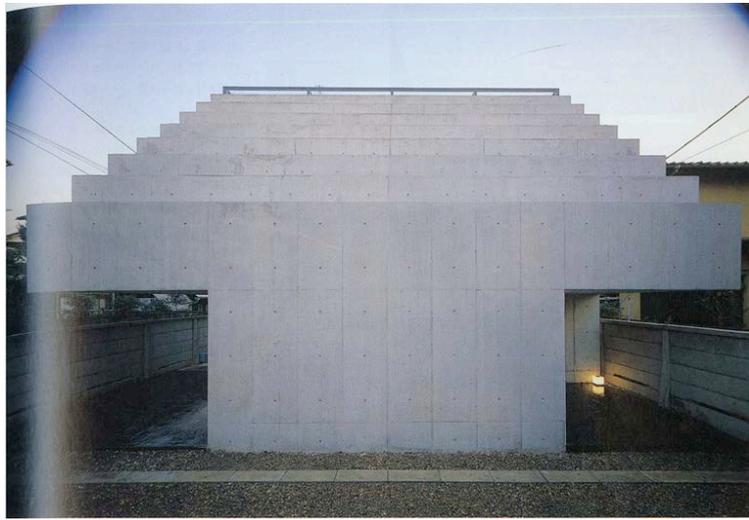
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口				面内開口分布	第二輪郭形状	輪郭パターン	基礎形態	素材の配列	素材の類似性	連続要素	連続モデル	関係図式の類型
			高/幅	アール	幅の変化	上端形状	階部	窓	階部	窓									
29	sk8408	P.P.H. Pocket Park House	0.7	標準	△	—	下					▼	C2	◎	単 p	ニ	b	⑤-b	⑤-C



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口				面内開口分布	第二輪郭形状	輪郭パターン	基礎形態	素材の配列	素材の類似性	連続要素	連続モデル	関係図式の類型
			高/幅	アール	幅の変化	上端形状	階部	窓	階部	窓									
30	sk8408	U 氏邸	0.5	横長	□	—					*	□	E1	◎	並 cp	ニ	e	⑤-b	⑤-E



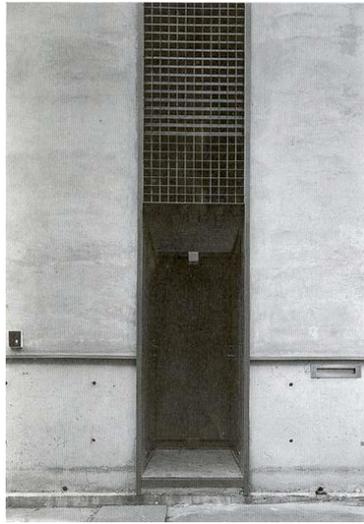
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類	
			高/幅	ア ワ	ワ ン	幅の 変化	上 端	形状	ゲ メ ム	窓										ゲ メ ム
31	jt85 夏	リトル・ハウス	0.8	標準	□	—						*	□	E2	●	並 p	□ 1	e	-	



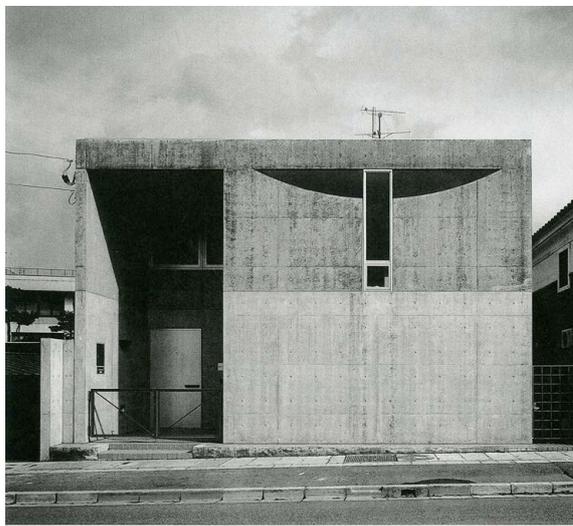
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類	
			高/幅	ア ワ	ワ ン	幅の 変化	上 端	形状	ゲ メ ム	窓										ゲ メ ム
32	jt85 冬	T.HOUSE "STEPS"	0.4	横長	▽	—							▽	11	◎	単 c	二	b	⑤-b	⑤-1



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類	
			高/幅	ア ワ	ワ ン	幅の 変化	上 端	形状	ゲ メ ム	窓										ゲ メ ム
33	jt8605	長屋門のある家	0.4	横長	□	—						*	□	E1	○	単 p	□ 2	e	②-c	



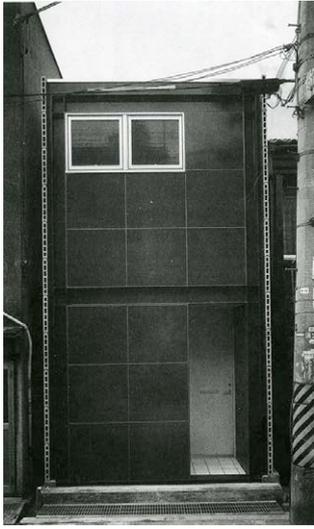
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口				面内開口分布	第二輪郭形状	輪郭パターン	基礎形態	素材の配列	素材の類似性	連続要素	連続モデル	関係図式の類型
			高/幅	アール	幅の変化	上端形状	ゲリュム	窓	ゲリュム	窓									
34	jt8606	粉浜の家 - II	2.2	縦長	△	^			上		*	■	B3	●	-	-	e	-	



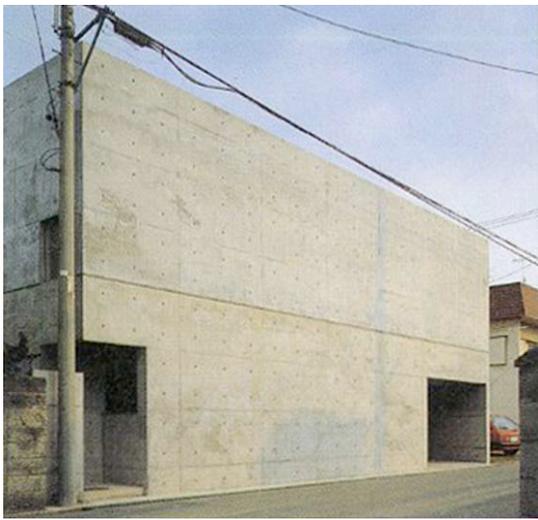
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口				面内開口分布	第二輪郭形状	輪郭パターン	基礎形態	素材の配列	素材の類似性	連続要素	連続モデル	関係図式の類型
			高/幅	アール	幅の変化	上端形状	ゲリュム	窓	ゲリュム	窓									
35	jt8702	福井・勝山の家	0.7	標準	□	—			側		丁	■	E2	◎*	並 p	ハ	e	④-b	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口				面内開口分布	第二輪郭形状	輪郭パターン	基礎形態	素材の配列	素材の類似性	連続要素	連続モデル	関係図式の類型
			高/幅	アール	幅の変化	上端形状	ゲリュム	窓	ゲリュム	窓									
36	jt8705	赤羽の家	0.5	横長	□	—					*	□	E1	◎	並 cp	二	e	⑤-b	⑤-E



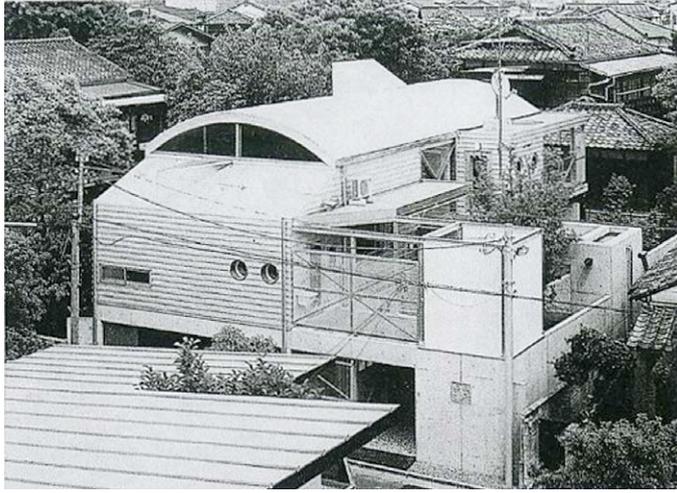
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	ウ コ	エ ホ	フ ヘ	下	上	左									
37	jt8710	KIM HOUSE	1.8	縦長	□	—	下	上				◆	F3	○*	単 p	口 2	e	②-c	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	ウ コ	エ ホ	フ ヘ	下	下	左									
38	jt8807	山本邸	0.5	横長	□	—	下	下				▼	F1	◎	単 p	ハ	b	④-b	④-F



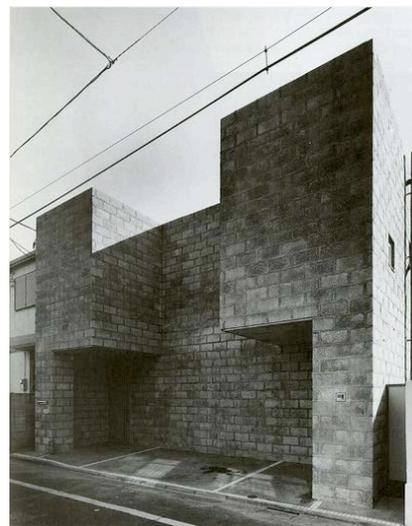
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	ウ コ	エ ホ	フ ヘ	下	上	左									
39	jt8807	DO FUKAZAWA	1.3	標準	▽	∩						*	▽	I2	●	単 p	口 2	e	②



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パターン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	ツ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
40	jt8808	今井邸	0.4	横長	△	—					*	△	A1	◎	並 p	ニ	e,b	⑤	



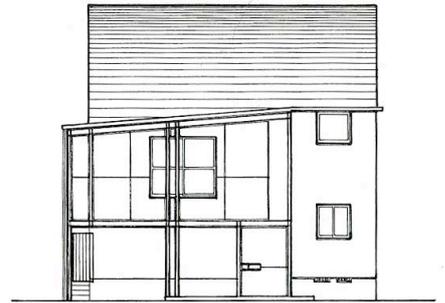
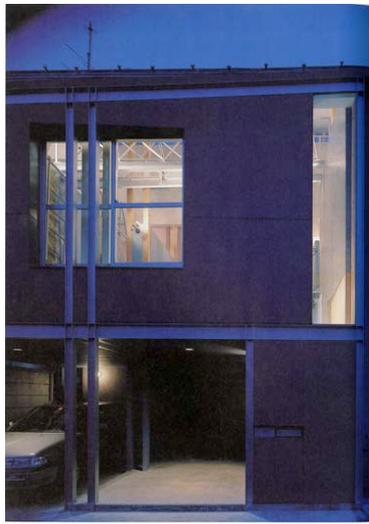
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パターン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	ツ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
41	jt8809	望月邸+駿河意匠	1.1	標準	▽	—					〒	▽	I2	◎	単 p	ハ	s,e	④-b	④-I



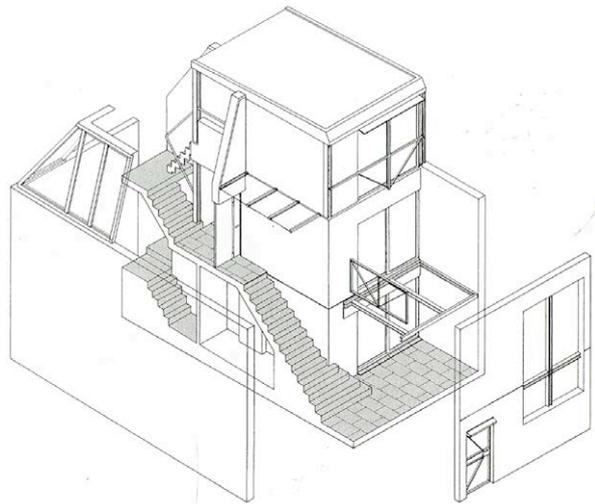
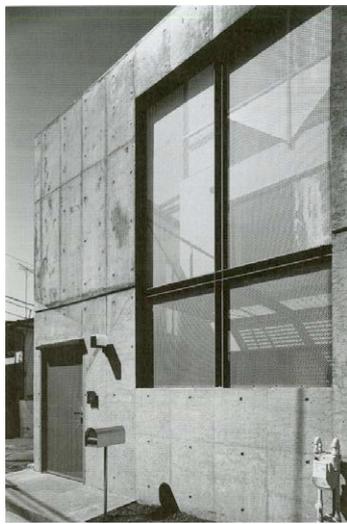
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パターン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	ツ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
42	jt8902	ブロック HOUSE-2	0.8	標準	□	—					*	□	E2	◎	単 p	ニ	e	⑤-b	⑤-E



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ビ ビ	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム	窓									
43	jt8903	朝霞の家	1.3	標準	□	—		上			*	□	E2	◎	単 p	二	e,t	⑤-a	⑤-E



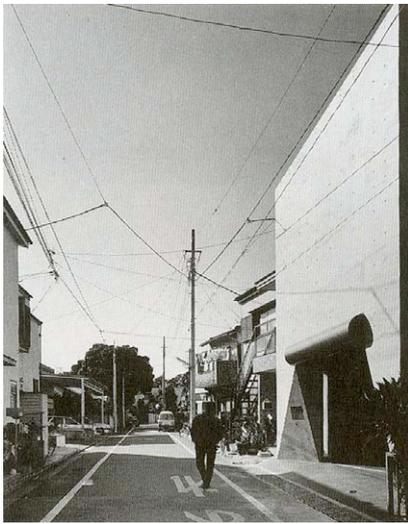
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ビ ビ	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム	窓									
44	jt8905	物質思考 26 小金井の住宅	0.7	標準	△	∧		下			*	◆	C2	●	並 p	イ 2	e,b	①-b	①-C



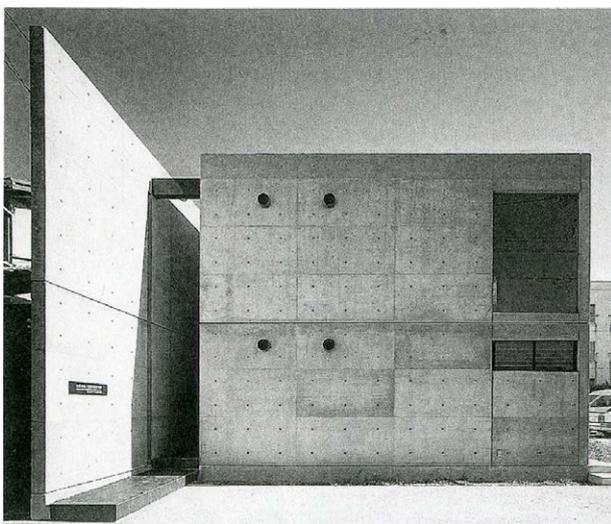
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ビ ビ	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム	窓									
45	jt8907	S-HOUSE	1.7	縦長	△	—		上+下	上			◆	C3	◎	並 cp	二	e,o	⑤-a	⑤-C



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口				面内開口分布	第二輪郭形状	輪郭パターン	基礎形態	素材の配列	素材の類似性	連続要素	連続モデル	関係図式の類型		
			高/幅	アール	ツェル	幅の変化	上端形状	ゲ	オリュム	窓										ゲ	オリュム
46	jt9002	寿町の家	1.1	標準	□	—						側	⊥	■	E2	○*	単 c	イ	e	-	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口				面内開口分布	第二輪郭形状	輪郭パターン	基礎形態	素材の配列	素材の類似性	連続要素	連続モデル	関係図式の類型	
			高/幅	アール	ツェル	幅の変化	上端形状	ゲ	オリュム	窓										ゲ
47	jt9003	COSMOS-都市住宅・1990-	1.5	縦長	□	—						⊥	□	E3	◎	単 c	ニ	b	⑤-b	⑤-E



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口				面内開口分布	第二輪郭形状	輪郭パターン	基礎形態	素材の配列	素材の類似性	連続要素	連続モデル	関係図式の類型	
			高/幅	アール	ツェル	幅の変化	上端形状	ゲ	オリュム	窓										ゲ
48	jt9008	加藤邸	0.9	標準	□	—						側	×	■	E2	◎	パ cp	2	⑥	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	ウ ツ	エ ノ	フ ノ	ヘ ノ	ゲ ノ	コ ノ									
49	jt9102	上京の家	1.6	縦長	□	—			上+下	上		◆	F3	◎	単 p	ニ	b	⑤-b	⑤-F



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類	
			高/幅	ア ワ	ウ ツ	エ ノ	フ ノ	ヘ ノ	ゲ ノ	コ ノ										ケ ノ
50	jt9103	磯田邸	1.6	縦長	△	△				下		*	▲	A3	◎	並 cp	ニ	s,e	⑤	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	ウ ツ	エ ノ	フ ノ	ヘ ノ	ゲ ノ	コ ノ									
51	jt9203	想舎（緑町のアトリエ）	1.5	縦長	△	△			下			◆	C3	◎	p p	ハ	e	④-b	④-C



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム	窓									
52	jt9211	山坂の家	1.3	標準	△	—		上+下	側		*	◆	C2	◎	単 p	二	s,b	⑤-b	⑤-C



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム	窓									
53	jt9305	奥沢の家	1.1	標準	□	—		下				▼	F2	◎	-	-	b	③-a	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム	窓									
54	jt9501	下鴨の家	1.0	標準	△	—		下+側	側			■	B2	○	単 p	口 2	b,t	②-a	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口				面内開口分布	第二輪郭形状	輪郭パターン	基礎形態	素材の配列	素材の類似性	連続要素	連続モデル	関係図式の類型
			高/幅	アール	フック	幅の変化	上端形状	ゲリュム	窓	ゲリュム									
55	jt9504	東ヶ丘の家	0.5	横長	△	—		下	上			▼	C1	◎	-	-	e,b	③	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口				面内開口分布	第二輪郭形状	輪郭パターン	基礎形態	素材の配列	素材の類似性	連続要素	連続モデル	関係図式の類型
			高/幅	アール	フック	幅の変化	上端形状	ゲリュム	窓	ゲリュム									
56	jt9505	小池邸	0.5	横長	□	—					*	□	E1	◎	単 p	二	b	⑤-b	⑤-E



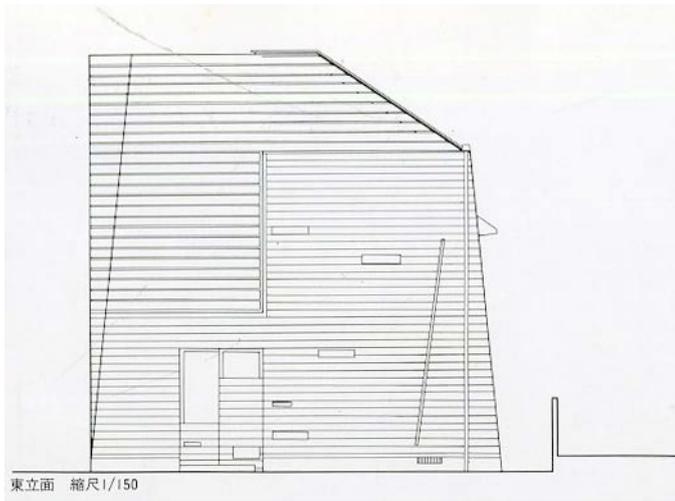
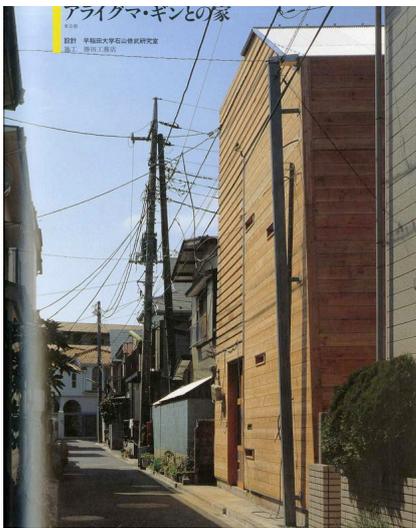
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口				面内開口分布	第二輪郭形状	輪郭パターン	基礎形態	素材の配列	素材の類似性	連続要素	連続モデル	関係図式の類型
			高/幅	アール	フック	幅の変化	上端形状	ゲリュム	窓	ゲリュム									
57	jt9510	調布の家	0.5	横長	△	∩		上	側		⊥	▲	A1	◎	単 p	ハ	e,b	④-c	④-A



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類			
			高/幅	ア ワ ク	フ ツ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム										窓		
58	jt9510	本町田の住宅	1.1	標準	△	^					上			x	△	A2	●	単 p	イ 2	e	①-b	①-A



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類		
			高/幅	ア ワ ク	フ ツ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム										窓	
59	jt9603	House KAS	0.8	標準	▽	—							*	▽	I2	◎	単 c	ニ	e	⑤-b	⑤-I



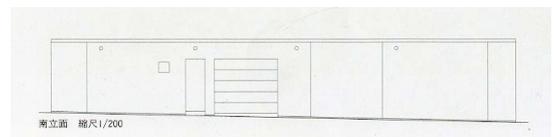
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類		
			高/幅	ア ワ ク	フ ツ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム										窓	
60	jt9605	アライグマ・ギンとの家	1.0	標準	△	^							⊥	△	A2	○	単 p	イ 2	e	①-c	①-A



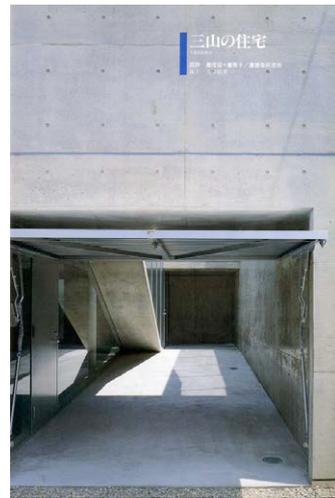
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パターン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	フ シ	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
61	jt9707	東大阪の家	1.1	標準	□	—		上	上	下+側		■	E2	○	並 p	イ 2	b,o,t	①-c	



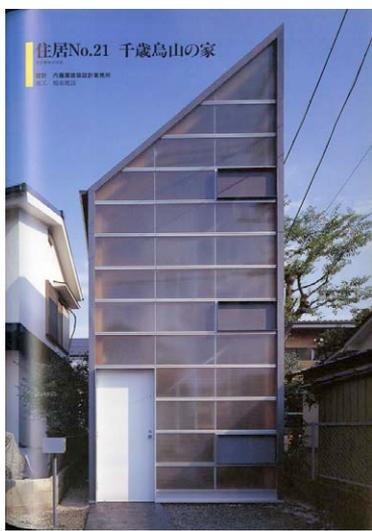
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パターン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	フ シ	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
62	jt9707	M's House	1.0	標準	□	—			下	*	▼	F2	○	並 p	□	e,o	②-a		



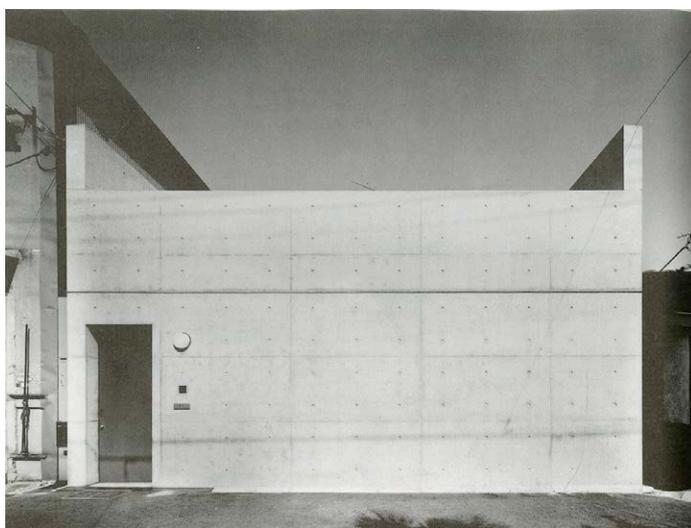
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パターン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	フ シ	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
63	jt9709	M-HOUSE	0.2	横長	□	—		下	側	x	□	E1	○	並 cp	□ 2	e,b,t	②-a		



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	ウ コ	エ ホ	フ ヘ	セ ゲ	ソ コ	タ チ									
64	jt9710	三山の住宅	0.9	標準	□	—		下				▼	F2	◎	単 c	ニ	b	⑤-b	⑤-F



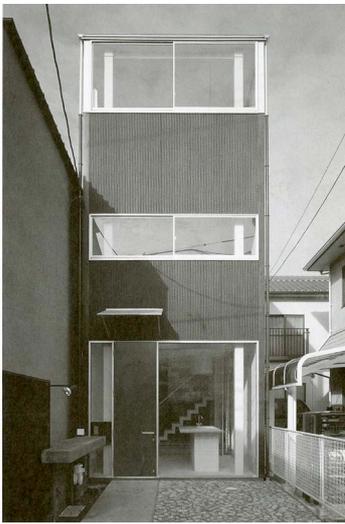
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	ウ コ	エ ホ	フ ヘ	セ ゲ	ソ コ	タ チ									
65	jt9711	住居 No.21 千歳烏山の家	2.5	縦長	△	∧		下			×	◆	C3	○	並 cp	ロ 2	e,t	②-a	②-C



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	ウ コ	エ ホ	フ ヘ	セ ゲ	ソ コ	タ チ									
66	jt9712	平野区の町屋 - 能見邸	0.5	横長	□	—		下				▼	F1	◎	単 p	ニ	e	⑤-b	⑤-F



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類	
			高/幅	ア ワ ク	フ ツ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム										窓
67	jt9803	井草の住宅	1.0	標準	△	—				下+側		⊥	■	B2	◎	単 p	二	e	⑤-b	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	フ ツ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
68	jt9807	江波の家	2.5	縦長	□	—				上+下	*	■	E3	○	並 cp	口 2	e,o	②-a	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	フ ツ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
69	jt9808	狭山の家	0.4	横長	□	—		下	側			▼	F1	◎	並 cp	二	e,b	⑤-b	⑤-F



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	フ シ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
70	jt9809	高輪台の家	0.4	横長	□	—	下				*	▼	F1	◎	並 p	ニ	s,e,b	⑤-b	⑤-F



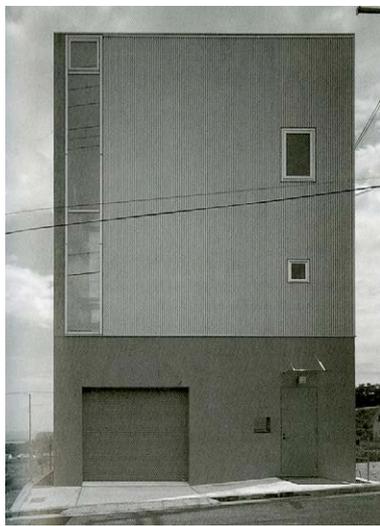
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	フ シ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
71	jt9809	立体土間の家	0.8	標準	□	—					*	□	E2	●	単 c	ロ 2	s,e,o	②-b	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	フ シ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
72	jt9811	曾谷の家	1.2	標準	△	△	下				*	◆	C2	○	並 cp	ロ 2	e,o	②-a	②-C



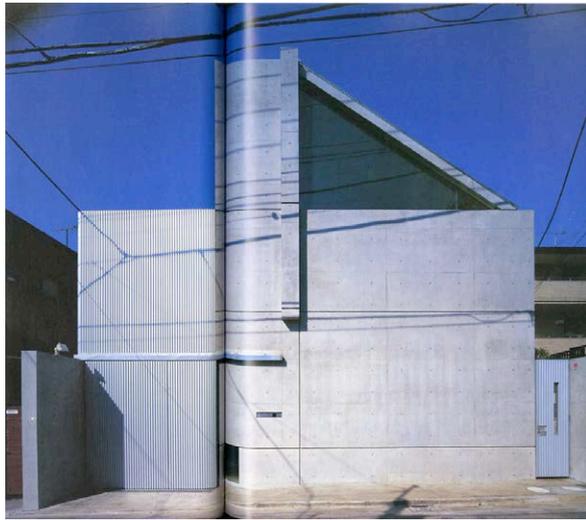
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	フ ツ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ テ ム	窓	ゲ メ テ ム									
73	jt9902	0 夫妻の家	1.2	標準	□	—		下			x	▼	F2	○	パ p	口 2	e	②-c	



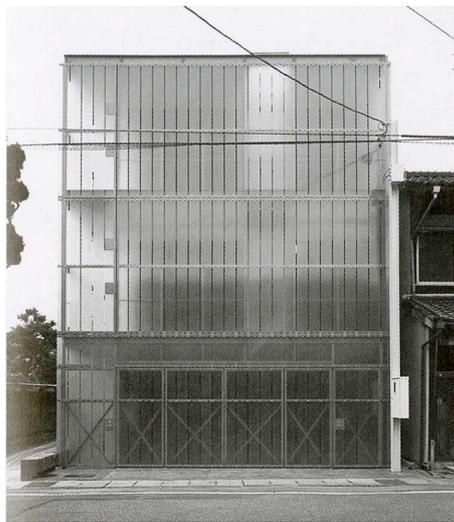
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	フ ツ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ テ ム	窓	ゲ メ テ ム									
74	jt9903	(7,000m) 3 / 松本邸	1.4	縦長	□	—		上			*	▲	D3	◎	並 p	ハ	e,b	④-c	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	フ ツ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ テ ム	窓	ゲ メ テ ム									
75	jt9906	北畠の家	0.6	横長	□	—		下			*	▼	F1	○	単 p	口 2	e,b	②-c	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	バ シ ス	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
76	jt0006	代沢の住宅	0.9	標準	△	△						△	A2	◎	単 p	ハ	e,b	④-b	④-A



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	バ シ ス	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
77	jt0008	yh	1.3	標準	□	—						□	E2	◎	単 p	ニ	e,b,t	⑤-a	⑤-E



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	バ シ ス	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
78	sk0011	小さな家	1.6	縦長	◇	—				側	⊥	◆	I3	◎	単 p	ニ	s,e,o	⑤-a	⑤-I



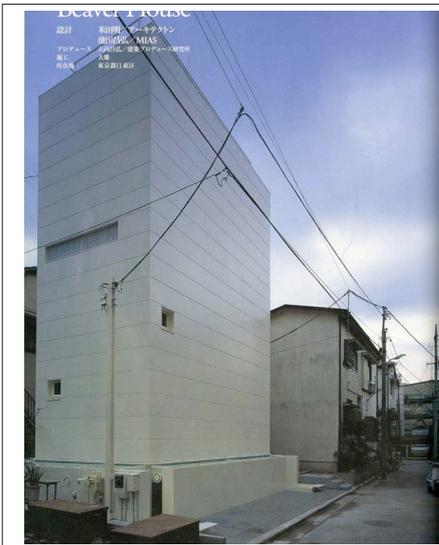
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類			
			高/幅	ア ワ	ツレ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ テ ム	窓	ゲ メ テ ム										窓		
79	jt0201	代沢 M 邸	2.1	縦長	□	—					下			⊥	▼	F3	◎	並 cp	ニ	e,o	⑤-a	⑤-F



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類		
			高/幅	ア ワ	ツレ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ テ ム	窓	ゲ メ テ ム										窓	
80	jt0201	P・O・M	1.9	縦長	▽	—							*	▽	I3	◎	単 p	ニ	e,b,o	⑤-a	⑤-l



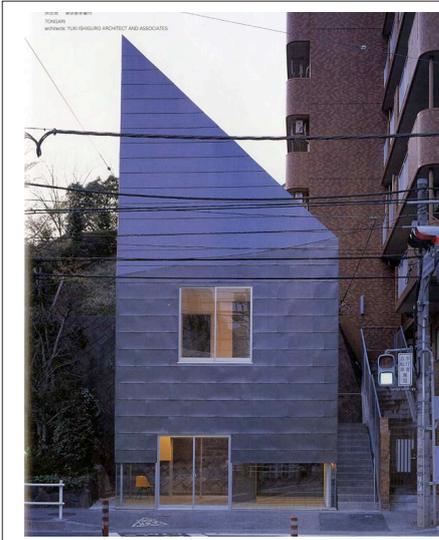
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類		
			高/幅	ア ワ	ツレ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ テ ム	窓	ゲ メ テ ム										窓	
81	sk0206	テラス・ハウス	0.4	横長	□	—							⊥	□	E1	◎	単 p	ハ	b	④-b	



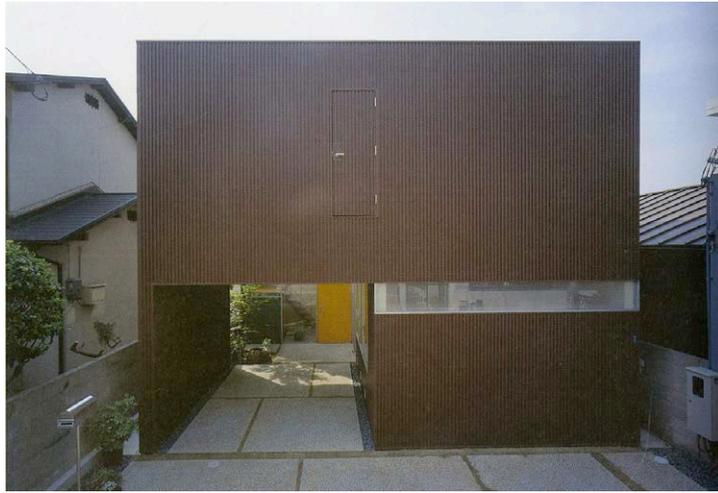
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	バ ン	幅の 変化	上 端形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
82	jt0206	Beaver House	1.3	標準	△	—						△	A2	●	パ p	口 2	s	②	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	バ ン	幅の 変化	上 端形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
83	jt0207	鶺ノ木の家	1.5	縦長	□	—		下			⊥	▼	F3	◎	並 cp	二	b	⑤-b	⑤-F



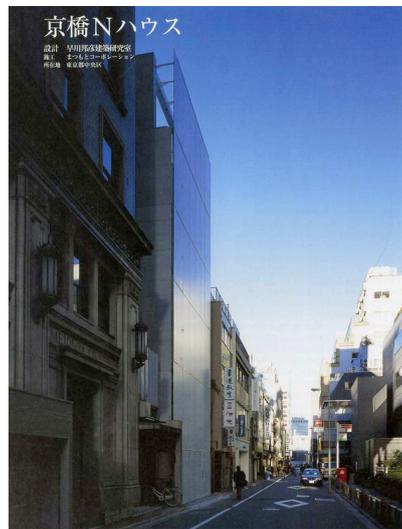
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	バ ン	幅の 変化	上 端形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
84	sk0209	隅のトンガリ	2.0	縦長	△	△				下	⊥	▲	A3	◎	-	-	s,o	③-a	



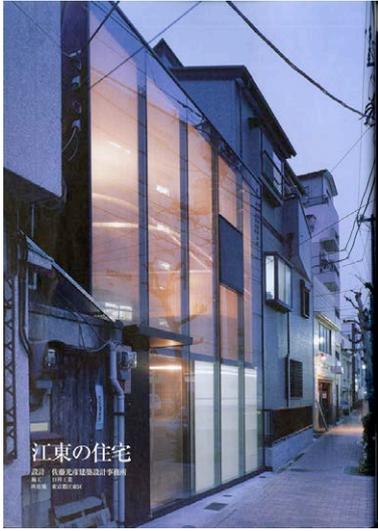
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	ウ ツ	エ ホ	フ ヘ	セ ソ	タ チ	テ ト									
85	jt0209	春日野道の家	0.8	標準	□	—		下			⊥	▼	F2	◎	単 p	ニ	e,b	⑤-b	⑤-F



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	ウ ツ	エ ホ	フ ヘ	セ ソ	タ チ	テ ト									
86	jt0209	上萩の家	0.7	標準	▽	—		下		*	▼	I2	◎	並 cp	ニ	s,e,b	⑤-b	⑤-I	



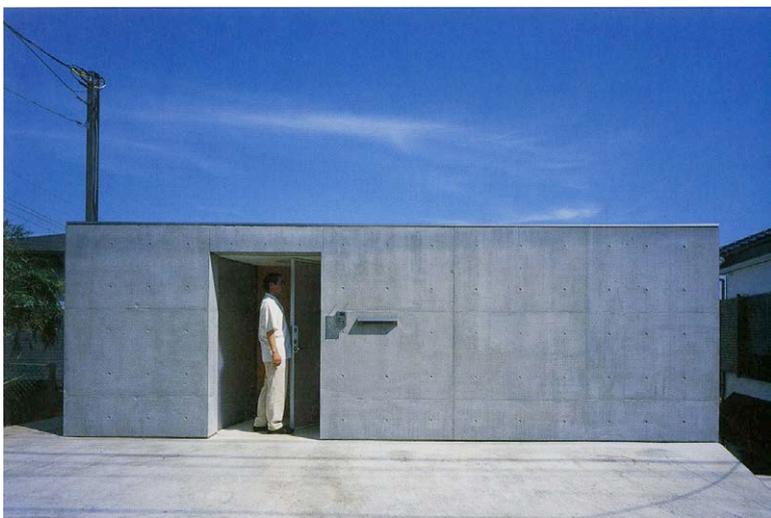
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	ウ ツ	エ ホ	フ ヘ	セ ソ	タ チ	テ ト									
87	jt0304	京橋 N ハウス	2.4	縦長	□	—		下			▼	F3	◎	単 p	ニ	e,b,t	⑤-a	⑤-F	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ビ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ テ ム	窓	ゲ メ テ ム	窓									
88	jt0306	江東の住宅	1.1	標準	□	—		下			⊥	▼	F2	◎	単 p	ニ	e,t	⑤-a	⑤-F



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ビ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ テ ム	窓	ゲ メ テ ム	窓									
89	jt0308	白い箱の家	1.3	標準	△	—					⊥	■	B2	●	パ cp	ロ 2	e	②-b	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ビ シ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ テ ム	窓	ゲ メ テ ム	窓									
90	jt0311	teshihouse	0.3	横長	□	—					x	□	E1	◎	並 p	ハ	s,e	④-b	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	バ ン	幅の 変化	上 端形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
91	jt0405	石神井台の家	0.7	標準	△	—		下			⊥	◆	C2	○	並 cp	口 2	e, b	② -c	② -C



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	バ ン	幅の 変化	上 端形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
92	jt0406	T・BOX	1.4	縦長	□	—					*	□	E2	◎	単 p	ハ	s, e	④ -b	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	バ ン	幅の 変化	上 端形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
93	jt0407	HP	1.6	縦長	▽	—		上				◆	I3	◎	単 p	二	e	⑤ -b	⑤ -I



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類		
			高/幅	ア ワ ク	バ ン ジ の 変 化	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ トリ ック	窓	ゲ メ トリ ック										窓	
94	jt0410	KK	1.6	縦長	◇	^				下			⊥	◆	I3	○	単 c	口 2	e,b,o	② -a	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類		
			高/幅	ア ワ ク	バ ン ジ の 変 化	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ トリ ック	窓	ゲ メ トリ ック										窓	
95	jt0502	WH	2.1	縦長	□	—							⊥	□	E3	○	単 c	口 2	e,o	② -a	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類		
			高/幅	ア ワ ク	バ ン ジ の 変 化	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ トリ ック	窓	ゲ メ トリ ック										窓	
96	jt0506	ナチュラルストリップス II	1.9	縦長	□	—				下			⊥	▼	F3	◎	並 cp	二	b,o	⑤ -a	⑤ -F



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	バ ン	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
97	jt0506	赤堤通りの家	2.1	縦長	□	—		下			*	▼	F3	○	並 p	イ 2	e	①-c	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	バ ン	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
98	jt0509	品川の住宅	0.8	標準	◇	—		下				◆	I2	◎	単 p	ハ	e,b	④-b	④-l



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	バ ン	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
99	jt0509	うなぎ 001	1.5	縦	□	—					x	□	E3	○*	パ cp	ロ 2	e	②-c	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類		
			高/幅	ア ワ ク	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム	窓											
100	jt0601	円山町のアトリエ付き住居	2.6	縦長	□	—					上+下	側		▼	F3	◎*	パp	ハ	e	④-b	④-F



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム	窓									
101	jt0601	能代の住宅	0.7	標準	□	—					*	□	E2	○	-	-	e,b		



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム	窓									
102	jt0601	ガク・ハウス	1.0	標準	△	△					T	△	A2	●	パcp	ロ2	e	②-b	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	バ ン ジ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ タ ム	窓	ゲ メ タ ム									
103	jt0601	LOVE HOUSE	1.8	縦長	□	—						▼	F3	◎	単 c	二	e	⑤-b	⑤-F



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	バ ン ジ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ タ ム	窓	ゲ メ タ ム									
104	jt0602	HOUSE SH	1.9	縦長	□	—						□	E3	◎	単 p	二	-	⑥	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類	
			高/幅	ア ワ ク	バ ン ジ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ タ ム	窓	ゲ メ タ ム										窓
105	jt0604	Parallax	1.1	標準	□	—						┘	▼	F2	◎	並 p	ハ	e,b	④-b	④-F



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	バ ン	幅の 変化	上 端形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
106	jt0612	元代々木の住宅	1.8	縦長	□	—		下			⊥	▼	F3	◎	単 p	ハ	e	④-b	④-F



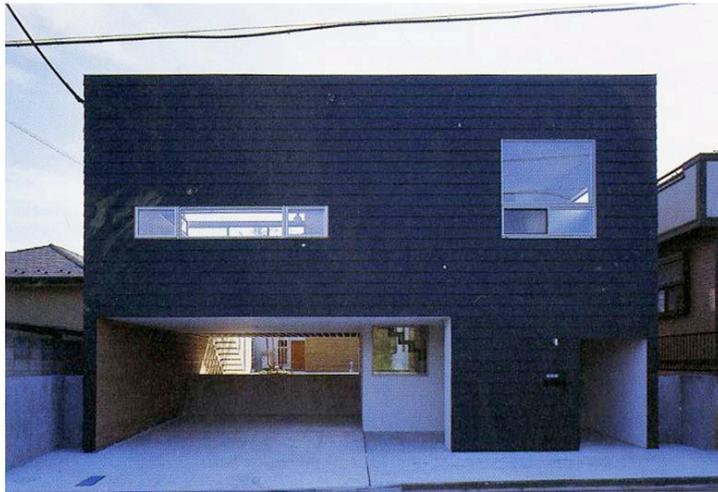
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	バ ン	幅の 変化	上 端形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
107	sk0703	HOUSE A	1.3	標準	□	—					□	E2	◎	単 c	ニ	-	⑥		



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	バ ン	幅の 変化	上 端形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
108	jt0703	北沢の家	0.9	標準	◇	—					◇	I2	◎	並 cp	ニ	e,b	⑤-b	⑤-I	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パターン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ン	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ン ツ	窓	ゲ メ ン ツ	窓									
109	jt0705	吉祥寺の家	0.9	標準	□	—					*	□	E2	○	パ cp	イ 1	e	-	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パターン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ン	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ン ツ	窓	ゲ メ ン ツ	窓									
110	jt0802	版築のある家	0.7	標準	□	—		下			〒	▼	F2	◎	単 p	ニ	e, b	㊦-b	㊦-F



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パターン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ン	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ン ツ	窓	ゲ メ ン ツ	窓									
111	jt0804	36M HOUSE	0.4	横長	□	—						□	E1	◎	単 p	ニ	b	㊦-b	㊦-E



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パターン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	アール/幅	幅の変化	上端形状	ガラス	窓	ガラス	窓									
112	jt0807	柱と床	1.8	縦長	□	—					*	□	E3	◎	パ c	二	e, o	⑤-a	⑤-E



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パターン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	アール/幅	幅の変化	上端形状	ガラス	窓	ガラス	窓									
113	jt0807	三原の家	0.3	横長	□	—				上		■	E1	◎	単 c	二	-	⑥	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パターン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	アール/幅	幅の変化	上端形状	ガラス	窓	ガラス	窓									
114	jt0809	OUCHI	1.1	標準	△	△	下					◆	C2	○	単 c	口 2	e	②-c	②-C



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	フ シ ノ	幅の 変化	上 端 形状	ガ レ ム	窓	ガ レ ム									
115	jt0810	DOUBLE CUBE	1.1	標準	□	—		下			⊥	▼	F2	○	単 p	イ 2	b	①-c	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	フ シ ノ	幅の 変化	上 端 形状	ガ レ ム	窓	ガ レ ム									
116	jt0811	SWING	1.9	縦長	△	∧			上	下		■	B3	◎	並 p	ニ	e,b	⑤-b	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	フ シ ノ	幅の 変化	上 端 形状	ガ レ ム	窓	ガ レ ム									
117	jt0812	ロングツールハウス	1.9	縦長	△	—		上			⊥	▲	A3	◎*	並 p	ハ	s,e,t	④-a	④-A



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ン	幅の 変化	上端 形状	ゲ リュ ム	窓	ゲ リュ ム	窓									
118	jt0905	東山の家	2.3	縦長	◇	^					〒	◇	I3	○	単 p	イ 2	s,e,b	①-c	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ン	幅の 変化	上端 形状	ゲ リュ ム	窓	ゲ リュ ム	窓									
119	jt0908	だんだんまちや	1.7	縦長	△	^					*	△	A3	○	単 c	ロ 2	o	②	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ン	幅の 変化	上端 形状	ゲ リュ ム	窓	ゲ リュ ム	窓									
120	jt1005	洗足の住宅	1.4	縦長	□	—	下	上			*	◆	F3	◎	単 p	ハ	e,b	④-b	④-F



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類	
			高/幅	ア ワ	ウ ツ	幅の 変化	上 端形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム										窓
121	jt1007	南加瀬の住宅	2.4	縦長	△	—	下					丁	◆	C3	●	単 p	イ 1	b	-	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	ウ ツ	幅の 変化	上 端形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
122	jt1102	スプリットまちや	3.2	縦長	△	△	下			上	丁	◆	C3	●	単 p	イ 2	e	①-a	①-C



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	ウ ツ	幅の 変化	上 端形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
123	jt1104	ハナノウチ	2.0	縦長	□	—	下				丁	▼	F3	●	単 p	イ 2	b	①-a	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	アール	幅の変化	上端形状	ガラス	窓	ガラス	窓									
124	jt1105	大岡山の住宅	2.1	縦長	□	—					*	□	E3	○	並 cp	イ 2	o	①-c	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	アール	幅の変化	上端形状	ガラス	窓	ガラス	窓									
125	jt1110	代々木上原の家	1.6	縦長	△	△		上				▲	A3	●	単 p	イ 2	e	①-a	①-A



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	アール	幅の変化	上端形状	ガラス	窓	ガラス	窓									
126	jt1112	トシゴヤ	1.6	縦長	□	—		上+下			丁	◆	F3	●	並 cp	ロ 2	e,o	②-b	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パターン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類	
			高/幅	ア ワ ク	フ シ シ	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム										窓
127	jt1203	スキマノイエ	1.2	標準	△	—		下				x	■	B2	◎	パ cp	ニ	e	⑤-b	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パターン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類	
			高/幅	ア ワ ク	フ シ シ	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム										窓
128	jt1203	元浅草の住宅	2.3	縦長	□	—						*	□	E3	◎	並 cp	ニ	e	⑤-b	⑤-E



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パターン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類	
			高/幅	ア ワ ク	フ シ シ	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム										窓
129	jt1205	東大泉の家	1.0	標準	□	—						x	□	E2	◎	単 c	ニ	-	⑥	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口				面内開口分布	第二輪郭形状	輪郭パターン	基礎形態	素材の配列	素材の類似性	連続要素	連続モデル	関係図式の類型
			高/幅	アール	幅の変化	上端形状	ゲオリュム	窓	ゲオリュム	窓									
130	jt1206	N邸	0.7	標準	□	—					x	□	E2	○	単p	イ2	e	①-c	



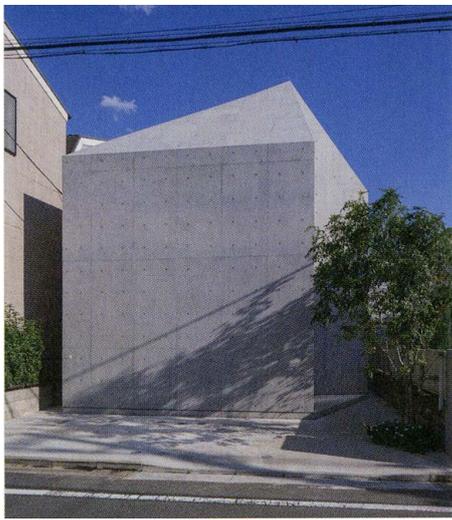
資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口				面内開口分布	第二輪郭形状	輪郭パターン	基礎形態	素材の配列	素材の類似性	連続要素	連続モデル	関係図式の類型
			高/幅	アール	幅の変化	上端形状	ゲオリュム	窓	ゲオリュム	窓									
131	jt1206	土橋邸	2.3	縦長	□	—	下				x	▼	F3	○	並p	ロ2	s,b	②-c	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口				面内開口分布	第二輪郭形状	輪郭パターン	基礎形態	素材の配列	素材の類似性	連続要素	連続モデル	関係図式の類型
			高/幅	アール	幅の変化	上端形状	ゲオリュム	窓	ゲオリュム	窓									
132	jt1209	TAKANAWA	1.2	標準	△	—	下				*	◆	C2	◎	単p	ハ	e,b,o	④-a	④-C



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類	
			高/幅	ア ワ	バ ン	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム										窓
133	jt1209	東京スマートホームデザインング	1.6	縦長	△	△			下			丁	◆	C3	○	単 p	イ 2	b	①-c	①-C



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ	バ ン	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム									
134	jt1303	東玉川の家	1.0	標準	□	—						□	E2	◎	単 p	ハ	-	④'	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類	
			高/幅	ア ワ	バ ン	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム										窓
135	jt1304	浦和の家	0.8	標準	□	—		下				丁	▼	F2	◎	パ p	ニ	e,b	⑤-b	⑤-F



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム	窓									
136	jt1304	屏風ヶ浦の家	1.2	標準	□	—					*	□	E2	◎	単 c	二	o	⑤	⑤-E



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム	窓									
137	jt1304	伊丹の住宅	2.4	縦長	□	—					*	□	E3	○	単 c	口 2	e,o	②-a	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パタン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ク	幅 の 変 化	上 端 形 状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム	窓									
138	jt1304	山王の住宅	0.7	標準	△	—	下				T	◆	C2	◎	単 p	ハ	s,e,b	④-c	④-C



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パターン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ビ ビ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム	窓									
139	jt1307	経堂の住宅	1.5	縦長	△	^				上		■	B2	◎	単 p	ハ	-	④'	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パターン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ビ ビ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム	窓									
140	jt1307	N 邸	1.1	標準	□	—				上	⊥	■	E2	○	単 p	イ 2	e,o	①-c	



資料 No.	掲載年月	作品名	第一輪郭の形状				輪郭に接する開口 隅部 辺全長				面内開 口分布	第二輪 郭形状	輪郭 パターン	基礎 形態	素材の 配列	素材の 類似性	連続 要素	連続 モデル	関係図式 の種類
			高/幅	ア ワ ビ ビ	幅の 変化	上 端 形状	ゲ メ ム	窓	ゲ メ ム	窓									
141	jt1308	電泉の家	1.3	標準	□	—				上	⊥	▲	D2	◎	単 p	ニ	e,b,t	⑤-a	

第 4 章 傾斜地における住宅作品の断面構成（全 106 資料）

凡例



資料 No.	掲載年月	作品名	斜面とアプローチの関係		建築物ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の 種類
			アプローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
21	sk7509	原邸	上	—	段差	段差、接地	Eの下にM、下に階なし	E=M	▲1v	l-a

表 4-1.1

表 4-1.2

表 4-2

表 4-3.1

表 4-3.2

表 4-4

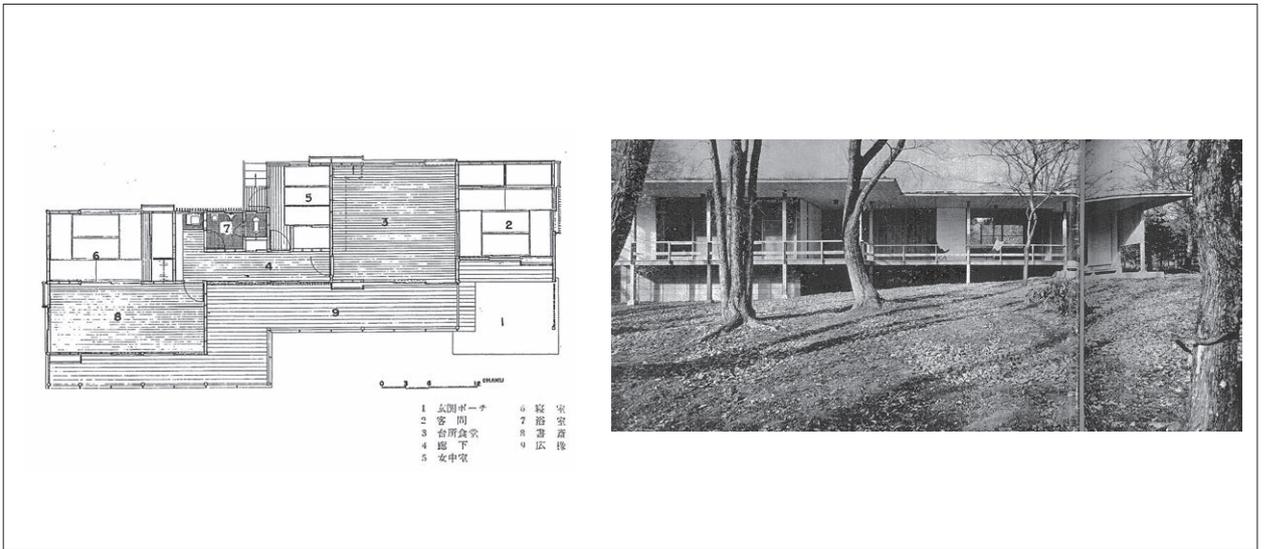
表 4-4

図 4-3

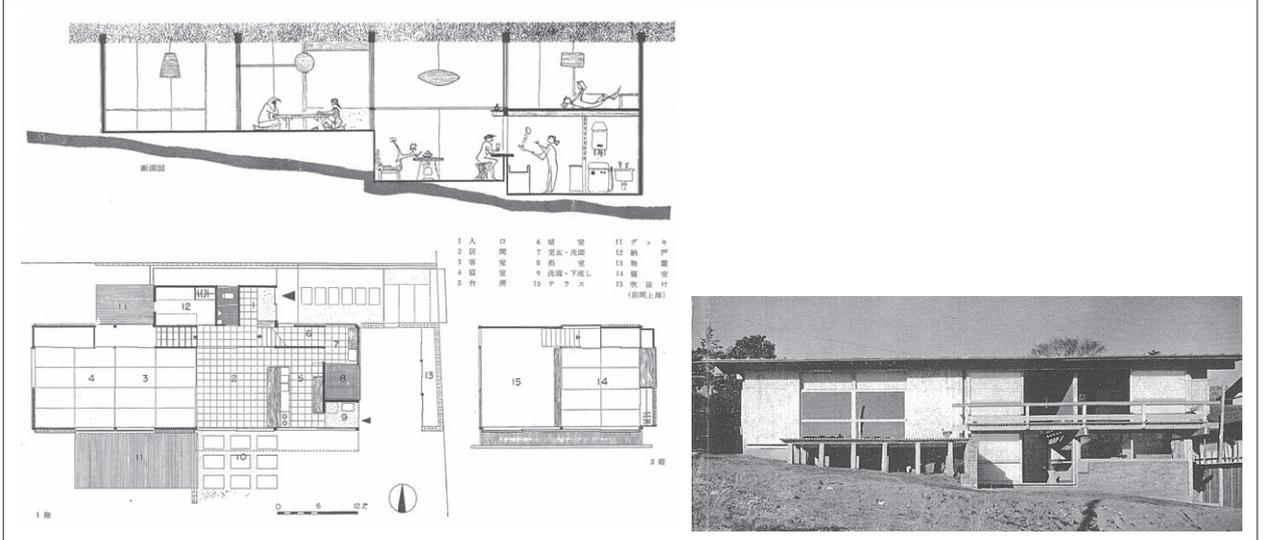
2 節

3 節

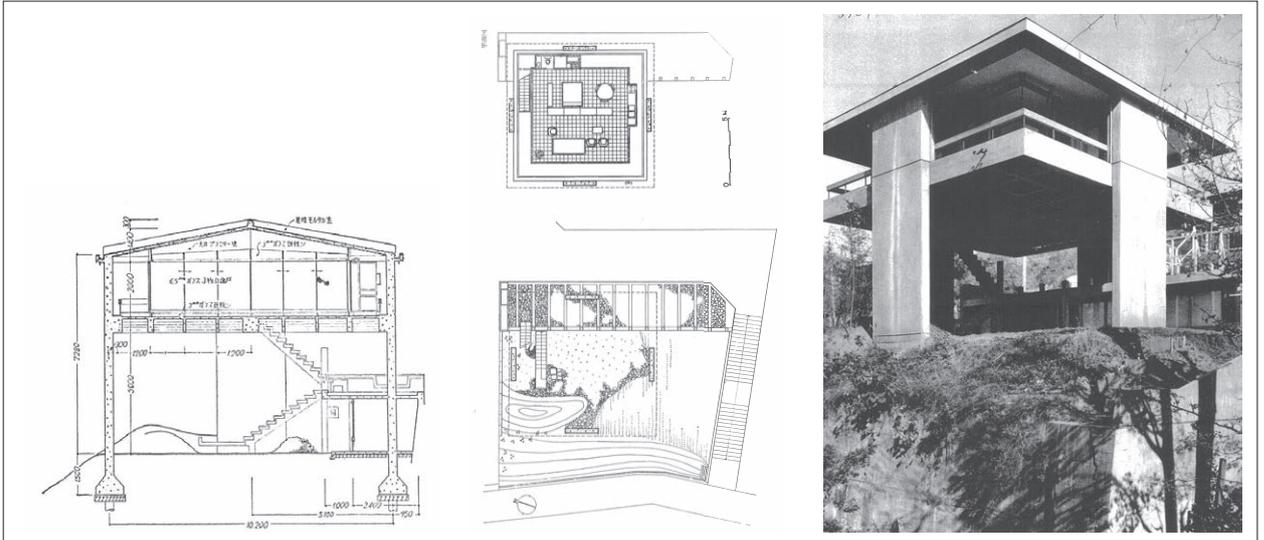
- ▲ 主室から斜面への出入口あり
- 0 建物が建っている部分のレベル差 0~0.5 層
- 1 " 0.5~1.5 層
- 2 " 1.5 層~
- *1 エントランスと主室が斜面の方向に対して横並びに配置
- *2 建物を回り込むようにアプローチし最短経路をとらない
- N 斜面が東西より北向き（北斜面）
- v 疎に住戸が並ぶ敷地（建坪率 20% 未満）
- c 雑壇状に宅地造成された敷地



資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°の向き		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
1	sk5801	佐伯邸	上	—	斜面+フラット	フラット、接地	同一階、下に階無し	E/M	0v	II



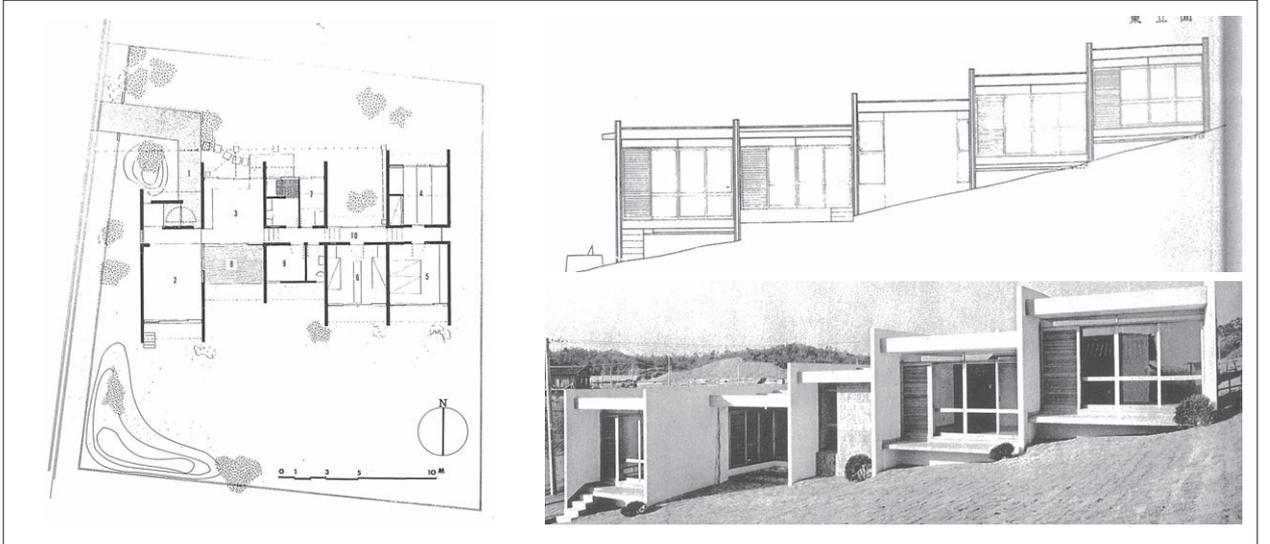
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°の向き		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
2	sk5809	傾斜地に建つ家	直交	—	段差	段差、接地	同一階、下に階無し	E/M	▲1	IV



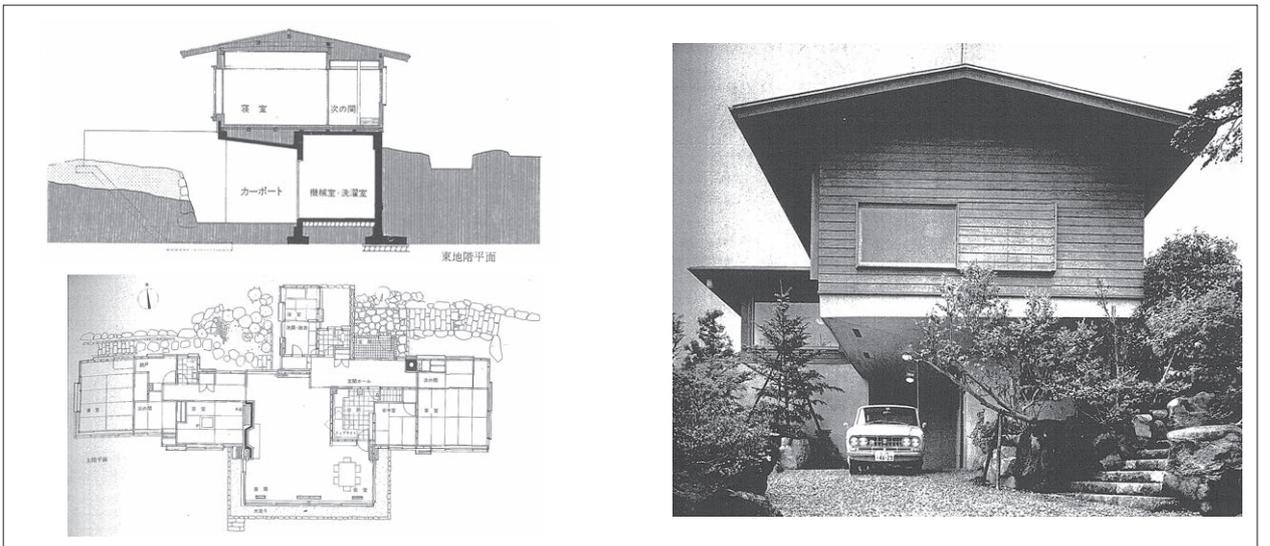
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°の向き		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
3	sk5901	菊竹自邸	上	●	斜面	フラット、分離	同一階、下に階無し	E=M	▲1	II



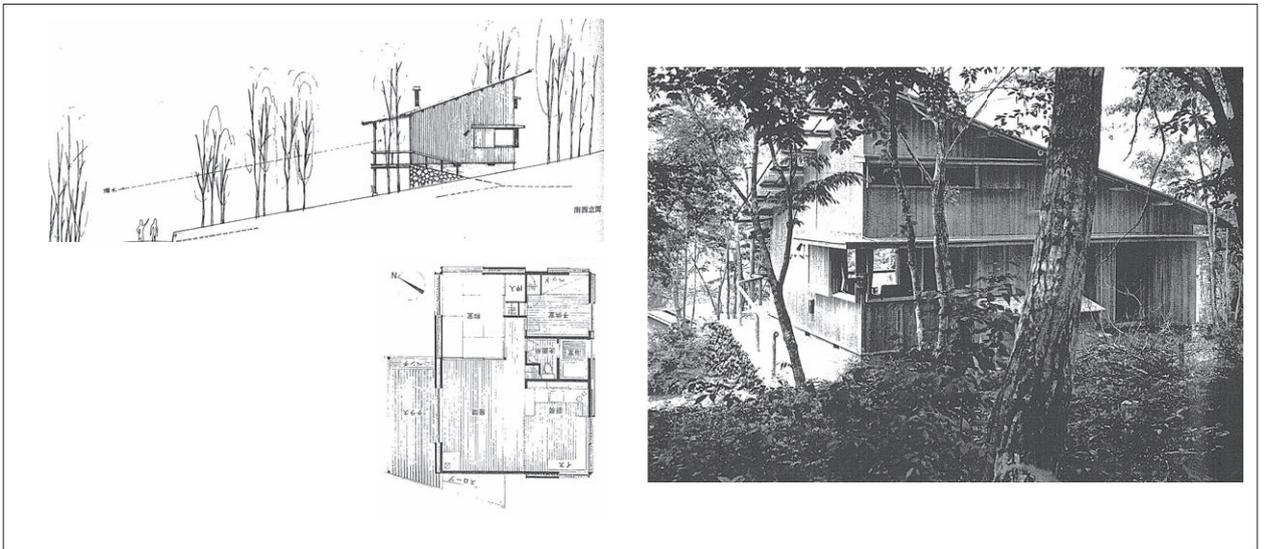
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°の向き		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
4	sk6110	RIBI 邸	上	—	斜面+フラット	フラット、接地	同一階、下に階無し	E=M	▲ ON	II



資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°の向き		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
5	sk6306	ユニットプランの住宅	下	—	段差	段差、接地	同一階、下に階無し	U	▲ 1	ハ



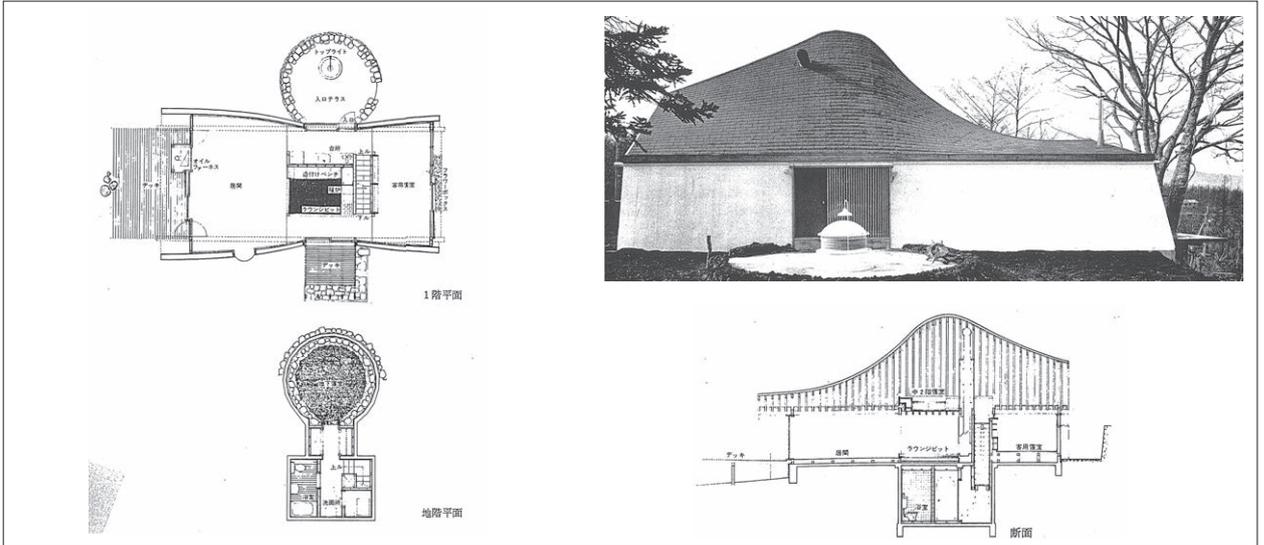
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°の向き		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
6	sk6507	八幡野の週末住宅	上	—	段差	フラット、接地	同一階、下に階あり	E/M	1v	II



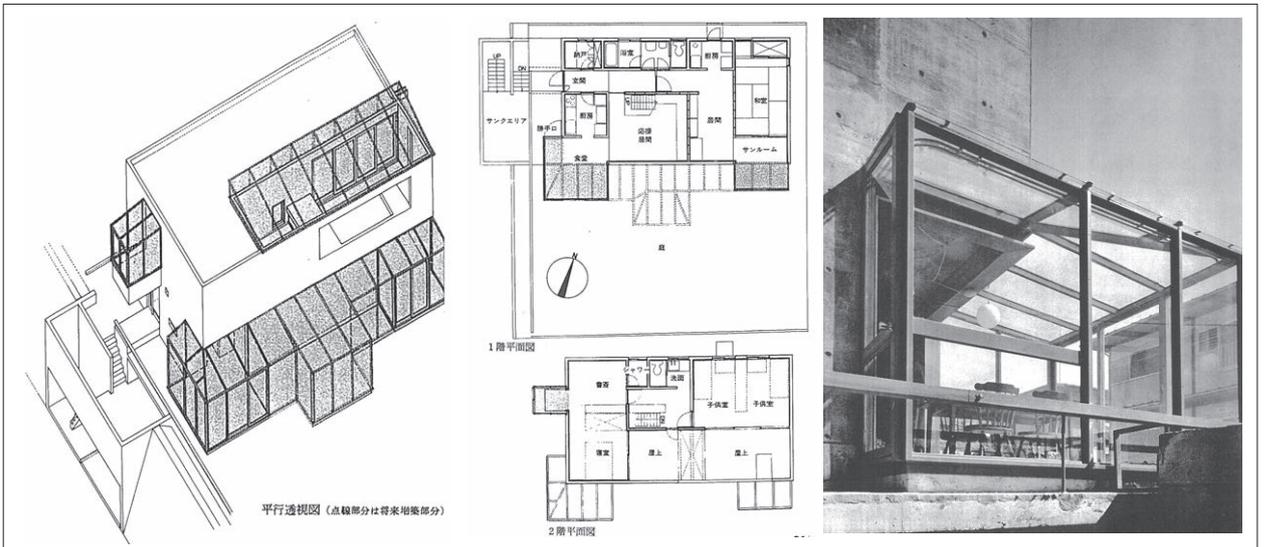
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ヴォリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ヴォリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
7	sk6508	T氏の山荘	下	■	斜面	フラット、分離	同一階、下に階無し	E=M	ONv	II



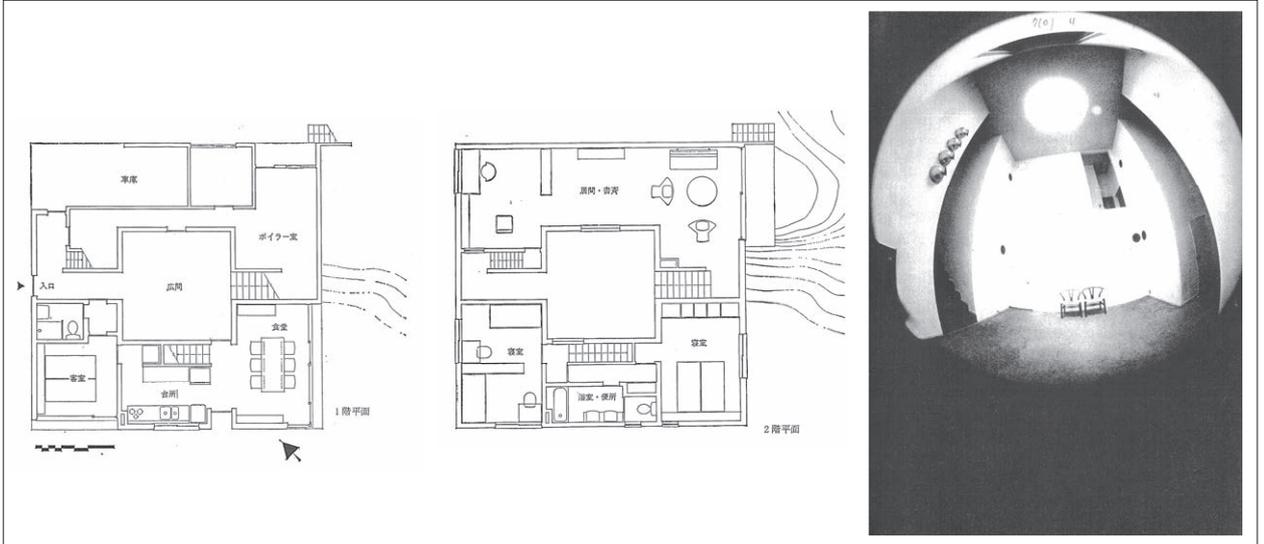
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ヴォリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ヴォリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
8	sk6609	もみの木の家	上	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E/M	▲ Ov	II



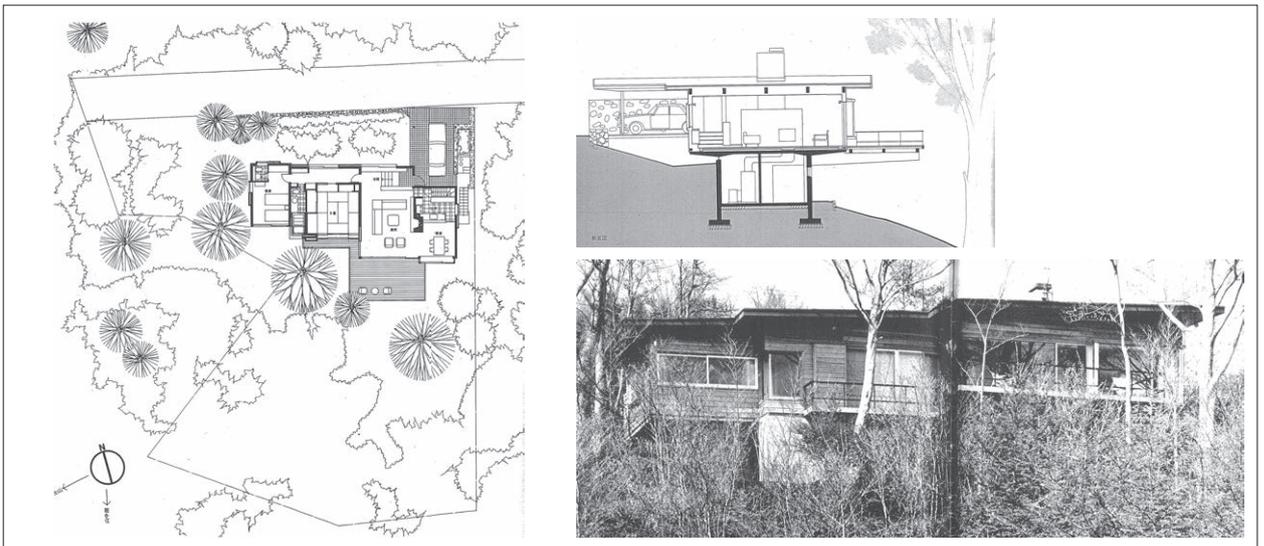
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ヴォリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ヴォリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
9	sk6701	山荘・もっぴいでいっく	直交	—	段差	段差、接地	同一階、下に階あり	E=M	▲ Ov	IV



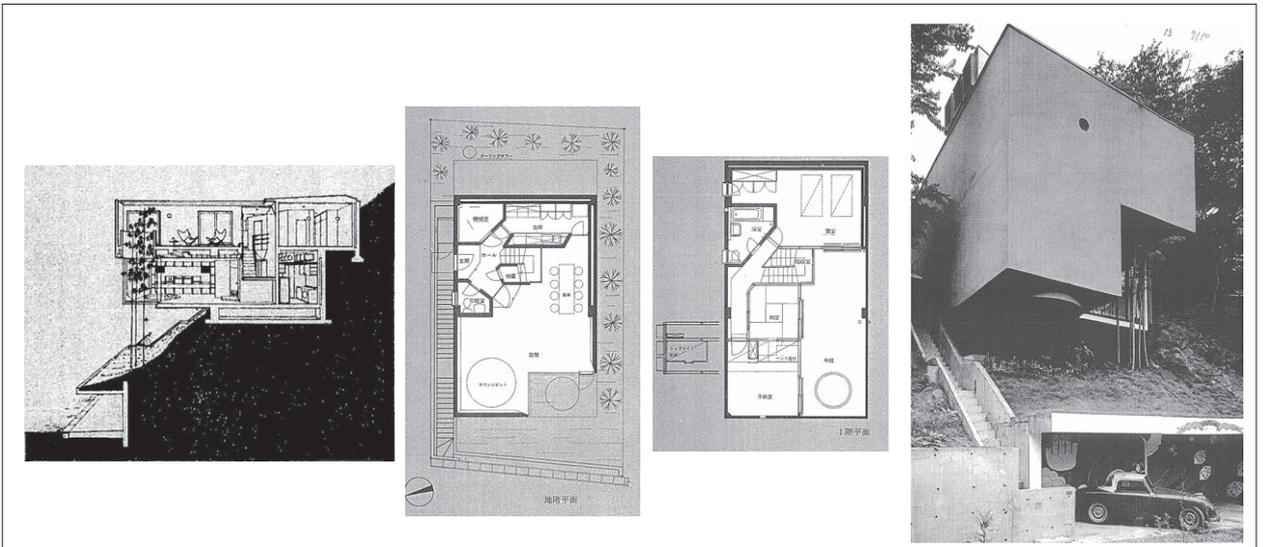
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
10	sk6804	石亀邸	下	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E/M	1c	□



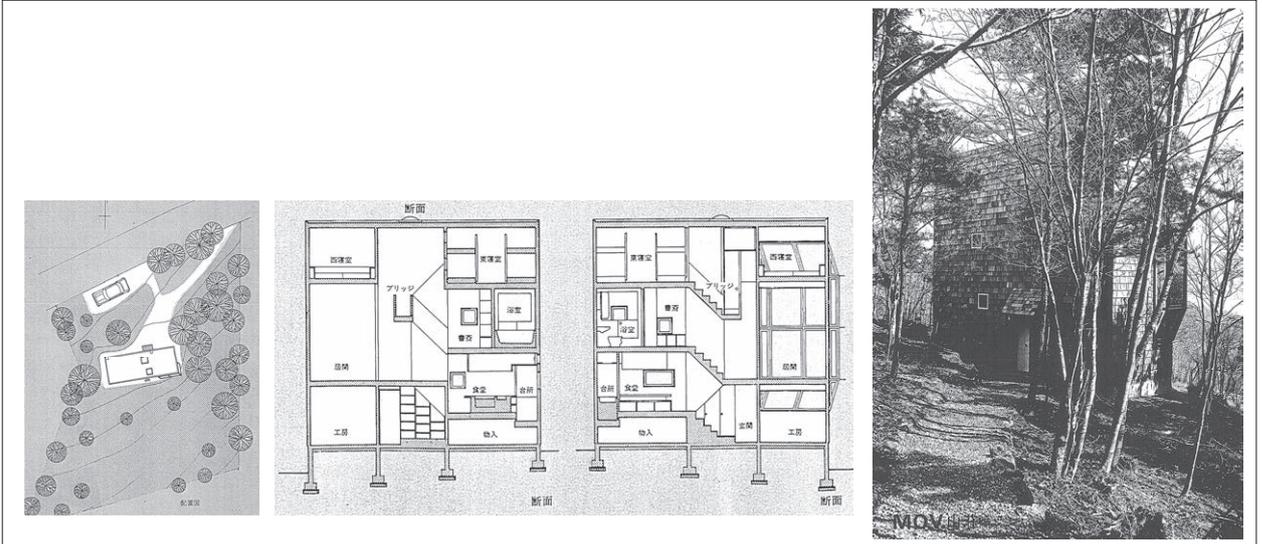
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
11	sk7101	未完の家	下	—	段差	フラット、接地	同一階、下に階無し	E=M	0	



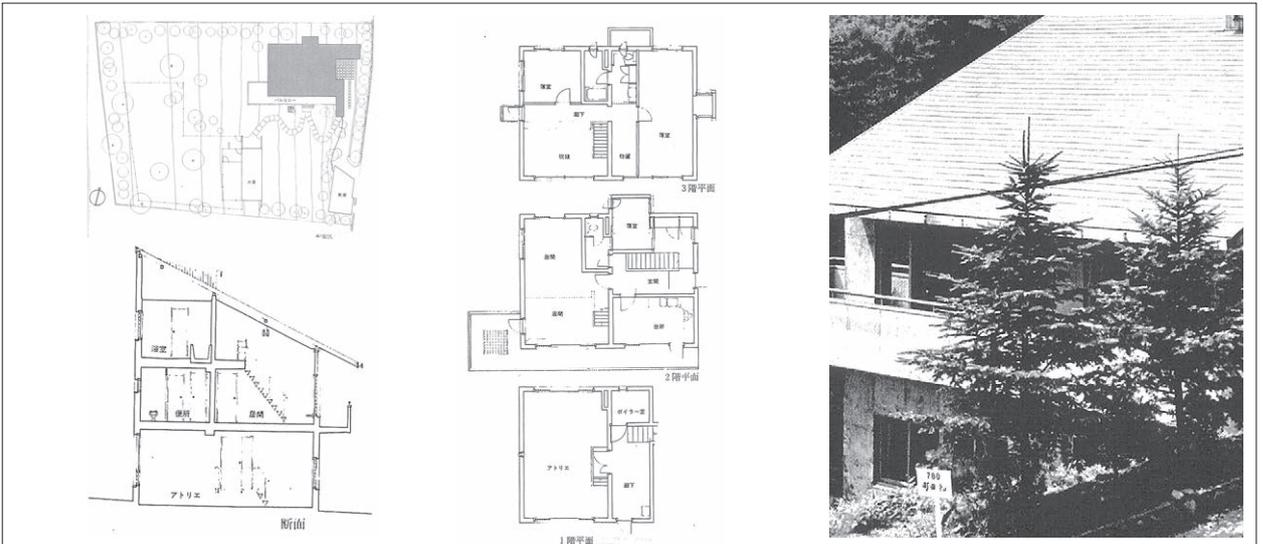
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
12	sk7108	山中湖の家	上	●	段差	段差、接地	同一階、下に階あり	E=M	▲ 1v	



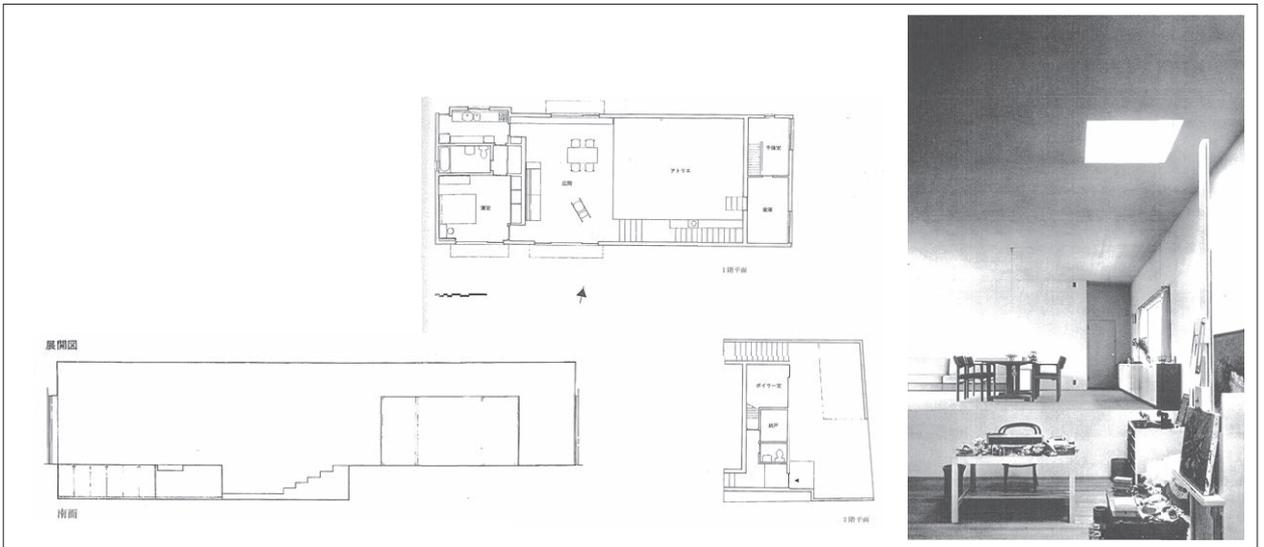
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
13	sk7110	ブルーボックスハウス	下	—	段差	フラット、接地	同一階、下に階無し	E/M	2 * 2N	



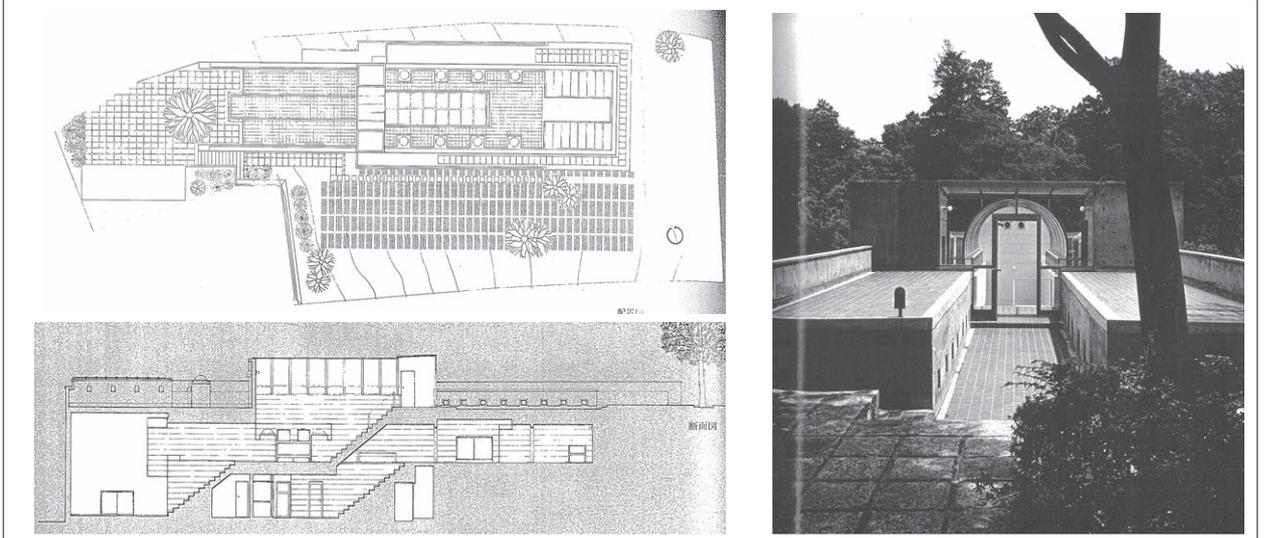
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
14	sk7205	MOV 山荘	上	—	斜面	フラット、分離	Eの上にM、下に階無し	E/M	0v	



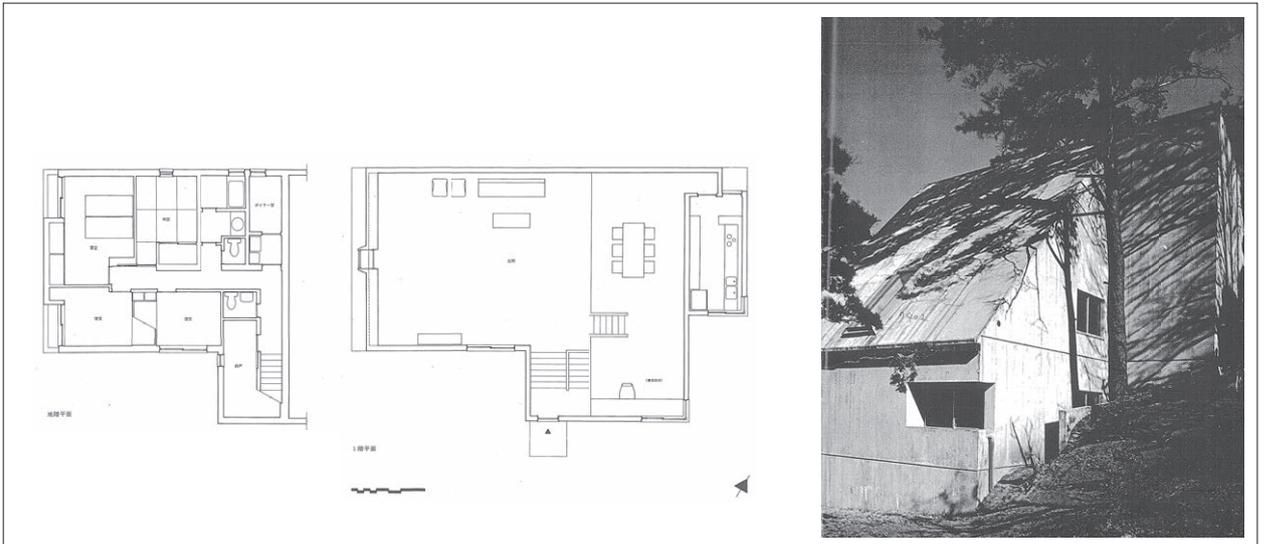
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
15	sk7205	画家の家	上	—	段差	段差、接地	同一階、下に階あり	E/M	▲ 1v	II



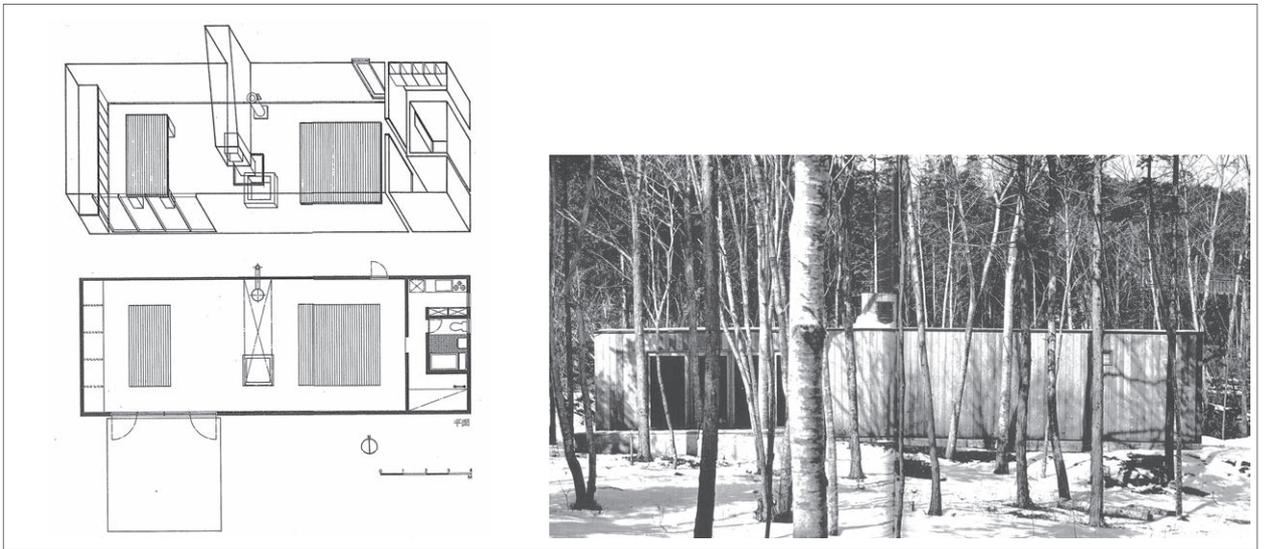
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
16	sk7207	海の階段	下	—	段差	段差、接地	Eの上にM、下に階無し	E/M	1	III



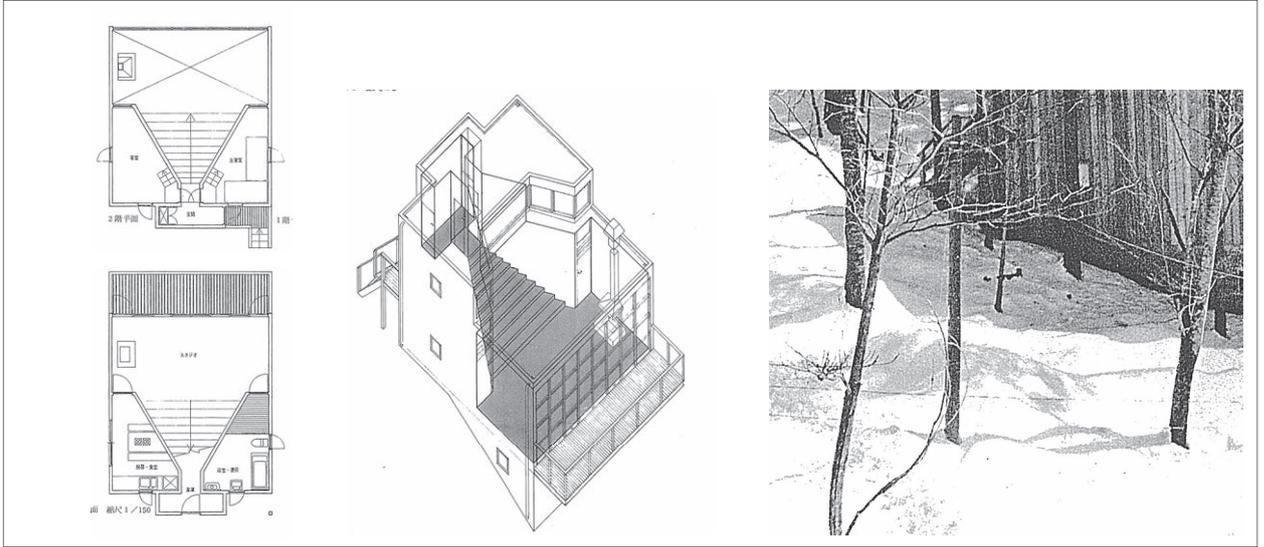
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
17	sk7209	栗津邸	上	—	段差	段差、接地	Eの下にM、下に階無し	E/M	2v	I



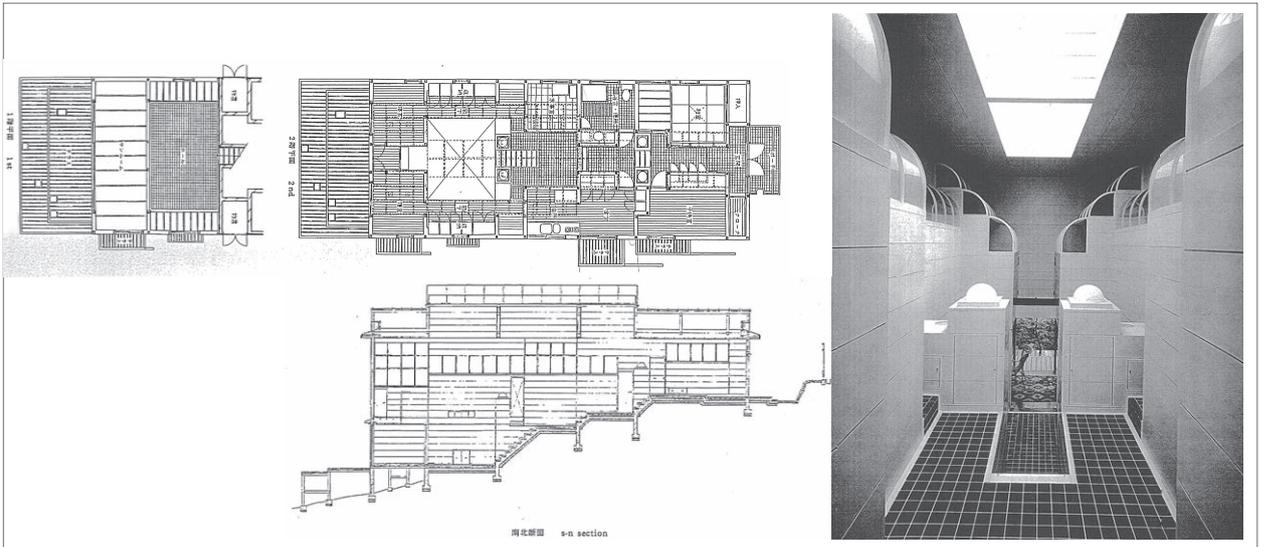
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
18	sk7402	成城の住宅	直交	—	段差	フラット、接地	同一階、下に階あり	E=M	1	IV



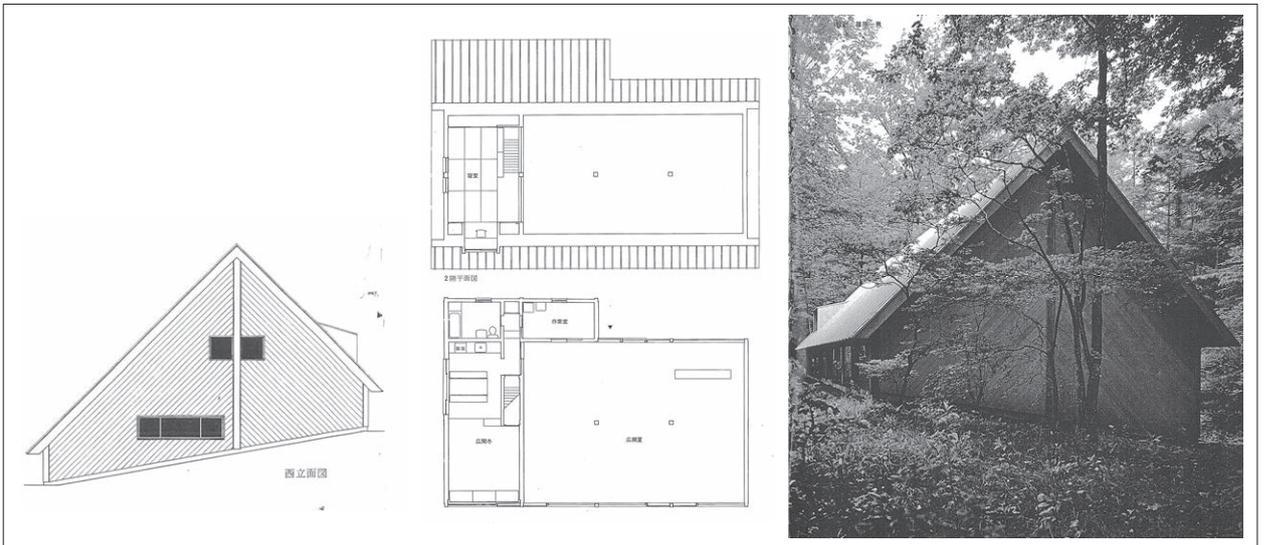
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ヴォリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ヴォリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
19	sk7504	山中湖のアトリエ	上	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E/M	▲0v	II-d



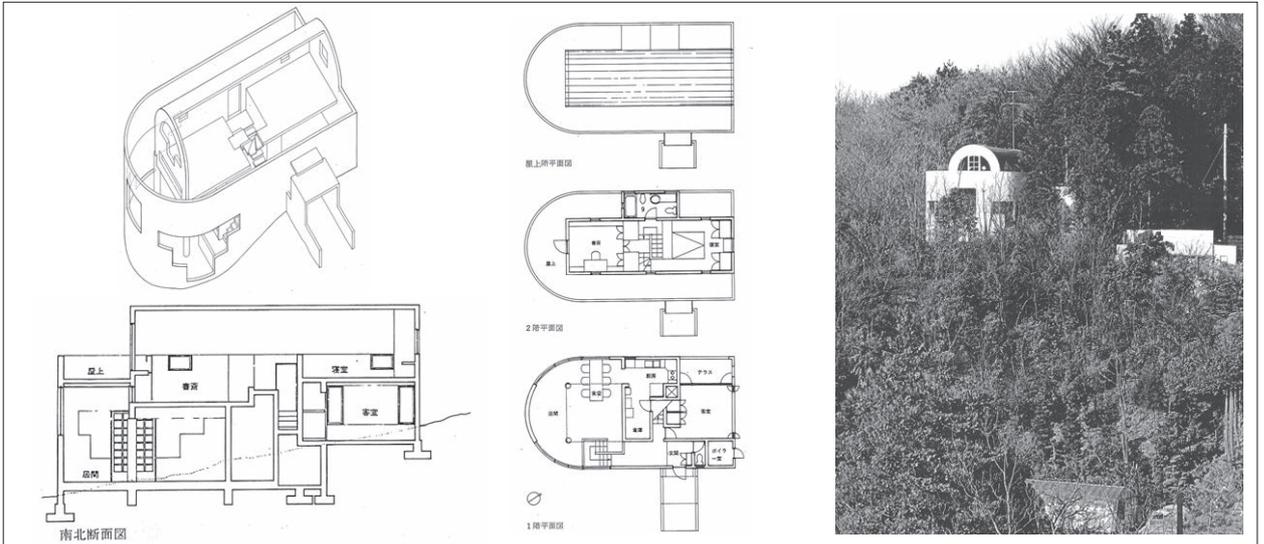
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ヴォリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ヴォリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
20	sk7508	山荘“T”	上	●	段差	フラット、接地	Eの下にM、下に階あり	E=M	▲1v	I-b



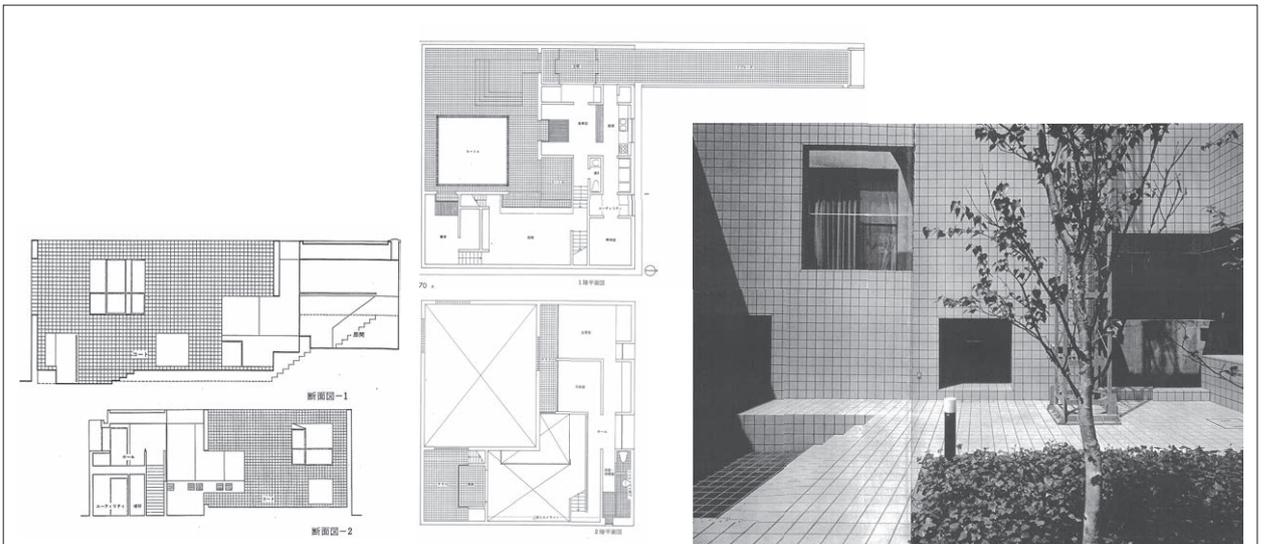
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ヴォリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ヴォリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
21	sk7509	原邸	上	—	段差	段差、接地	Eの下にM、下に階無し	E=M	▲1v	I-a



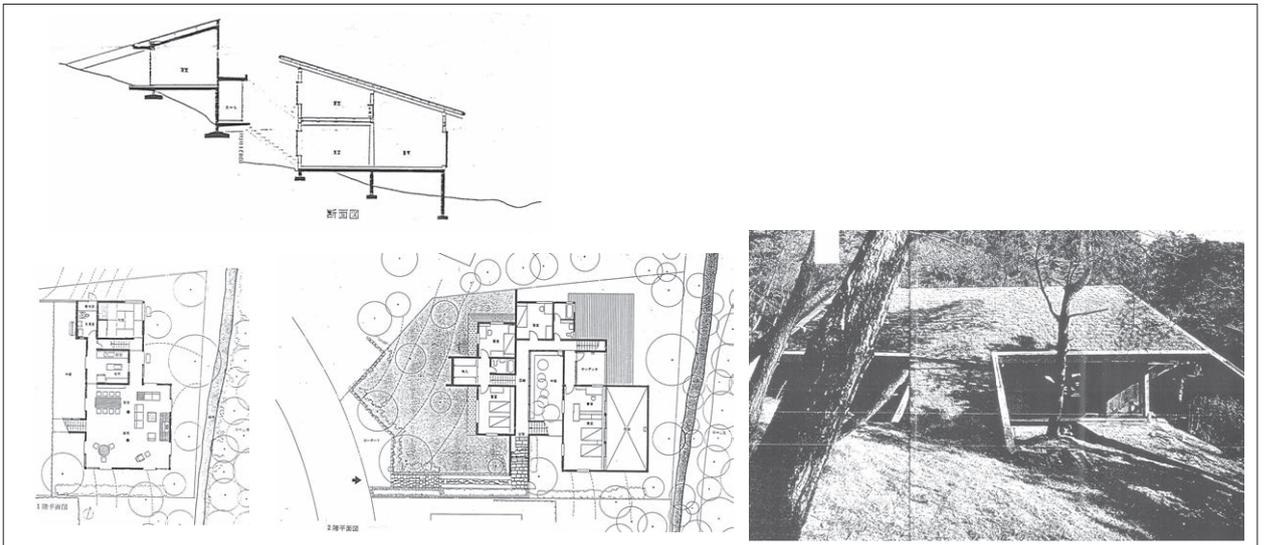
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築がオ-リュ-ムの接地性		エ-ト-ランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	グ-オ-リュ-ムと地形の関係	上下関係	連続関係		
22	sk7510	谷川さんの住宅	上	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E=M	▲Ov	II-d



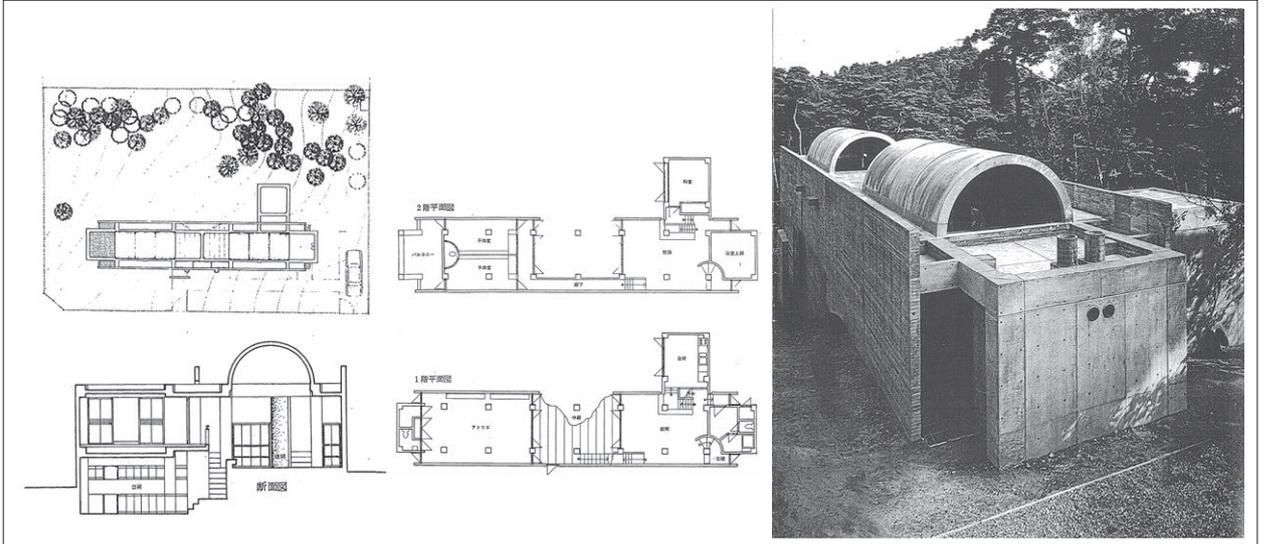
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築がオ-リュ-ムの接地性		エ-ト-ランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	グ-オ-リュ-ムと地形の関係	上下関係	連続関係		
23	sk7604	Y邸	直交	—	段差	段差、接地	同一階、下に階無し	E=M	1v	IV



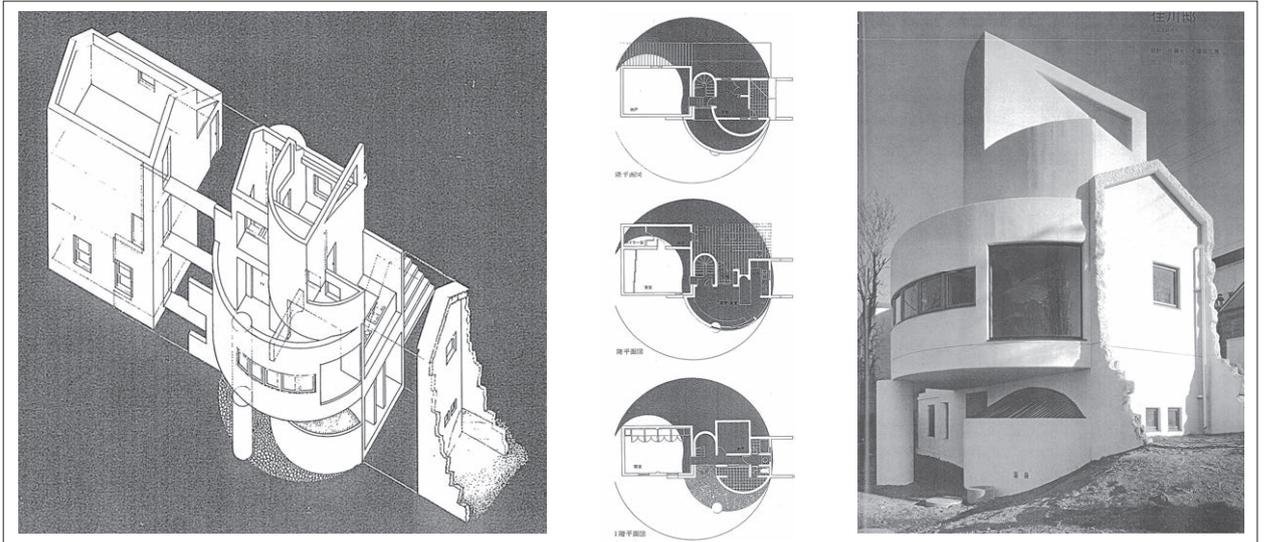
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築がオ-リュ-ムの接地性		エ-ト-ランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	グ-オ-リュ-ムと地形の関係	上下関係	連続関係		
24	sk7606	雪が谷の住宅	下	—	段差	段差、接地	Eの上にM、下に階無し	E/M	Oc	III



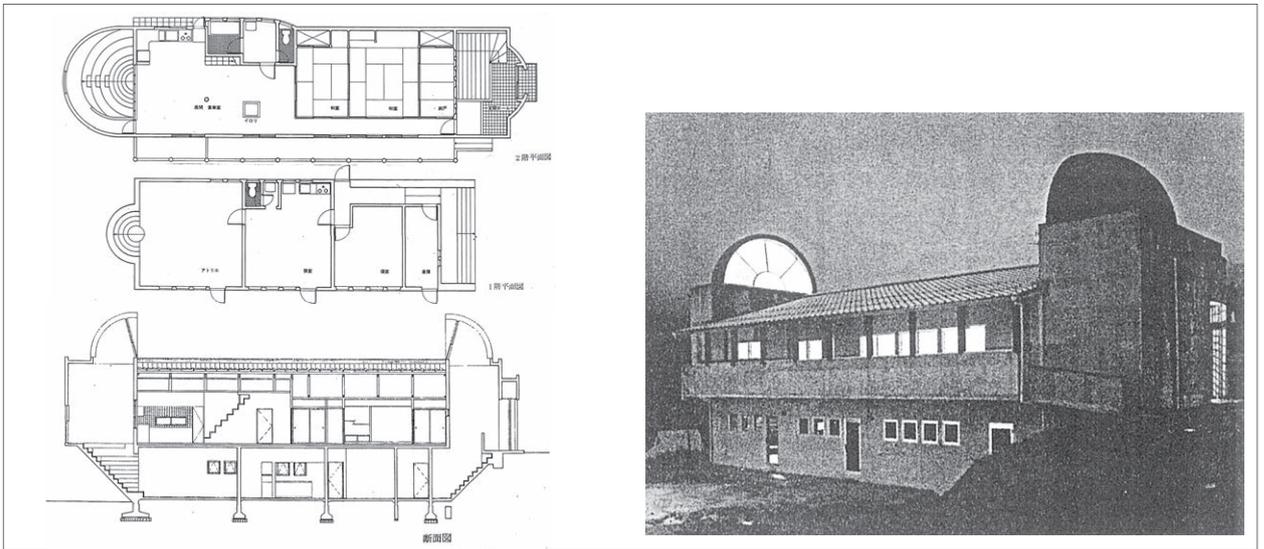
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
25	sk7702	回帰草庵	直交	—	段差	段差、接地	Eの下にM、下に階無し	E/M	1	



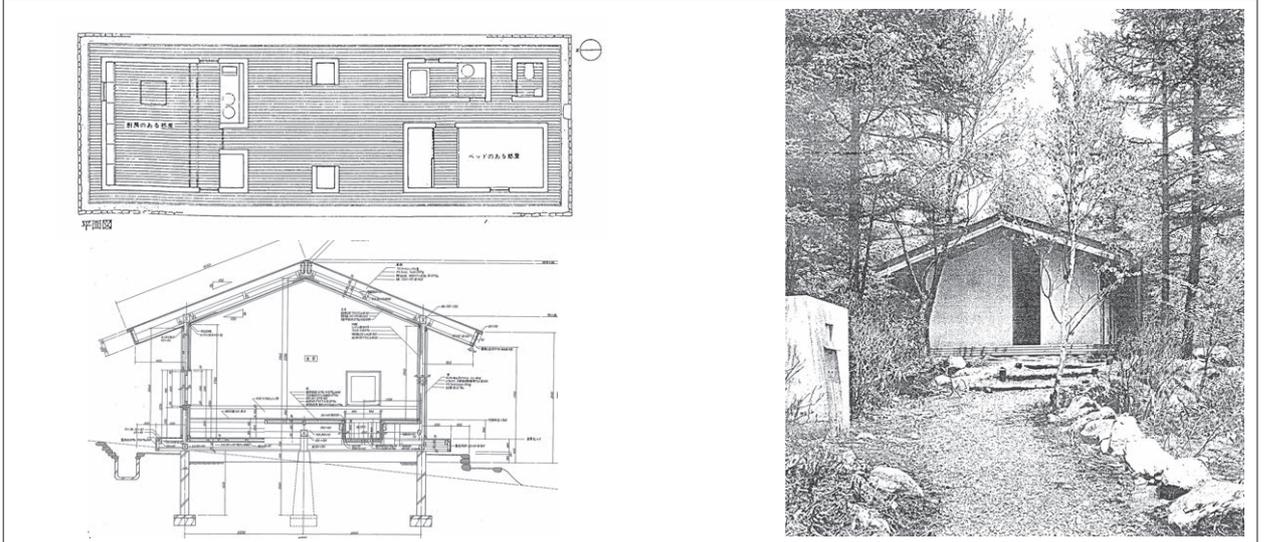
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
26	sk7802	領壁の家	下	—	段差	フラット、接地	同一階、下に階無し	U	1v	ハ



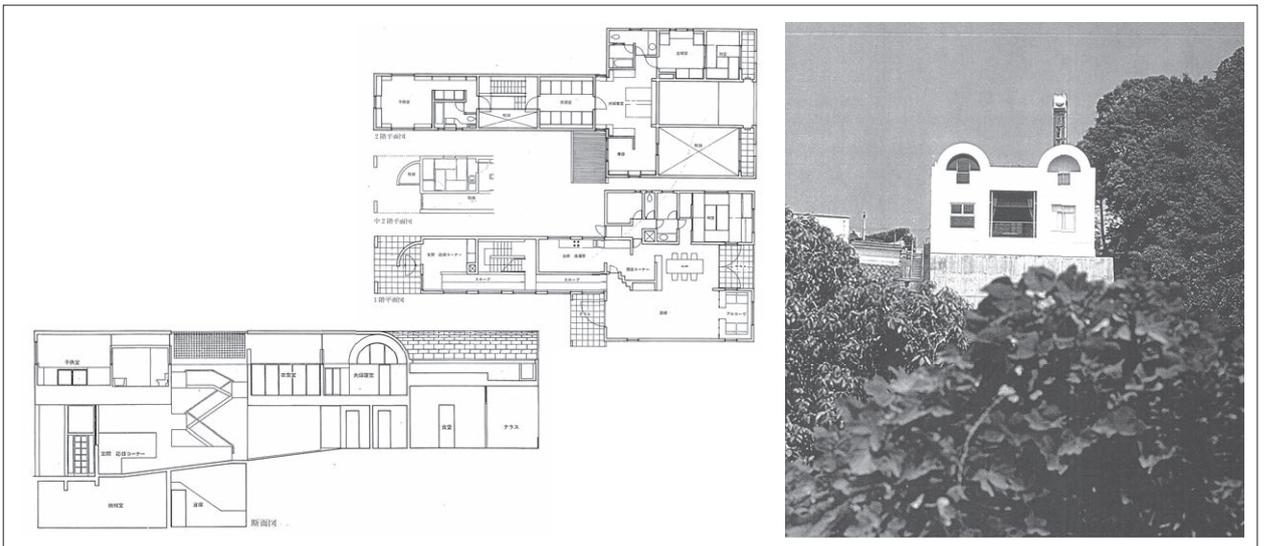
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
27	sk7803	住川邸	下	—	フラット+斜面	フラット、接地	Eの上にM、下に階無し	E/M	0	III



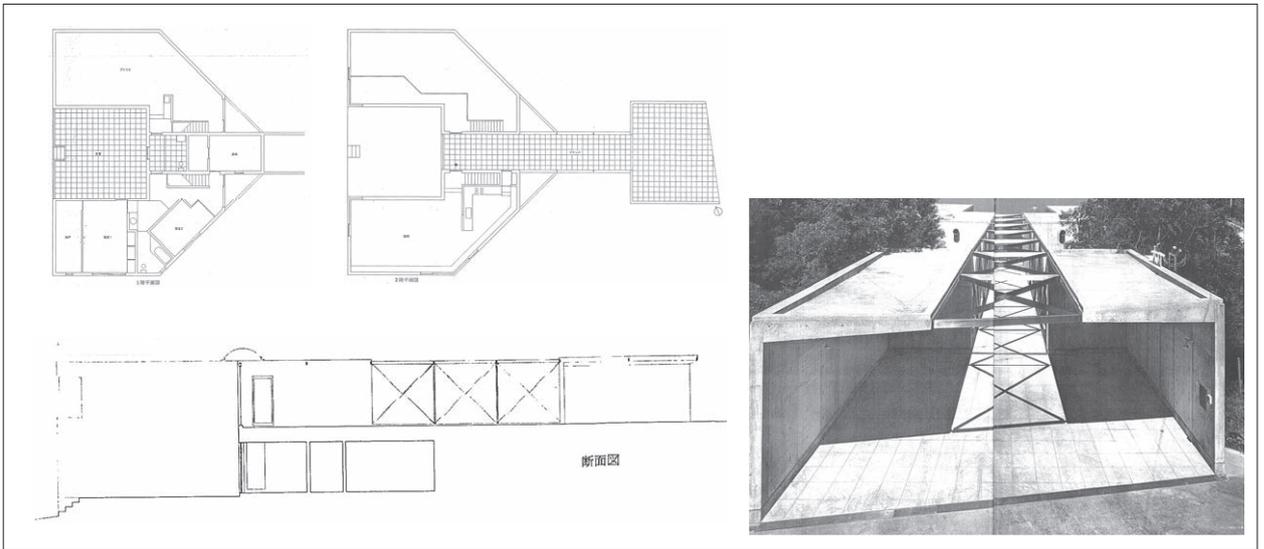
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
28	sk7808	伊東邸	上	—	段差	フラット、接地	同一階、下に階あり	E/M	1Nv	II



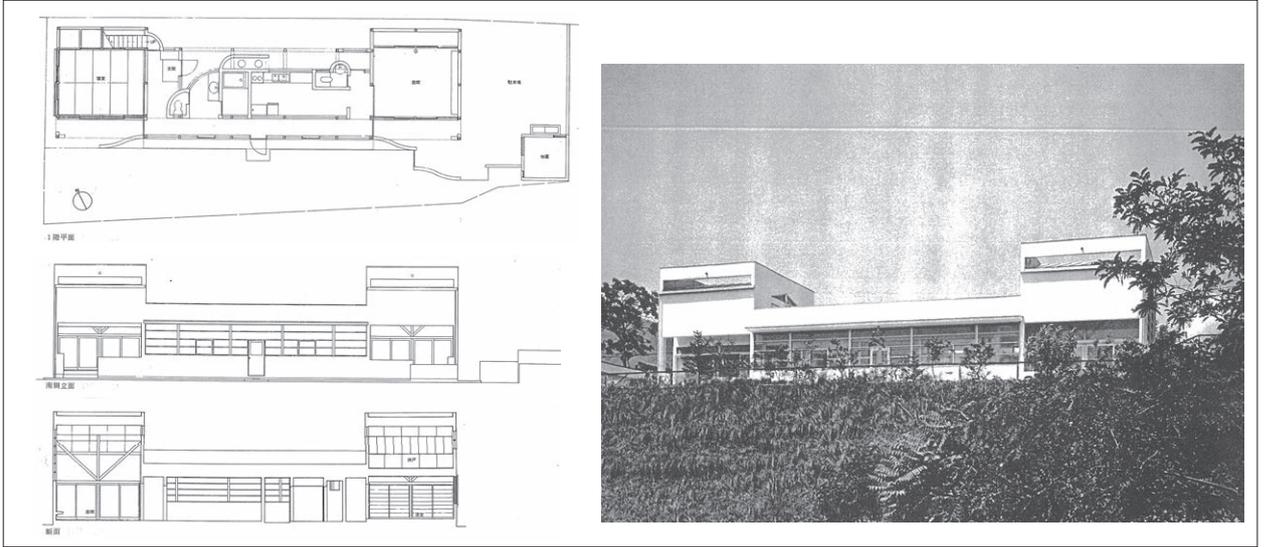
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
29	sk7808	山川山荘	下	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	U	0v	



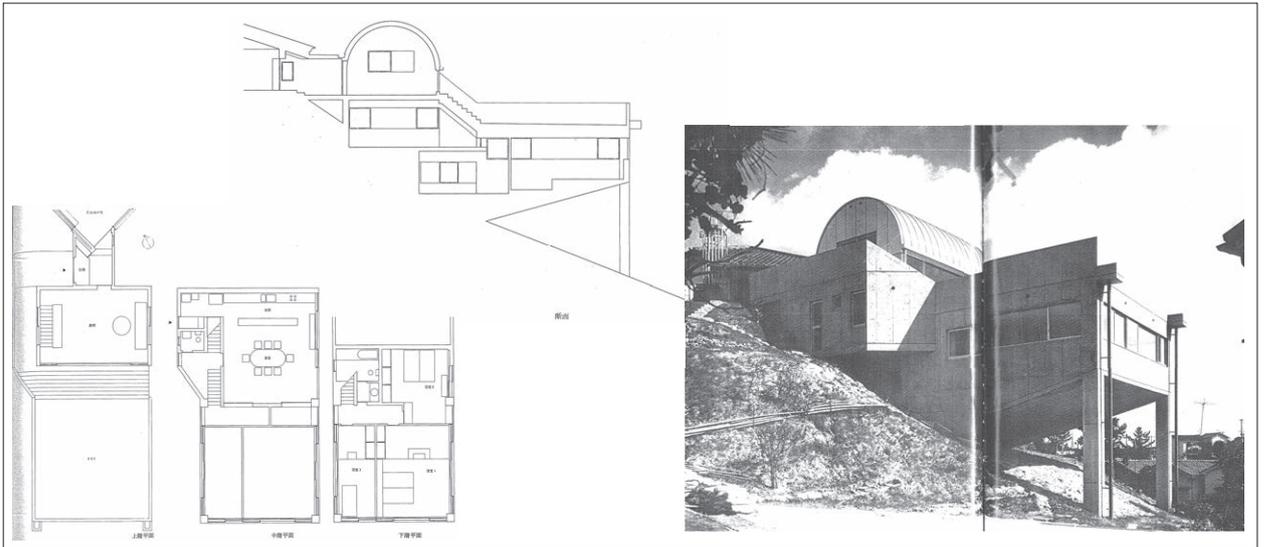
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
30	sk7809	H邸	上	—	段差	段差、接地	同一階、下に階あり	E/M	1	II



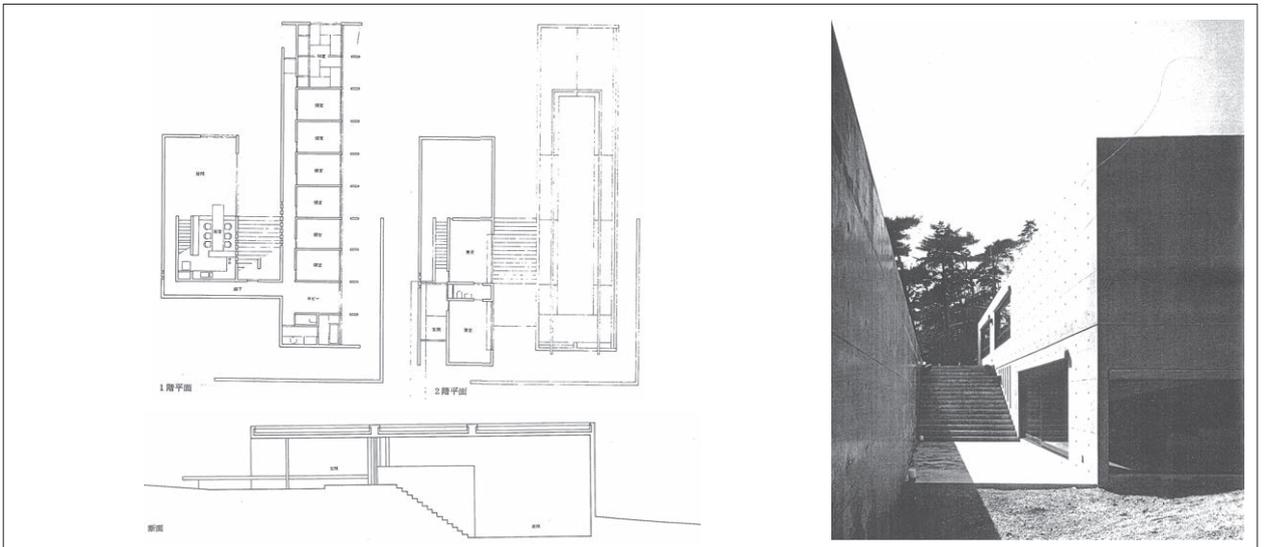
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
31	sk7810	糸島の住宅	上	●	段差	フラット、接地	Eの下にM、下に階無し	E/M	▲ 1v	I



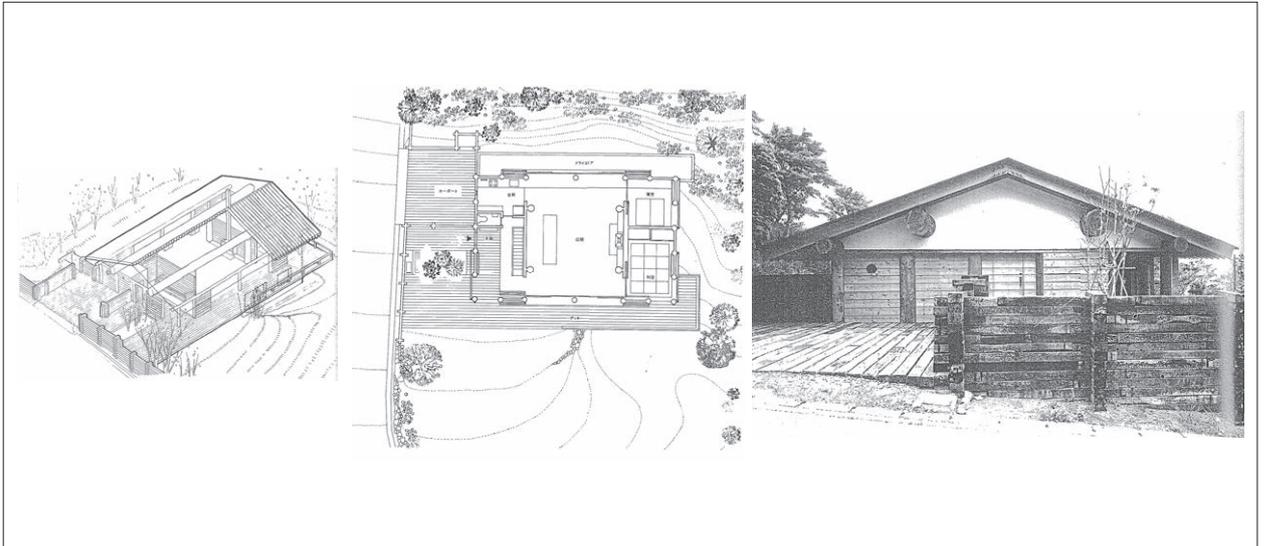
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
32	sk7910	上田の住宅	上	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E/M	▲ 0 * 1	II



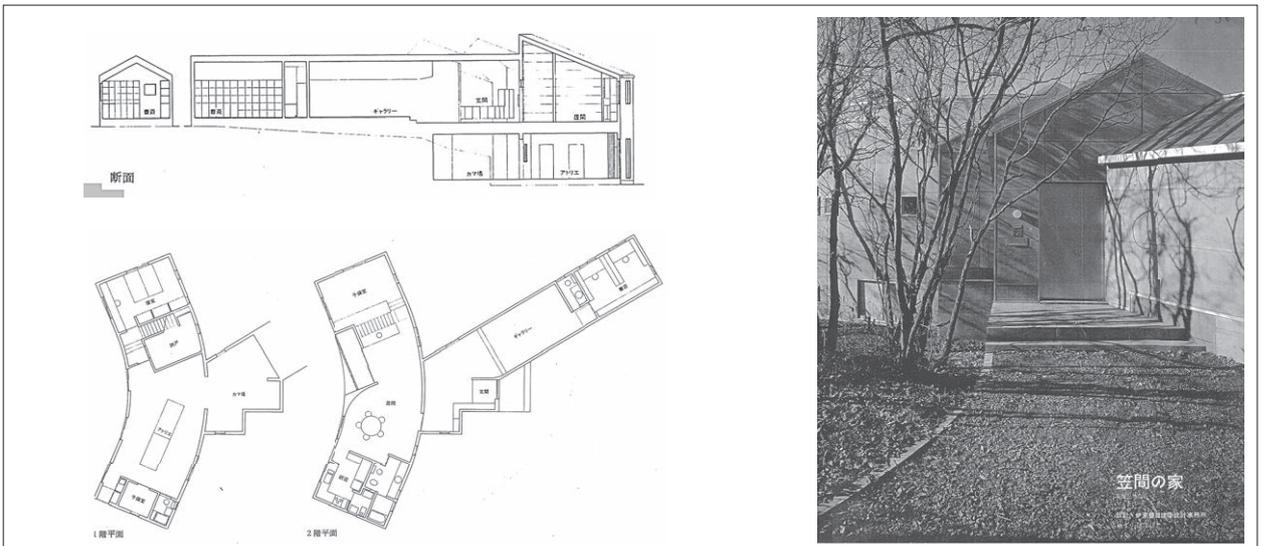
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
33	sk8101	花山第4の住宅	上	●	段差	段差、接地	同一階、下に階あり	E/M	▲ 2v	II



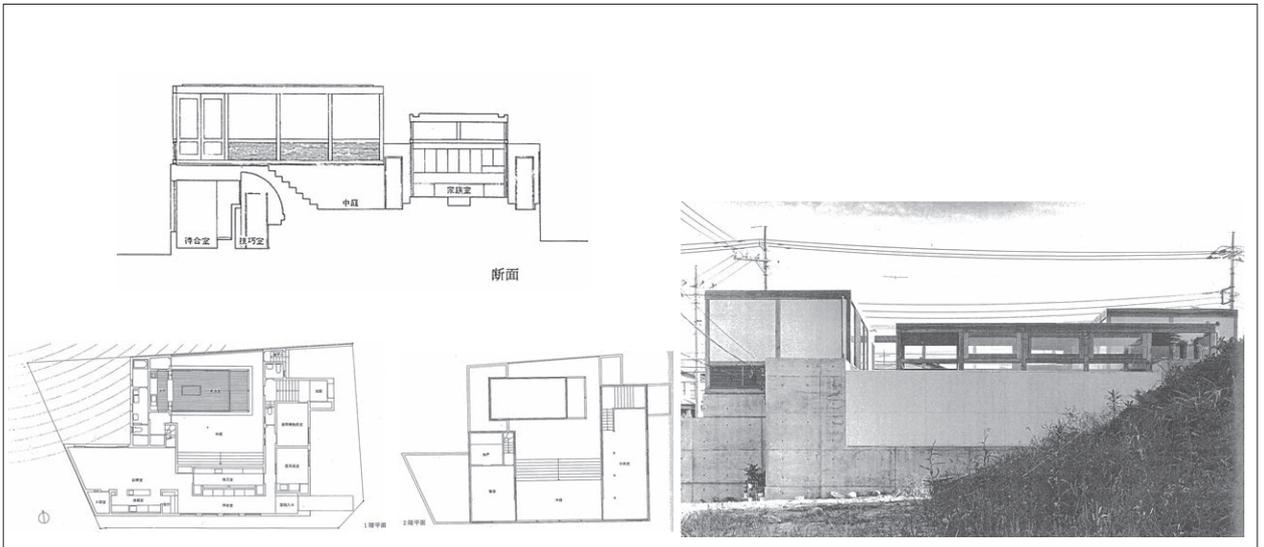
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
34	sk8106	小篠邸	上	—	段差	フラット、接地	Eの下にM、下に階無し	E=M	▲1	I-a



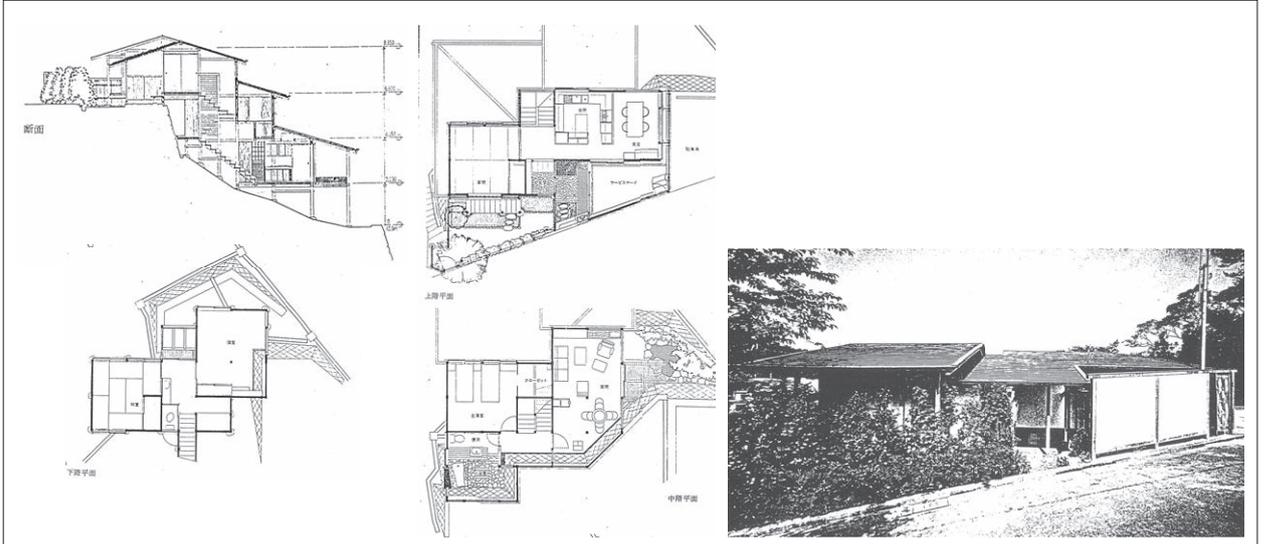
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
35	sk8108	湯の花の家	上	—	段差	段差、接地	同一階、下に階あり	E=M	▲1	II



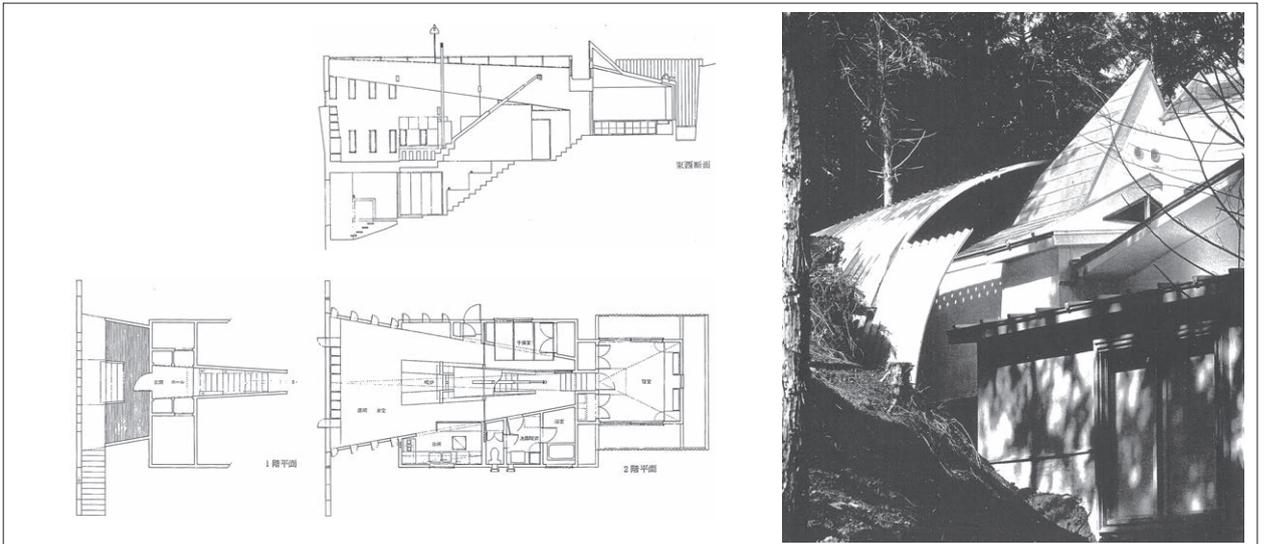
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
36	sk8204	笠間の家	直交	—	断面	フラット、接地	同一階、下に階あり	E/M	1	IV



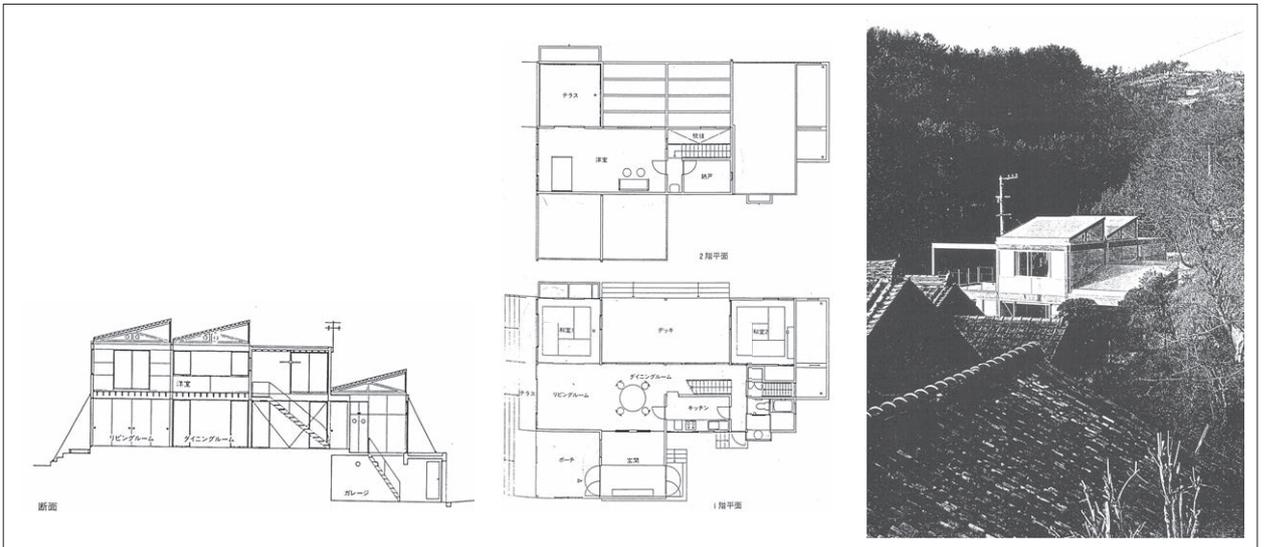
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
37	sk8211	藤井邸	下	—	段差	段差、接地	Eの上にM、下に階無し	E/M	0c	III



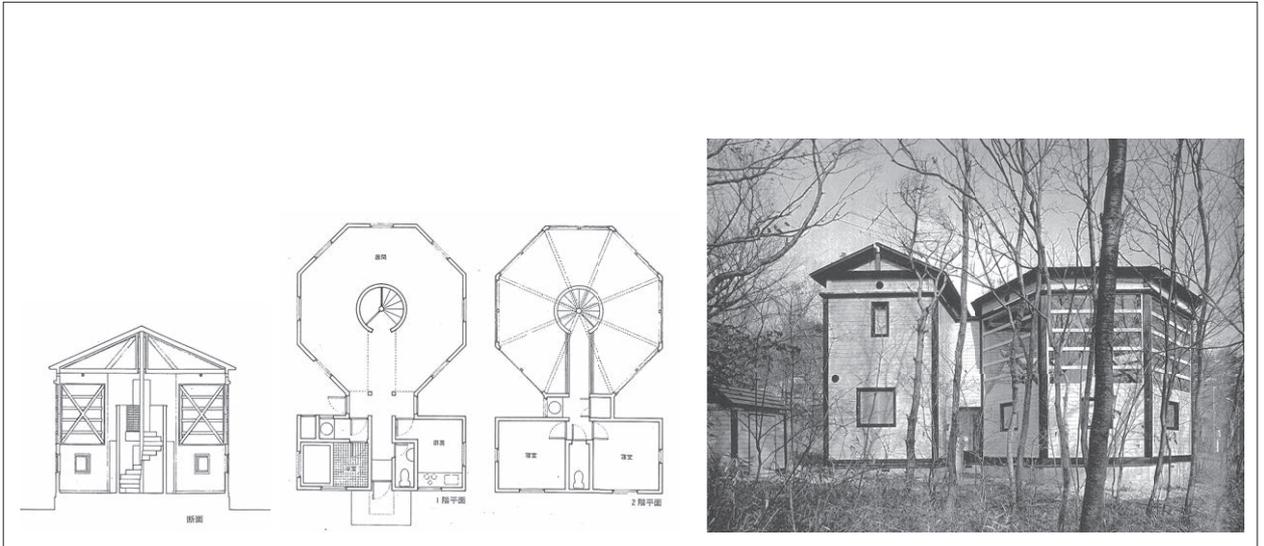
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
38	sk8310	肆木の家	上	—	段差	段差、接地	Eの下にM、下に階あり	E/M	2N	I



資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
39	sk8312	ランドシップ- I (イリス)	下	■	段差	段差、接地	Eの上にM、下に階無し	E/M	1	III



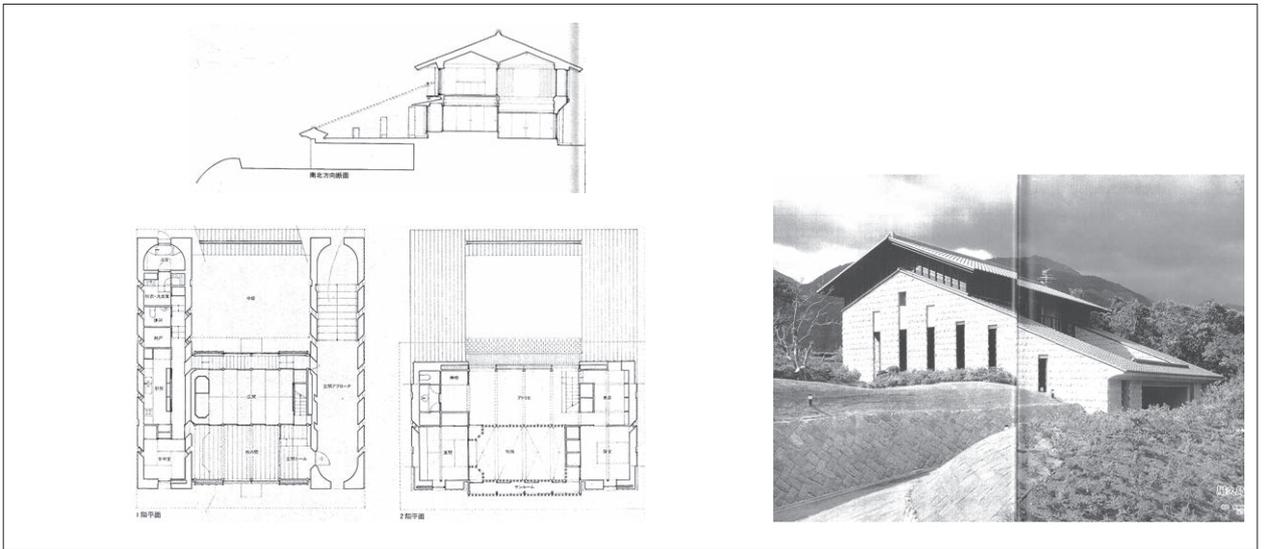
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°の向き		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
40	jt85 春	浦崎の家	上	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E/M	▲ 1Nc	II



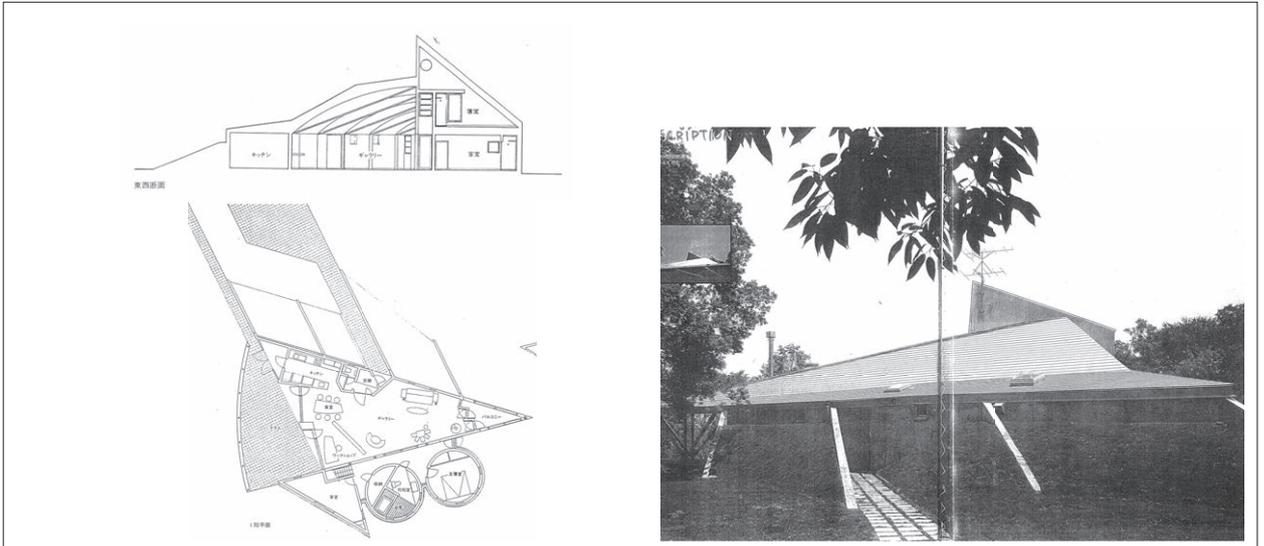
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°の向き		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
41	jt8605	ヴィラ森井	上	●	斜面	フラット、分離	同一階、下に階無し	E/M	0v	II



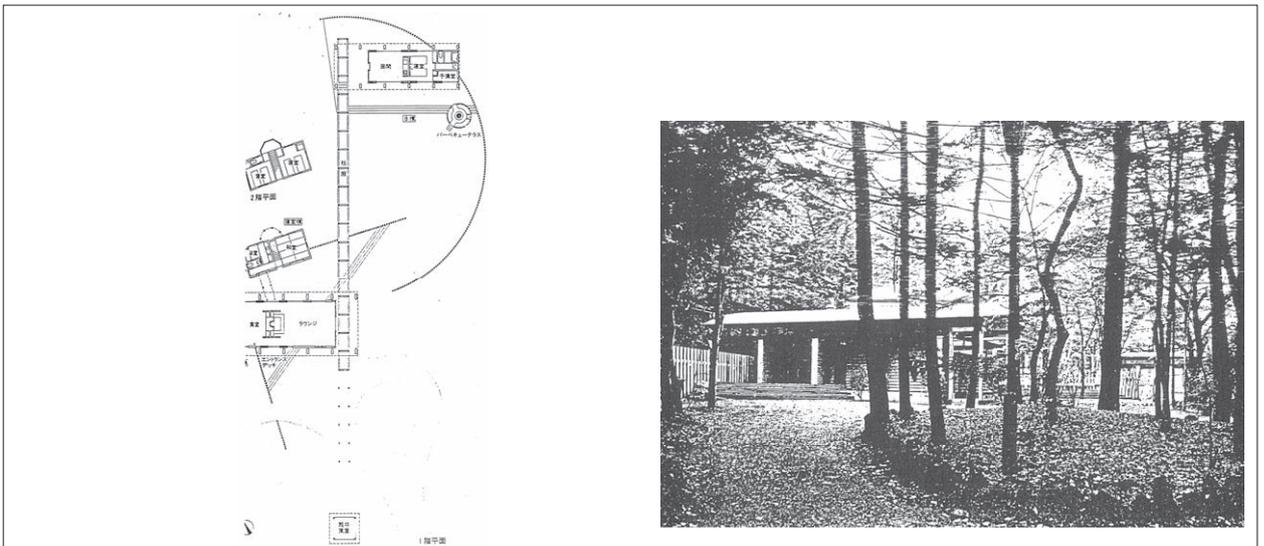
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°の向き		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
42	jt8605	ハウス イン ヨコハマ	直交	—	段差	段差、接地	Eの上にM、下に階無し	E/M	1v	



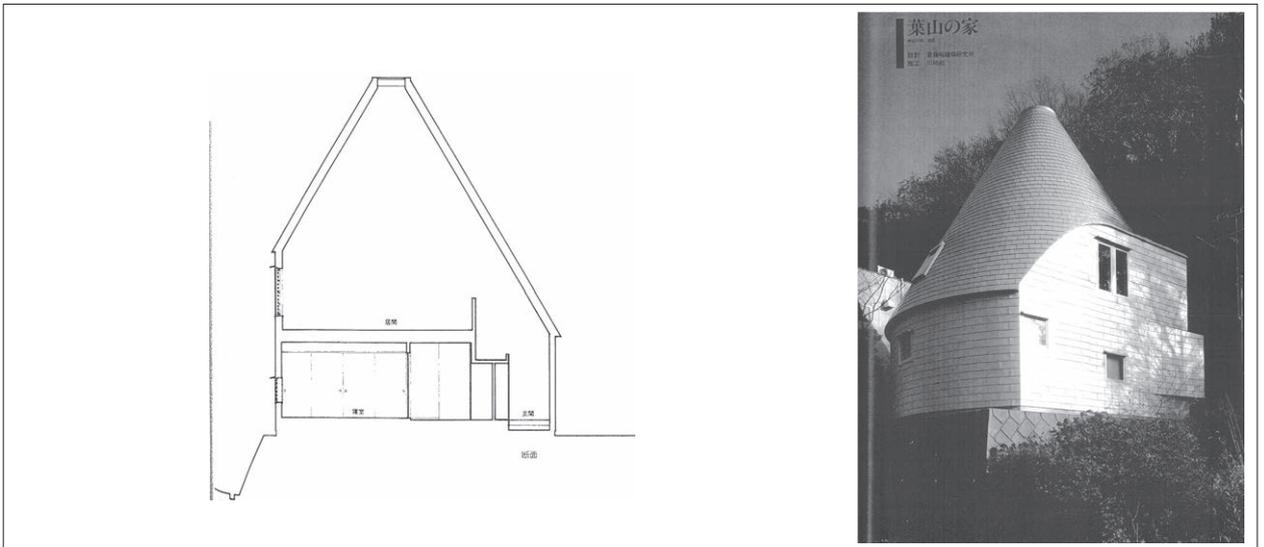
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
43	jt8612	屋久島の家	上	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E/M	▲ 1v	II



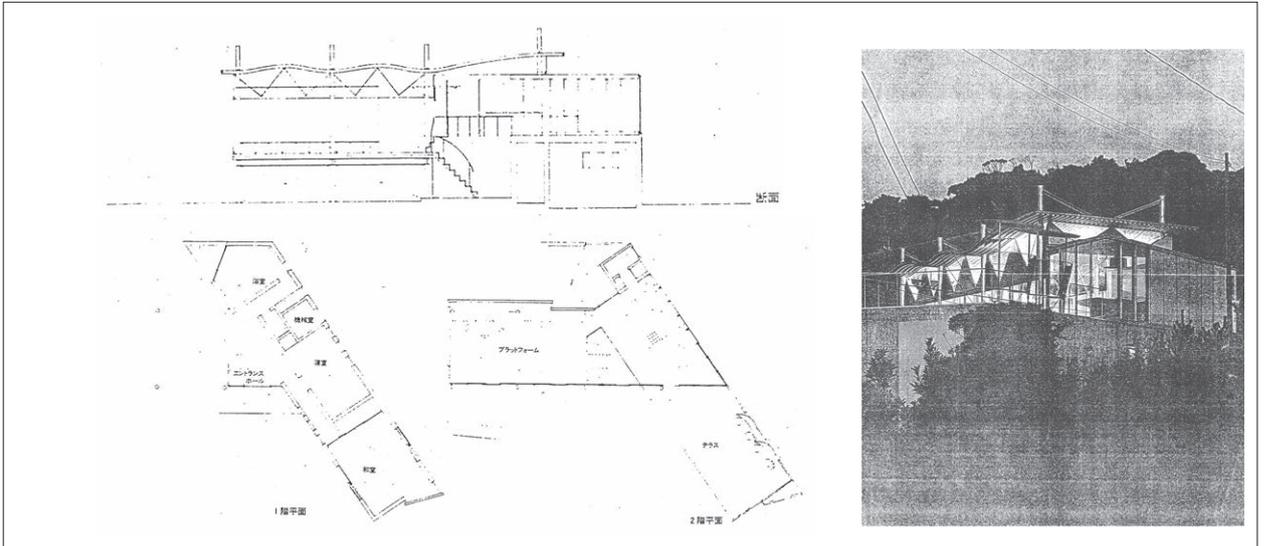
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
44	jt8710	INSCRIPTION	直交	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E/M	▲ 0Nv	IV



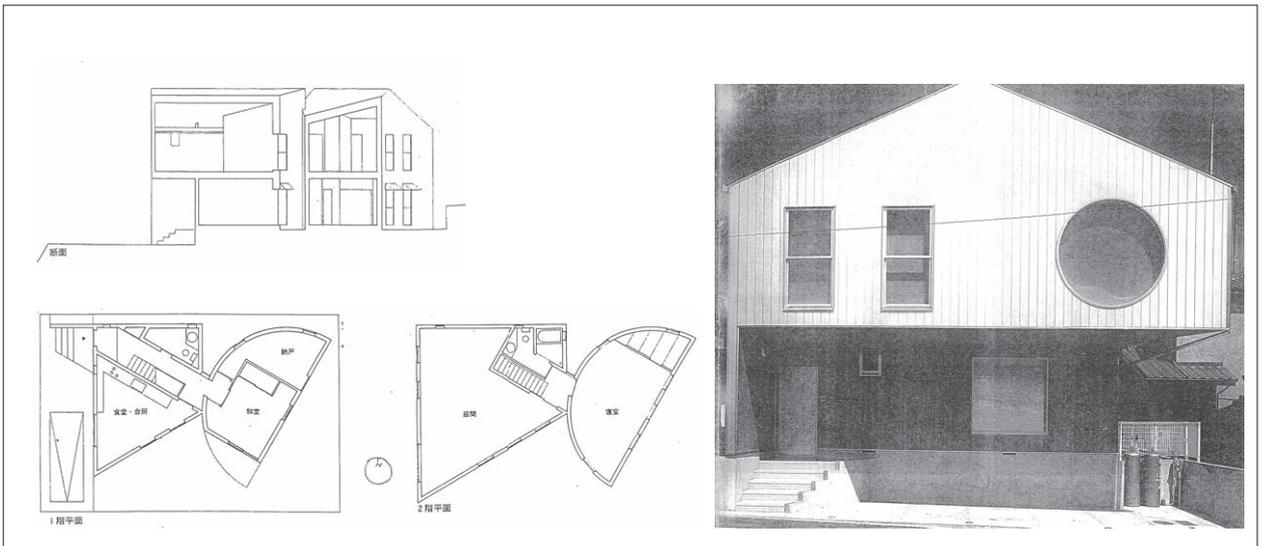
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
45	jt8801	軽井沢の別荘	上	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	U	0v	II



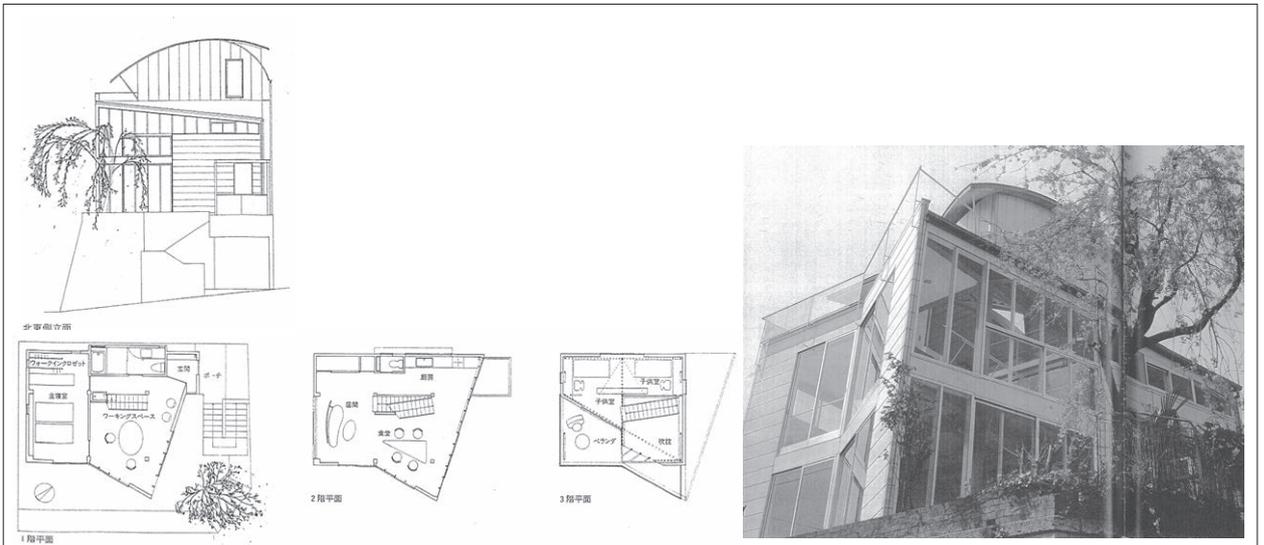
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
46	jt8806	葉山の家	上	—	フラット+斜面	フラット、接地	Eの上にM、下に階無し	E/M	ONc	



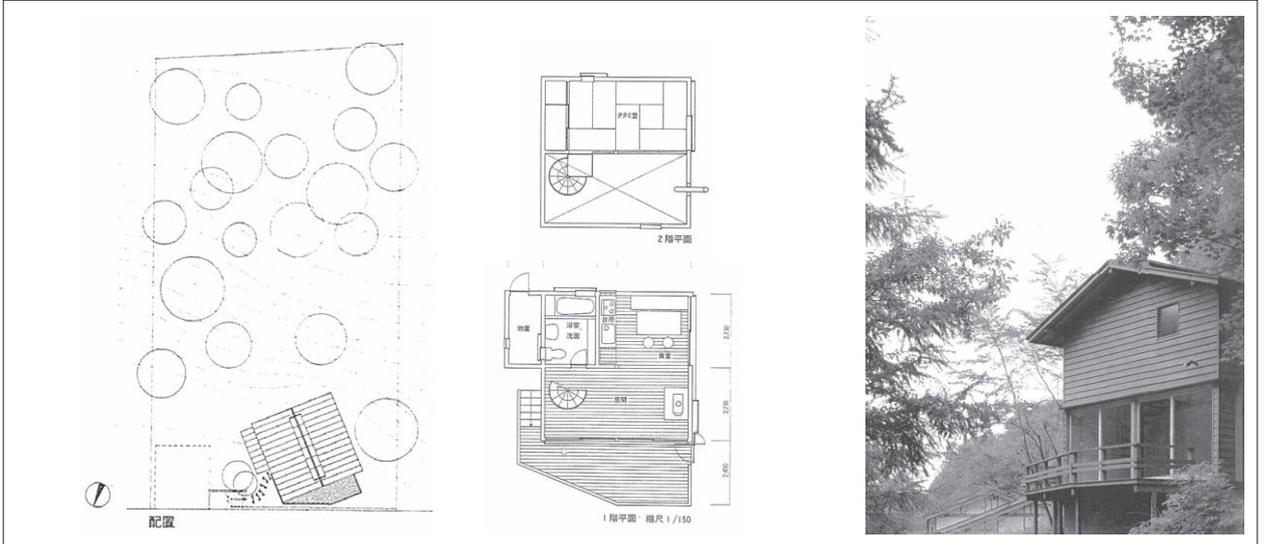
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
47	jt8810	PLATFORM	直交	—	段差	段差、接地	Eの上にM、下に階無し	E/M	ONv	



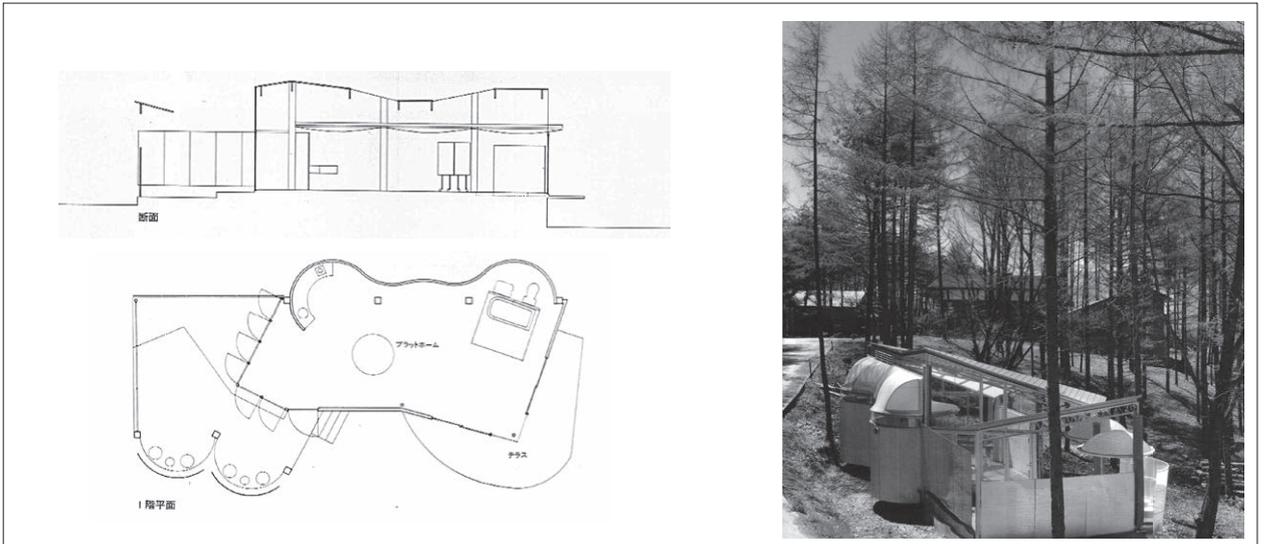
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
48	jt8810	テンメイ・ハウス	下	—	フラット+斜面	フラット、接地	Eの上にM、下に階無し	E/M	Oc	III



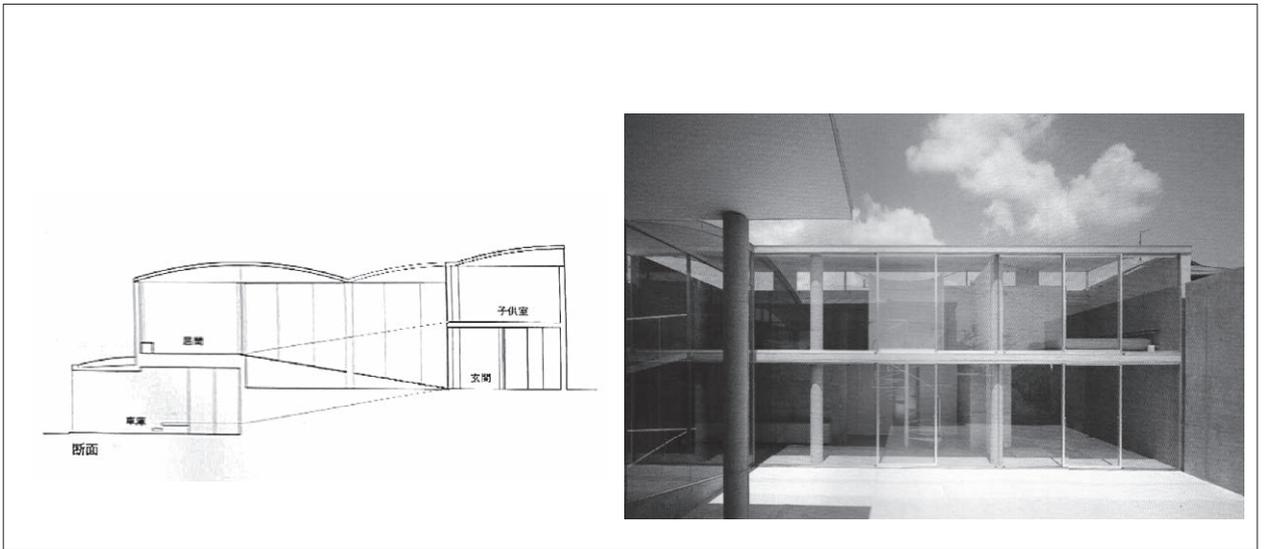
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-チの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-チの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
49	jt8908	Transit	上	—	フラット+斜面	フラット、接地	Eの上にM、下に階無し	E/M	0c	



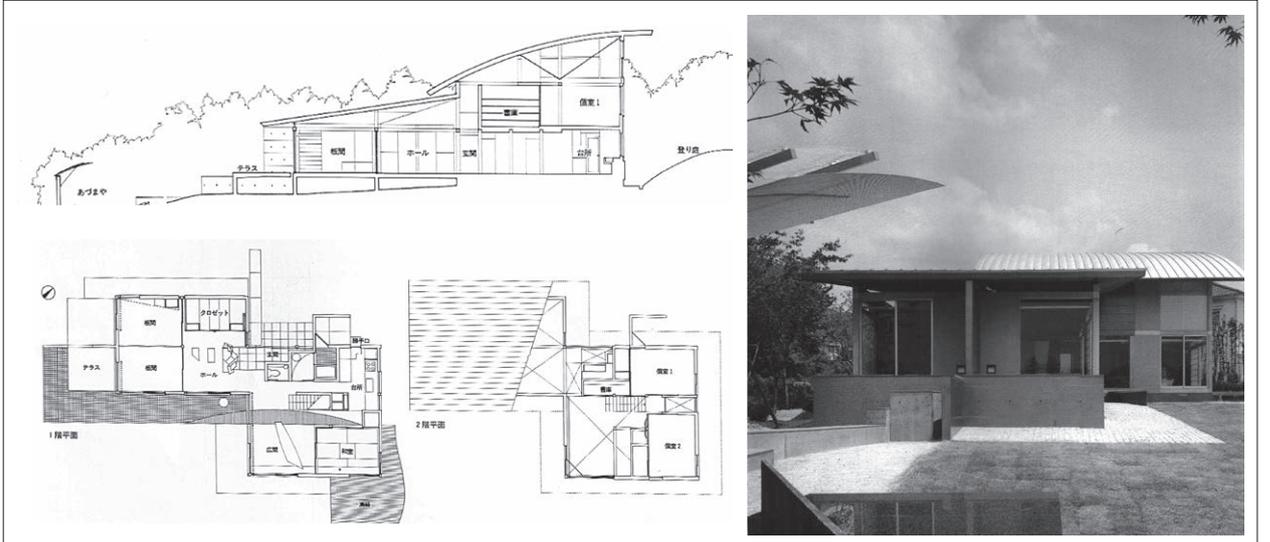
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-チの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-チの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
50	jt8909	芹ヶ沢の山荘	下	■	斜面	フラット、分離	同一階、下に階無し	E=M	▲ 1Nv	



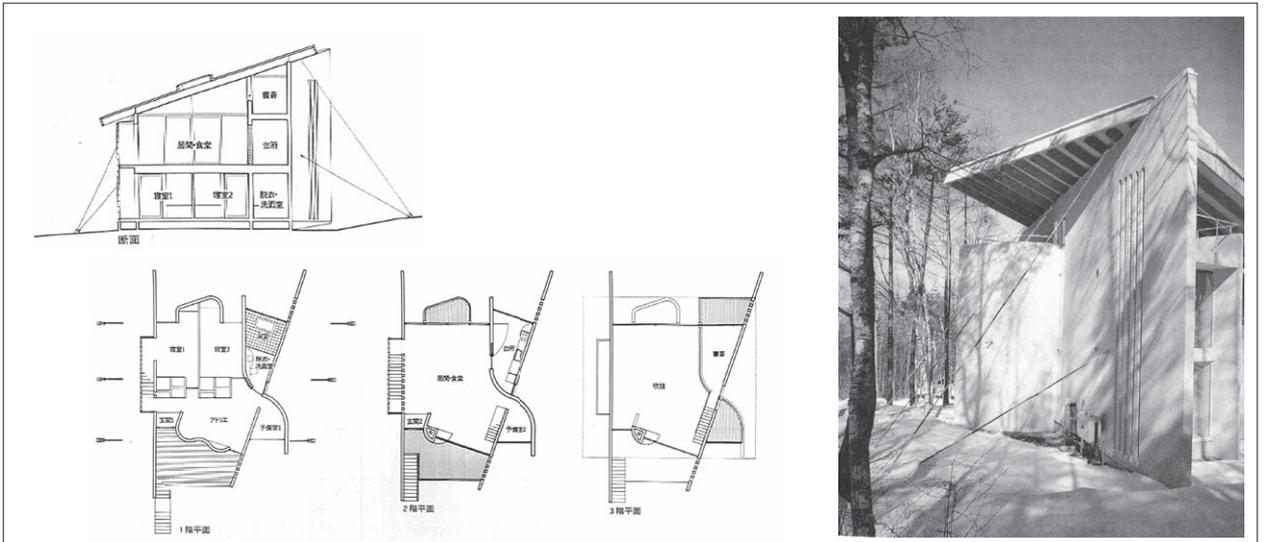
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-チの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-チの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
51	jt9007	PLATFORM II	直交	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E=M	▲ 0v	IV



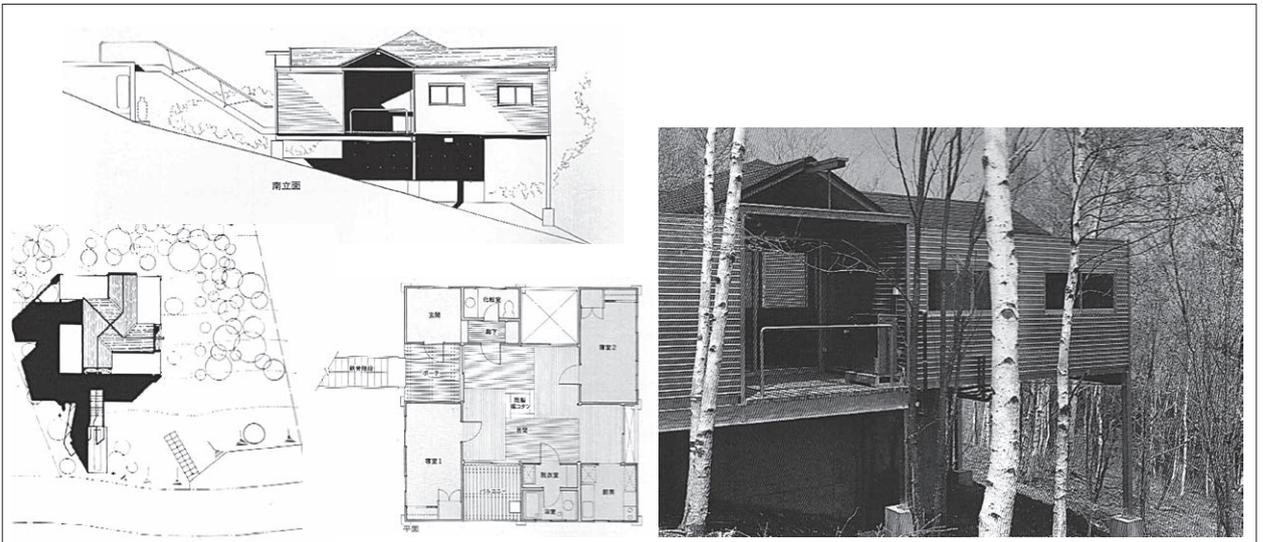
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築がオリュ-ムの接地性		エントラス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	オリュ-ムと地形の関係	上下関係	連続関係		
52	9008	阿品の家	上	—	段差	段差、接地	Eの上にM、下に階あり	E=M	1c	イ



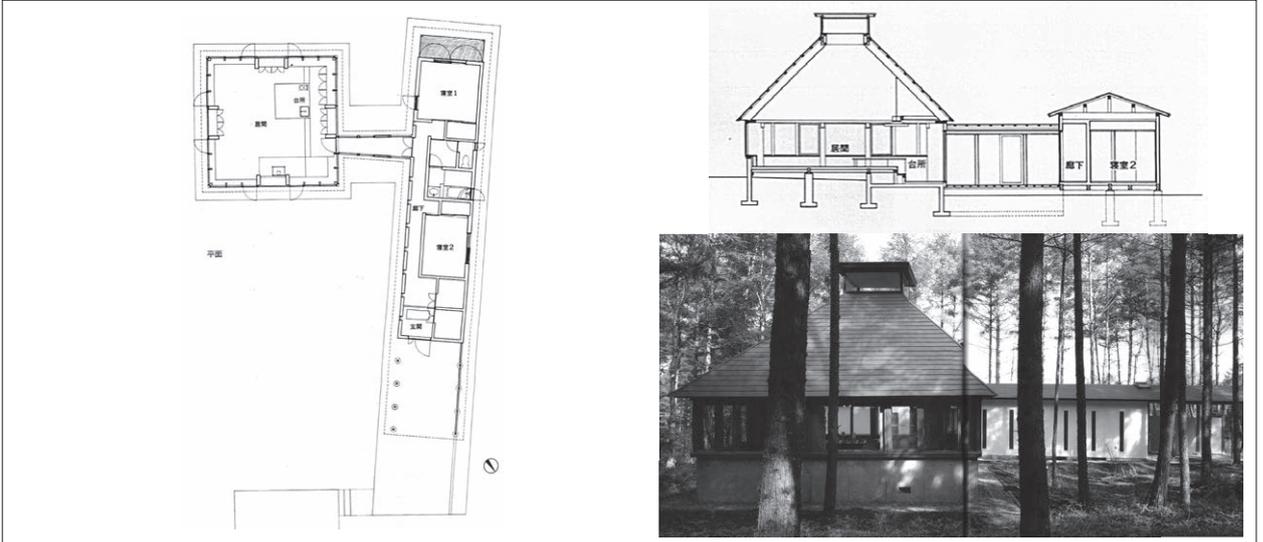
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築がオリュ-ムの接地性		エントラス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	オリュ-ムと地形の関係	上下関係	連続関係		
53	jt9008	狐ヶ島の家	直交	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E/M	0v	IV



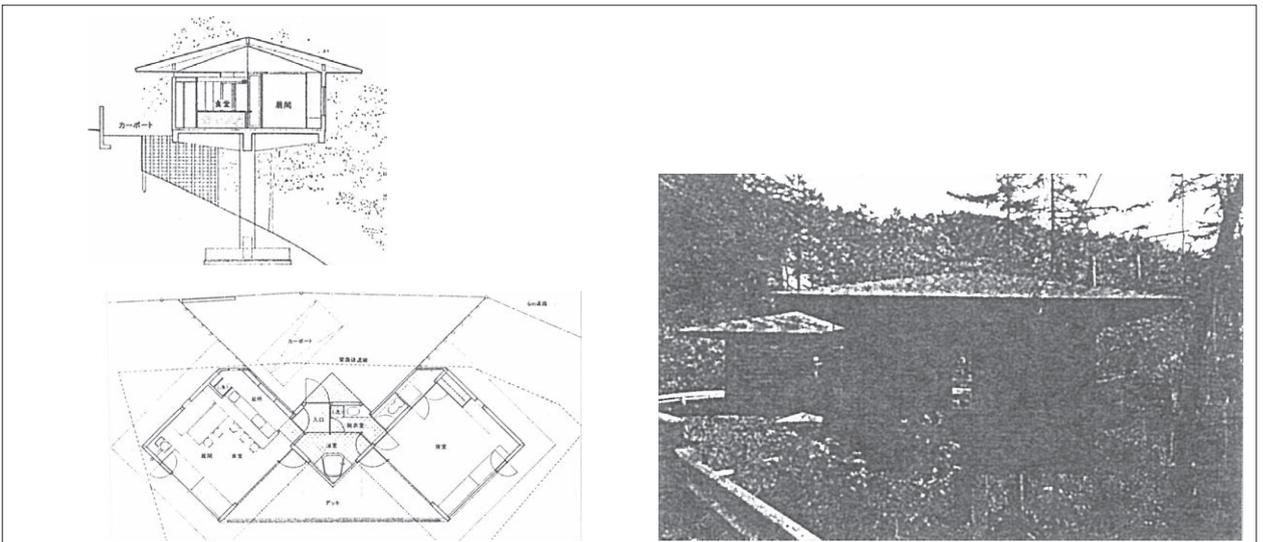
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築がオリュ-ムの接地性		エントラス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	オリュ-ムと地形の関係	上下関係	連続関係		
54	jt9104	VILLA TOR II	下	■	フラット+斜面	フラット、接地	Eの上にM、下に階無し	E/M	▲ 0v	III



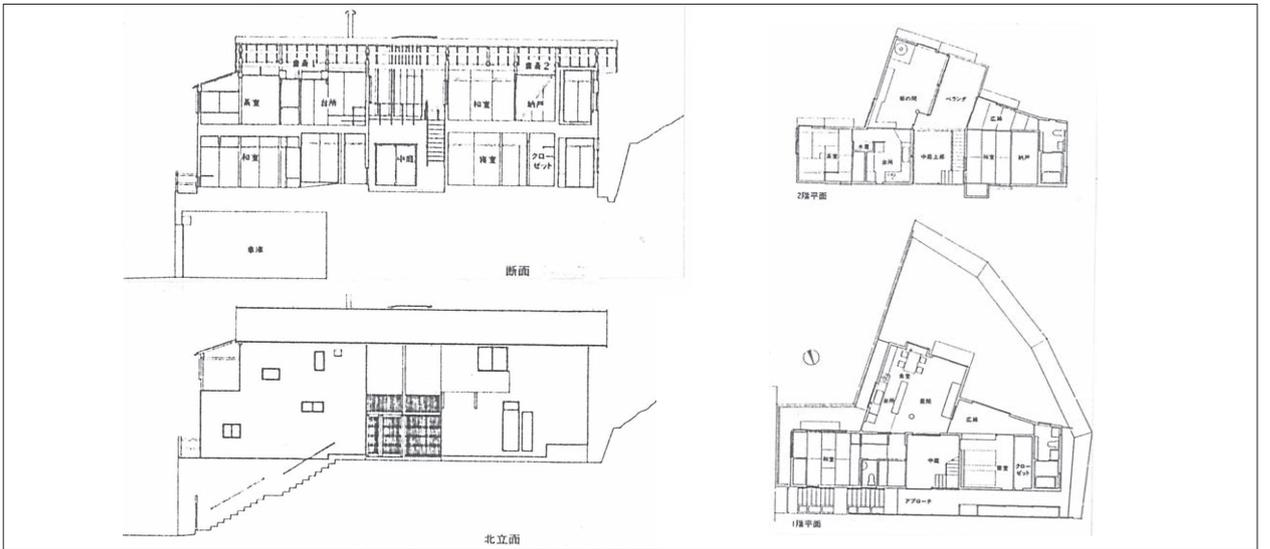
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
55	jt9108	美ヶ原高原の家	上	●	斜面	フラット、分離	同一階、下に階無し	E/M	2v	II -c



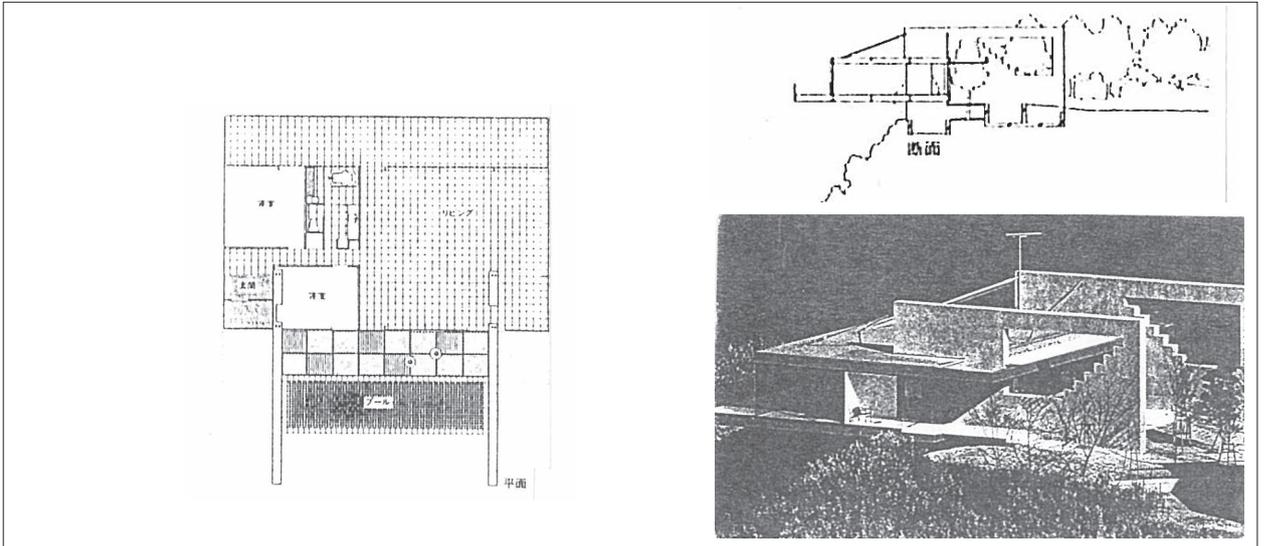
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
56	jt9110	唐松林の家	下	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E/M	0Nv	口



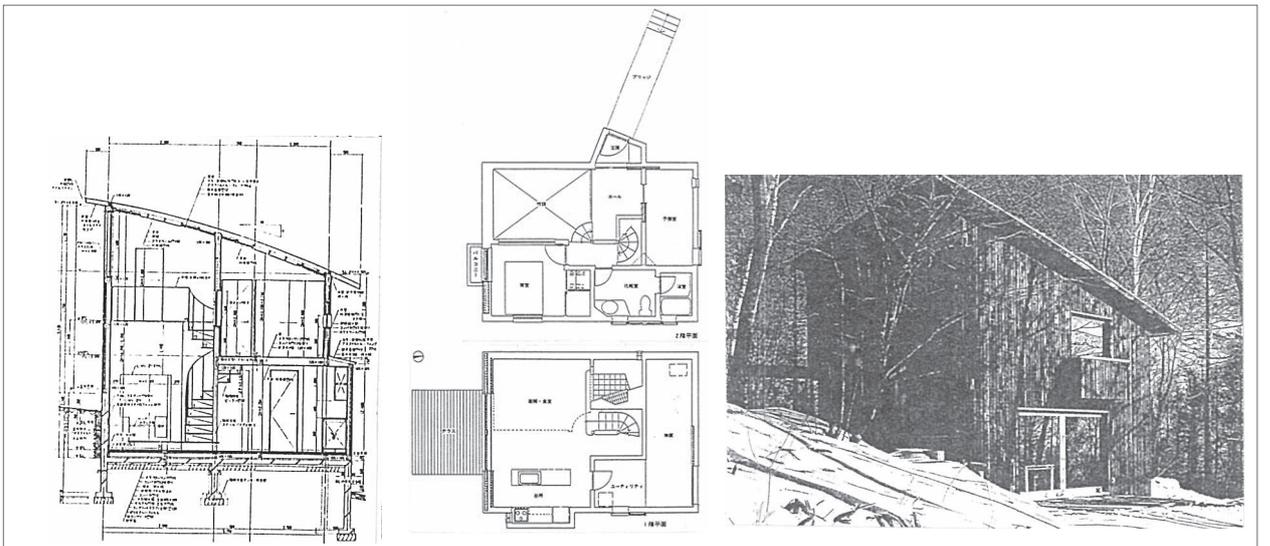
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
57	jt9201	双極の家	上	●	斜面	フラット、分離	同一階、下に階無し	E/M	▲ 2v	II -c



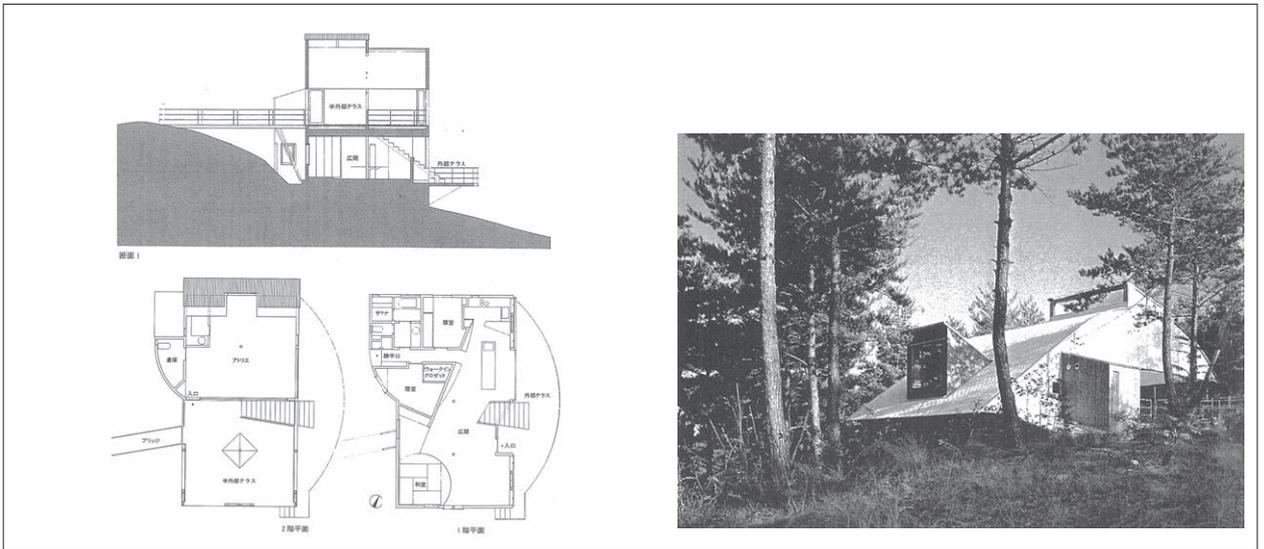
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°の向き		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
58	jt9201	向原の家	直交	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E/M	1	IV



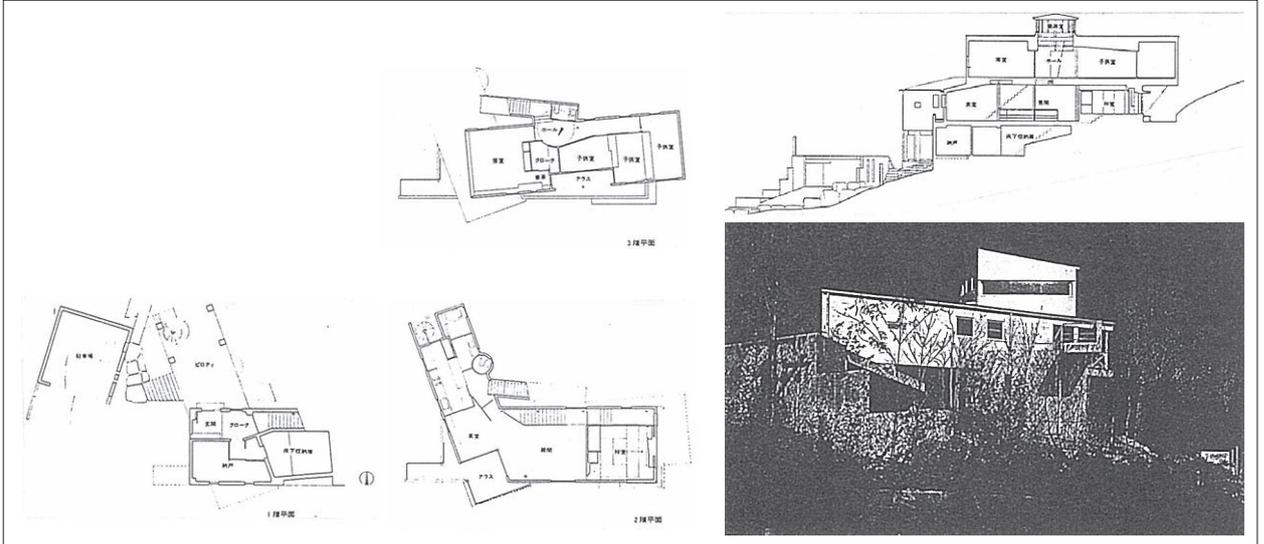
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°の向き		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
59	jt9202	もうひとつのガラスの家	上	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E=M	▲ 1v	II -d



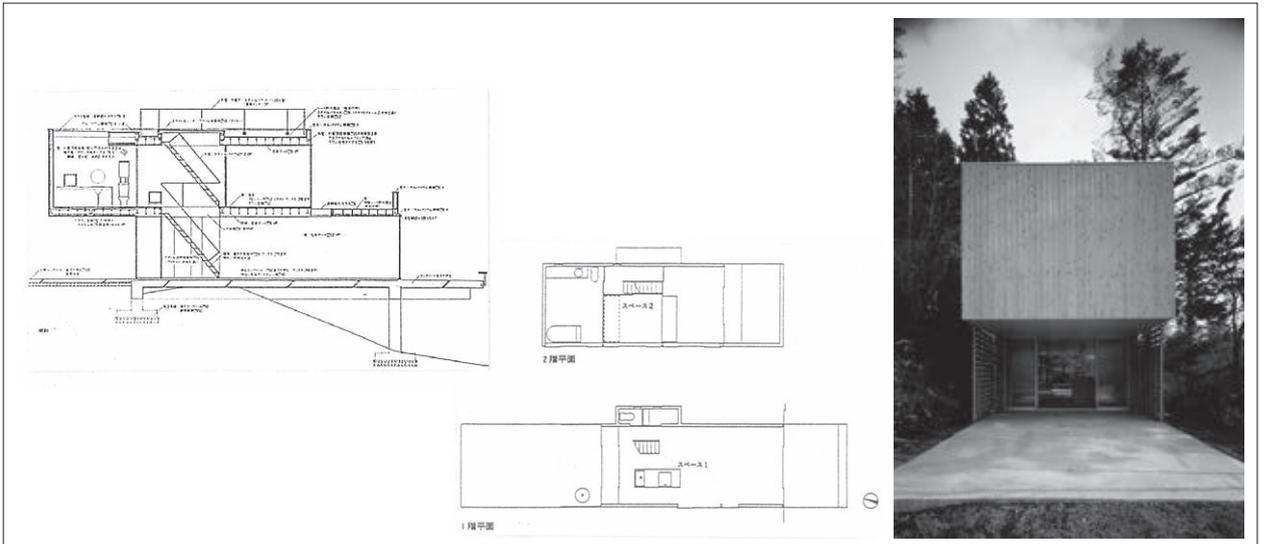
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°の向き		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
60	jt9204	清水高原の家	上	●	段差	フラット、接地	Eの下にM、下に階無し	E=M	▲ 1	I -a



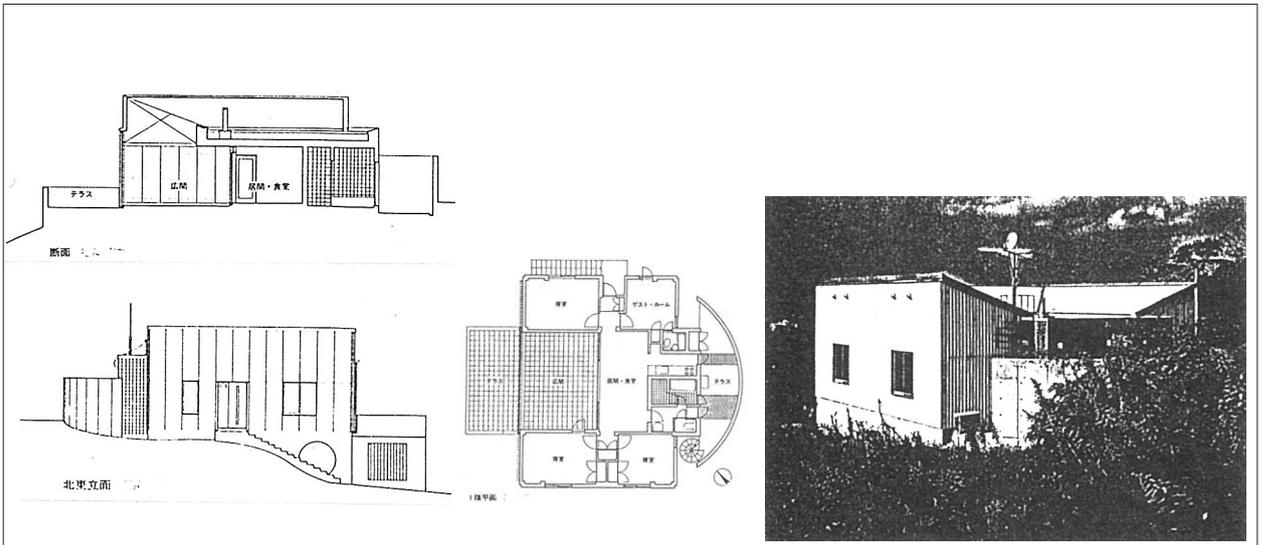
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
61	jt9206	小諸の住宅	上	●	フラット+斜面	フラット、接地	Eの下にM、下に階無し	E/M	▲ 1Nv	I



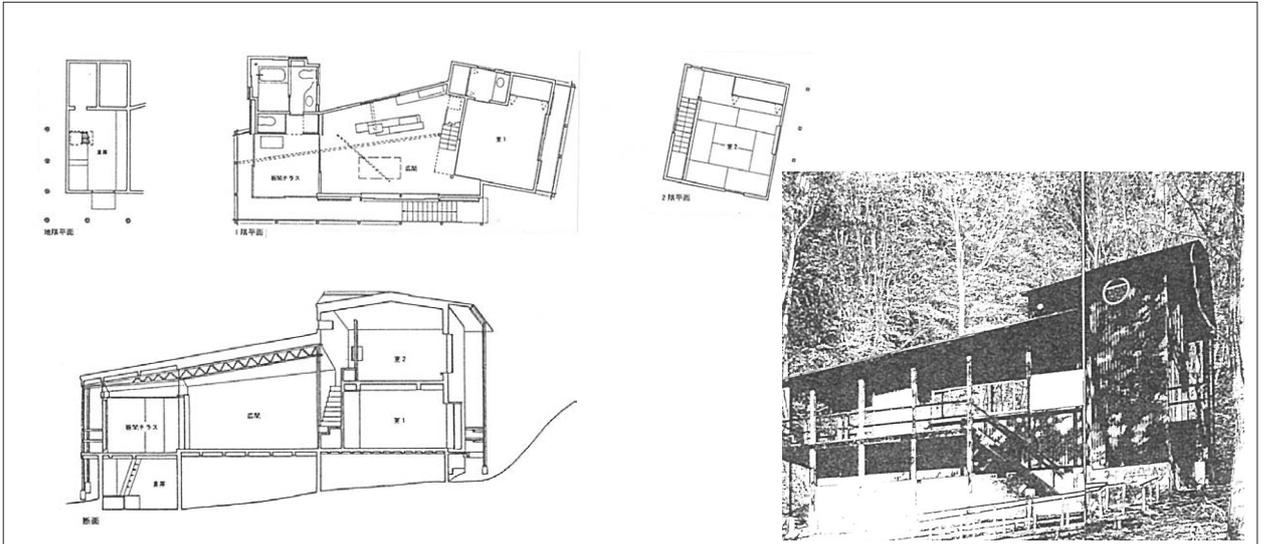
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
62	jt9207	目神山 TH 邸	下	—	段差	段差、接地	Eの上にM、下に階無し	E/M	1	III



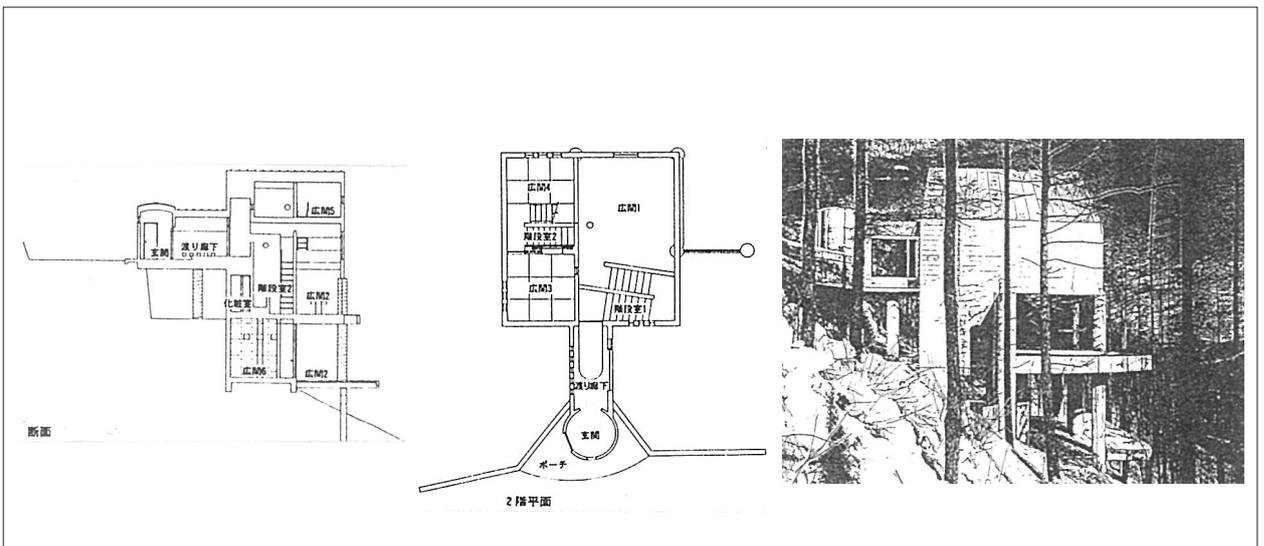
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
63	jt9208	富士裾野の山荘	上	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E ≠ M	▲ 1v	II - d



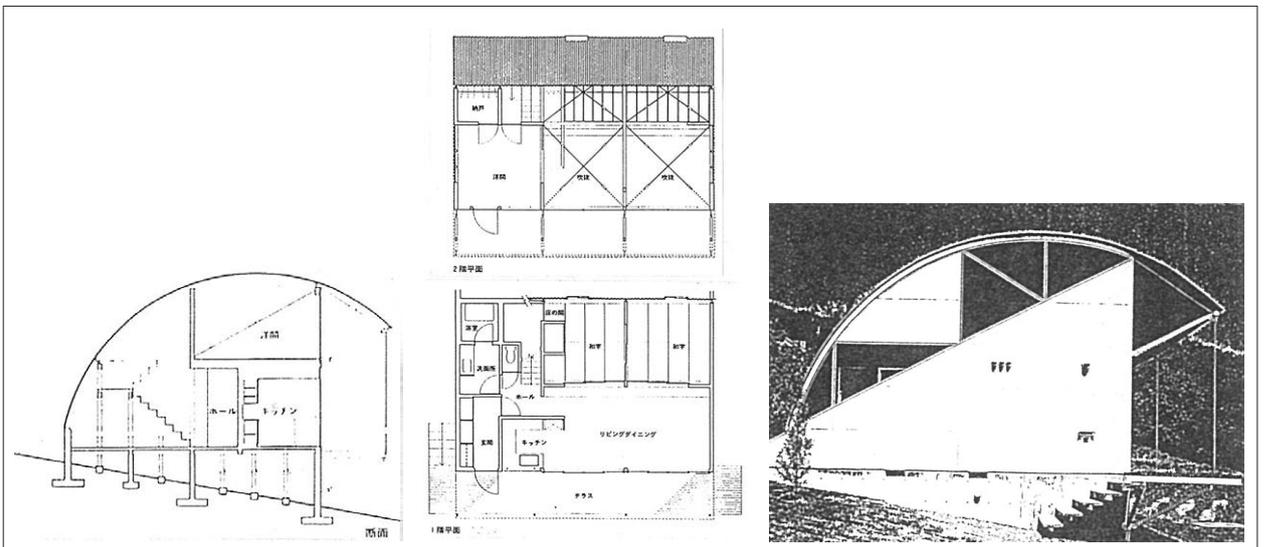
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
64	jt9212	海の家	直交	■	斜面	フラット、分離	同一階、下に階無し	E = M	1N	IV-e



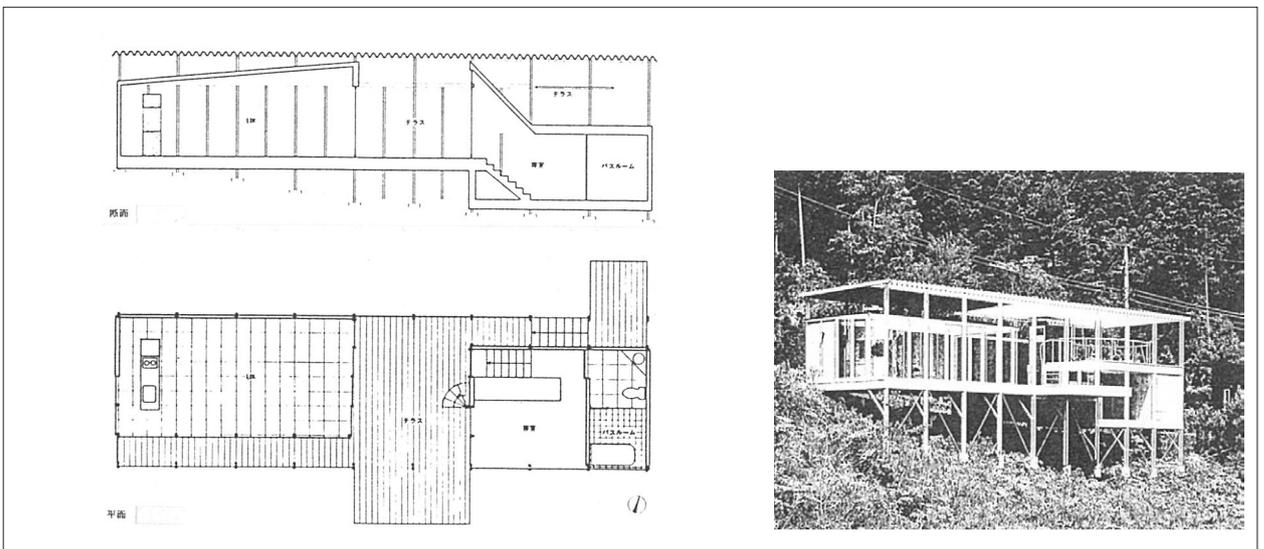
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
65	jt9303	F山荘	直交	■	斜面	フラット、分離	同一階、下に階無し	E ≠ M	0Nv	IV-e



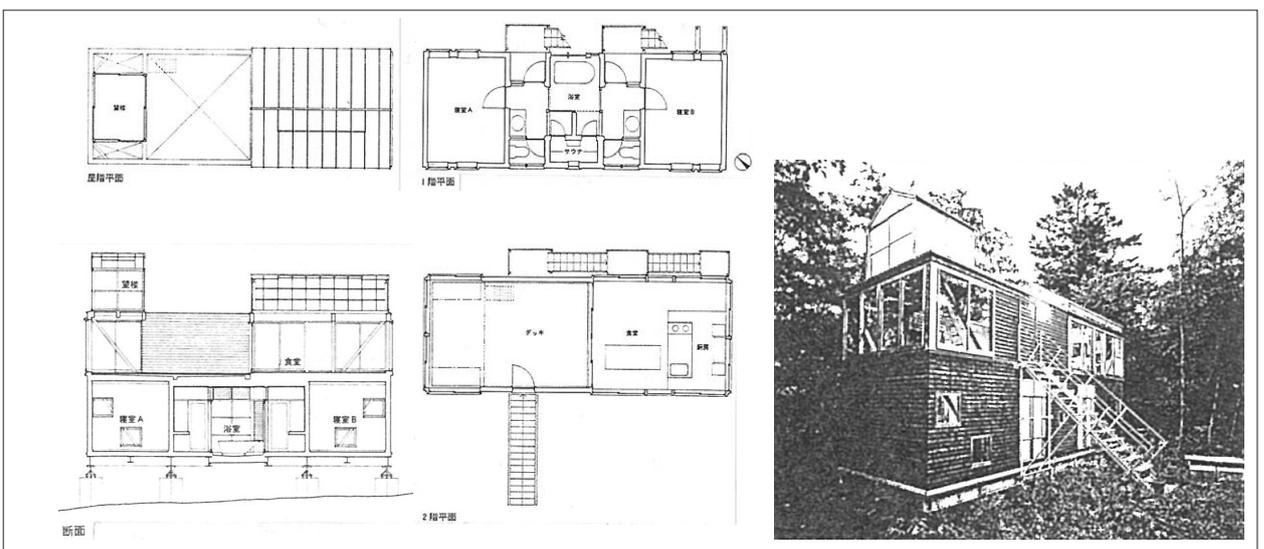
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
66	jt9308	依山楼	上	—	段差	段差、接地	Eの下にM、下に階あり	E = M	2v	I-b



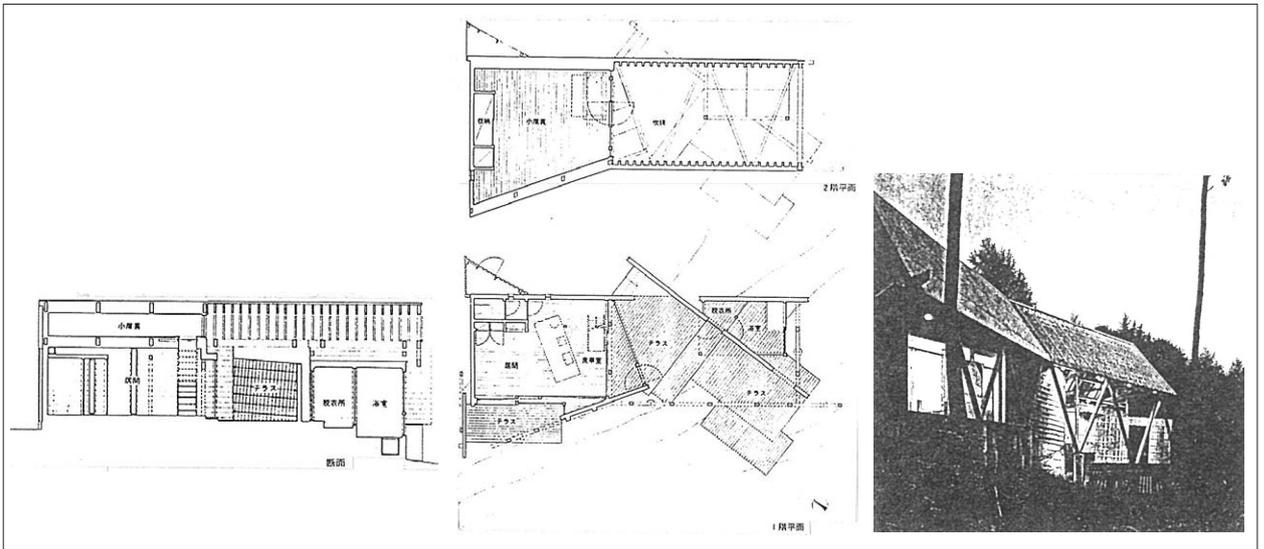
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°の向き		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
67	jt9308	HIKIMA RESIDENCE	下	■	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E/M	▲0v	II



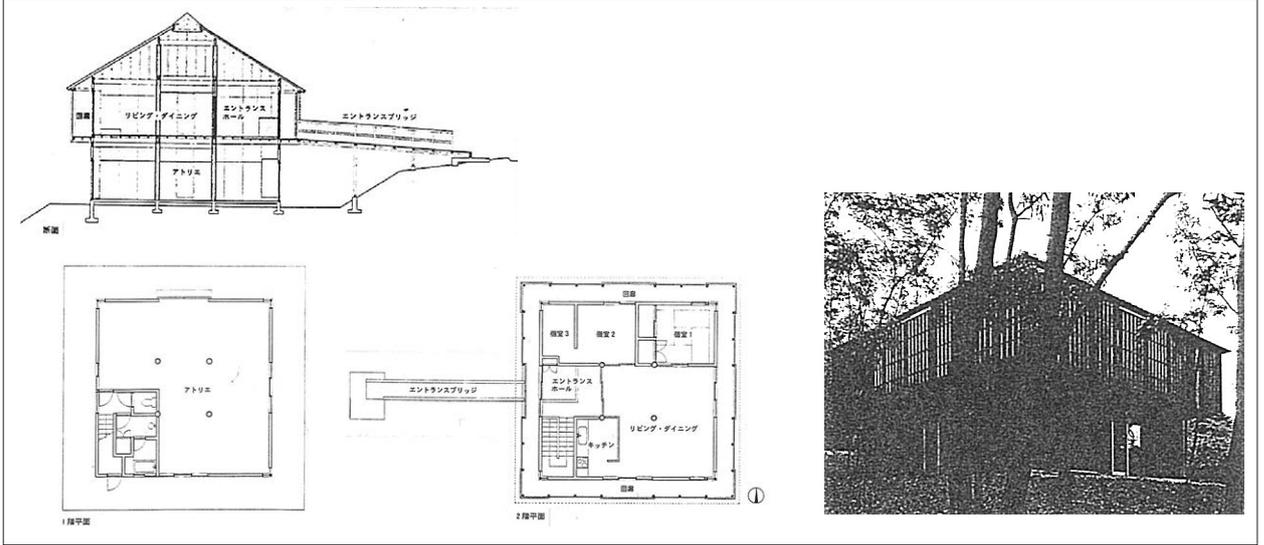
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°の向き		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
68	jt9310	ダブル・ルーフの家	上	●	斜面	フラット、分離	同一階、下に階無し	E ≠ M	▲1 * 1v	II -c



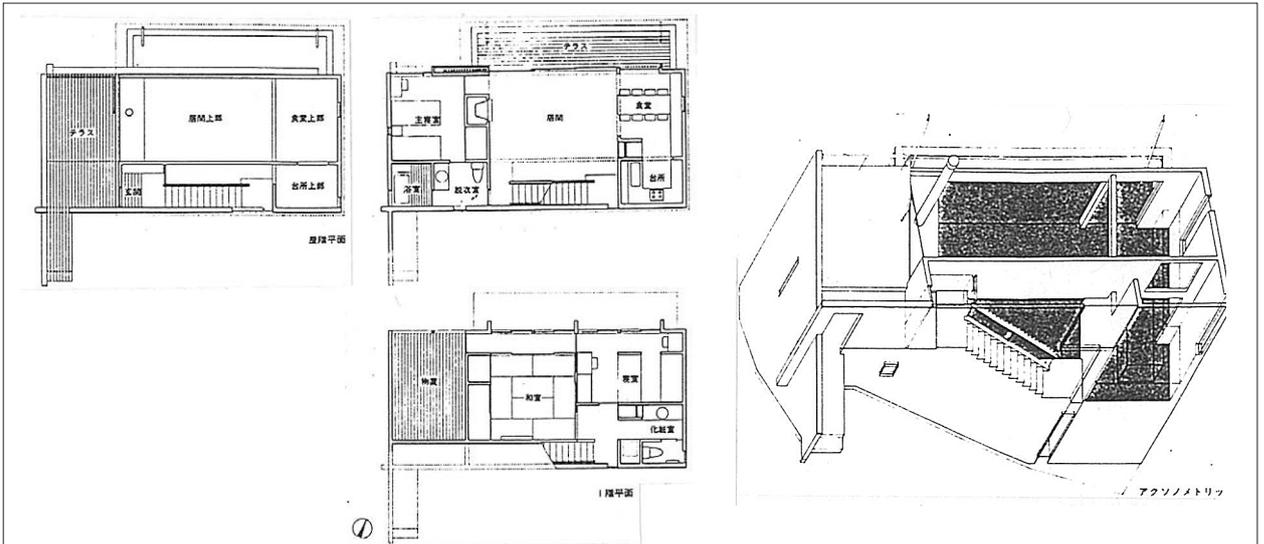
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°の向き		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
69	jt9311	山中湖のガラス小屋	直交	■	斜面	フラット、分離	同一階、下に階あり	E = M	0Nv	II



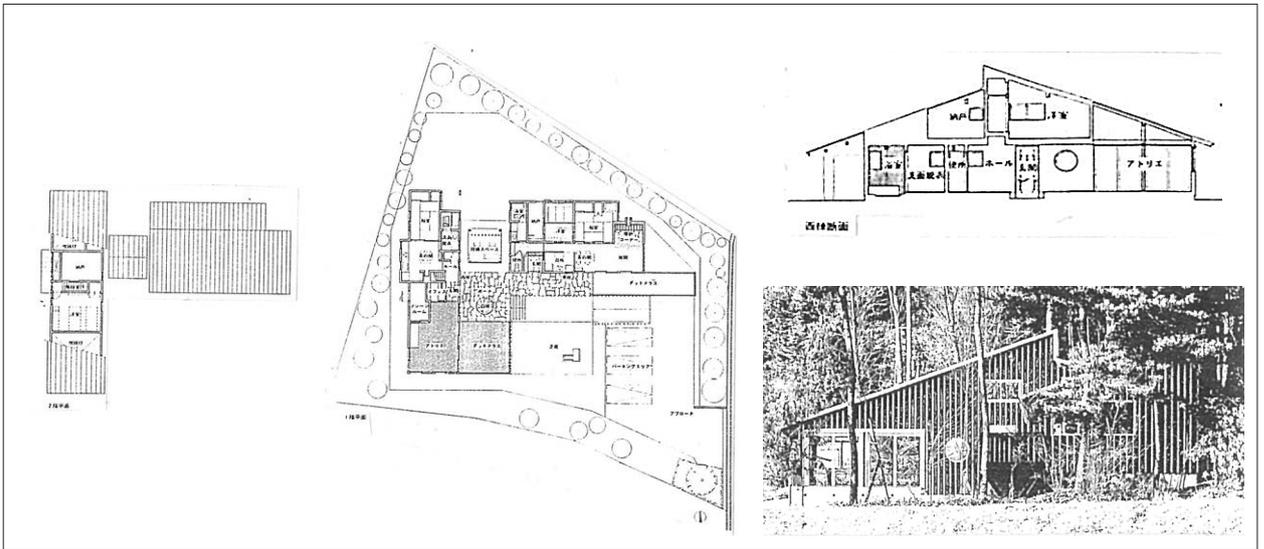
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
70	jt9311	KAOK・ハケ岳	上	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E ≠ M	▲0 * 1v	II -d



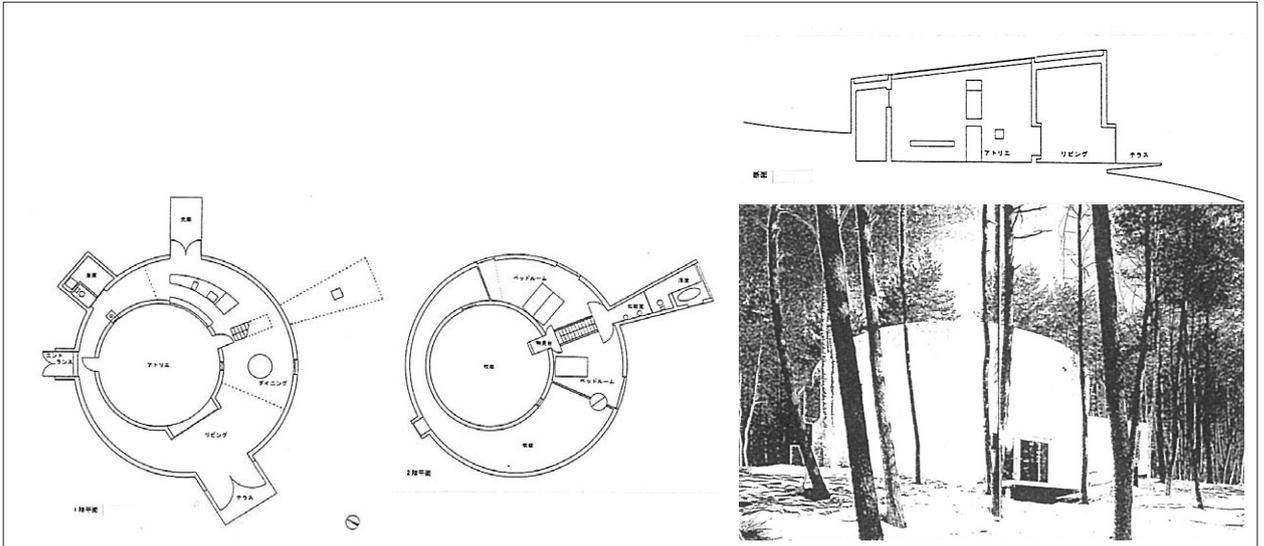
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
71	jt9401	住居 No.14 筑波黒の家	上	●	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階あり	E = M	1v	II



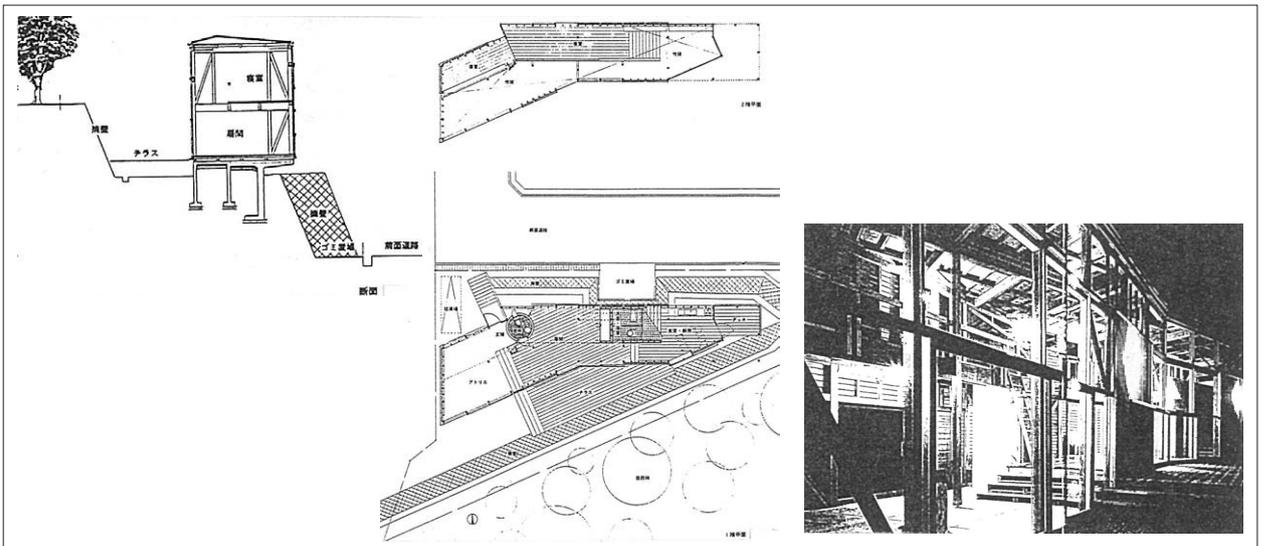
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
72	jt9401	南軽井沢の家	上	●	段差	フラット、接地	Eの下にM、下に階あり	E = M	2Nv	I -b



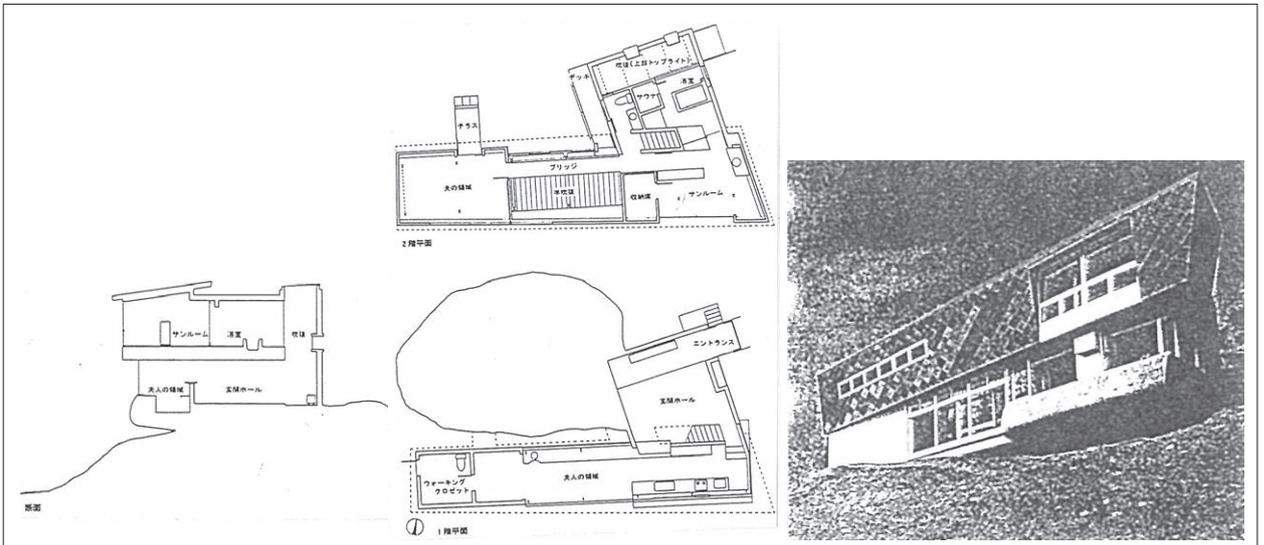
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と7°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			7°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
73	jt9402	北安曇の家	直交	■	斜面	フラット、分離	同一階、下に階無し	U	1v	IV



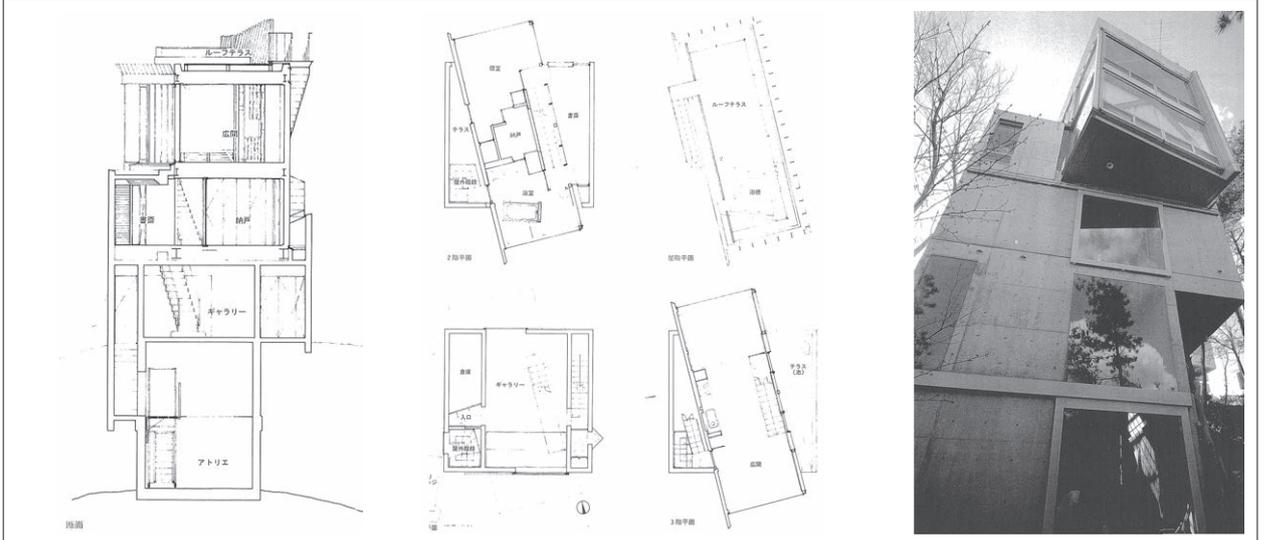
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と7°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			7°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
74	jt9405	森の別荘	上	—	段差	フラット、接地	同一階、下に階無し	E = M	▲ 0v	II



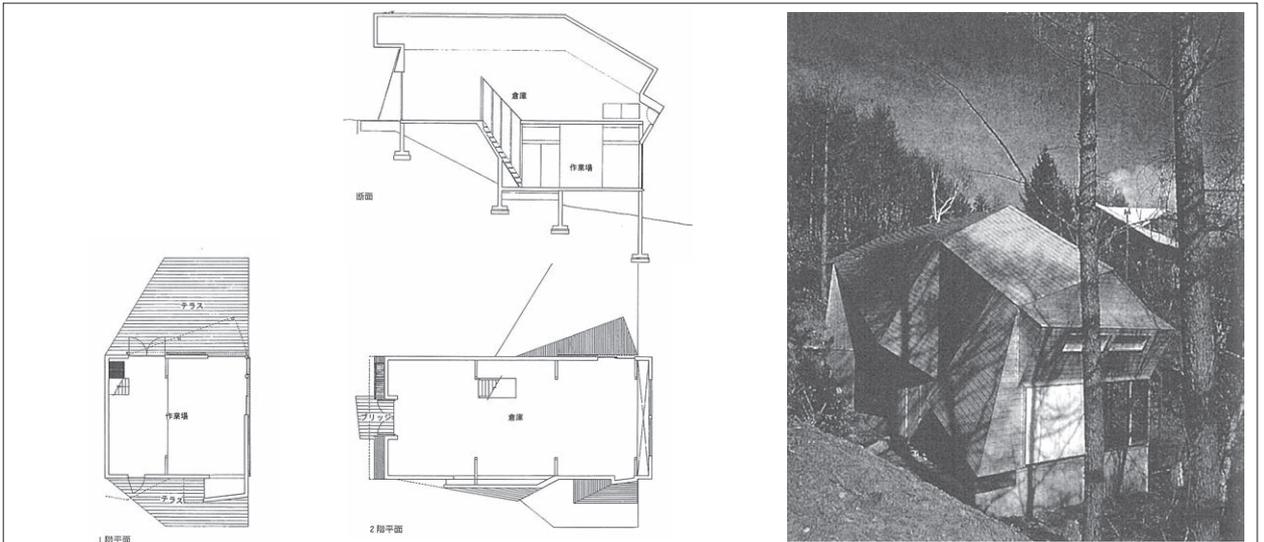
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と7°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			7°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
75	jt9405	Barn-3	下	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E/M	0Nc	



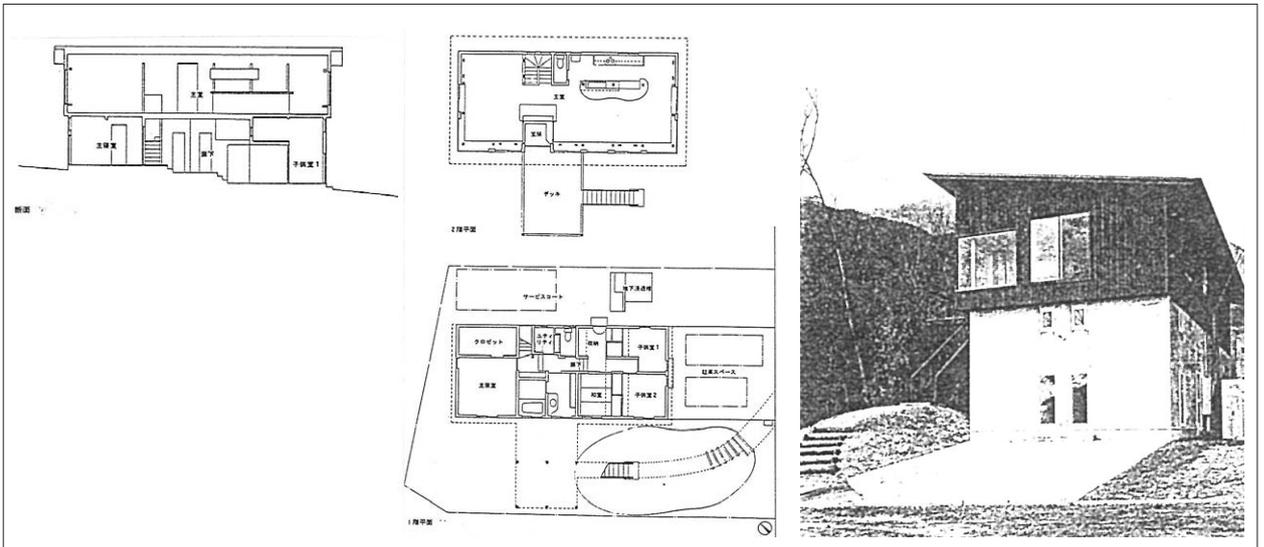
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と7°ロ-子の関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			7°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
76	jt9405	H	上	—	段差	フラット、接地	同一階、下に階無し	E ≠ M	0v	II



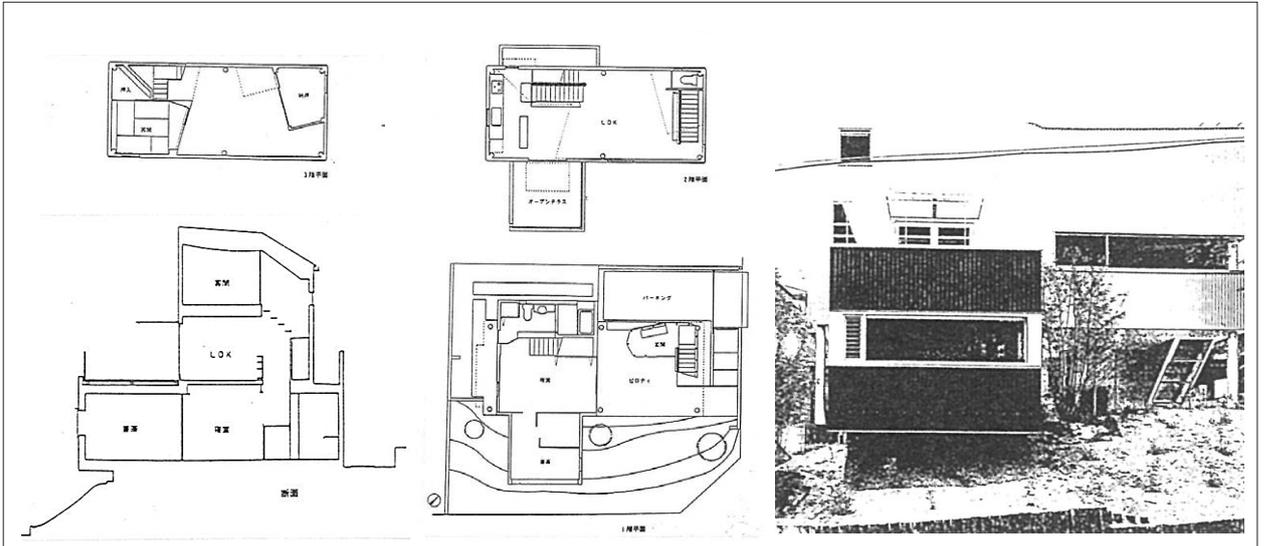
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と7°ロ-子の関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			7°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
77	jt9503	熱海のアトリエ住居	上	●	段差	フラット、接地	Eの上にM、下に階あり	E/M	2v	I



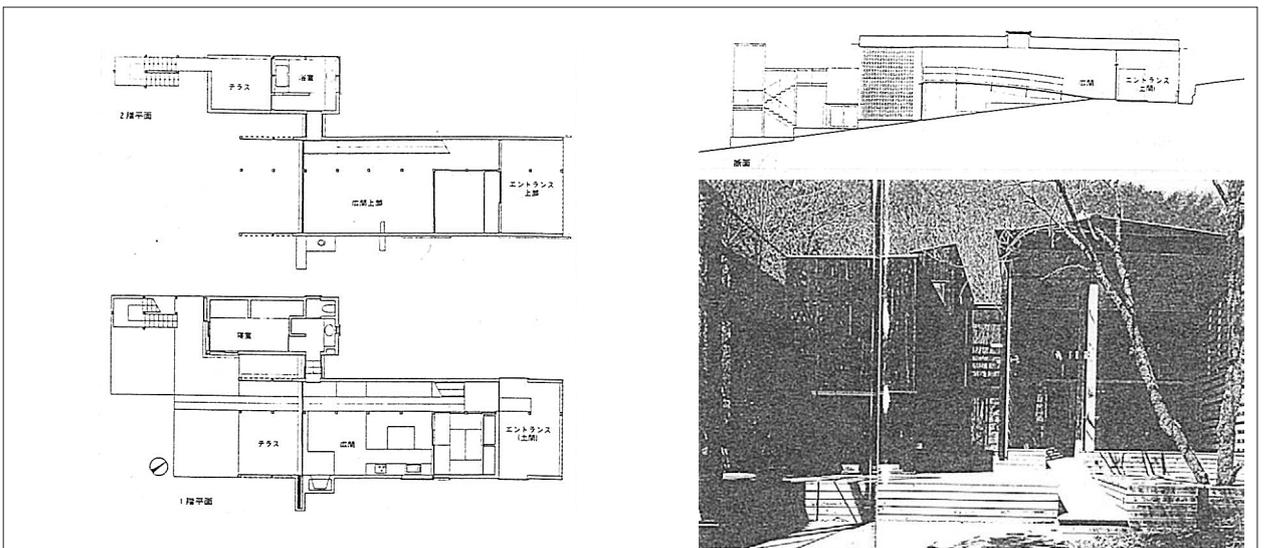
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と7°ロ-子の関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			7°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
78	jt9503	ART HUT SD	上	—	段差	段差、接地	Eの下にM、下に階無し	E/M	▲ 1v	I



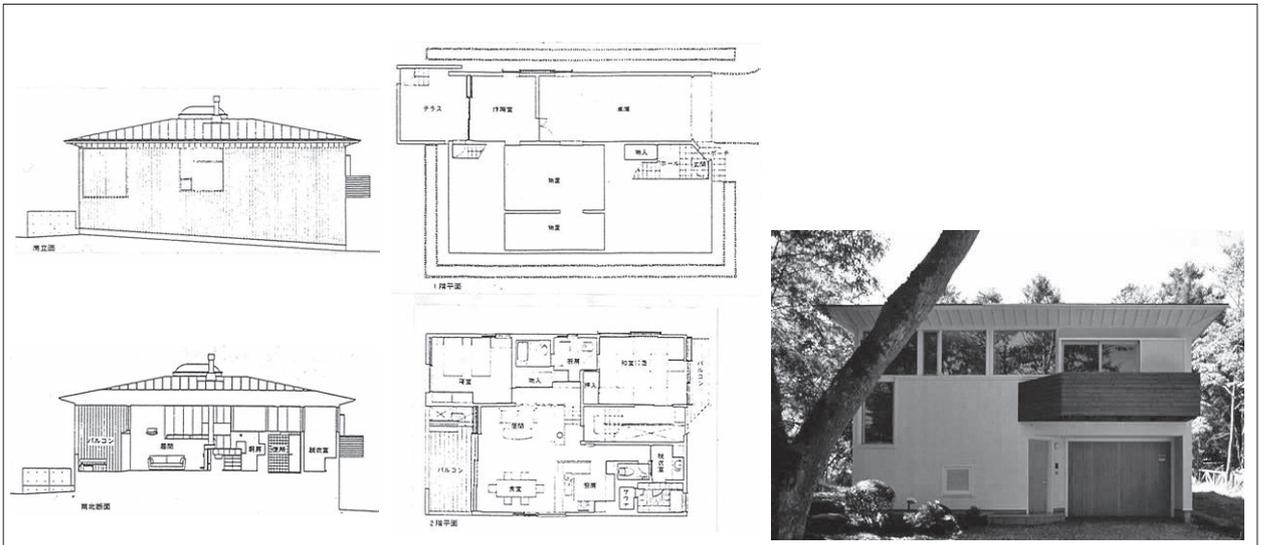
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
79	jt9504	志賀町の家	直交	■	段差	フラット、接地	同一階、下に階あり	E = M	0	IV



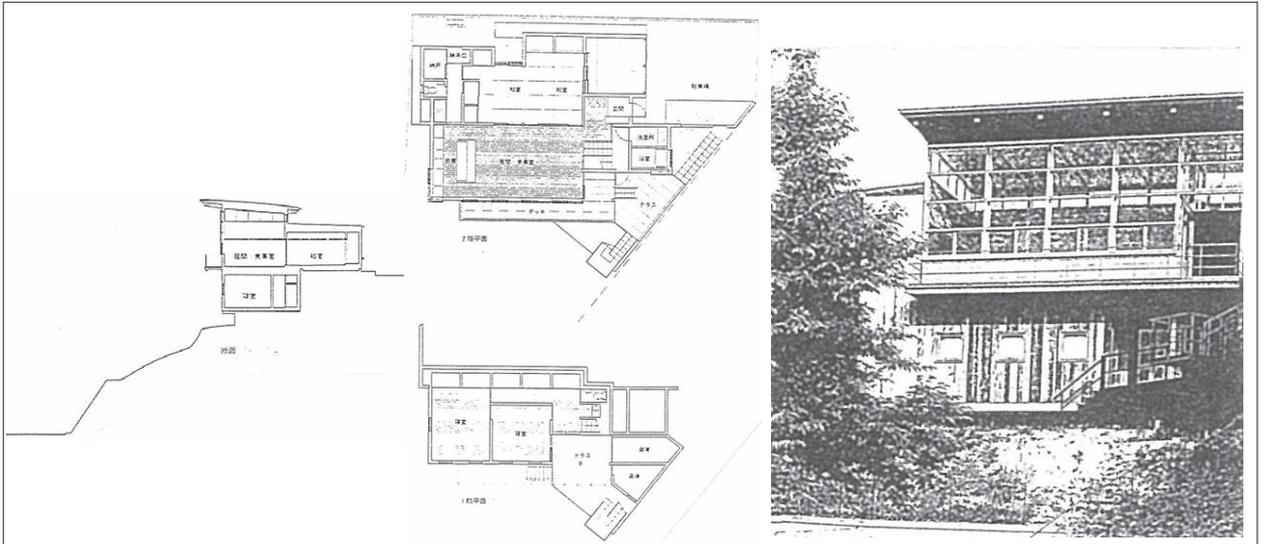
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
80	jt9508	N HOUSE	下	—	フラット+斜面	フラット、接地	Eの上にM、下に階無し	E/M	0c	III



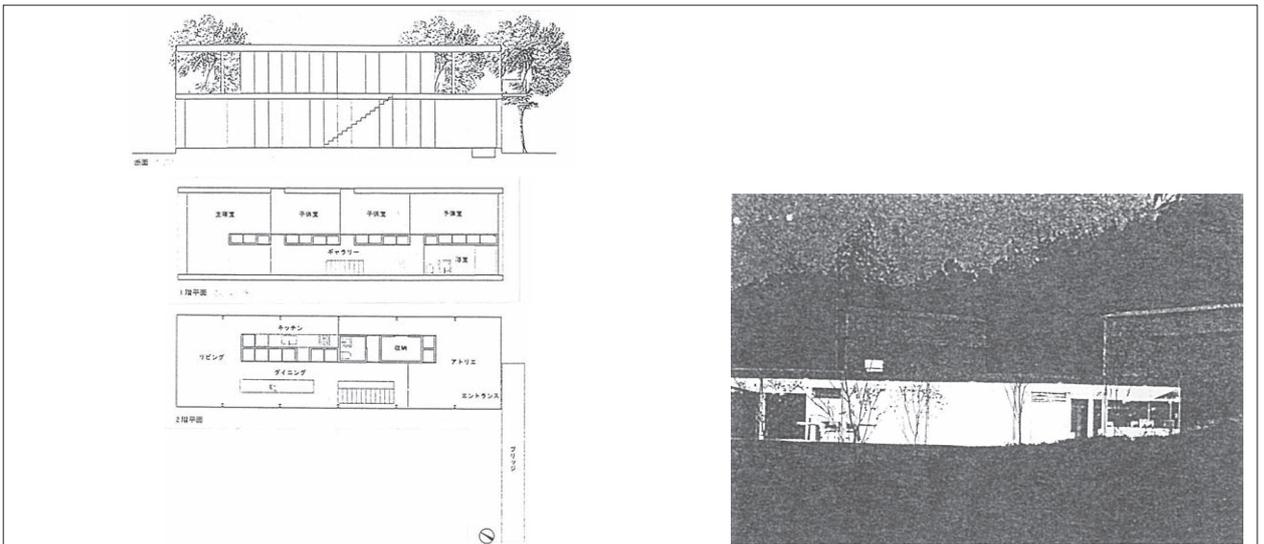
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
81	jt9509	琴科斜楼	上	—	段差	段差、接地	Eの下にM、下に階無し	E = M	▲ 1v	I-a



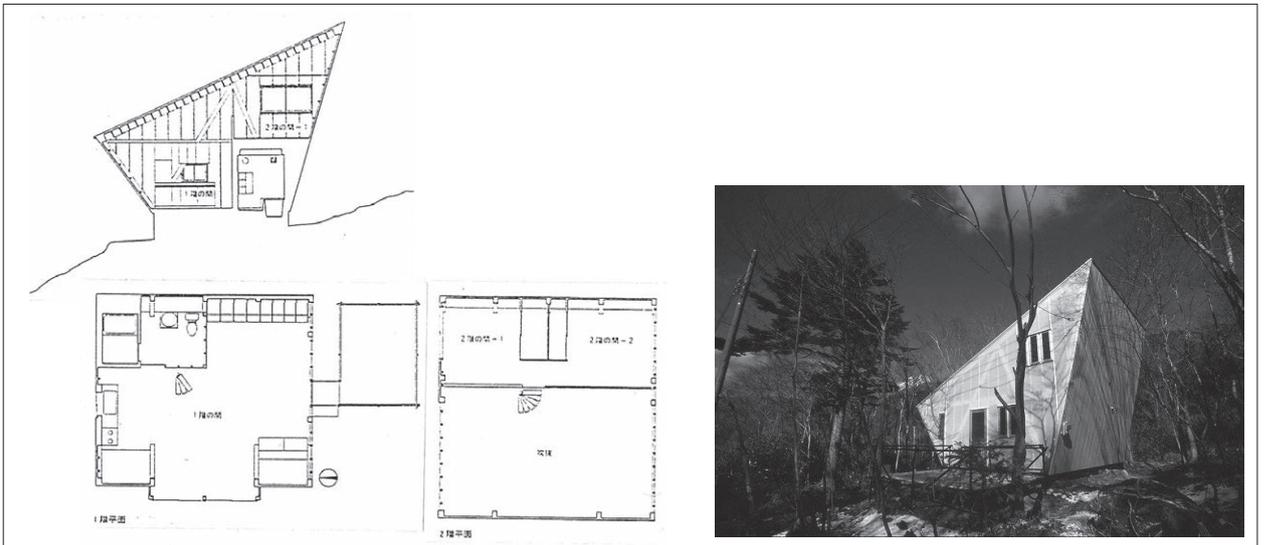
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
82	jt9512	砂色の木箱	下	—	段差	フラット、接地	Eの上にM、下に階無し	E/M	0v	III



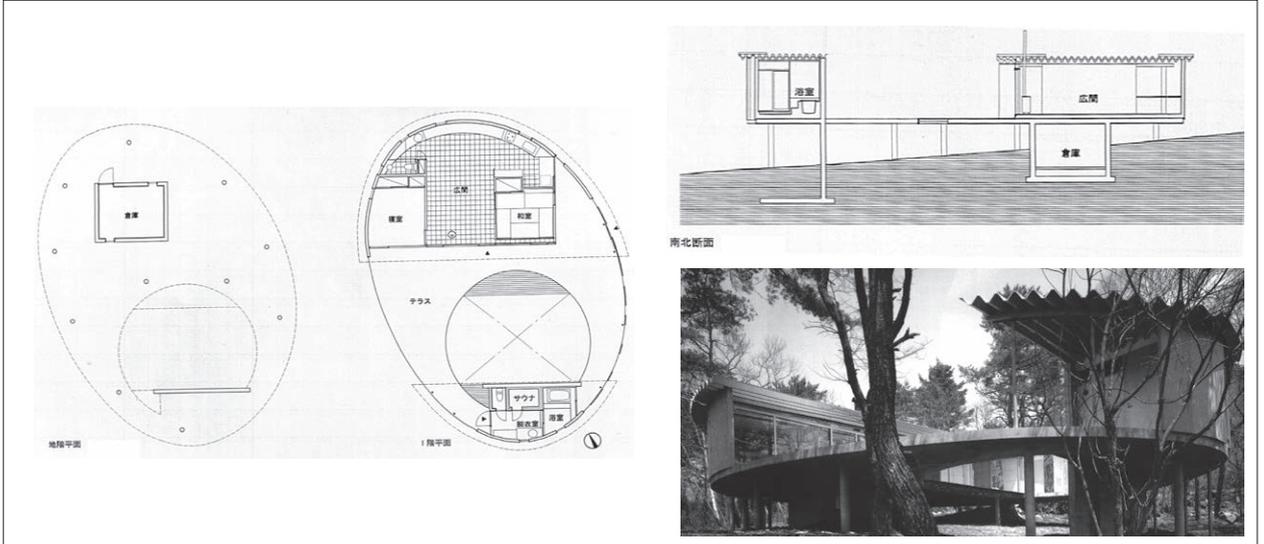
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
83	jt9601	青葉台の家	直交	—	段差	段差、接地	同一階、下に階あり	E ≠ M	1	IV



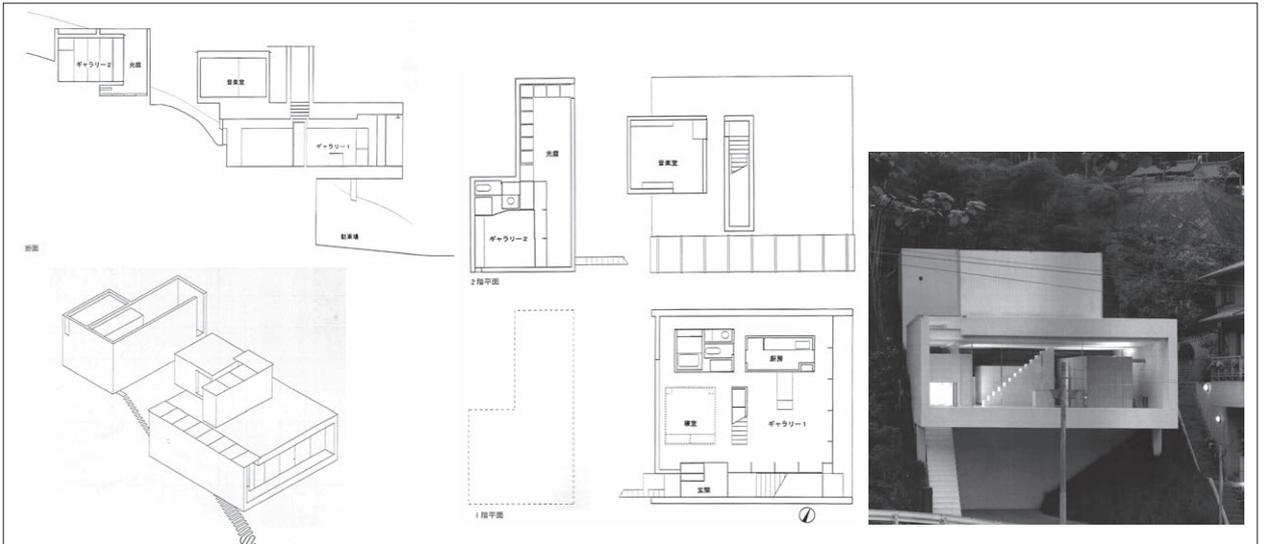
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
84	jt9601	ISOBE STUDIO & RESIDENCE	上	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階あり	E ≠ M	1	II



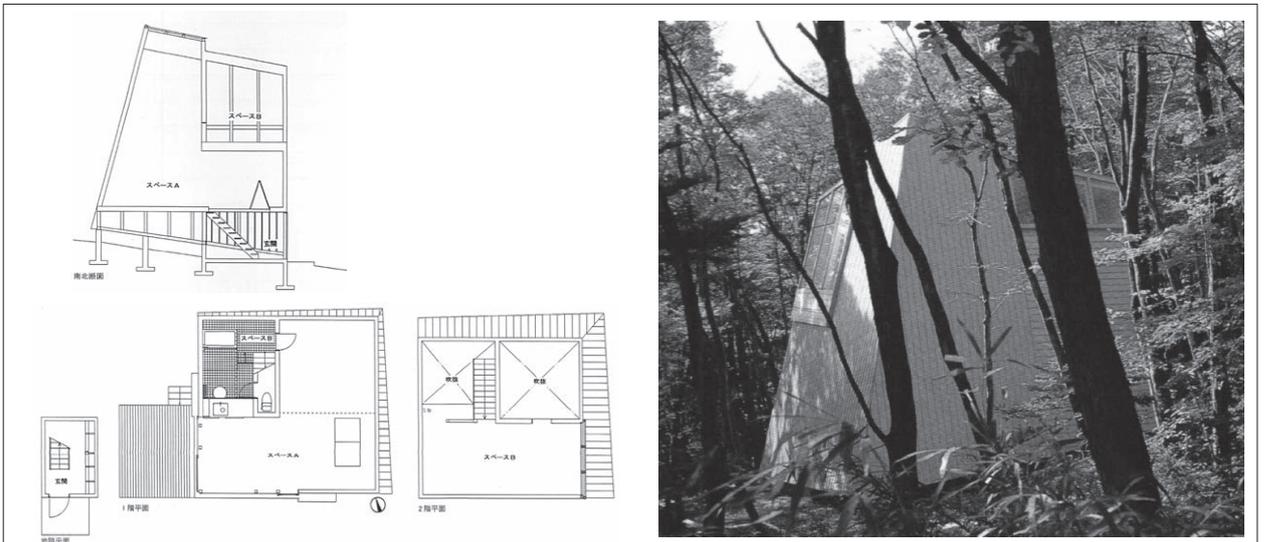
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-チの関係		建築ヴォリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-チの向き	接続方法	地形の断面形状	ヴォリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
85	jt9604	傾斜地の木箱	直交	■	斜面	フラット、分離	同一階、下に階無し	E = M	0v	IV-e



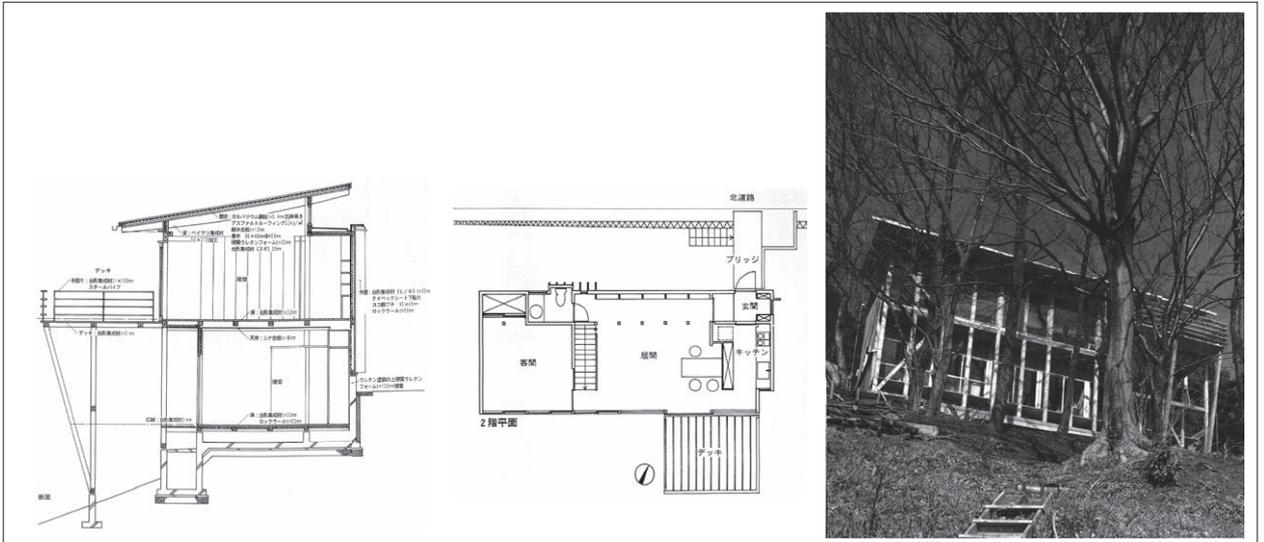
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-チの関係		建築ヴォリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-チの向き	接続方法	地形の断面形状	ヴォリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
86	jt9607	蓼科S邸	直交	■	斜面	フラット、分離	同一階、下に階無し	E = M	1v	IV-e



資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-チの関係		建築ヴォリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-チの向き	接続方法	地形の断面形状	ヴォリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
87	jt9608	太宰府の住宅	下	—	段差	段差、接地	同一階、下に階無し	U	2N	ハ



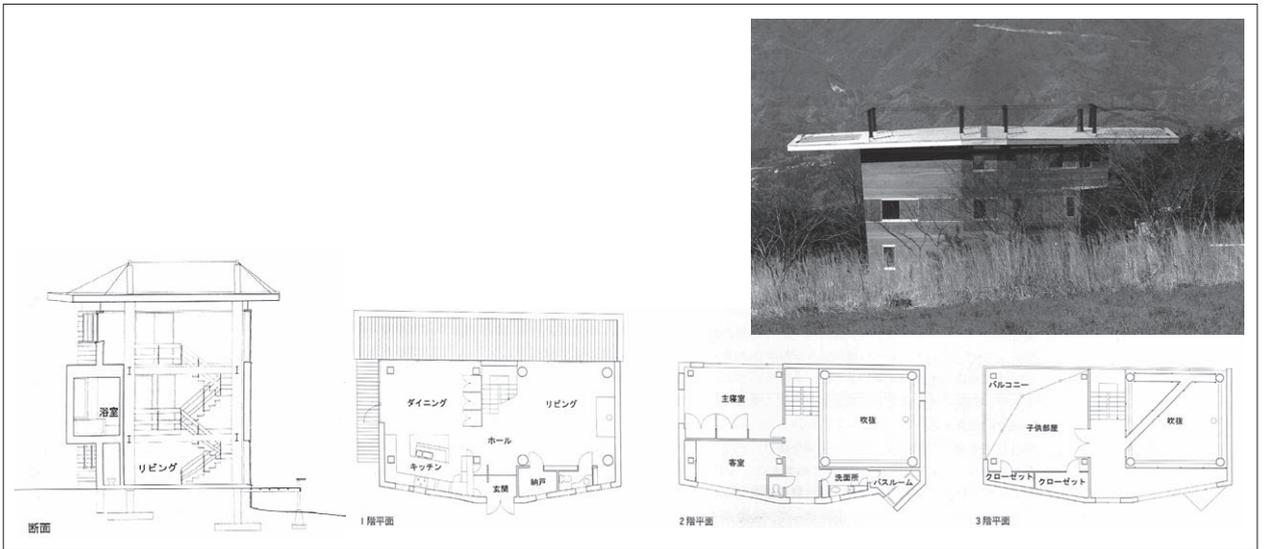
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
88	jt9701	那須の別荘	下	—	フラット+斜面	フラット、接地	Eの上にM、下に階無し	E/M	0v	III



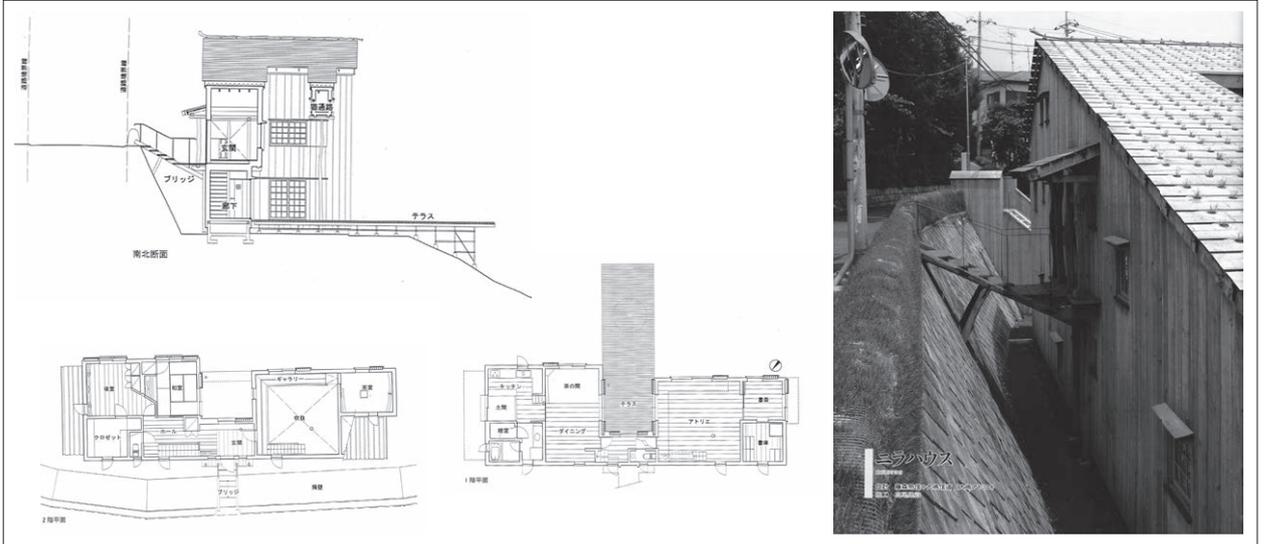
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
89	jt9704	森の家	上	●	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階あり	E/M	▲ 1v	II



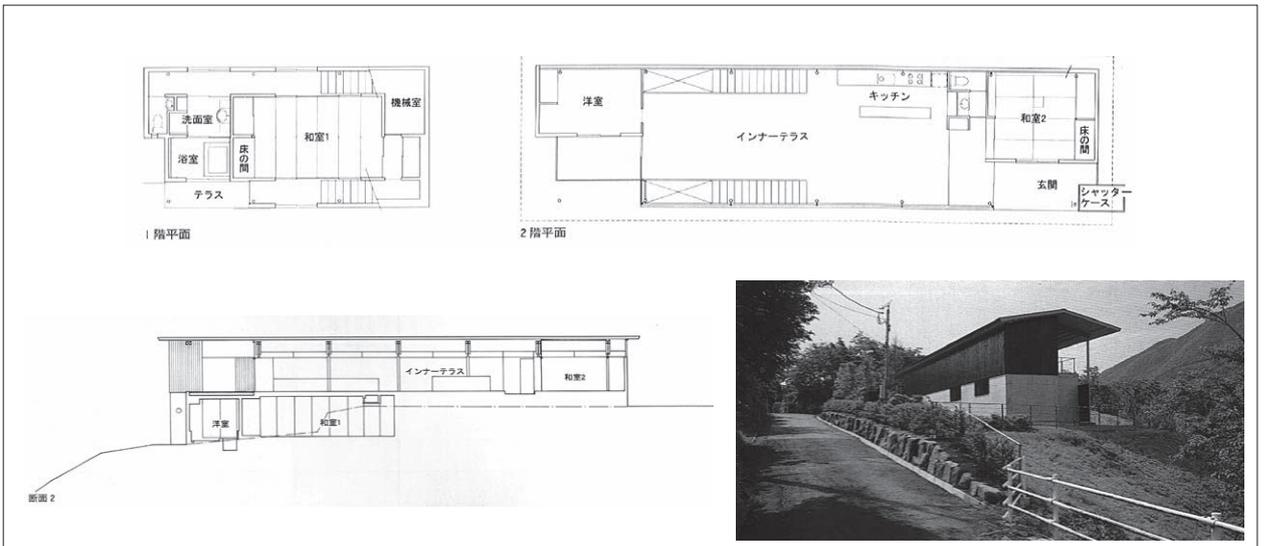
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
90	jt9706	まんぼう 1997	上	●	斜面	フラット、分離	Eの上にM、下に階無し	E/M	1N	



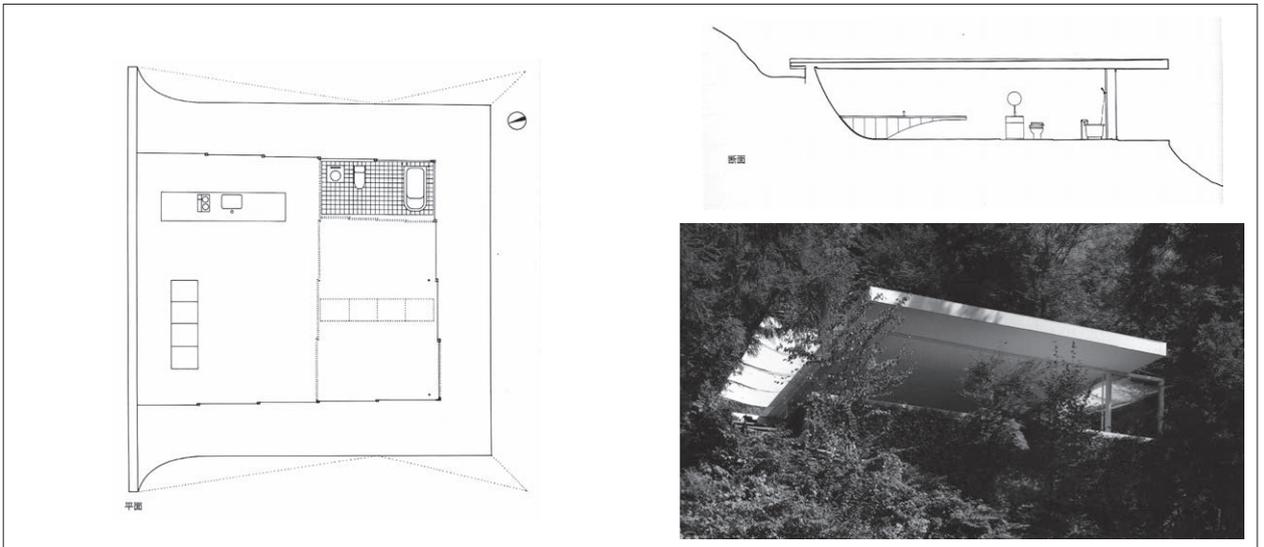
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ヴォリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ヴォリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
91	jt9707	北巨摩シャレー	上	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E = M	▲0v	II -d



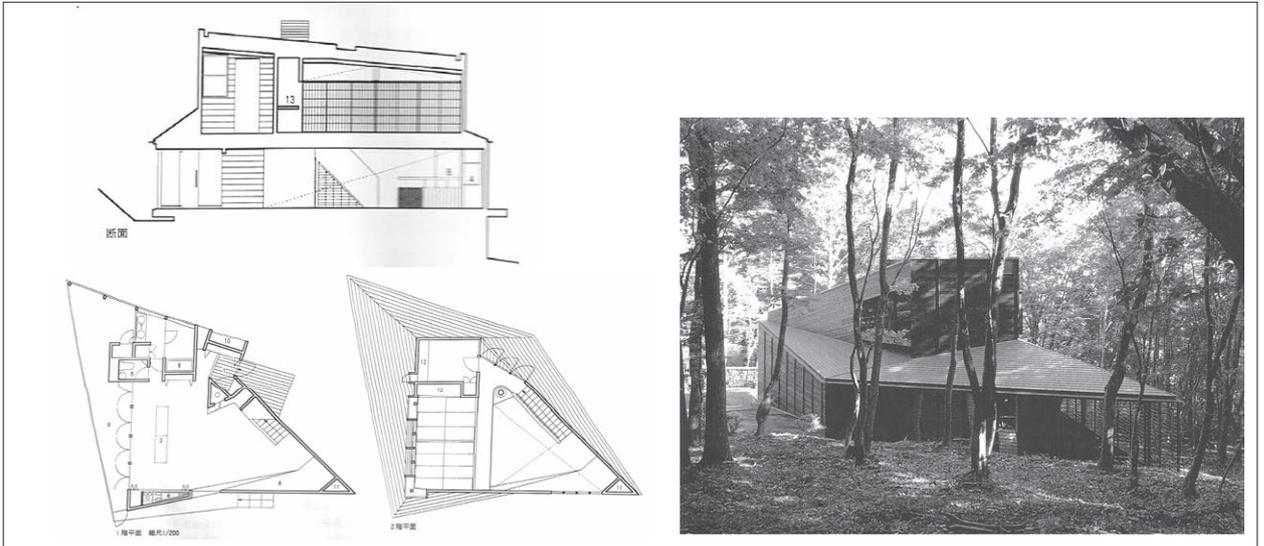
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ヴォリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ヴォリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
92	jt9708	ニラハウス	上	●	フラット+斜面	フラット、接地	Eの下にM、下に階無し	E/M	▲1	I



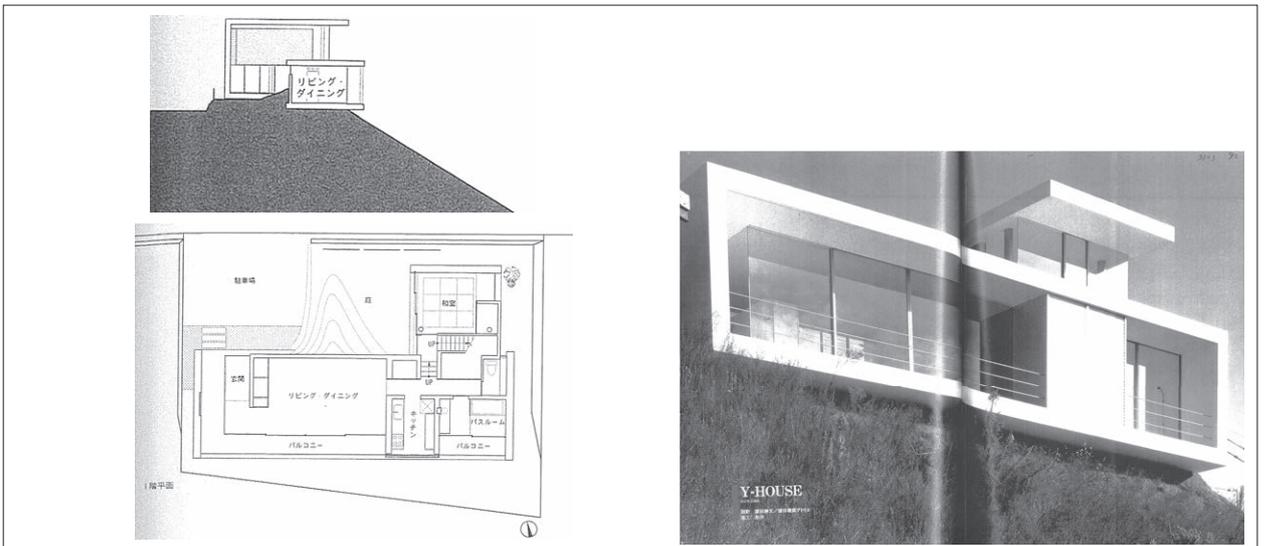
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-子の関係		建築ヴォリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-子の向き	接続方法	地形の断面形状	ヴォリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
93	jt9708	箱根山荘	上	—	段差	段差、接地	同一階、下に階あり	E = M	1Nv	II



資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-チの関係		建築ヴォリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-チの向き	接続方法	地形の断面形状	ヴォリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
94	jt9711	壁のない家	上	—	段差	フラット、接地	同一階、下に階無し	E = M	1	II



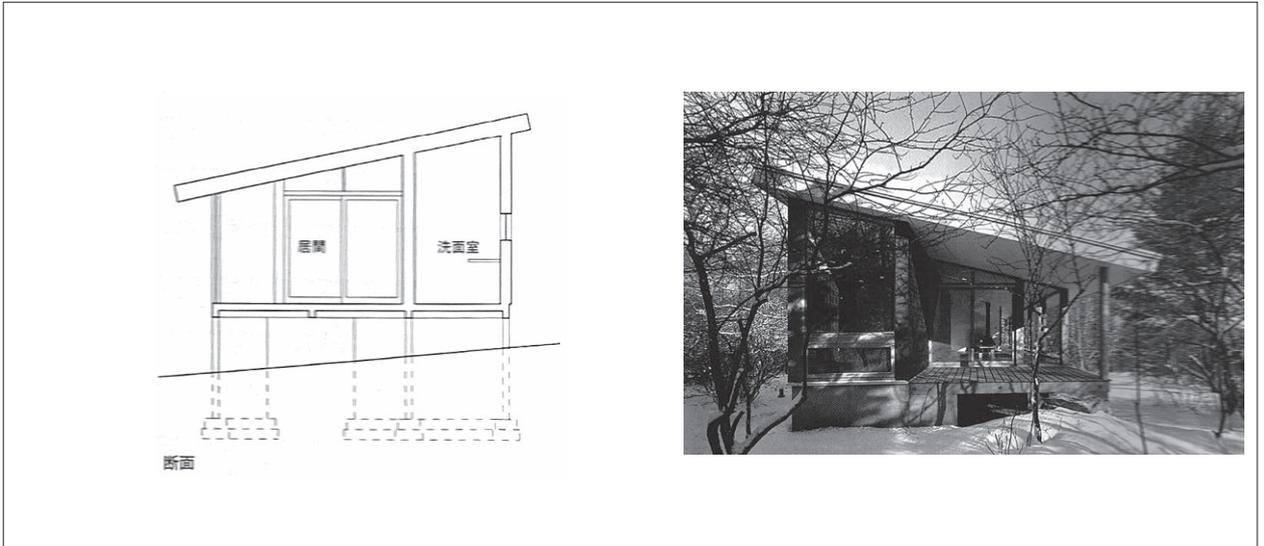
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-チの関係		建築ヴォリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-チの向き	接続方法	地形の断面形状	ヴォリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
95	jt9712	読売メディア・ミヤギ・ゲストハウス	上	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E = M	▲ 0v	II -d



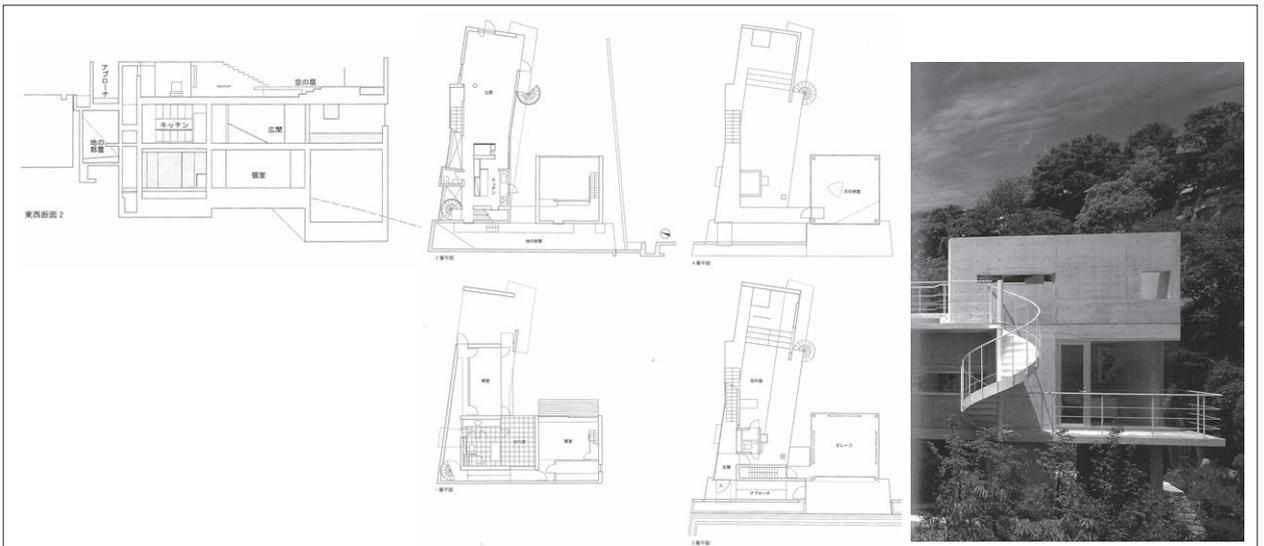
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ロ-チの関係		建築ヴォリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ロ-チの向き	接続方法	地形の断面形状	ヴォリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
96	jt9803	Y-HOUSE	上	—	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階無し	E = M	▲ 1c	II -d



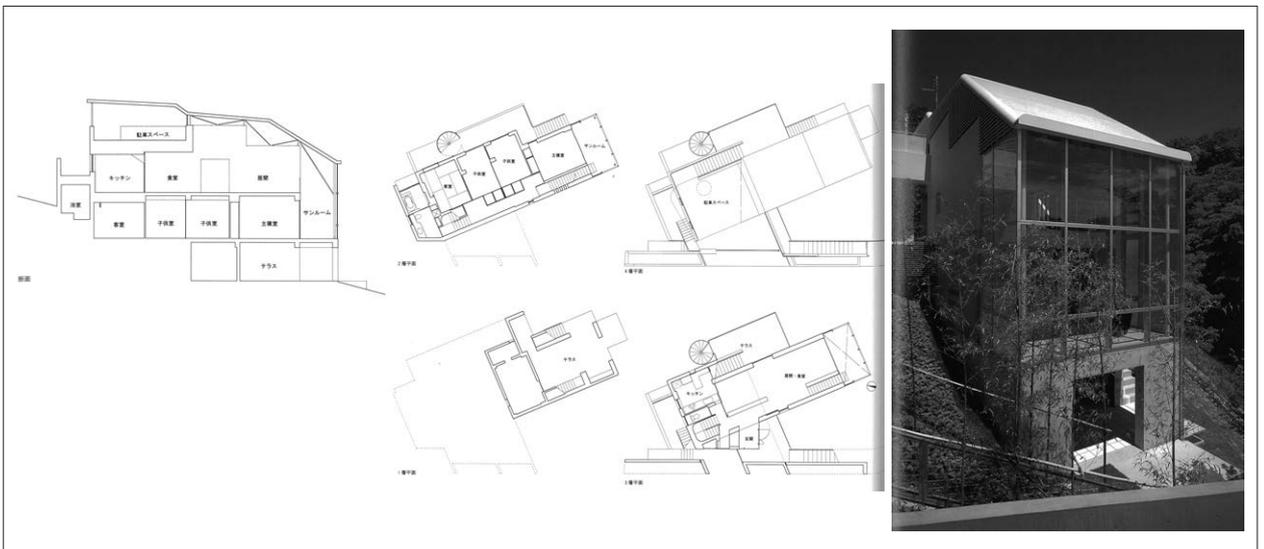
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と7階ロートの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			7階ロートの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
97	jt9803	大町の家	上	—	段差	段差、接地	同一階、下に階あり	E/M	▲ 1Nc	II



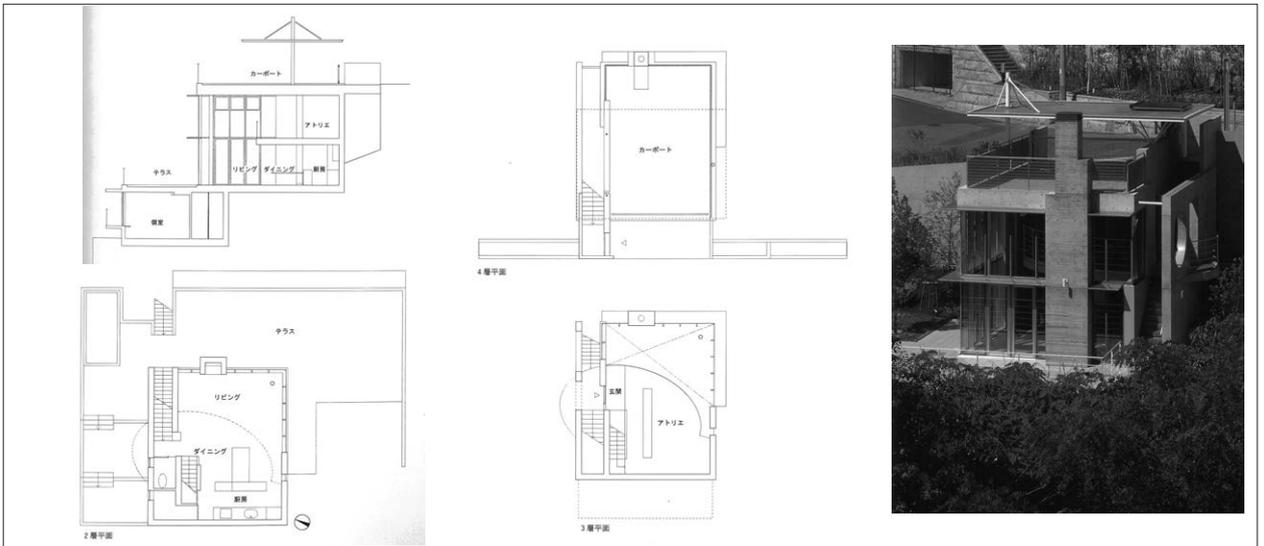
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と7階ロートの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			7階ロートの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
98	jt9804	山脇山荘	上	—	斜面	フラット、分離	同一階、下に階無し	E/M	0v	IV



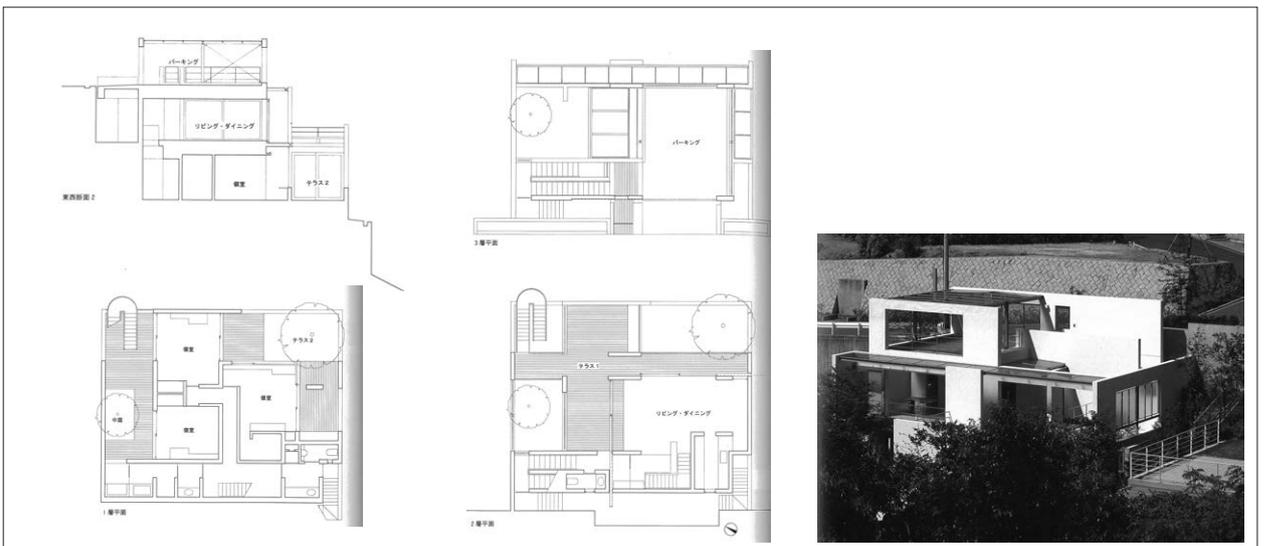
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と7階ロートの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			7階ロートの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
99	jt9807	西宮苔楽園プロジェクト1期-1	上	—	段差	フラット、接地	Eの下にM、下に階あり	E/M	2c	I



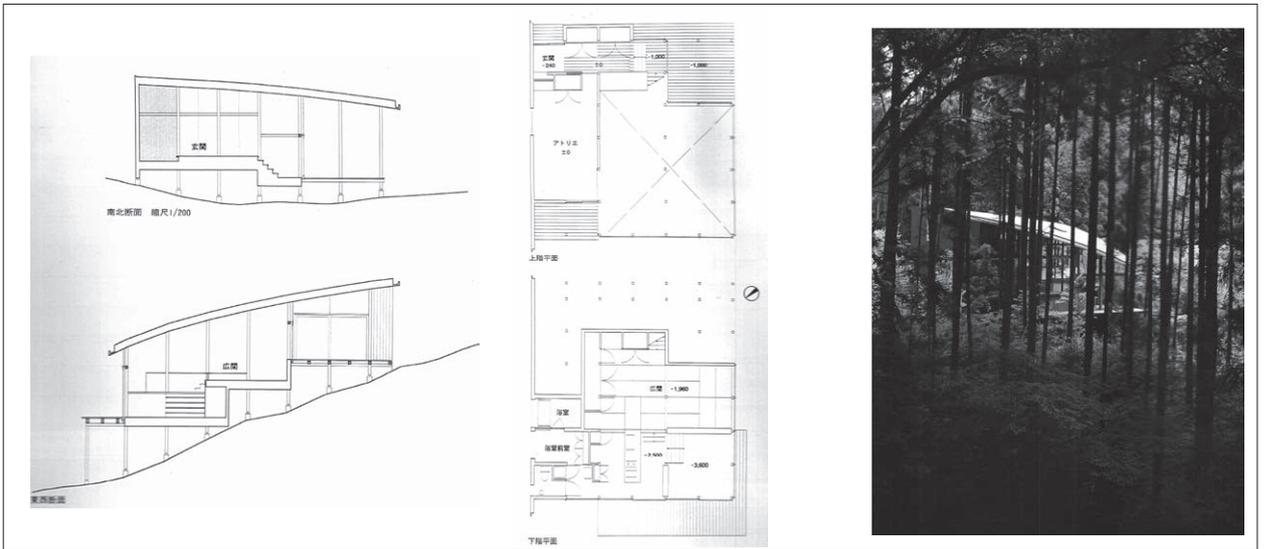
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と7°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			7°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
100	jt9807	西宮苔楽園プロジェクト1期-II	上	●	段差	段差、接地	同一階、下に階あり	E = M	▲ 2c	II



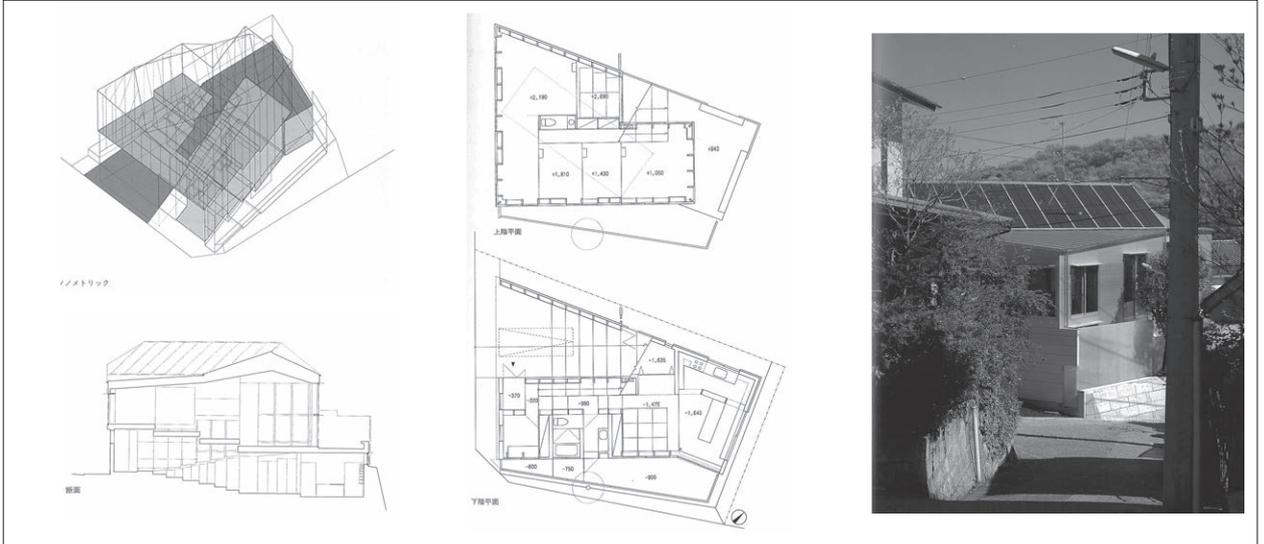
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と7°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			7°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
101	jt9807	西宮苔楽園プロジェクト1期-III	上	●	段差	段差、接地	Eの下にM、下に階あり	E = M	▲ 2c	I - b



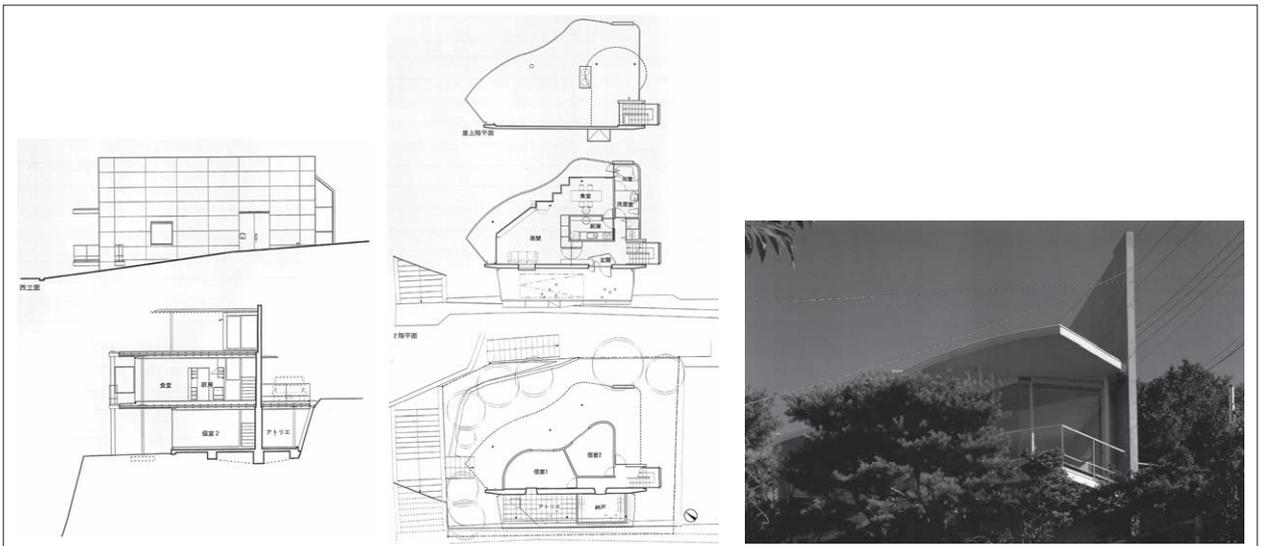
資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と7°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			7°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
102	jt9807	西宮苔楽園プロジェクト1期-IV	上	—	段差	フラット、接地	同一階、下に階あり	E = M	▲ 2c	II



資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
103	jt9809	萌黄露台	上	—	斜面	フラット、分離	Eの下にM、下に階無し	E = M	▲ 1Nv	I



資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
104	jt9908	HOUSE SA 1999	上	—	段差	段差、接地	Eの上にM、下に階あり	E = M	▲ 1Nc	イ



資料 No.	掲載年月	作品名	斜面と77°ローチの関係		建築ボリュームの接地性		エントランス(E)、主室(M)の関係		その他	関係図式の類型
			77°ローチの向き	接続方法	地形の断面形状	ボリュームと地形の関係	上下関係	連続関係		
105	jt9910	伊豆のキャンパス住居	上	●	フラット+斜面	フラット、接地	同一階、下に階あり	E/M	▲ 1	II

